

土木関係積算標準・積算要領

6 － 2

(基礎・けた編)

新 旧 対 照 表

令和 8 年版

(令和8年10月)

ページ

P3

5. 機種の選定

5-1 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表 5-1 機種の選定

機械名	規格	単位	設計杭径					摘要
			1,000 mm 1,100 mm 1,200 mm		1,300 mm 1,500 mm		1,800 mm 2,000 mm	
			掘削長 40m 以下	掘削長 40m 超え 60m 以下	掘削長 20m 以下	掘削長 20m 超え 50m 以下	掘削長 50m 以下	
全回転型オールケーシング掘削機	<u>〔ケーシングドライバ（スキッド式・ディーゼル／油圧駆動）排ガス対策型（第3次基準値）〕</u> 最大掘削径 1,500 mm	台	1	—	1	—	—	
	<u>〔ケーシングドライバ（スキッド式・ディーゼル／油圧駆動）排ガス対策型（第3次基準値）〕</u> 最大掘削径 2,000 mm	〃	—	1	—	1	1	
クローラクレーン	<u>〔油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・基礎工事用排出ガス対策型（2014 年規制）〕</u> 最大吊上能力 70～90 t 吊	〃	1	—	1	—	—	
	<u>〔油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・基礎工事用排出ガス対策型（2014 年規制）〕</u> 最大吊上能力 100 t 吊	〃	—	1	—	1	1	
バックホウ（クローラ型）	<u>〔後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型（2014 年規制）〕</u> バケット容量 0.5 m³	〃	1					

（注）1. 掘削土砂は、掘削機よりベッセルに排土し、クローラクレーンで旋回範囲内に仮置きし、水切りした後に運搬するものを標準とする。
2. 土砂運搬については、「6-1-3 土工 _____ 2. 土工」により、別途計上する。
3. バックホウは、賃料とする。
4. 現場条件により上表により難い場合は 別途考慮する。

5. 機種の選定

5-1 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表 5-1 機種の選定

機械名	規格	単位	設計杭径					摘要
			1,000 mm 1,100 mm 1,200 mm		1,300 mm 1,500 mm		1,800 mm 2,000 mm	
			掘削長 40m 以下	掘削長 40m 超え 60m 以下	掘削長 20m 以下	掘削長 20m 超え 50m 以下	掘削長 50m 以下	
全回転型オールケーシング掘削機	<u>〔ケーシングドライバ（スキッド式・ディーゼル／油圧駆動） _____ 最大掘削径 1,500 mm</u>	台	1	—	1	—	—	
	<u>〔ケーシングドライバ（スキッド式・ディーゼル／油圧駆動） _____ 最大掘削径 2,000 mm</u>	〃	—	1	—	1	1	
クローラクレーン	<u>〔油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・基礎工事用排出ガス対策型（2014 年規制） _____ 70～90 t 吊</u>	〃	1	—	1	—	—	
	<u>〔油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・基礎工事用排出ガス対策型（2014 年規制） _____ 100 t 吊</u>	〃	—	1	—	1	1	
バックホウ（クローラ型）	<u>〔後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型（2014 年規制） _____ 山積 0.5 m³（平積 0.4 m³）</u>	〃	1					

（注）1. 掘削土砂は、掘削機よりベッセルに排土し、クローラクレーンで旋回範囲内に仮置きし、水切りした後に運搬するものを標準とする。
2. 土砂運搬については、「 _____ 土工 要領 2. 土工」により、別途計上する。
3. バックホウは、賃料とする。
4. 現場条件により上表により難い場合は 別途考慮する。

ページ

改正

P5

6. 編成人員

掘削機 1 編成に対する編成人員は、次表を標準とする。

表 6-1 編成人員

(人／編成)

職 種	土木一般世話役	運転手（特殊）	と び 工	特殊作業員	普通作業員
編成人員	1	2	1	1	1

(注) 1. 上表は、掘削、鉄筋かご建込み、コンクリート打設等及びその準備等を含んだ一連の作業にたずさわる人員である。

2. 運転手（特殊）は、掘削機及びクローラクレーン各 1 人である。

7. 施工歩掛

7-1 施工日数

杭 1 本当りの施工日数D c は、次式による。

D c =D c 1 + D c 2

D c : 杭 1 本当り施工日数 (日／本)

D c 1: 杭 1 本当り掘削日数 (日／本)

D c 2: 杭 1 本当りのコンクリート打設等の施工日数 (日／本)

7-2 杭 1 本当りの掘削日数（D c 1）

杭 1 本当りの掘削日数（Dc1）は、次表の掘削日数を、掘削する土質毎に下記のとおり算出する。

Dc1=（T1×Lb1）+（T2×Lb2）+ ……（日/本）（Dc1 は、少数第 3 位を四捨五入し、 第 2 位とする。）

Tn：各土質の掘削日数

Lb n：各土質の掘削長（m）

(例) 全回転型オールケーシング掘削機

掘削長 20m（レキ質土、粘性土、砂及び砂質土 15m、硬岩Ⅰ5m）の場合

Dc1 = （0.03×15）+（0.08×5） = 0.85

表 7-1 掘削長 1m 当りの掘削日数

(日/m)

土 質	レキ質土 粘性土 砂及び砂質土	岩塊・玉石 軟岩Ⅰ	軟岩Ⅱ	硬岩Ⅰ 中硬岩
掘削日数	0.03	0.04	0.06	0.08

(注) 1. 掘削日数はケーシング建込日数を含む。

2. ケーシングの仮置きは、現場内を標準とするが、現場条件等により、ケーシング運搬が必要な場合は、別途考慮する。

3. チゼル等を用いて地中障害物等を撤去する場合は、別途考慮する。

現 行

6. 編成人員

掘削機 1 編成に対する編成人員は、次表を標準とする。

表 6-1 編成人員

(人／編成)

職 種	土木一般世話役	運転手（特殊）	と び 工	特殊作業員	普通作業員
編成人員	1	2	1	1	1

(注) 1. 上表は、掘削、鉄筋かご建込み、コンクリート打設等及びその準備等を含んだ一連の作業にたずさわる人員である。

2. 運転手（特殊）は、掘削機及びクローラクレーン各 1 人である。

7. 施工歩掛

7-1 施工日数

杭 1 本当りの施工日数D c は、次式による。

D c =D c 1 + D c 2

D c : 杭 1 本当り施工日数 (日／本)

D c 1: 杭 1 本当り掘削日数 (日／本)

D c 2: 杭 1 本当りのコンクリート打設等の施工日数 (日／本)

7-2 杭 1 本当りの掘削日数（D c 1）

杭 1 本当りの掘削日数（Dc1）は、次表の掘削日数を、掘削する土質毎に下記のとおり算出する。

Dc1=（T1× 01）+（T2× 02）+ ……（日/本）（Dc1 は、少数第 3 位を四捨五入し、少数第 2 位とする。）

Tn：各土質の掘削日数

0n：各土質の掘削長（m）

(例) 全回転型オールケーシング掘削機

掘削長 20m（レキ質土、粘性土、砂及び砂質土 15m、硬岩Ⅰ5m）の場合

Dc1 = （0.03×15）+（0.08×5） = 0.85

表 7-1 掘削長 1m 当りの掘削日数

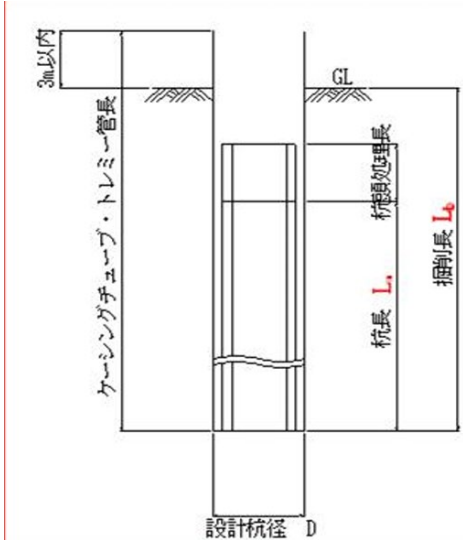
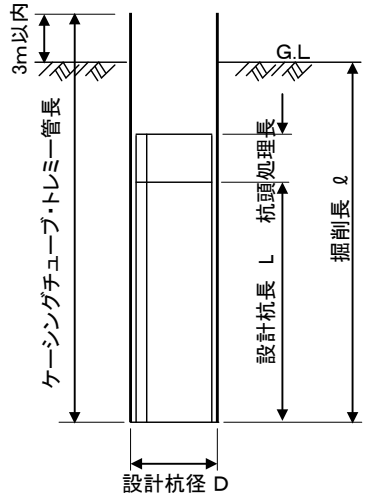
(日/m)

土 質	レキ質土 粘性土 砂及び砂質土	岩塊・玉石 軟岩Ⅰ	軟岩Ⅱ	硬岩Ⅰ 中硬岩
掘削日数	0.03	0.04	0.06	0.08

(注) 1. 掘削日数はケーシング建込日数を含む。

2. ケーシングの仮置きは、現場内を標準とするが、現場条件等により、ケーシング運搬が必要な場合は、別途考慮する。

3. チゼル等を用いて地中障害物等を撤去する場合は、別途考慮する。

ページ	改正	現行																																
P6	7-3 杭 1 本当りのコンクリート打設等の施工日数（D c2） 杭 1 本当りのコンクリート打設等の施工日数（Dc2）には打込準備（敷鉄板の設置・撤去含む）、芯出し、機械移動据付、検尺、注水、スライム処理、鉄筋かご建込、鉄筋かご継足、トレミー管建込、コンクリート打設・ケーシング引抜、トレミー管引抜を含む。 表 7-2 杭 1 本当りコンクリート打設等の施工日数（日／本） <table><tr><th>掘 削 長</th><th>杭 1 本当りのコンクリート打設等の施工日数</th></tr><tr><td>0< <u>Lb</u> ≤10</td><td>0.45</td></tr><tr><td>10< <u>Lb</u> ≤20</td><td>0.70</td></tr><tr><td>20< <u>Lb</u> ≤30</td><td>0.97</td></tr><tr><td>30< <u>Lb</u> ≤40</td><td>1.24</td></tr><tr><td>40< <u>Lb</u> ≤50</td><td>1.50</td></tr><tr><td>50< <u>Lb</u> ≤60</td><td>1.76</td></tr></table> (注) コンクリート打設はアジテータとコンクリート打込スロープを使用した施工を標準とする。なお、現場条件等により、コンクリート打込スロープが使用できない場合には、別途考慮する。  図 7-1 全回転式施工図 7-4 材料使用量 杭 1 本に必要なコンクリート使用量は、次式による。 $Q = \frac{\pi}{4} D^2 \times \underline{La} \times (1 + K)$ Q : 杭 1 本当りのコンクリート使用数量（m³／本） D : 設計杭径（m） <u>La</u> : <u> </u>杭長（m） K : ロス率 コンクリート使用数量のロス率（損失＋杭頭処理分を含む）は、次表とする。 表 7-3 ロス率（K） <table><tr><td>ロス率</td><td>+0.09</td></tr></table>	掘 削 長	杭 1 本当りのコンクリート打設等の施工日数	0< <u>Lb</u> ≤10	0.45	10< <u>Lb</u> ≤20	0.70	20< <u>Lb</u> ≤30	0.97	30< <u>Lb</u> ≤40	1.24	40< <u>Lb</u> ≤50	1.50	50< <u>Lb</u> ≤60	1.76	ロス率	+0.09	7-3 杭 1 本当りのコンクリート打設等の施工日数（D c2） 杭 1 本当りのコンクリート打設等の施工日数（Dc2）には打込準備（敷鉄板の設置・撤去含む）、芯出し、機械移動据付、検尺、注水、スライム処理、鉄筋かご建込、鉄筋かご継足、トレミー管建込、コンクリート打設・ケーシング引抜、トレミー管引抜を含む。 表 7-2 杭 1 本当りコンクリート打設等の施工日数（日／本） <table><tr><th>掘 削 長</th><th>杭 1 本当りのコンクリート打設等の施工日数</th></tr><tr><td>0< <u>ℓ</u> ≤10</td><td>0.45</td></tr><tr><td>10< <u>ℓ</u> ≤20</td><td>0.70</td></tr><tr><td>20< <u>ℓ</u> ≤30</td><td>0.97</td></tr><tr><td>30< <u>ℓ</u> ≤40</td><td>1.24</td></tr><tr><td>40< <u>ℓ</u> ≤50</td><td>1.50</td></tr><tr><td>50< <u>ℓ</u> ≤60</td><td>1.76</td></tr></table> (注) コンクリート打設はアジテータとコンクリート打込スロープを使用した施工を標準とする。なお、現場条件等により、コンクリート打込スロープが使用できない場合には、別途考慮する。  図 7-1 全回転式施工図 7-4 材料使用量 杭 1 本に必要なコンクリート使用量は、次式による。 $Q = \frac{\pi}{4} D^2 \times \underline{L} \times (1 + K)$ Q : 杭 1 本当りのコンクリート使用数量（m³／本） D : 設計杭径（m） <u>L</u> : <u>設計</u>杭長（m） K : ロス率 コンクリート使用数量のロス率（損失＋杭頭処理分を含む）は、次表とする。 表 7-3 ロス率（K） <table><tr><td>ロス率</td><td>+0.09</td></tr></table>	掘 削 長	杭 1 本当りのコンクリート打設等の施工日数	0< <u>ℓ</u> ≤10	0.45	10< <u>ℓ</u> ≤20	0.70	20< <u>ℓ</u> ≤30	0.97	30< <u>ℓ</u> ≤40	1.24	40< <u>ℓ</u> ≤50	1.50	50< <u>ℓ</u> ≤60	1.76	ロス率	+0.09
掘 削 長	杭 1 本当りのコンクリート打設等の施工日数																																	
0< <u>Lb</u> ≤10	0.45																																	
10< <u>Lb</u> ≤20	0.70																																	
20< <u>Lb</u> ≤30	0.97																																	
30< <u>Lb</u> ≤40	1.24																																	
40< <u>Lb</u> ≤50	1.50																																	
50< <u>Lb</u> ≤60	1.76																																	
ロス率	+0.09																																	
掘 削 長	杭 1 本当りのコンクリート打設等の施工日数																																	
0< <u>ℓ</u> ≤10	0.45																																	
10< <u>ℓ</u> ≤20	0.70																																	
20< <u>ℓ</u> ≤30	0.97																																	
30< <u>ℓ</u> ≤40	1.24																																	
40< <u>ℓ</u> ≤50	1.50																																	
50< <u>ℓ</u> ≤60	1.76																																	
ロス率	+0.09																																	

ページ

改正

P7

7-5 杭頭処理

杭 1 本当り杭頭処理歩掛は次表とする。なお、杭頭処理長は3m以下を標準とし、3mを超える場合は、別途考慮する。

表7-4 杭頭処理歩掛 (1本当り)

名称	規格	単位	設計杭径						
			1,000mm	1,100mm	1,200mm	1,300mm	1,500mm	1,800mm	2,000mm
土木一般世話役		人	0.10	0.11	0.12	0.13	0.15	0.18	0.20
特殊作業員		〃	0.34	0.38	0.41	0.43	0.51	0.61	0.69
ラフテレーンクレーン運転	〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(2011年規制)〕 最大吊上能力50～51 t 吊	日	0.10	0.11	0.12	0.13	0.15	0.18	0.20
諸雑費率		%	6						

(注) 1. 上表は、余盛コンクリートの切断、吊上げ及び杭天端の整形を含む。
2. ラフテレーンクレーンは賃料とする。
3. 諸雑費は、空気圧縮機の損料及び運転経費、コンクリートブレーカ損料、コンクリートカット損料、吊金具、吊ワイヤ等の費用であり、労務費、運転経費及び賃料の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
4. 殻処分費が必要な場合は別途計上する。
5. 引抜いた余盛部の小割及び殻積込については、「積算に使用できる国土交通省積算基準集 構造物とりこわし工」により、別途計上する。
6. 殻運搬については、「積算に使用できる国土交通省積算基準集 殻運搬」により、別途計上する。

(削る)

現行

7-5 杭頭処理

杭 1 本当り杭頭処理歩掛は次表とする。なお、杭頭処理長は 3m 以下を標準とし、3m を超える場合は、別途考慮する。

表 7-4 杭頭処理歩掛 (1 本当り)

――	――	――							
			1,000――	1,100――	1,200――	1,300――	1,500――	1,800――	2,000――
土木一般世話役		人	0.10	0.11	0.12	0.13	0.15	0.18	0.20
特殊作業員		〃	0.34	0.38	0.41	0.43	0.51	0.61	0.69
ラフテレーンクレーン運転	――油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(2011年規制)―― 50―― ――t 吊	日	0.10	0.11	0.12	0.13	0.15	0.18	0.20
諸 雑 費 率		%	6						

(注) 1. 上表は、余盛コンクリートの切断、吊上げ及び杭天端の整形を含む。
2. ラフテレーンクレーンは賃料とする。
3. 諸雑費は、空気圧縮機の損料及び運転経費、コンクリートブレーカ損料、コンクリートカット損料、吊金具、吊ワイヤの費用であり、労務費、運転経費及び賃料の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
4. 殻処分費が必要な場合は別途計上する。
5. 引抜いた余盛部の小割及び殻積込については、「積算に使用できる国土交通省積算基準集 構造物とりこわし工」により、別途計上する。
6. 殻運搬については、「積算に使用できる国土交通省積算基準集 殻運搬」により、別途計上する。

7-6 鉄筋かご製作

鉄筋かごの製作歩掛は次表とする。

表 7-5 鉄筋かご製作歩掛 (t 当り)

名 称	単 位	数 量
鉄 筋 工	人	0.72
溶 接 工	〃	0.36
諸 雑 費	%	11

(注) 1. 諸雑費は、機械経費、溶接棒、結束線等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
2. 鉄筋材料は、設計質量に 3%増しとする。
3. 無溶接施工に要する組立鋼材（形鋼）の材料費及び加工費、固定金具は別途計上する。
4. 鉄筋継手施工に要するガス圧接、機械継手が必要な場合は、別途計上する。
5. 加算率・補正係数の適用については、市場単価に準じる。
6. 鉄筋加工場と施工現場が異なるなど、積込・荷卸し・運搬等が必要な場合には、必要な費用を別途計上する。

ページ	改 正	現 行																																																																																																						
P7 改P8	(新設) 7-6 鉄筋かご加工・組立 鉄筋かごにおける加工・組立の歩掛は、次表を標準とする。 表7-5 鉄筋かご加工・組立歩掛 (t 当り) <table><tr><th rowspan="2">名 称</th><th rowspan="2">規 格</th><th rowspan="2">単位</th><th colspan="7">鉄筋径 (mm)</th></tr><tr><th>10～ 13</th><th>16～ 25</th><th>29～ 32</th><th>35</th><th>38</th><th>41</th><th>51</th></tr><tr><td rowspan="2">土木一般世話役</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">人</td><td>0.2</td><td>0.1</td><td>0.1</td><td>0.1</td><td>0.1</td><td>0.1</td><td>0.1</td></tr><tr><td>0.4</td><td>0.3</td><td>0.2</td><td>0.2</td><td>0.2</td><td>0.2</td><td>0.1</td></tr><tr><td rowspan="2">鉄 筋 工</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">〃</td><td>2.3</td><td>1.7</td><td>1.2</td><td>1.1</td><td>1.0</td><td>1.0</td><td>0.8</td></tr><tr><td>2.8</td><td>2.1</td><td>1.6</td><td>1.1</td><td>0.9</td><td>0.8</td><td>0.6</td></tr><tr><td rowspan="2">普 通 作 業 員</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">〃</td><td>0.2</td><td>0.2</td><td>0.1</td><td>0.1</td><td>0.1</td><td>0.1</td><td>0.1</td></tr><tr><td>0.2</td><td>0.2</td><td>0.1</td><td>0.1</td><td>0.1</td><td>0.1</td><td>0.1</td></tr><tr><td rowspan="2">ラフテレーン クレーン運転</td><td rowspan="2">油圧伸縮ジブ 型排出ガス対 策 型 (2014 年規制) 最大 吊上能力 25</td><td rowspan="2">日</td><td colspan="7">0.04</td></tr><tr><td colspan="4">＝</td><td colspan="3">0.1</td></tr><tr><td rowspan="2">諸 雑 費</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">%</td><td colspan="7">12</td></tr><tr><td colspan="7">6</td></tr></table> (注) 1. 上表は上段が加工歩掛、下段が組立歩掛を示す。 2. 異形棒鋼、普通棒鋼とも同一歩掛とする。 3. 鉄筋強度、長さを問わず同一歩掛とする。 4. ラフテレーンクレーンは賃料とする。 5. 鉄筋材料の費用は別途計上する。 6. 鉄筋使用量 (t) は、設計量 (t) × (1 + 0.03) により算出する。 7. 組立架台を必要とする場合には、別途計上する。 8. 加工および組立に伴なう現場内小運搬を含む。 9. 場所打杭用かご筋をあらかじめ掘削坑内以外において組立てる場合に適用し、掘削坑内でかご状に組立てる場合については「一般構造物」を適用する。 10. 固定金具や補強材 (補強リング) の設置手間は含むが、材料費は含まない。 11. 場所打杭用かご筋は、固定金具、補強材およびスペーサの重量は含めない。ただし、補強材およびスペーサに異形棒鋼または丸鋼を使用する場合は、補強材およびスペーサの重量を加算する。 12. フレア溶接を行う場合は、土木工事標準単価を適用し別途計上する。 13. 加工に伴う諸雑費は鉄筋曲機・鉄筋切断機・電力にかかる経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の諸雑費率を乗じた金額を上限として計上する。 14. 組立に伴なう諸雑費は鉄筋結束線および結束線、ハッカー等の費用であり、労務費の合計額に上表の諸雑費率を乗じた金額を上限として計上する。 15. 鉄筋加工場と施工現場が異なるなど、積込・荷卸・運搬等が必要な場合には、必要な費用を別途計上する。	名 称	規 格	単位	鉄筋径 (mm)							10～ 13	16～ 25	29～ 32	35	38	41	51	土木一般世話役		人	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	鉄 筋 工		〃	2.3	1.7	1.2	1.1	1.0	1.0	0.8	2.8	2.1	1.6	1.1	0.9	0.8	0.6	普 通 作 業 員		〃	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	ラフテレーン クレーン運転	油圧伸縮ジブ 型排出ガス対 策 型 (2014 年規制) 最大 吊上能力 25	日	0.04							＝				0.1			諸 雑 費		%	12							6							(新設)
名 称	規 格				単位	鉄筋径 (mm)																																																																																																		
		10～ 13	16～ 25	29～ 32		35	38	41	51																																																																																															
土木一般世話役		人	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1																																																																																															
			0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1																																																																																															
鉄 筋 工		〃	2.3	1.7	1.2	1.1	1.0	1.0	0.8																																																																																															
			2.8	2.1	1.6	1.1	0.9	0.8	0.6																																																																																															
普 通 作 業 員		〃	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1																																																																																															
			0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1																																																																																															
ラフテレーン クレーン運転	油圧伸縮ジブ 型排出ガス対 策 型 (2014 年規制) 最大 吊上能力 25	日	0.04																																																																																																					
			＝				0.1																																																																																																	
諸 雑 費		%	12																																																																																																					
			6																																																																																																					

ページ

P9改P10

7-9 諸雑費

諸雑費は、施工機械足場用の足場材（敷鉄板）賃料及び設置・撤去、ハンマグラブ、ケーシングチューブ、ハンマクラウン、スライムバケット、プランジャ、ベッセル、スラッシュタンク、トレミー管、コンクリート打込スロープ、吊金具、吊ワイヤ、付着防止材、口径変更器具、工事用水中モータポンプの賃料、副バンド装置の損料、電力に関する経費等の費用であり、労務費、運転経費、機械損料及び機械賃料の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する（杭頭処理の労務費、機械賃料及び運転経費は含まない）。

表 7-8 諸雑费率（％）

設計杭径	1,000mm	1,100mm	1,200mm	1,300mm	1,500mm	1,800mm	2,000mm
諸雑费率	24	25	27	29	34	38	41

（注）ビット等損耗费率は、諸雑費対象額としない。

7-10 営業線近接作業の補正

営業線近接作業の補正が生じた場合、杭 1 本当たり（D c）の補正はコンクリート打設を補正対象外とし、歩掛補正率に 80％を乗じて計上する。また、杭頭処理は通常の補正とする。

7-11 機械の運転経費

表 7-9 機械の運転経費

機 械 名	規 格	指 定 事 項
バックホウ （クローラ型）	〔後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型（2014 年規制）〕 バケット容量 0.5 m³	運転労務数量 →0.80 燃料消費量 →35 機械賃料数量 →1.60

8. 共通仮設費（積上げ分）

8-1 運搬費

・オールケーシング掘削機、クローラクレーン〔油圧・駆動式ウインチ・ラチスジブ型〕の分解組立、運搬費は「6-1-2 共通」による。

・上記以外の機械器具は、共通仮設費の率で考慮している。

現 行

7-9 諸雑費

諸雑費は、施工機械足場用の足場材（敷鉄板）賃料及び設置・撤去、ハンマグラブ、ケーシングチューブ、ハンマクラウン、スライムバケット、プランジャ、ベッセル、スラッシュタンク、トレミー管、コンクリート打込ミスロープ、吊金具、吊ワイヤ、付着防止材、口径変更器具、工事用水中モータポンプの賃料、副バンド装置の損料、電力に関する経費等の費用であり、労務費、運転経費、機械損料及び機械賃料の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する（杭頭処理の労務費、機械賃料及び運転経費は含まない）。

表 7-8 諸雑费率（％）

設計杭径	1,000mm	1,100mm	1,200mm	1,300mm	1,500mm	1,800mm	2,000mm
諸雑费率	24	25	27	29	34	38	41

（注）ビット等損耗费率は、諸雑費対象額としない。

7-10 営業線近接作業の補正

営業線近接作業の補正が生じた場合、杭 1 本当たり（D c）の補正はコンクリート打設を補正対象外とし、歩掛補正率に 80％を乗じて計上する。また、杭頭処理は通常の補正とする。

7-11 機械の運転経費

表 7-9 機械の運転経費

機 械 名	規 格	指 定 事 項
バックホウ （クローラ型）	後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型（2014 年規制） 山積 0.5 m³(平積 0.4 m³)	運転労務数量 →0.80 燃料消費量 →35 機械賃料数量 →1.60

8. 共通仮設費（積上げ分）

8-1 運搬費

・オールケーシング掘削機、クローラクレーン〔油圧・駆動式ウインチ・ラチスジブ型〕の分解組立、運搬費は 共通 積算要領による。

・上記以外の機械器具は、共通仮設費の率で考慮している。

ページ

改 正

9. 単 価 表

(1) オールケーシングくい 1.0 本当り単価表

歩掛コード		S10500		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	1.0×(Dc)	表 6-1、7-1、7-2
運 転 手 （ 特 殊 ）		人	2.0×(Dc)	〃
と び 工		人	1.0×(Dc)	〃
特 殊 作 業 員		人	1.0×(Dc)	〃
普 通 作 業 員		人	1.0×(Dc)	〃
オールケーシング掘削機運転経費	全回転式	日	(Dc)	機械損料
クローラクレーン運転経費	〔油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・基礎工事用・排出ガス対策型（2014 年規制）〕 最大吊上能力 70～90 t 吊又は 100 t 吊	日	(Dc)	〃
バックホウ運転経費	〔後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型(2014 年規制)〕 バケット容量 0.5 m ³	日	(Dc)	機械賃料
コ ン ク リ ー ト				
ビ ッ ト 等 損 耗 費		式	1	表 7-6
諸 雑 費	(労務費+機械経費)×率	%		表 7-7
合 計				
1 本当り		本	1	

(注) D c : 杭 1 本当り施工日数

(2) 杭頭処理 1.0 本当り単価表

歩掛コード		S10600		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 7-4
特 殊 作 業 員		人		〃
ラフテレーンクレーン運転	〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（2011 年規制）〕 最大吊上能力 50～51 t 吊	人		〃
諸 雑 費	(労務費+運転経費)×率	%		〃
合 計				
1 本当り		本	1	

(注) コンクリート殻の産廃処理費が必要な場合は、別途計上すること。

現 行

9. 単 価 表

(1) オールケーシングくい 1.0 本当り単価表

歩掛コード		S10500		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	1.0×(Dc)	表 6-1、7-1、7-2
運 転 手 （ 特 殊 ）		人	2.0×(Dc)	〃
と び 工		人	1.0×(Dc)	〃
特 殊 作 業 員		人	1.0×(Dc)	〃
普 通 作 業 員		人	1.0×(Dc)	〃
オールケーシング掘削機運転経費	全回転式	日	(Dc)	機械損料
クローラクレーン運転経費	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・基礎工事用・排出ガス対策型（2014 年規制） 70～90 t 吊又は 100 t 吊	日	(Dc)	〃
バックホウ運転経費	後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型(2014 年規制) 山積 0.5 m ³ (平積 0.4 m ³)	日	(Dc)	機械賃料
コ ン ク リ ー ト				
ビ ッ ト 等 損 耗 費		式	1	表 7-6
諸 雑 費	(労務費+機械経費)×率	%		表 7-7
合 計				
1 本当り		本	1	

(注) D c : 杭 1 本当り施工日数

(2) 杭頭処理 1.0 本当り単価表

歩掛コード		S10600		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 7-4
特 殊 作 業 員		人		〃
ラフテレーンクレーン運転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（2011 年規制） 50 t 吊	人		〃
諸 雑 費	(労務費+運転経費)×率	%		〃
合 計				
1 本当り		本	1	

(注) コンクリート殻の産廃処理費が必要な場合は、別途計上すること。

P10
改P11-12

(削る。)

(3) 鉄筋かご加工 1 t 当り単価表

歩掛コード		S103710			
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
土木一般世話役		人		表7-5	
鉄 筋 工		〃		〃	
普 通 作 業 員		〃		〃	
ラフテレーン クレーン賃料	油圧伸縮ジブ型排出対策型 (2014年規制) 最大吊上能力 25 t 吊	日		〃 機械賃料	
鉄 筋 材 料	径〇〇mm	t			
諸 雑 費		式	1	表7-5	
計					

(4) 鉄筋かご組立 1 t 当り単価表

歩掛コード		S103710			
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
土木一般世話役		人		表7-5	
鉄 筋 工		〃		〃	
普 通 作 業 員		〃		〃	
ラフテレーン クレーン賃料	油圧伸縮ジブ型排出対策型 (2014年規制) 最大吊上能力 25 t 吊	日		〃 機械賃料	
諸 雑 費		式	1	表7-5	
計					

(3) 鉄筋かご製作 1.0本当り単価表

歩掛コード		S103701		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
加 工 ・ 組 立		t	(Dc)	S103702
鉄 筋	規格毎	t		
材 料 費		式	1	(注)2
合 計		本		

(注) 1. D c：杭1本当り鉄筋設計質量
2. 無溶接施工に要する組立鋼材（形鋼）の材料費及び加工費、固定金具はユーザ入力とし別途計上する。
3. 鉄筋加工場と施工現場が異なるなど、積込・荷卸し・運搬等が必要な場合には、必要な費用を別途計上する。

(4) 鉄筋かご加工組立 1.0 t 当り単価表

歩掛コード		S103702		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
		—		
鉄 筋 工		人	0.72	表7-5
溶 接 工		人	0.36	〃
		—		
諸 雑 費	(労務費)×率	%	11	〃
合 計				

(新設)

ページ	改 正	現 行
P1	1 適用範囲 本要領は、掘削深度が40m未満でかつ掘削面積が40㎡以上300㎡未満までのケーソン工事に適用する。 なお、次項の掘削条件などの場合、又は現場条件により本要領により難い場合は、別途に積算する。 (1) 函内作業気圧（函内作業気圧とはゲージ圧力（絶対圧力：大気圧）をいう）が、0.4Mpa <u>を超えて</u> _____ 施工する場合 (2) 工期等により3組以上で施工する場合 (3) ケーソン1基に対し、2艀装（マンロック（空気減圧対応型）又はマンロック（酸素減圧対応型）1艀装、マテリアルロック1艀装）以外で施工する場合 2 施工概要 2-1 工法説明 ケーソン工法は、ケーソンを構築し底部に作業室を設けて、送気設備より地下水に対抗する圧力の空気を送り、ドライに近い状態の室内<u>で天井走行式ショベルを作業員の直接操作または遠隔操作により</u> _____、土砂を掘削、排出してケーソンを所定の支持地盤まで沈下させる工法である。 2-2 施工フロー 施工フローは、下記のとおりとする。 (注) 1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。 2. 埋戻工、コンタクトグラウト打設、止水壁撤去が必要な場合は、別途計上する。	1 適用範囲 本要領は、掘削深度が40m未満でかつ掘削面積が40㎡以上300㎡未満までのケーソン工事に適用する。 なお、次項の掘削条件などの場合、又は現場条件により本要領により難い場合は、別途に積算する。 (1) 函内作業気圧（函内作業気圧とはゲージ圧力（絶対圧力：大気圧）をいう）が、0.4MPa _____ <u>以上で</u> 施工する場合 (2) 工期等により3組以上で施工する場合 (3) ケーソン1基に対し、2艀装（マンロック（空気減圧対応型）又はマンロック（酸素減圧対応型）1艀装、マテリアルロック1艀装）以外で施工する場合 2 施工概要 2-1 工法説明 ケーソン工法は、ケーソンを構築し底部に作業室を設けて、送気設備より地下水に対抗する圧力の空気を送り、ドライに近い状態の室内 _____ <u>へ作業員が入り、</u> 土砂を掘削、排出してケーソンを所定の支持地盤まで沈下させる工法である。 2-2 施工フロー 施工フローは、下記のとおりとする。 (注) 1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。 2. 埋戻工、コンタクトグラウト打設、止水壁撤去が必要な場合は、別途計上する。

ページ

改正

P3

4掘削工法及び艀装の選定

掘削工法及び艀装は、ケーソン1基の掘削面積により次表とする。

表 4-1掘削工法及び艀装数

ケーソン1基の掘削面積	工 法	艀装数	艀 装 内 訳
40 m ² 以上 300 m ² 未満	機械掘削	2	マンロック（空気減圧対応型）又はマンロック（酸素減圧対応型）1 艀装、マテリアルロック 1 艀装

5機種を選定

機械・規格は、次表を標準とする。

減圧方法が空気減圧のみの場合は空気減圧対応型を選定する。

又、空気減圧から酸素減圧に切り替える場合は酸素減圧対応型を選定し、空気減圧対応型は計上しない。天井走行式ショベルについて、すべて有人掘削で行う場合には通常型を選定し、掘進途中から無人掘削を行う場合には、当初から遠隔操作型を選定し、遠隔操作用設備も計上する。

(新設)

表 5-1 (1)機種を選定（ケーソン1基当り）

種別	機 械 名	規 格	単位	数量	摘 要
共通設備	クローラクレーン	〔油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・排出ガス対策型（2014 年規制）〕	台	1	(注)1 掘削排土、艀装設備組立解体、仮設備組立解体、足場設置撤去で使用
		最大吊上能力 70 t 吊			

(注) 1. クローラクレーンは、賃料とする。

2. 現場条件により上表により難い場合は、別途考慮する。

(新設)

表 5-1 (2)機種を選定（ケーソン1基当り）

種別	機 械 名	規 格	単位	数量	摘 要
排土設備	バ ケ ッ ト	バケット容量 1.0m3	個	2	1 マテリアルロックにつき2 個
	土 砂 ホ ッ パ	ホッパ投入容量 10m3	基	1	

(注) 現場条件により上表により難い場合は、別途考慮する。

(新設)

表 5-1 (3)機種を選定（ケーソン1基当り）

種別	機 械 名	規 格	単位	数量	摘 要
艀装設備	マテリアルロック	通過可能バケット 1.0m3 内径φ1,800～1,900mm 長さ 5.5m 最大圧力 0.4MPa	基	1	機械掘削 1 基
	マテリアルロック用騒音対策設備（Ⅱ型）	〔Ⅱ型〕騒音低減率 35%相当	〃	1	
	マンロック（空気減圧対応型）	〔立型〕収容人員 12 人 最大圧力 0.4MPa	〃	1	暖房、自記気圧計、自動換気装置を含む
	マンロック（酸素減圧対応型）	〔立型〕収容人員 8 人 最大圧力 0.4MPa	〃	1	暖房、自記気圧計、自動換気装置、酸素・二酸化炭素計測装置及び濃度表示器を含む

現行

4掘削工法及び艀装の選定

掘削工法及び艀装は、ケーソン1基の掘削面積により次表とする。

表 4-1掘削工法及び艀装数

ケーソン1基の掘削面積	工 法	艀装数	艀 装 内 訳
40 m ² 以上 300 m ² 未満	機械掘削	2	マンロック（空気減圧対応型）又はマンロック（酸素減圧対応型）1 艀装、マテリアルロック 1 艀装

5機種を選定

機械・規格は、次表を標準とする。

減圧方法が空気減圧を行う場合に空気減圧対応型を選定し、酸素減圧対応型を計上しない。

又、減圧方法が酸素減圧を行う場合に酸素減圧対応型を選定し、空気減圧対応型を計上しない。

=			=	-	
=			=	-	
			-	-	
			-	-	
			-	-	
			-	-	
			=	=	
			-	-	
			-	-	
			=	=	
			-	-	
			-	-	
			=	=	
			-	-	
			-	-	
			=	=	
			-	-	
			-	-	
			=	=	
			-	-	
			-	-	
			=	=	

ページ

P4

改正

	ケーソン用エレベータ （内圧用）	[3 人用] 最大圧力 0.4MPa	〃	1	必要に応じて別途計上
	ケーソン用エレベータ シャフト（内圧用）	[3 人用] 最大圧力 0.4MPa	式	1	〃
	マテリアルシャフト	内径φ1,200mm 長さ 2.0m 最大圧力 0.4MPa	〃	1	必要数量
	マンシャフト	内径φ1,200mm 長さ 2.0m 最大圧力 0.4MPa	〃	1	〃
	スペシャルシャフト	内径φ1,400mm 長さ 0.5m 最大圧力 0.4MPa	個	2	
	ボットムドア	内径φ1,400mm 最大圧力 0.4MPa	〃	2	
	自動圧力調整装置	送気管径φ100 mm最大圧力 0.4MPa	〃	1	
	高圧ホース	口径φ100 mm 長さ 10m 最大圧力 1.0MPa	本	7	
	送気管	口径φ100 mm 長さ 5.5m 最大圧力 1.0MPa	m		ゲージ設備から作業室まで
	照明設備		式	1	

(注) 1. 酸素減圧を行う場合、酸素集合装置、酸素呼吸装置について、
共通仮設費の安全費で別途計上する。

2. 現場条件により上表により難い場合は、別途考慮する。

(新設)

表 5-1（4） 機種の選定（ケーソン1基当り）

種別	機 械 名	規 格	単位	数量	摘 要
掘削設備	天井走行式ショベル	バケット容量 0.15m3	台	1	掘削面積 40 m ² 以上 100 m ² 未満 の場合
				2	掘削面積 100 m ² 以上 300 m ² 未 満の場合
	天井走行式ショベル （遠隔操作型）	[中大断面用] バケット容量 0.15m3	〃	1	掘削面積 40 m ² 以上 100 m ² 未 満の場合
				2	掘削面積 100 m ² 以上 300 m ² 未 満の場合
	遠隔操作用設備	[中大断面用] 遠隔制御盤及び操作機器	〃	1	掘削面積 40 m ² 以上 100 m ² 未 満の場合（注）1
				2	掘削面積 100 m ² 以上 300 m ² 未 満の場合（注）1
	走行レール（天井 走行式ショベル用）	長さ 2m×1 本	式	1	必要数量

(注) 1. 遠隔操作用設備の建屋が必要な場合には別途計上する。

2. 現場条件により上表により難い場合は、別途考慮する。

現行

			=	=	=
			=	=	=
			=	=	=
			=	=	=
			=	=	=
			=	=	=
			=	=	=
			=	=	=
			=	=	=
			=	=	=
			=	=	=
			=	=	=

ページ

現P4
改P4-5

(新設)

表 5-1 (5) 機種を選定 (ケーソン 1 基当り)

種別	機 械 名	規 格	単位	数量	摘 要
安全設備	酸素集合装置	[マンロック、ホスピタルロック用] 酸素容量 28m3	基	1	(注) 1
	酸素呼吸装置	酸素呼吸マスク一式	台	10	マンロック用 (注) 1

(注) 1. 酸素減圧を行う場合、酸素集合装置、酸素呼吸装置について、
共通仮設費の安全費で別途計上する。
2. 現場条件により上表により難い場合は、別途考慮する。

(新設)

表 5-1 (6) 機種を選定 (ケーソン 1 基当り)

種別	機 械 名	規 格	単位	数量	摘 要
安全管理・連絡設備	ガス検知器	[携帯式] 検知対象 O2, HC, H2, H2S, CO	個	1	(注) 1
	ガス検知器 (ニューマチックケーソン用)	検知対象 [5 点(酸素, ~~マン~~ , H2S, CO, CO2) 計測用]	台	1	〃
	電話又はインターホン		式	1	〃
	ブザー		〃	1	〃
	函内 TV		〃	1	〃
	送気用設備監視機器		〃	1	

(注) 1. 送気用設備監視機器を除く安全管理・連絡設備は、共通仮設費 (率分) に含まれる。
2. 現場条件により上表により難い場合は、別途考慮する。

表 5-2 機種を選定 (1 工事当り機械設備)

種別	機 械 名	規 格	単位	数 量	摘 要
送気設備	空気圧縮機	吐出量 <u>(50/60Hz)</u> 29/36 m ³ /min <u>最大</u> 圧力 0.4MPa	台	必要台数	(注) 1
	圧縮空気清浄機	処理量 1, 100 m ³ /h <u>最大</u> 圧力 0.8MPa	〃	必要台数	(注) 2
	クーリングタワー	<u>冷却トン数</u> 40~60 <u>RT</u>	〃	必要台数	(注) 3, 4, 5
	循環水ポンプ	<u>口径</u> <u>φ</u> 80mm 全揚程 30m	〃	必要台数	(注) 4, 6
	<u>レシーバタンク</u>	容量 2.5 m ³ <u>最大</u> 圧力 <u>0.9</u> MPa	〃	必要台数	(注) 2
	送気管	<u>口径</u> <u>φ</u> 150 mm 長さ 5.5 m <u>最大</u> 圧力 1.0MPa	m	空気圧縮機から ゲージ設備まで	
救急設備	ホスピタルロック (空気再圧対応型)	[中型] <u>内径</u> <u>φ 1,900mm</u> <u>長さ</u> 4m <u>最大</u> 圧力 0.5MPa	台	1	(注) 7
	ホスピタルロック (酸素再圧対応型)	[中型] <u>内径</u> <u>φ 1,900mm</u> <u>長さ</u> 4m <u>最大</u> 圧力 0.5MPa	〃	1	(注) 7, 8
	酸素集合装置	[マンロック、ホスピタルロック用] 酸素容量 28 m ³	基	1	〃

現行

(新設)

(新設)

(前ページから移動)

表 5-2 機種を選定 (1 工事当り機械設備)

種別	機 械 名	規 格	単位	数 量	摘 要
送気設備	空気圧縮機	吐出量 <u>29/36</u> m ³ /min <u>圧力</u> 0.4MPa	台	必要台数	(注) 1
	圧縮空気清浄機	処理量 1, 100 m ³ /h <u>圧力</u> 0.8MPa	〃	必要台数	(注) 2
	クーリングタワー	<u>40~60</u> <u>t/h</u>	〃	必要台数	(注) 3, 4, 5
	循環水ポンプ	<u>口径</u> <u>80</u> mm 全揚程 30m	〃	必要台数	(注) 4, 6
	<u>レシーバタンク</u>	容量 2.5 m ³ <u>圧力</u> <u>0.7~0.9</u> MPa	〃	必要台数	(注) 2
	送気管	<u>径</u> 150 mm 長さ 5.5 m <u>圧力</u> 1.0MPa	m	空気圧縮機から ゲージ設備まで	
救急設備	ホスピタルロック (空気再圧対応型)	[中型] <u>径×長さ</u> <u>φ 1.9m</u> ×4m級 <u>圧力</u> 0.5MPa	台	1	(注) 7
	ホスピタルロック (酸素再圧対応型)	[中型] <u>径×長さ</u> <u>φ 1.9m</u> ×4m級 <u>圧力</u> 0.5MPa (<u>酸素再圧用</u>)	〃	1	(注) 7, 8
	酸素集合装置	[マンロック、ホスピタルロック用] 酸素容量 28 m ³	基	1	〃

ページ

現P5-6
改P6-7

改正

6-2 函外作業

ケーソン 1 基当りの函外作業の編成人員は、次表を標準とする。

表 6-2 函外編成人員

(人／基)

艀装数	潜かん世話役	潜かん工	特殊作業員	普通作業員	摘要
2	1	1	1 (0)	2	

(注) 函内作業 気圧が OMPa (素掘) の場合は、特殊作業員は計上しない。

6-3 送気用設備

1 現場当りの送気用設備の運転の編成人員は、次表を標準とする。

表 6-3 送気用設備編成人員

(人／現場)

特殊作業員
1

なお、送気用設備運転 1 日当りの保守点検作業は、次表を標準とする。

表 6-4 送気用設備保守点検歩掛

(運転 1 日当り)

名称	単位	数量
電工	人	0.3

送気用設備の運転の諸雑費は、送気用設備監視機器 (空気圧縮機・クーリングタワー異常温度警報装置、送気本管・函内圧力警報装置及び水位観測用カメラ・モニタ類) の費用等であり、労務費(送気用設備の運転および保守点検作業)の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 6-5 送気用設備諸雑費率

(%)

諸雑費率	3
------	---

7 作業時間等

7-1 函内作業及び函外作業

函内作業及び函外作業に従事する作業員の 1 組当り作業時間 (賃金対象時間) は 8 時間とし、1 日 2 方 (2 組) を標準とするが、現場条件等により 1 日 1 方 (1 組) とすることもできる。

7-2 送気用設備

送気用設備の運転に従事する特殊作業員の作業時間は、全日 (24 時間) とし、1 日 3 方 (3 組) で従事するものとする。 なお、運転日数は、送気開始日から終了日までとする。

現行

(前ページから移動)

6-2 函外作業

ケーソン 1 基当りの函外作業の編成人員は、次表を標準とする。

表 6-2 函外編成人員

(人／基)

艀装数	潜かん世話役	潜かん工	特殊作業員	普通作業員	摘要
2	1	1	1 (0)	2	

(注) 作業室の気圧が OMPa (素掘) の場合は、特殊作業員は計上しない。

6-3 送気用設備

送気用設備の運転 に従事する作業員の作業時間は別途計上する。

(新規)

(前ページから移動)

7 作業時間等

7-1 函内作業及び函外作業

函内作業及び函外作業に従事する作業員の 1 組当り作業時間 (賃金対象時間) は 8 時間とし、1 日 2 交代 (2 組) とする。

7-2 送気用設備

送気用設備の運転に従事する 作業員の作業時間は 別途計上する。

[illegible]

ページ

現P6
改P9

9 施工歩掛

9-1 刃口金物の製作据付

9-1-1 刃口金物製作

刃口金物の製作（材料費を含む）は、特別調査等による。
また、諸経費は一般管理費等のみ対象とする。

9-1-2 刃口金物の据付

刃口金物の据付は、次表を標準とする。

表 9-1 刃口金物据付歩掛 (1 基当り)

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
土木一般世話役		人	0. <u>6</u> ×T1	T1：1 基当り刃口 金物質量 (t)
溶 接 工		〃	1. <u>1</u> ×T1	
普 通 作 業 員		〃	0. <u>9</u> ×T1	
ラフテレーン クレーン運転	<u>1</u> 油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (<u>2014 年規制</u> <u>)</u> <u>1</u> <u>最大吊上能力</u> 25 t 吊	日	0. <u>31</u> ×T1	
諸 雑 費 率		%	<u>10</u>	

(注) 1. 据付地盤の整地は含まない。
2. 電気溶接機の運転を含む。
3. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。
4. 諸雑費は、電力に関する経費、溶接機の損料、燃料・油脂及び溶接ワイヤー等の費用であり、
労務費及び賃料の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

9-2 セントル（作業室型枠・支保工）

作業室構築のセントルは、木製セントルを標準とする。

(1) 作業室型枠工

作業室型枠は、「6-1-4 コンクリート工 4-3 型枠工」の一般型枠による。

(2) 作業室支保工設置・撤去

作業室支保工は、「6-1-4 コンクリート工 4-6 支保工、表 4-6-1 パイプサポート支保工」による。

9-3 掘削沈下

9-3-1 機械掘削 1 日 (2 組)

施工 1 日 (2 組) 当りの掘削量 (D c) は次による。
D c = β × D c 1
D c : 1 日 (2 組) 当りの掘削量 …………… (m³・地山／日)
β : 補正係数
D c 1…………… : 機械掘削 1 日 (2 組) 当りの掘削量 (m³・地山／日)

現 行

(前ページから移動)

9 施工歩掛

9-1 刃口金物の製作据付

9-1-1 刃口金物製作

刃口金物の製作（材料費を含む）は、特別調査等による。
また、諸経費は一般管理費等のみ対象とする。

9-1-2 刃口金物の据付

刃口金物の据付は、次表を標準とする。

表 9-1 刃口金物据付歩掛 (1 基当り)

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
土木一般世話役		人	0. <u>5</u> ×T1	T1：1 基当り刃口 金物質量 (t)
溶 接 工		〃	1. <u>0</u> ×T1	
普 通 作 業 員		〃	0. <u>8</u> ×T1	
ラフテレーン クレーン運転	<u>油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策 (</u> <u>第 2</u> <u>次基準値)</u> <u>25 t 吊</u>	日	0. <u>24</u> ×T1	
諸 雑 費 率		%	<u>7</u>	

(注) 1. 据付地盤の整地は含まない。
2. 溶接工には機械工を含む。
3. 電気溶接機の運転を含む。
4. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。
5. 諸雑費は、電力に関する経費、溶接機の損料、燃料・油脂及び溶接ワイヤー等の費用であり、
労務費及び賃料の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

9-2 セントル（作業室型枠・支保工）

作業室構築のセントルは、木製セントルを標準とする。

(1) 作業室型枠工

作業室型枠は、「6-1-4 コンクリート工 4-3 型枠工」の一般型枠による。

(2) 作業室支保工設置・撤去

作業室支保工は、「6-1-4 コンクリート工 4-6 支保工、表 4-6-1 パイプサポート支保工」による。

9-3 掘削沈下

9-3-1 機械掘削 _____

施工 1 日 (2 組) 当りの掘削量 (D c) は次による。
D c = β × D c 1
D c : 1 日 (2 組) 当りの掘削量 …………… (m³・地山／日)
β : 補正係数
D c 1…………… : 機械掘削 1 日 (2 組) 当りの掘削量 (m³・地山／日)

ページ

現行

改正

現行

現P7-8
改P10

表 9-2 有人機械掘削 1 日 (2 組) 当り掘削量 (D c 1) (m³・地山／日)

掘削面積 (m²) 函内作業気圧 (MPa)	40 以上 60 未満	60 以上 100 未満	100 以上 300 未満
0.00 (素掘)	53.4	61.4	96.3
0.00 を超え～0.10 以下	51.9 (注)	59.6 (注)	93.6 (注)
0.10 を超え～0.14 以下	45.0	51.8	81.2
0.14 を超え～0.18 以下	36.6	42.1	66.1
0.18 を超え～0.22 以下	26.7	30.7	48.2
0.22 を超え～0.26 以下	22.9	26.3	41.3
0.26 を超え～0.30 以下	18.3	21.1	33.0
0.30 を超え～0.34 以下	14.5	16.7	26.2
0.34 を超え～0.36 以下	11.4	13.2	20.6
0.36 を超え～0.38 以下	9.9	11.4	17.9
0.38 を超え～0.40 以下	9.9	11.4	17.9

(注) 0MPa を超え 0.10MPa 以下のみ空気減圧とし、以降は酸素減圧を標準とする。

表 9-3 有人機械掘削における土質による補正係数 (β)

土 質	砂、砂質土 粘性土及び粘土	レキ及び レキ質土	玉石混じり 砂レキ	軟岩 (Ⅰ)	軟岩 (Ⅱ)
補正係数	1.00	0.84	0.56	0.35	0.17

(注) 1. 刃口据付面から掘削深 3mまでは、上表を 30%低減する。
2. 軟岩 (Ⅰ) はピックハンマ等による掘削、軟岩 (Ⅱ) は発破を必要とする場合の歩掛である。
3. 軟岩 (Ⅱ) の場合、掘削 10 m³当り 含水爆薬 3.2 kg、導火管付き雷管 32 個を計上する。
4. 軟岩 (Ⅱ) の場合は レッグドリル (空圧式) を、軟岩 (Ⅰ) の場合はピックハンマを次の台数を計上する。
掘削面積 40 m²以上 100 m²未満 2 台
空気圧縮機 (レッグドリル (空圧式)) 7.5～7.8 m³／min
[可搬式・エンジン駆動・スクリュ型 (超低騒音型)・排出ガス対策型 (第 3 次基準値)]
×1 台
掘削面積 100 m²以上 300 m²未満 3 台
空気圧縮機 (レッグドリル (空圧式)) 7.5～7.8 m³／min
[可搬式・エンジン駆動・スクリュ型 (超低騒音型)・排出ガス対策型 (第 3 次基準値)]
×1 台
掘削面積 40 m²以上 100 m²未満 2 台
空気圧縮機 (ピックハンマ) 7.5～7.8 m³／min
[可搬式・エンジン駆動・スクリュ型 (超低騒音型)・排出ガス対策型 (第 3 次基準値)]
×1 台

表 9-2 機械掘削 1 日 (2 組) 当り掘削量 (D c 1) (m³・地山／日)

掘削面積 (m²) 函内作業気圧 (MPa)	40 ～60 未満	60 ～100 未満	100 ～300 未満
0.00 (素掘)	53.4 (-)	61.4 (-)	96.3 (-)
0.00 を超え～0.10 以下	51.9 (-)	59.6 (-)	93.6 (-)
0.10 を超え～0.14 以下	42.0 (45.0)	48.2 (51.8)	75.7 (81.2)
0.14 を超え～0.18 以下	30.5 (36.6)	35.1 (42.1)	55.1 (66.1)
0.18 を超え～0.22 以下	19.8 (26.7)	22.8 (30.7)	35.8 (48.2)
0.22 を超え～0.26 以下	16.0 (22.9)	18.4 (26.3)	28.9 (41.3)
0.26 を超え～0.30 以下	12.2 (18.3)	14.0 (21.1)	22.0 (33.0)
0.30 を超え～0.34 以下	- (14.5)	- (16.7)	- (26.2)
0.34 を超え～0.36 以下	- (11.4)	- (13.2)	- (20.6)
0.36 を超え～0.38 以下	- (9.9)	- (11.4)	- (17.9)
0.38 を超え～0.40 以下	- (9.9)	- (11.4)	- (17.9)

(注) 酸素減圧を行う場合は、() 内の数を計上する。

表 9-3 土質による補正係数 (β)

土 質	砂、砂質土 粘性土及び粘土	レキ及び レキ質土	玉石混じり 砂レキ	軟岩 (Ⅰ)	軟岩 (Ⅱ)
補正係数	1.00	0.84	0.56	0.35	0.17

(注) 1. 刃口据付面から掘削深 3mまでは、上表を 30%低減する。
2. 軟岩 (Ⅰ) はピックハンマ等による掘削、軟岩 (Ⅱ) は発破を必要とする場合の歩掛である。
3. 軟岩 (Ⅱ) の場合、掘削 10 m³当り 火薬 2.1 kg、 雷管 13 個を計上する。
4. 軟岩 (Ⅱ) の場合は 削岩機 を、軟岩 (Ⅰ) の場合はピックハンマを次の台数を計上する。
掘削面積 40 m²以上 100 m²未満 2 台
空気圧縮機 (削岩機用) 7.5～7.8 m³／min
[可搬式・エンジン駆動・スクリュ型 排出ガス対策型 (第 1 次基準値)]
×1 台
掘削面積 100 m²以上 300 m²未満 3 台
空気圧縮機 (削岩機用) 7.5～7.8 m³／min
[可搬式・エンジン駆動・スクリュ型 排出ガス対策型 (第 1 次基準値)]
×1 台
掘削面積 40 m²以上 100 m²未満 2 台
空気圧縮機 (ピックハンマ) 7.5～7.8 m³／min
[可搬式・エンジン駆動・スクリュ型 排出ガス対策型 (第 1 次基準値)]
×1 台

ページ

現P8
改P10-11

掘削面積 100 m²以上 300 m²未満 3 台
空気圧縮機（ピックハンマ）7.5～7.8 m³／min
〔可搬式・エンジン駆動・スクリュ型（超低騒音型）・排出ガス対策型（第 3 次基準値）〕
×1 台

5. 軟岩（Ⅰ）で亀裂が少なくブレーカを使用しても大塊となるもの及び軟岩（Ⅱ）において中硬岩に近く相当に発破を必要とするものについては、日当り掘削量を 30%低減することが出来る

6. 空気圧縮機は賃料とする。

（新設）

表9-4 無人機械掘削1日（2組）当り掘削量（D c1）（m³・地山／日）

掘削面積（m ² ） 函内作業気圧（MPa）	40～60未満	60～100未満	100～300未満
0以上0.40以下	32.0	36.8	57.8

表 9-5 無人機械掘削における土質による補正係数（β）

土 質	砂、砂質土 粘性土及び粘土	レキ及び レキ質土	玉石混じり 砂レキ	軟岩（Ⅰ）
補正係数	1.00	0.84	0.56	0.33

（注）刃口据付面から掘削深 3m までは、上表を 30%低減する。

（新設）

9-3-2 機械掘削 1 日（1 組）

施工 1 日（1 組）当りの掘削量（Dc）は、次式による。
D c = β × D c 1
D c：1 日（1 組）当りの掘削量（m3・地山／日）
β：補正係数（表 9-3 及び表 9-5 による）
D c 1：機械掘削 1 日（1 組）当りの掘削量（m3・地山／日）

表 9-6 有人機械掘削 1 日（1 組）当りの掘削量（D c1）（m³・地山／日）

掘削面積（m ² ） 函内作業気圧（MPa）	40 以上 60 未満	60 以上 100 未満	100 以上 300 未満
0.00（素掘）	26.7	30.7	48.2
0.00 を超え～0.10 以下	25.9（注）	29.9（注）	46.8（注）
0.10 を超え～0.14 以下	22.5	25.9	40.6
0.14 を超え～0.18 以下	18.3	21.1	33.0
0.18 を超え～0.22 以下	13.3	15.4	24.1
0.22 を超え～0.26 以下	11.4	13.2	20.6
0.26 を超え～0.30 以下	9.1	10.5	16.5
0.30 を超え～0.34 以下	7.2	8.3	13.1
0.34 を超え～0.36 以下	5.7	6.6	10.3
0.36 を超え～0.38 以下	5.0	5.7	8.9

現 行

掘削面積 100 m²以上 300 m²未満 3 台
空気圧縮機（ピックハンマ）7.5～7.8 m³／min
〔可搬式・エンジン駆動・スクリュ型_____・排出ガス対策型（第 1 次基準値）〕
×1 台

5. 軟岩（Ⅰ）で亀裂が少なくブレーカを使用しても大塊となるもの及び軟岩（Ⅱ）において中硬岩に近く相当に発破を必要とするものについては、日当り掘削量を 30%低減することが出来る。

（新設）

（新設）

ページ

現P8
改P11-12

改正

0.38を超え～0.40以下

5.0

5.7

8.9

(注) OMPaを超え0.10MPa以下のみ空気減圧とし、以降は酸素減圧を標準とする。

表 9-7 無人機械掘削1日（1組）当り掘削量（D c 1）（m³・地山／日）

掘削面積（㎡）
函内作業気圧（MPa）

40以上60未満

60以上100未満

100以上300未満

0以上0.40以下

16.0

18.4

28.9

9-4 構築工

9-4-1 本体及び止水壁の製作

本体及び止水壁は、鉄筋コンクリート構造を標準とする。

(1) 本体及び止水壁の構築日数

コンクリートは早強セメント使用を標準とし_____1 リフト（ロット）当り標準構築日数は、
機装の組立、解体を含めて10日（普通セメント使用の場合は12日）とする。なお、止水壁の製作は止
水壁ケーソンを使用する場合のみ適用する。

(2) 打設工

「6-1-4 コンクリート工 4-2 コンクリート打設」による。

(3) 足場工

① 足場は、手摺先行型枠組足場を標準とし、掛面積は次式による。
外側足場掛面積（ケーソン部）（掛㎡）＝初期2ロット分外周面積×1.3（掛㎡）
外側足場掛面積（ピア部）（掛㎡）＝1ロット分外周面積×1.3（掛㎡）
内側足場掛面積（掛㎡）＝必要ロット分外周面積×0.55（掛㎡）

② 外側足場材の設置・撤去は、止水壁ケーソン及びピアケーソンのケーソン部の構築において、1回
分のみ計上し、ピアケーソンのピア部は1ロット毎に計上する。ただし、ピアケーソンのピア部の
外側足場については、1ロット分の掛面積とする。

③ 内側足場材の設置・撤去は、止水壁ケーソン及びピアケーソンのケーソン部の構築において、1回
分のみ計上する。

④ 足場材の設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

表 9-8 足場材設置・撤去歩掛（100掛㎡当り）

名 称	規 格	単位	外側足場	内側足場
土 木 一 般 世 話 役		人	1.7	2.9
と び 工		〃	6.7	7.2
普 通 作 業 員		〃	1.2	2.3
クローラクレーン燃料 _____	〔油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型・排出ガス 対策型（2014年規 制_____）〕最 大吊上能力70 t 吊	0	167	245

(注) 1. クローラクレーンの 賃料は共通設備で計上 する。
2. 足場の架台及び支持杭が必要な場合には別途計上する。
3. 上記歩掛には、安全ネットの設置撤去手間が含まれている。

現 行

(新設)

9-4 構築工

9-4-1 本体及び止水壁の製作

本体及び止水壁は、鉄筋コンクリート構造を標準とする。

(1) 本体及び止水壁の構築日数

コンクリートは早強セメント使用を標準とし構築日数は、
機装の組立、解体を含めて10日（普通セメント使用の場合は12日）とする。
なお、止水壁の製作は止水壁ケーソンを使用する場合のみ適用する。

(2) 打設工

「6-1-4 コンクリート工 4-2 コンクリート打設」による。

(3) 足場工

① 足場は、手摺先行型枠組足場を標準とし、掛面積は次式による。
外側足場掛面積（ケーソン部）（掛㎡）＝初期2ロット分外周面積×1.3（掛㎡）
外側足場掛面積（ピア部）（掛㎡）＝1ロット分外周面積×1.3（掛㎡）
内側足場掛面積（掛㎡）＝必要ロット分外周面積×0.55（掛㎡）

② 外側足場材の設置・撤去は、止水壁ケーソン及びピアケーソンのケーソン部の構築において、1回
分のみ計上し、ピアケーソンのピア部は1ロット毎に計上する。ただし、ピアケーソンのピア部の外側
足場については、1ロット分の掛面積とする。

③ 内側足場材の設置・撤去は、止水壁ケーソン及びピアケーソンのケーソン部の構築において、1回
分のみ計上する。

④ 足場材の設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

表 9-4 足場材設置・撤去歩掛（100掛㎡当り）

名 称	規 格	単位	外側足場	内側足場
土 木 一 般 世 話 役		人	1.5	2.6
と び 工		〃	6.1	6.5
普 通 作 業 員		〃	1.1	2.1
クローラクレーン 運_____転_____	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型・排出ガス 対策型（ 第1次基準値） _____50 t 吊	旦	1.8	2.6

(注) 1. クローラクレーンは、 賃料_____とする。
2. 足場の架台及び支持杭が必要な場合には別途計上する。
3. 上記歩掛には、安全ネットの設置撤去手間が含まれている。

ページ	改正	現行																																																								
現P8 改P12-13	⑤ 足場材の賃料を計上する場合、次式の通り算定することができる。 賃料＝L×（M1×T＋M2）×A（円） ……………式 9-1 L：賃料係数（1.49） M1：先行据置 2 段手摺の 1 日当りの賃料（円/日） M2：先行据置 2 段手摺の基本料金（円） T：足場材の供用日数（日） A：足場の掛面積（掛㎡） 足場材は、敷板、建杵、筋違、板付布杵、連結ピン、アームロック、ジャッキベース、手摺柱、手摺、先行据置 2 段手摺、巾木、階段、養生ネット（メッシュシート）、安全ネット等である。 (4) 型枠工 一般及び合板円形型枠の製作・設置・撤去歩掛は、「6-1-4 コンクリート工 4-3 型枠工」による。 (5) 支保工 支保の設置・撤去歩掛は、「6-1-4 コンクリート工 4-6 支保工」による。 (6) 鉄筋工 鉄筋工は、「6-1-4 コンクリート工 4-1 鉄筋工」による。 (7) 養生工 養生工は、「6-1-4 コンクリート工 4-2-4-2 養生工」による。 9-4-2 天端コンクリート製作 (1) 天端コンクリートの構築日数 天端コンクリートの構築日数は 9-4-1 （1）本体及び止水壁の構築日数に準じる。 (2) 打設工 「6-1-4 コンクリート工 4-2 コンクリート打設」による。 (3) 支保工設置 支保工設置歩掛は、次表とする。なお、H 形鋼は埋殺しとし、形状は実状による。 <table><tr><th colspan="4">表 9-9 支保工設置歩掛（H 形鋼 1 t 当り）</th></tr><tr><th>名 称</th><th>規 格</th><th>単位</th><th>数 量</th></tr><tr><td>土 木 一 般 世 話 役</td><td></td><td>人</td><td>0.04</td></tr><tr><td>と び 工</td><td></td><td>〃</td><td>0.15</td></tr><tr><td>普 通 作 業 員</td><td></td><td>〃</td><td>0.06</td></tr><tr><td>ラフテレーンクレーン 運 転</td><td>油圧伸縮ジブ型 16 t 吊</td><td>日</td><td>0.06</td></tr><tr><td>H 形 鋼</td><td>実状による</td><td>t</td><td>1</td></tr></table> (注) 1. 支保工に H 形鋼を使用しない場合は、別途査定する。 2. ラフテレーンクレーンは賃料とする。	表 9- 9 支保工設置歩掛（H 形鋼 1 t 当り）				名 称	規 格	単位	数 量	土 木 一 般 世 話 役		人	0.04	と び 工		〃	0.15	普 通 作 業 員		〃	0.06	ラフテレーンクレーン 運 転	油圧伸縮ジブ型 16 t 吊	日	0.06	H 形 鋼	実状による	t	1	⑤ 足場材の賃料を計上する場合、次式の通り算定することができる。 賃料＝L×（M1×T＋M2）×A（円） ……………式 9-1 L：賃料係数（1.3） M1：先行据置 2 段手摺の 1 日当りの賃料（円/日） M2：先行据置 2 段手摺の基本料金（円） T：足場材の供用日数（日） A：足場の掛面積（掛㎡） 足場材は、敷板、建杵、筋違、板付布杵、連結ピン、アームロック、ジャッキベース、手摺柱、手摺、先行据置 2 段手摺、巾木、階段、養生ネット（メッシュシート）、安全ネット等である。 (4) 型枠工 一般及び合板円形型枠の製作・設置・撤去歩掛は、「6-1-4 コンクリート工 4-3 型枠工」による。 (5) 支保工 支保の設置・撤去歩掛は、「6-1-4 コンクリート工 4-6 支保工」による。 (6) 鉄筋工 鉄筋工は、「6-1-4 コンクリート工 4-1 鉄筋工」による。 (7) 養生工 養生工は、「6-1-4 コンクリート工 4-2-4-2 養生工」による。 9-4-2 天端コンクリート製作 (1) 天端コンクリートの構築日数 天端コンクリートの構築日数は 9-4-1 （1）本体及び止水壁の構築日数に準じる。 (2) 打設工 「6-1-4 コンクリート工 4-2 コンクリート打設」による。 (3) 支保工設置 支保工設置歩掛は、次表とする。なお、H 形鋼は埋殺しとし、形状は実状による。 <table><tr><th colspan="4">表 9-5 支保工設置歩掛（H 形鋼 1 t 当り）</th></tr><tr><th>名 称</th><th>規 格</th><th>単位</th><th>数 量</th></tr><tr><td>土 木 一 般 世 話 役</td><td></td><td>人</td><td>0.04</td></tr><tr><td>と び 工</td><td></td><td>〃</td><td>0.15</td></tr><tr><td>普 通 作 業 員</td><td></td><td>〃</td><td>0.06</td></tr><tr><td>ラフテレーンクレーン 運 転</td><td>油圧伸縮ジブ型 16 t 吊</td><td>日</td><td>0.06</td></tr><tr><td>H 形 鋼</td><td>実状による</td><td>t</td><td>1</td></tr></table> (注) 1. 支保工に H 形鋼を使用しない場合は、別途査定する。 2. ラフテレーンクレーンは賃料とする。	表 9- 5 支保工設置歩掛（H 形鋼 1 t 当り）				名 称	規 格	単位	数 量	土 木 一 般 世 話 役		人	0.04	と び 工		〃	0.15	普 通 作 業 員		〃	0.06	ラフテレーンクレーン 運 転	油圧伸縮ジブ型 16 t 吊	日	0.06	H 形 鋼	実状による	t	1
表 9- 9 支保工設置歩掛（H 形鋼 1 t 当り）																																																										
名 称	規 格	単位	数 量																																																							
土 木 一 般 世 話 役		人	0.04																																																							
と び 工		〃	0.15																																																							
普 通 作 業 員		〃	0.06																																																							
ラフテレーンクレーン 運 転	油圧伸縮ジブ型 16 t 吊	日	0.06																																																							
H 形 鋼	実状による	t	1																																																							
表 9- 5 支保工設置歩掛（H 形鋼 1 t 当り）																																																										
名 称	規 格	単位	数 量																																																							
土 木 一 般 世 話 役		人	0.04																																																							
と び 工		〃	0.15																																																							
普 通 作 業 員		〃	0.06																																																							
ラフテレーンクレーン 運 転	油圧伸縮ジブ型 16 t 吊	日	0.06																																																							
H 形 鋼	実状による	t	1																																																							

ページ

改正

現P10
改P14-15

(4) 型枠工

合板円形型枠は埋殺しとし、製作・設置歩掛は、次表とする。

表 9-10 製作・設置・撤去歩掛

(1 m²当り)

名 称	規 格	単位	合板円形型枠
土 木 一 般 世 話 役		人	0. 01
型 枠 工		〃	0. 05
と び 工		〃	0. 03
普 通 作 業 員		〃	0. 03
コンクリート型枠用合板	12×900×1, 800	枚	0. 31
バ タ 角	カラ松 3. 0×9×9	m ³	0. 014

(5) 鉄筋工

「6-1-4 コンクリート工 4-1 鉄筋工」による。

(6) 養生工

「6-1-4 コンクリート工 4-2-4-2 養生工」による。

9-4-3 中埋コンクリート打設

(1) 中埋コンクリート工

中埋コンクリート工は、作業室内を充填するコンクリートの打設を対象とする。作業室天井のシャフト部を中埋コンクリートと異なるコンクリートで充填する場合は、別途計上する。中埋コンクリート打設歩掛、コンクリートポンプ車の運転経費は、別途計上する。

表 9-11 中埋コンクリート打設歩掛

(10 m³当り)

名 称	規 格	単位	数量
潜 か ん 世 話 役		人	0. 17
潜 か ん 工		〃	0. 17
コンクリートポンプ車運転	〔トラック架装・ブーム式〕圧送能力 90～110 m ³ /h	日	0. 11

(注) コンクリートポンプ車圧送のスランブ値及び粗骨材の最大寸法は、次表のとおりとする。

表 9-12 コンクリートポンプ車圧送のコンクリートの標準範囲

スランブ (cm)	粗骨材の最大寸法 (mm)
18～21	25 以下

(2) 中埋コンクリート打設量

中埋コンクリートの打設量は、次式による。

中埋コンクリート使用量＝設計数量× (1+ K) ……………式 9-2

設計数量：作業室中埋コンクリート量 (m³)

K：ロス率

表 9-13 ロス率 (K)

K：ロス率	+0. 04
-------	--------

(3) ブローパイプバルブ調整

ケーソン 1 基当りのブローパイプのバルブ調整は、次表を標準とする。

現 行

(4) 型枠工

合板円形型枠は埋殺しとし、製作・設置歩掛は、次表とする。

表 9-6 製作・設置・撤去歩掛

(1 m²当り)

名 称	規 格	単位	合板円形型枠
土 木 一 般 世 話 役		人	0. 01
型 枠 工		〃	0. 05
と び 工		〃	0. 03
普 通 作 業 員		〃	0. 03
コンクリート型枠用合板	12×900×1, 800	枚	0. 31
バ タ 角	カラ松 3. 0×9×9	m ³	0. 014

(5) 鉄筋工

「6-1-4 コンクリート工 4-1 鉄筋工」による。

(6) 養生工

「6-1-4 コンクリート工 4-2-4-2 養生工」による。

9-4-3 中埋コンクリート打設

(1) 中埋コンクリート工

中埋コンクリート工は、作業室内を充填するコンクリートの打設を対象とする。作業室天井のシャフト部を中埋コンクリートと異なるコンクリートで充填する場合は、別途計上する。中埋コンクリート打設歩掛、コンクリートポンプ車の運転経費は、別途計上する。

表 9-7 中埋コンクリート打設歩掛

(10 m³当り)

名 称	規 格	単位	数量
潜 か ん 世 話 役		人	0. 15
潜 か ん 工		〃	0. 15
コンクリートポンプ車運転	〔トラック架装・ブーム式〕圧送能力 90～110 m ³ /h	日	0. 11

(注) コンクリートポンプ車圧送のスランブ値及び粗骨材の最大寸法は、次表のとおりとする。

表 9-8 コンクリートポンプ車圧送のコンクリートの標準範囲

スランブ (cm)	粗骨材の最大寸法 (mm)
18～21	25 以下

(2) 中埋コンクリート打設量

中埋コンクリートの打設量は、次式による。

中埋コンクリート使用量＝設計数量× (1+ K) ……………式 9-2

設計数量：作業室中埋コンクリート量 (m³)

K：ロス率

表 9-9 ロス率 (K)

K：ロス率	+0. 04
-------	--------

(3) ブローパイプバルブ調整

ケーソン 1 基当りのブローパイプのバルブ調整は、次表を標準とする。

ページ

P11-12
改P15-16

改正

表 9-14 ブローパイプバルブ調整 (1 基当り)

名 称	単 位	数 量
潜 かん 工	人	6. 9
諸 雑 費	%	27

(注) 1. バルブ調整は中埋コンクリートの打設量に関係ない。
2. 諸雑費はボールバルブ、フランジの費用であり、労務費の合計に上表の率を上限として計上する。

9-4-4 コンタクトグラウト打設
コンタクトグラウト打設が必要な場合は、別途計上する。

9-5 沈下促進工
9-5-1 載荷工法
(1) 材料
水荷重（ポンプによる注排水）を標準とするが、現場条件等によりその他の工法が必要な場合は別途計上する。
(2) 水荷重（ポンプによる注排水）作業
水荷重（ポンプによる注排水）作業は、次表を標準とする。

表 9-15 水荷重（ポンプによる注排水）作業歩掛 (1 t 当り)

名 称	単 位	数 量
特 殊 作 業 員	人	0. 02

(注) 1. 注排水は、工事用水中モーターポンプ[普通型（潜水ポンプ）]口径φ100mm を必要台数計上する。
2. 水の数量は水荷重として必要数量（t）とする。

9-6 止水壁とりこわし工
止水壁撤去が必要な場合は、別途計上する。

10 仮設備工
10-1 仮設備の組立・解体
10-1-1 組立・解体歩掛
仮設備の組立・解体は、次表により計上する。
ただし、定置式空気圧縮機設備、土砂ホッパ等を同場所に同時に 2 台以上組立・解体する場合は、次表に台数分を乗じて計上する。

表 10-1 仮設備の組立・解体歩掛 (1 台当り)

名 称	規格	単位	土砂ホッパ (ホッパ投入容量 10m3)		天井走行式ショベル バケット容量 0. 15m3		遠隔操作用設備	
			組立	解体	組立	解体	組立	解体
土 木 一 般 世 話 役		人	1. 7	0. 5	2. 4	2. 4	二	二
潜かん世話役		〃	二	二	二	二	1. 8	1. 3
と び 工		〃	5. 7	2. 8	二	二	二	二

現 行

表 9-10 ブローパイプバルブ調整 (1 基当り)

名 称	単 位	数 量
潜 かん 工	人	6. 3
諸 雑 費	%	21

(注) 1. バルブ調整は中埋コンクリートの打設量に関係ない。
2. 諸雑費はボールバルブ、フランジの費用であり、労務費の合計に上表の率を上限として計上する。

9-4-4 コンタクトグラウト打設
コンタクトグラウト打設費用は必要に応じて、別途計上する。

9-5 沈下促進工
9-5-1 載荷工法
(1) 材料
水荷重（ポンプによる注排水）を標準とするが、現場条件等によりその他の工法が必要な場合は別途計上する。
(2) 水荷重（ポンプによる注排水）作業
水荷重（ポンプによる注排水）作業は、次表を標準とする。

表 9-11 水荷重（ポンプによる注排水）作業歩掛 (1 t 当り)

名 称	単 位	数 量
特 殊 作 業 員	人	0. 02

(注) 注排水は、工事用水中モーターポンプ[普通型（潜水ポンプ）]口径φ100mm を必要台数計上する。

9-6 止水壁とりこわし工
止水壁撤去が必要な場合は、別途計上する。

10 仮設備工
10-1 仮設備の組立・解体
仮設備の組立・解体は、次表により計上する。
ただし、定置式空気圧縮機設備、土砂ホッパ等を同場所に同時に 2 台以上組立・解体する場合は、次表に台数分を乗じて計上する。

ページ

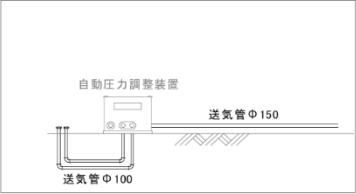
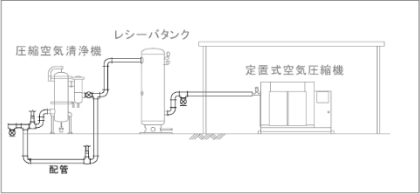
P12改16-17

溶接工		〃	3.9	1.4	二	二	1.0	0.7
潜かん工		〃	二	二	8.7	6.9	9.8	6.8
電工		〃	0.4	0.2	1.1	1.1	10.0	3.3
特殊作業員			二	二	二	二	1.9	二
普通作業員		〃	0.7	0.4	二	二	7.8	7.2
ラフテレーン クレーン 運転	〔油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型（2014年規制）〕 最大吊上能力 25 t 吊	日	1.9	1.2	二	二	二	二
クローラ クレーン 燃料	〔油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 排出ガス対策型（2014年規制）〕 最大吊上能力 70t 吊	ℓ	二	二	412	412	180	69
諸雑費率		%	10		23		7	

名 称	規格	単位	定置式空気圧縮機設備 29／36 (m3／min)		クーリングタワー設備 (冷却トン数 40～60RT)		ホスピタルロック	
			組立 7.7 日	解体 5.5 日	組立	解体	組立	解体
土木一般 世話役		人	3.6	2.2	二	二	1.1	1.1
とび工		〃	7.7	3.3	二	二	3.3	1.1
溶接工		〃	15.4	5.5	1.1	0.6	4.4	1.2
電工		〃	3.3	1.1	二	二	二	二
普通作業員		〃	12.1	5.5	0.8	0.3	3.6	2.2
コンクリート		m3	12	二	二		二	
ラフテレーン クレーン 運転	〔油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型（2014年規制）〕 最大吊上能力 25t 吊	日	2.5	1.2	0.37	0.25	1.2	1.2
クローラ クレーン 燃料	〔油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 排出ガス対策型（2014年規制）〕 最大吊上能力 70t 吊	ℓ	二	二	二	二	二	二
諸雑費率		%	6		24		18	

現行

(前ページから移動)

ページ	改 正	現 行
P12 改P17	(注) 1. 組立材料は地盤状態のよい水平面上に設置した場合の必要量を計上するものとし、コンクリートの打設歩掛は組立・解体歩掛に含まれている。 2. 天井走行式ショベルの組立・解体には、[走行レール（天井走行式ショベル用）]の組立・解体を含む。 <u>3. 天井走行式ショベルの組立・解体は、天井走行式ショベル「遠隔操作型」にも適用できる。</u> <u>4. 定置式空気圧縮機の歩掛には、レシーバタンク、圧縮空気清浄装置の組立・解体を含んでいる。</u> <u>5. クーリングタワーの歩掛には、空気圧縮機等からの配管を含む。</u> <u>6. 天井走行式ショベルの解体歩掛及び遠隔操作用設備の解体歩掛は、</u>函内作業気圧 0. 2<u>6</u>MPa <u>_____</u> <u>までを標準とし、それ以上については別途考慮する。</u> <u>7. 諸雑費は組立に必要な _____ ボルトナット、<u>パッキン</u>、 _____ 土砂ホップの足下に設置するH形鋼、ホスピタルロックの建屋材等であり、労務費、 _____ 機械賃料、<u>燃料</u>の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。<u>なお、クローラクレーンの賃料は対象外とする。</u></u> <u>8. 定置式空気圧縮機設備の基礎コンクリートの撤去については、「土木工事標準単価」構造物とりこわし工により別途計上する。</u> <u>9. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。</u> <u>10. クローラクレーンの賃料は共通設備で計上する。</u> <u>(新設)</u> <u>10-1-2 配管材材料費</u> <u>(1) 定置式空気圧縮機設備</u> <u>定置式空気圧縮機設備で使用する配管材材料費は、必要な配管、バルブ、エアホース等の費用を計上する。</u> 送気用設備 配管材材料費 計上範囲  定置式空気圧縮機設備 配管材材料費 計上範囲  <u>(2) クーリングタワー設備</u> <u>クーリングタワー設備で使用する配管材材料費は、必要な配管、バルブ等の費用を計上する。</u> <u>(3) ホスピタルロック</u> <u>ホスピタルロックで使用する配管材材料費は、必要なエアホース等の費用を計上する。</u>	(注) 1. 組立材料は地盤状態のよい水平面上に設置した場合の必要量を計上するものとし、コンクリートの打設歩掛は組立・解体歩掛に含まれている。 2. 天井走行式ショベルの組立・解体には、[走行レール（天井走行式ショベル用）]の組立・解体を含む。 <u>3. 定置式空気圧縮機の歩掛には、レシーバタンク、圧縮空気清浄装置の組立・解体を含んでいる。</u> <u>4. クーリングタワーの歩掛には、空気圧縮機等からの配管を含む。</u> <u>5. 天井走行式ショベルの解体歩掛 _____ は、</u>函内作業気圧 0. 2<u>2</u>Mpa <u>(酸素減圧の場合は 0. 26MPa)</u> <u>までを標準としそれ以上については別途考慮する。</u> <u>6. 諸雑費は組立に必要な配管、ボルトナット、 _____ <u>バルブ</u>、土砂ホップの足下に設置するH形鋼、ホスピタルロックの建屋材等であり、労務費、<u>組立材料費</u>、機械賃料 _____ の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。 _____</u> <u>7. 定置式空気圧縮機設備の基礎コンクリートの撤去については、_土木工事標準単価 _____</u> <u>_____</u> <u>により別途計上する。</u> <u>8. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。</u> <u>(新設)</u>

ページ	改正	現行																																																																												
P13 改P17-18	10-2 送気用配管設備 10-2-1 配管歩掛 配管は、一般配管用鋼管（ガス管）とし、空気圧縮機からゲージ設備まではφ150 mm、ゲージ設備から作業室まではφ100 mmを標準とし、配管歩掛は次表を標準とする。 表 10-2 配管歩掛 (100m当り) <table><tr><th rowspan="3">名 称</th><th rowspan="3">単位</th><th colspan="4">管 径 (mm)</th></tr><tr><th colspan="2">100</th><th colspan="2">150</th></tr><tr><th>組 立</th><th>解 体</th><th>組 立</th><th>解 体</th></tr><tr><td>土 木 一 般 世 話 役</td><td>人</td><td>1.1</td><td>0.6</td><td>1.1</td><td>0.7</td></tr><tr><td>普 通 作 業 員</td><td>〃</td><td>3.3</td><td>2.2</td><td>4.4</td><td>2.2</td></tr><tr><td>配 管 工</td><td>〃</td><td>3.3</td><td>2.2</td><td>5.5</td><td>3.3</td></tr><tr><td>諸 雑 費</td><td>%</td><td colspan="2">9</td><td colspan="2">11</td></tr></table> (注) 諸雑費はパッキン、ボルトナットの費用であり労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。 (新設) 10-2-2 配管材材料費 (1) 管径 100mm 送気配管（管径 100mm）で使用する配管材材料費は、必要なバルブ、フランジ及びエルボ等の費用を計上する。 (2) 管径 150mm 送気配管（管径 150mm）で使用する配管材材料費は、必要なバルブ、フランジ及びエルボ等の費用を計上する。 送気用設備 配管材材料費 計上範囲 定置式空気圧縮機設備 配管材材料費 計上範囲	名 称	単位	管 径 (mm)				100		150		組 立	解 体	組 立	解 体	土 木 一 般 世 話 役	人	1.1	0.6	1.1	0.7	普 通 作 業 員	〃	3.3	2.2	4.4	2.2	配 管 工	〃	3.3	2.2	5.5	3.3	諸 雑 費	%	9		11		10-2 送気用配管設備 配管は、一般配管用鋼管（ガス管）とし、空気圧縮機からゲージ設備まではφ150 mm、ゲージ設備からケーソンまではφ100 mmを標準とし、配管歩掛は次表を標準とする。 表 10-2 配管歩掛 (100m当り) <table><tr><th rowspan="3">名 称</th><th rowspan="3">単位</th><th colspan="4">管 径 (mm)</th></tr><tr><th colspan="2">100</th><th colspan="2">150</th></tr><tr><th>組 立</th><th>解 体</th><th>組 立</th><th>解 体</th></tr><tr><td>土 木 一 般 世 話 役</td><td>人</td><td>1.0</td><td>0.5</td><td>1.0</td><td>0.6</td></tr><tr><td>普 通 作 業 員</td><td>〃</td><td>3.0</td><td>2.0</td><td>4.0</td><td>2.0</td></tr><tr><td>配 管 工</td><td>〃</td><td>3.0</td><td>2.0</td><td>5.0</td><td>3.0</td></tr><tr><td>諸 雑 費</td><td>%</td><td colspan="2">21</td><td colspan="2">16</td></tr></table> (注) 諸雑費はパッキン、ボルトナット、ティー、バルブの費用であり労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。 (新設)	名 称	単位	管 径 (mm)				100		150		組 立	解 体	組 立	解 体	土 木 一 般 世 話 役	人	1.0	0.5	1.0	0.6	普 通 作 業 員	〃	3.0	2.0	4.0	2.0	配 管 工	〃	3.0	2.0	5.0	3.0	諸 雑 費	%	21		16	
名 称	単位			管 径 (mm)																																																																										
				100		150																																																																								
		組 立	解 体	組 立	解 体																																																																									
土 木 一 般 世 話 役	人	1.1	0.6	1.1	0.7																																																																									
普 通 作 業 員	〃	3.3	2.2	4.4	2.2																																																																									
配 管 工	〃	3.3	2.2	5.5	3.3																																																																									
諸 雑 費	%	9		11																																																																										
名 称	単位	管 径 (mm)																																																																												
		100		150																																																																										
		組 立	解 体	組 立	解 体																																																																									
土 木 一 般 世 話 役	人	1.0	0.5	1.0	0.6																																																																									
普 通 作 業 員	〃	3.0	2.0	4.0	2.0																																																																									
配 管 工	〃	3.0	2.0	5.0	3.0																																																																									
諸 雑 費	%	21		16																																																																										

ページ

改正

P13
改P18

10-3 艀装設備組立・解体
潜函のシャフト（たて管）、送気管、排気管及び配電管等の設備機械の艀装は、1 リフト（ロット）ごとに組立・解体を行い、歩掛は次表を標準とする。

表 10-3 組立・解体歩掛（人／1 艀装・1 リフト(ロット)当り）

名 称	規 格	単位	数 量
土 木 一 般 世 話 役		人	1. <u>1</u>
潜 か ん 工		〃	3. <u>3</u>
溶 接 工		〃	<u>6.1</u>
クローラクレーン <u>燃料</u>	<u>〔油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・排出ガス対策型（2014 年規制）〕最大吊上能力 70t 吊</u>	<u>0</u>	<u>98</u>
諸 雑 費 <u>率</u>		%	<u>24</u>

（注）1. 沈下完了後の解体労務は、上記歩掛に含まれている。

2. 艀装組立・解体〃は、マテリアルロック及びマンロックをそれぞれ 1 艀装として計上する。

3. クローラクレーンの賃料は共通設備で計上する。

4. 諸雑費は艀装に伴うボルトナット、送排気管、パッキンであり、労務費、燃料の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

現 行

10-3 艀装設備組立・解体
潜函のシャフト（たて管）、送気管、排気管及び配電管等の設備機械の艀装は、1 リフト（ロット）ごとに組立・解体を行い、歩掛は次表を標準とする。

表 10-3 組立・解体歩掛（人／1 艀装・1 リフト(ロット)当り）

名 称	規 格	単位	数 量
土 木 一 般 世 話 役		人	1. <u>0</u>
潜 か ん 工		〃	3. <u>0</u>
溶 接 工		〃	<u>5.5</u>
クローラクレーン <u>運転</u>	<u>油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 排出ガス対策型（第 1 次基準値）50t 吊</u>	<u>日</u>	<u>1.0</u>
諸 雑 費 <u>〃</u>		%	<u>6</u>

（注）1. 沈下完了後の解体労務は、上記の工数に含まれているので別途計上しない。

2. 艀装組立・解体日数は、〃 1 艀装 〃 1 リフト（ロット）当り 1 日とする。

3. クローラクレーン 〃 運転経費は、機械運転単価表による。

4. 諸雑費は艀装に伴うボルトナット、送排気管、パッキンであり、労務費、機械賃料の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

ページ

P13
改P19

11 酸素減圧

11-1 酸素使用量

酸素使用量は、以下を標準とする。

(1) 酸素使用量

酸素使用量は、次式による。

酸素使用量 (m³) = Σ (a × b × c)

酸素使用量：1組当り酸素使用量 (m³)

a：区分毎の1人当り酸素使用量 (m³／人)

b：区分毎の1組当り函内編成人員 (人／組)

c：区分毎の方数 (組)

表 11-1 酸素使用量 (m³)

区分		1人当り 酸素使用量 a (m³／人)	1組当り 函内編成人員 b (人／組)	<u>方</u> 数 c (組)
函内作業気圧 (MPa)				
掘削作業時	0.10を超え～0.14以下	2.1	編成人員 (表 6-1)	<u>方</u> 数
	0.14を超え～0.18以下	3.8	〃	〃
	0.18を超え～0.22以下	3.6	〃	〃
	0.22を超え～0.26以下	4.5	〃	〃
	0.26を超え～0.30以下	4.4	〃	〃
	0.30を超え～0.34以下	4.7	〃	〃
	0.34を超え～0.36以下	4.3	〃	〃
	0.36を超え～0.38以下	4.0	〃	〃
	0.38を超え～0.40以下	4.4	〃	〃
その他	作業室内設備解体	(注) 3	4人／組	〃
	地耐力試験	〃	〃	〃
	中埋コンクリート確認	〃	〃	〃

(注) 1. 酸素使用量には、酸素ボンベ内の圧力低下によるロス率 25%を含む。
2. 酸素 (医療用) 費用については、共通仮設費の安全費で別途計上する。
3. 函内作業気圧時の酸素使用量を用いる。

11-2 酸素集合装置設置・撤去 (マンロック・ホスピタルロック用)

酸素集合装置設置・撤去は次表を標準とする。

表 11-2 酸素集合装置設置・撤去 (マンロック・ホスピタルロック用) (1基当り)

名 称	規 格	単 位	設 置	撤 去
特殊作業員		人	2. <u>2</u>	1. <u>1</u>
普通作業員		〃	1. <u>1</u>	0. <u>6</u>
諸 雑 費 率		%	<u>34</u>	

(注) 1. 上記には、酸素集合装置の設置及び配管を含む。
2. 諸雑費は、設置に伴う配管材料の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する

現 行

11 酸素減圧

11-1 酸素使用量

酸素使用量は、以下を標準とする。

(1) 酸素使用量

酸素使用量は、次式による。

酸素使用量 (m³) = Σ (a × b × c)

酸素使用量：1組当り酸素使用量 (m³)

a：区分毎の1人当り酸素使用量 (m³／人)

b：区分毎の1組当り函内編成人員 (人／組)

c：区分毎の交替数 (組)

表11-1 酸素使用量 (m³)

区分		1人当り 酸素使用量 a (m³／人)	1組当り 函内編成人員 b (人／組)	<u>交替</u> 数 c (組)
函内作業気圧 (MPa)				
掘削作業時	0.10を超え～0.14以下	2.1	編成人員 (表6-1)	<u>交替</u> 数
	0.14を超え～0.18以下	3.8	〃	〃
	0.18を超え～0.22以下	3.6	〃	〃
	0.22を超え～0.26以下	4.5	〃	〃
	0.26を超え～0.30以下	4.4	〃	〃
	0.30を超え～0.34以下	4.7	〃	〃
	0.34を超え～0.36以下	4.3	〃	〃
	0.36を超え～0.38以下	4.0	〃	〃
	0.38を超え～0.40以下	4.4	〃	〃
その他	作業室内設備解体	(注) 3	4人／組	〃
	地耐力試験	〃	〃	〃
	中埋コンクリート確認	〃	〃	〃

(注) 1. 酸素使用量には、酸素ボンベ内の圧力低下によるロス率 25%を含む。
2. 酸素 (医療用) 費用については、共通仮設費の安全費で別途計上する。
3. 函内作業気圧時の酸素使用量を用いる。

11-2 酸素集合装置設置・撤去 (マンロック・ホスピタルロック用)

酸素集合装置設置・撤去は次表を標準とする。

表 11-2 酸素集合装置設置・撤去 (マンロック・ホスピタルロック用) (1基当り)

名 称	規 格	単 位	設 置	撤 去
特殊作業員		人	2. <u>0</u>	1. <u>0</u>
普通作業員		〃	1. <u>0</u>	0. <u>5</u>
諸 雑 費 率		%	<u>30</u>	

(注) 1. 上記には、酸素集合装置の設置及び配管を含む。
2. 諸雑費は、設置に伴う配管材料の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する

ページ

P16改P21

12 参考資料

12-1 函内照明設備

函内照明は 40W相当の LED 照明とし、個数は次式による。

N > (1 + L / 6) × S + 0.14A

N : ケーソン内 40W相当の LED 照明 個数 (個)

L : マンシャフト長 (m)

S : マンロック数 (基)

A : 掘削面積 (㎡)

12-2 1 組当りの掘削実作業時間

1 組当りの掘削実作業時間は、次表を標準とする。

表 12-1 1 組当り掘削実作業時間 (有人掘削) (h)

函内作業気圧 (MPa)	1 組当り掘削実作業時間
0.00 (素掘)	7.0
0.00 を超え～0.10 以下	6.8 (注) 2
0.10 を超え～0.14 以下	5.9
0.14 を超え～0.18 以下	4.8
0.18 を超え～0.22 以下	3.5
0.22 を超え～0.26 以下	3.0
0.26 を超え～0.30 以下	2.4
0.30 を超え～0.34 以下	1.9
0.34 を超え～0.36 以下	1.5
0.36 を超え～0.38 以下	1.3
0.38 を超え～0.40 以下	1.3

(注) 1. 上表の 1 組当り掘削実作業時間は、平成 27 年 4 月「高気圧作業安全衛生規則」の改正により、高圧下の時間（高圧室内作業者に加圧を開始した時から減圧を開始するまでの時間）を基礎に純作業時間を考慮し示したものである。

2. 0MPa を超え 0.10MPa 以下のみ空気減圧とし、以降は酸素減圧の時間を示す。

(新設)

表 12-2 1 組当り掘削実作業時間 (無人掘削)

函内作業気圧 (MPa)	1 組当り掘削実作業時間 (h)
0 以上 0.40 以下	7.0

現 行

12 参考資料

12-1 函内照明設備

函内照明は 40W蛍光灯とし、個数は次式による。

N > (1 + L / 6) × S + 0.14A

N : ケーソン内 40W蛍光灯 個数 (個)

L : マンシャフト長 (m)

S : マンロック数 (基)

A : 掘削面積 (㎡)

12-2 1 組当りの掘削実作業時間

1 組当りの掘削実作業時間は、次表を標準とする。

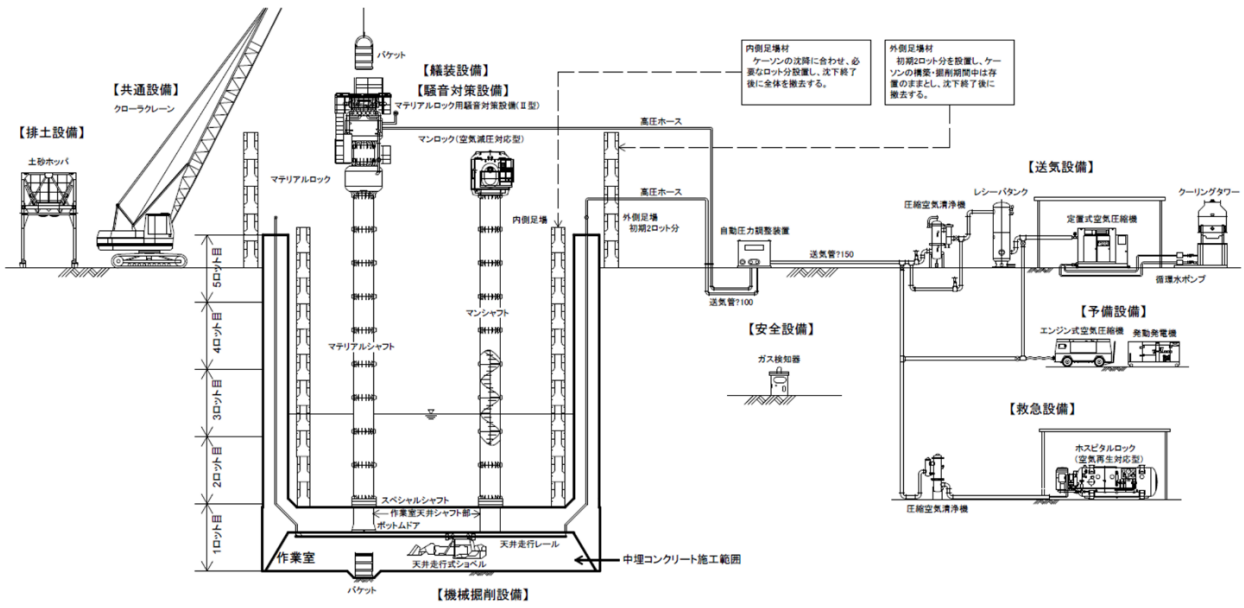
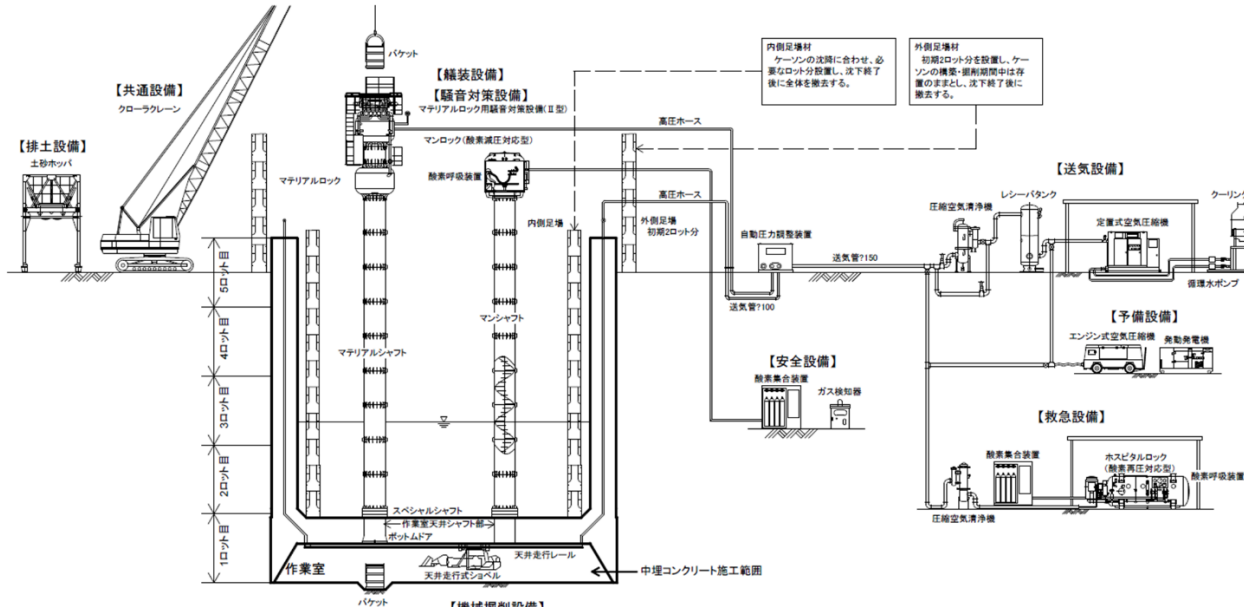
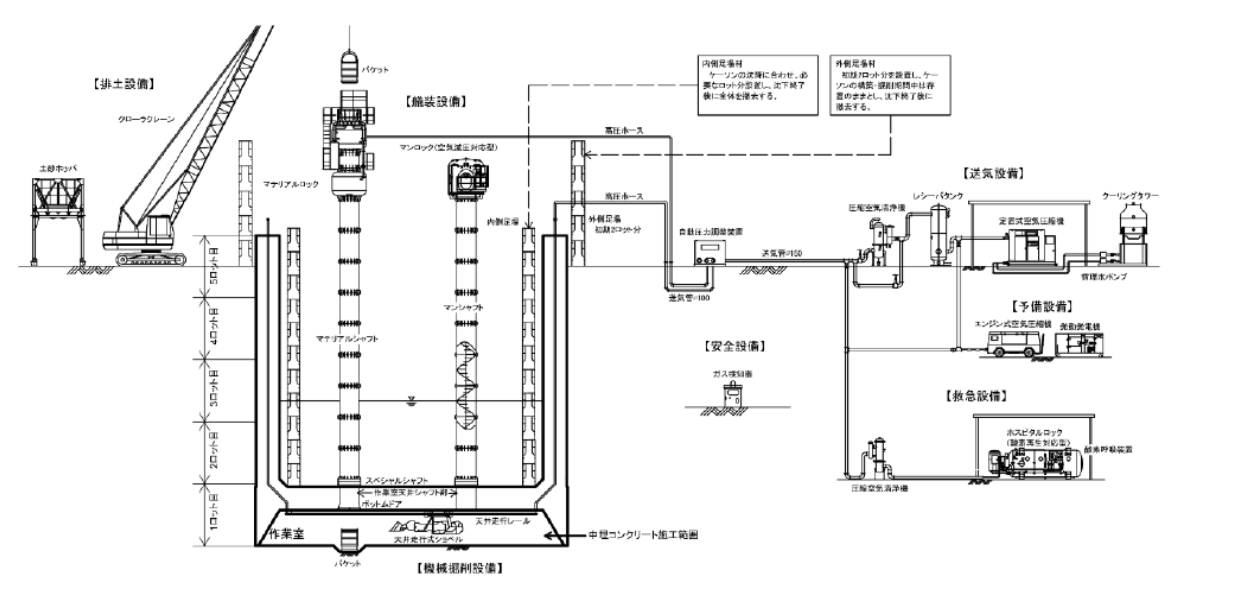
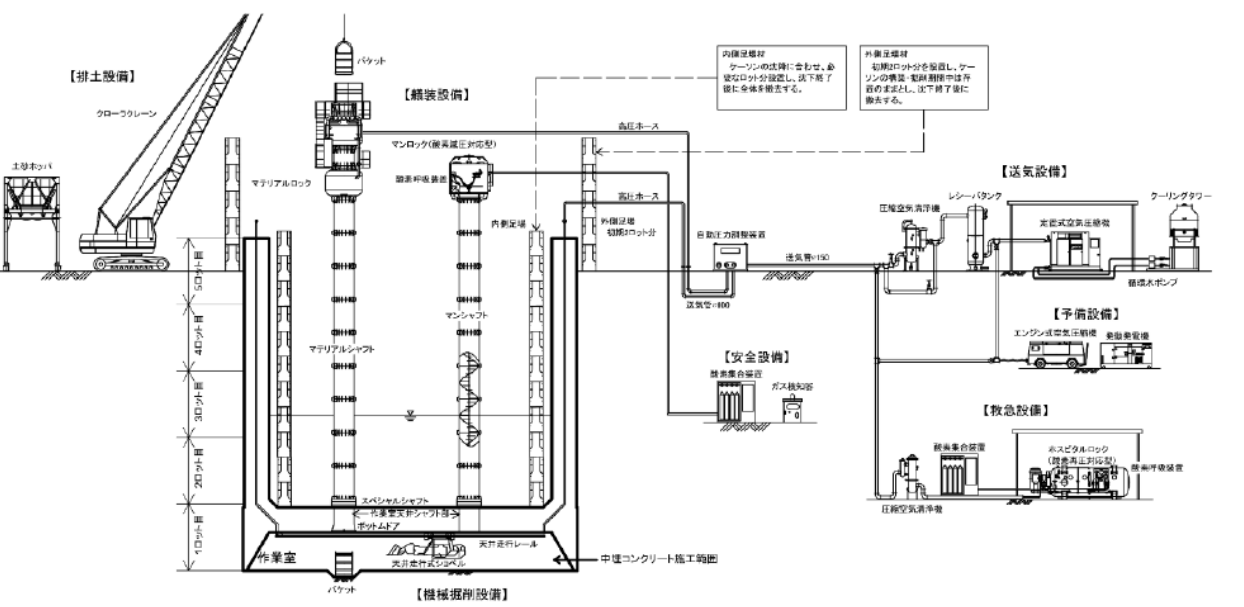
表 12-1 1 組当り掘削実作業時間 (h)

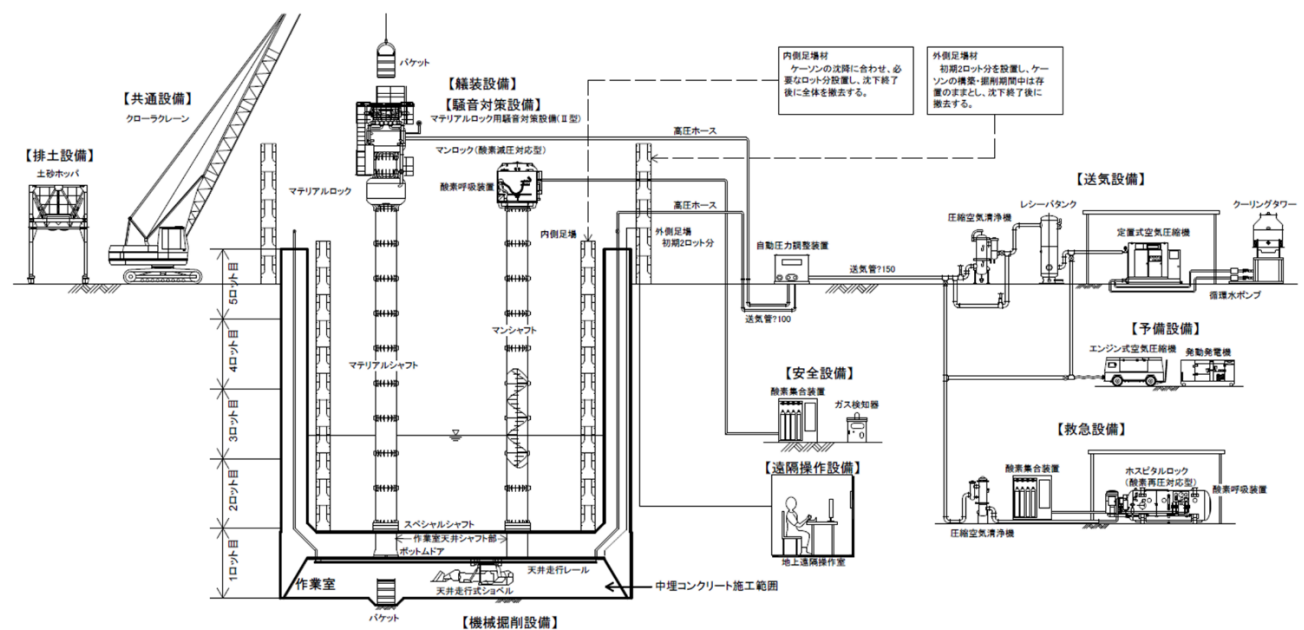
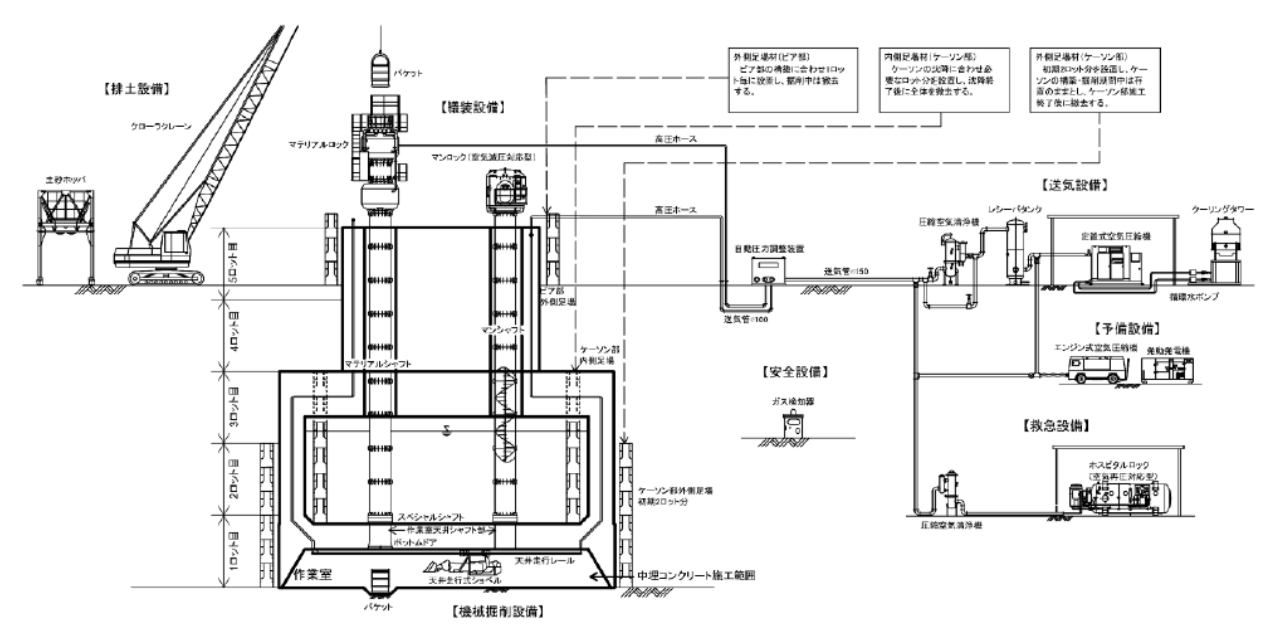
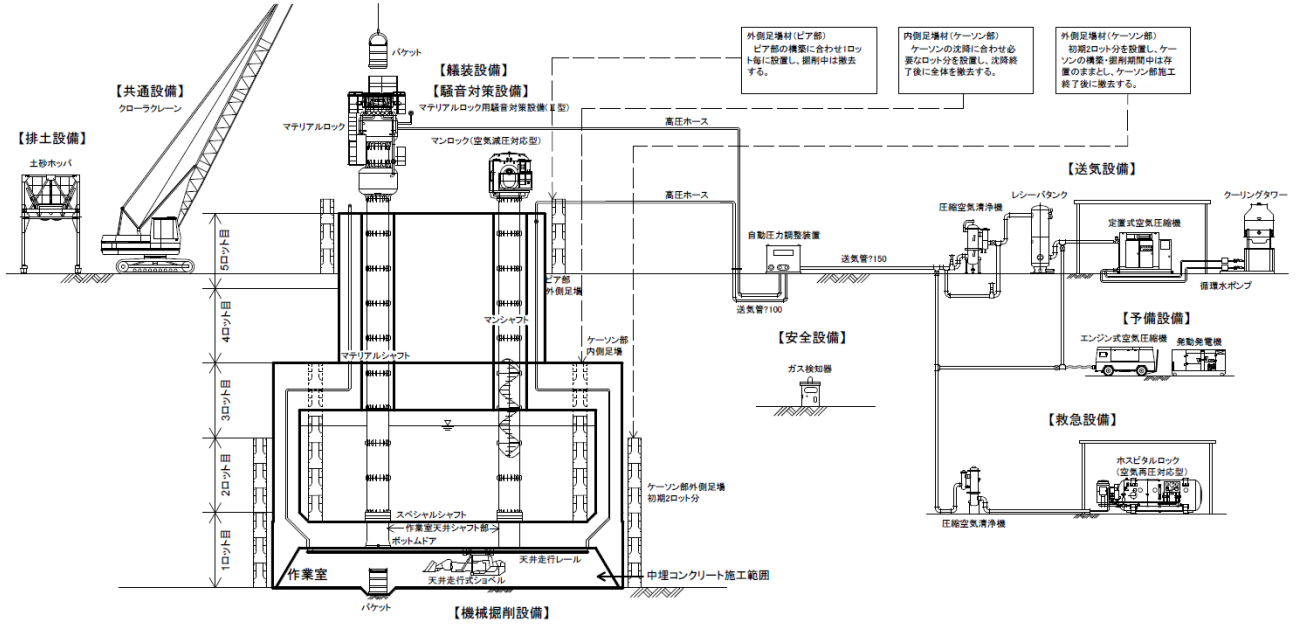
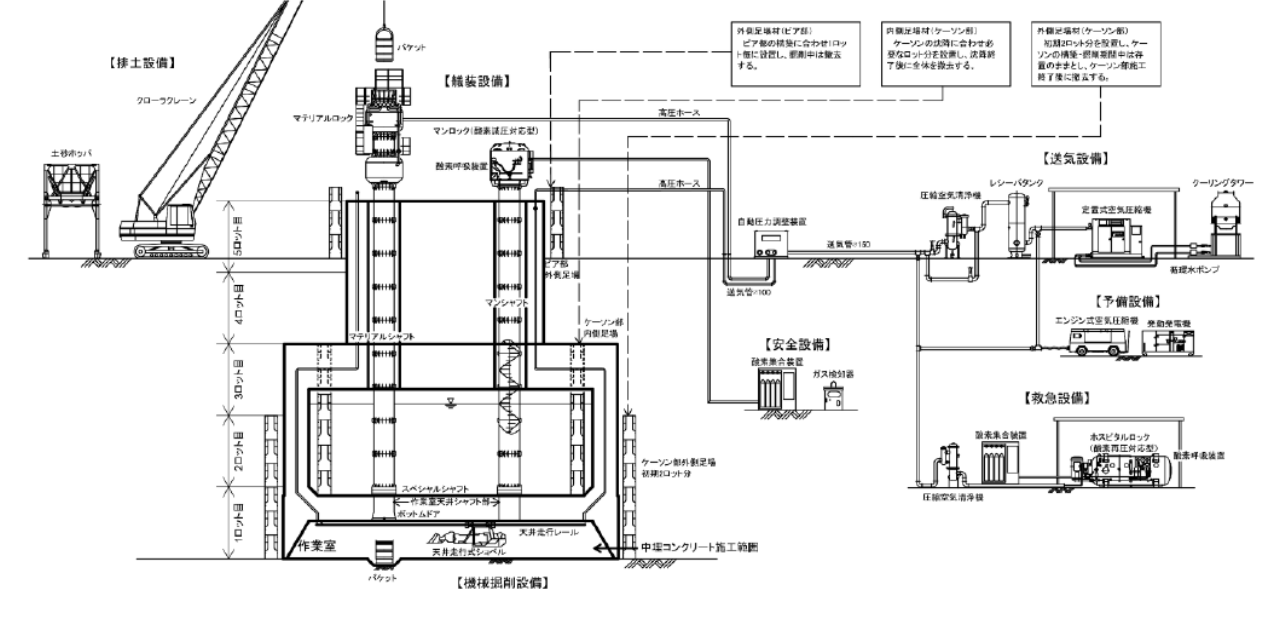
函内作業気圧 (MPa)	1 組当り掘削実作業時間
0.00 (素掘)	7.0 (－)
0.00 を超え～0.10 以下	6.8 (－)
0.10 を超え～0.14 以下	5.5 (5.9)
0.14 を超え～0.18 以下	4.0 (4.8)
0.18 を超え～0.22 以下	2.6 (3.5)
0.22 を超え～0.26 以下	2.1 (3.0)
0.26 を超え～0.30 以下	1.6 (2.4)
0.30 を超え～0.34 以下	－ (1.9)
0.34 を超え～0.36 以下	－ (1.5)
0.36 を超え～0.38 以下	－ (1.3)
0.38 を超え～0.40 以下	－ (1.3)

(注) 1. 上表の 1 組当り掘削実作業時間は、平成 27 年 4 月「高気圧作業安全衛生規則」の改正により、高圧下の時間（高圧室内作業者に加圧を開始した時から減圧を開始するまでの時間）を基礎に純作業時間を考慮し示したものである。

2. () 内は酸素減圧を行った場合の作業時間を示す。

(新設)

ページ	改正	現行
P17 改P22	13 参考図 参考図1 ニューマチックケーソン工法（<u>有人掘削</u>・空気減圧）止水壁ケーソン概要図  参考図2 ニューマチックケーソン工法（<u>有人掘削</u>・酸素減圧）止水壁ケーソン概要図 	13 参考図 参考図1 ニューマチックケーソン工法（<u>空気減圧</u>）止水壁ケーソン概要図  参考図2 ニューマチックケーソン工法（<u>酸素減圧</u>）止水壁ケーソン概要図 

ページ	改 正	現 行
P18 改P23	参考図3 ニューマチックケーソン工法（<u>無人掘削・酸素減圧</u>）<u>止水壁</u> ケーソン概要図 	参考図3 ニューマチックケーソン工法（<u>空気減圧</u>）<u>ピア</u>ケーソン概要図 
	参考図4 ニューマチックケーソン工法（<u>有人掘削・空気減圧</u>）ピアケーソン概要図 	参考図4 ニューマチックケーソン工法（<u>酸素減圧</u>）ピアケーソン概要図 

ページ	改 正	現 行
P18 改P24	(新設) 参考図5 ニューマチックケーソン工法（有人掘削・酸素減圧）ピアケーソン概要図 (新設) 参考図6 ニューマチックケーソン工法（無人掘削・酸素減圧）ピアケーソン概要図 (新設)	(新設) (新設)

ページ

P19改P25

14 単価表
(1) 機械(機械掘削)単価表

施工歩掛コード						
名 称	規 格	単位	S131250	S131250	S133230	S133210
潜 かん 世 話 役		人	○	○		
潜 かん 工		〃	○	○		
特 殊 作 業 員		〃	○	○		
普 通 作 業 員		〃	○	○		
天 井 走 行 式 シ ョ ベ ル 損 料	バケット容量 0.15m3	台		=	○	
天井走行式ショベル (遠隔操作型) 損料	[中大断面] バケット容量 0.15m3	〃	=	=	○	=
遠隔操作用設備	[中大断面] 遠隔制御盤及び操作機器	台	=	=	○	=
走行____レール (天井走行式ショベル用)	長さ 2m__×1本	式		—	○	
_____ シ ョ ベ ル 電 力		KWh	○	○		
クローラクレーン 燃料 (1の組)	[油圧駆動式ウイン チ・ラチスジブ型・排 出ガス対策型 (2014 年 規制)] 最大吊上能力 70 t 吊	㍿	○	—		
クローラクレーン 燃料	[油圧駆動式ウイン チ・ラチスジブ型・排 出ガス対策型 (2014 年 規制) 最大吊上能力 70t 吊	㍿	—	○	—	—
クローラクレーン 運転 (2の組)	[油圧駆動式ウイン チ・ラチスジブ型・排 出ガス対策型 (2014 年 規制) 最大吊上能力 70t 吊	旦	○	—	—	—
バ ケ ッ ト 損 料		個		=		○
土 砂 ホ ッ パ		基		=		○

現 行

14 単価表
(1) 機械(機械掘削)単価表

施工歩掛コード						
名 称	規 格	単位	S131250	(追加)	S133230	S133210
潜 かん 世 話 役		人	○			
潜 かん 工		〃	○			
特 殊 作 業 員		〃	○			
普 通 作 業 員		〃	○			
天 井 走 行 式 シ ョ ベ ル 損 料	山積 0.15m3 (平積 0.13m3)	台			○	
_____	_____	=	—		—	—
_____	_____	—	—		○	—
____ 天 井 _____ レール (天井走行式ショベル用)	長さ 2m 級 _____	式			○	
天 井 走 行 式 シ ョ ベ ル 電 力		KWh	○			
クローラクレーン 運 _____ 転 _____	__油圧駆動式ウイン チ・ラチスジブ型__排 出ガス対策型 (第 1 次 基準値) __ _____ 50t 吊	日	○			
(追加)						
(追加)						
バ ケ ッ ト 損 料		個				○
土 砂 ホ ッ パ		基				○

ページ

P19改P26

改正

(前ページから移動)

(2) 送気用設備・運転単価表

施工歩掛コード

C	規 格	単 位	S133240
空 気 圧 縮 機 損 料	吐 出 量 (50/60Hz) 29/36m3/min 最大圧力 0. 4MPa	台	○
圧縮空気清浄機損料	処理量 1, 100 m ³ /h 最大圧力 0. 8MPa	〃	○
クーリングタワー損料	冷却トン数 40～60RT	〃	○
循 環 水 ポンプ損料	口径 φ 80mm ・ 全揚程 30m	〃	○
レシーバタンク損料	容量 2. 5 m ³ 最大圧力 0. 9MPa	〃	○
送 気 管	口径 φ 150 mm 長さ 5. 5m 最大圧力 1. 0MPa	m	○

現行

(前ページから移動)

(2) 送気用設備・運転単価表

施工歩掛コード

C	規 格	単 位	S133240
空気圧縮機損料	吐出量 29/36m3/min 圧力 0. 4MPa	台	○
圧縮空気清浄機損料		〃	○
クーリングタワー損料		〃	○
循環水ポンプ損料	口径 80mm ・ 全揚程 30m	〃	○
レシーバタンク損料		〃	○
送気管		m	○

ページ

P20改P27

(3) 水中ポンプ運転

名 称	規 格	単 位	施工歩掛コード
			S131310
特 殊 作 業 員		人	○
工 事 用 水 中 モ ー タ ポ ン プ	普通型(潜水ポンプ) φ100	日	○

(4) 仮設備組立解体費

名 称	施工歩掛コード					
	S133110					S133140
	定置式空気 圧縮機設備	土砂ホッパ	天井走行式 ショベル	クーリング タワー設備 (40t/h)	遠隔操作 用設備	ホスピタル ロック
土木一般世話役	○	○	○			○
潜かん世話役					○	
と び 工	○	○				○
溶 接 工	○	○	—	○	○	○
潜かん工			○		○	
電 工	○	○	○		○	
特殊作業員					○	
普 通 作 業 員	○	○		○	○	○
コンクリート	○					
ラフテレーンクレーン賃料	○	○	—	○		○
クローラクレーン燃料	—	—	○	—	○	—

—

(5) 刃口金物材料費 1 基当り単価表

歩掛コード		S131130		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
材 料 費		基		
諸 雑 費		式	1	
計				

現 行

(3) 水中ポンプ運転

名 称	規 格	単 位	施工歩掛コード
			S131310
特 殊 作 業 員		人	○
工 事 用 水 中 モ ー タ ポ ン プ	普通型(潜水ポンプ) φ100	日	○

(4) 仮設備組立解体費

名 称	施工歩掛コード					
	S133110					S133140
	定置式空気 圧縮機設備	土砂ホッパ	天井走行式 ショベル	クーリング タワー設備 (40t/h)	— —	ホスピタル ロック
土木一般世話役	○	○	○			○
— —	—	—	—	—		—
と び 工	○	○				○
溶 接 工	○	○	(○)	○		○
— —	—	—	—	—		—
電 工	○	○	○			
— —	—	—	—	—		—
普 通 作 業 員	○	○		○		○
コンクリート	○					
ラフテレーンクレーン賃料	○	○	○	○		○
— —	—	—	—	—		—

(注) ()は潜かん工である。

(5) 刃口金物材料費 1 基当り単価表

歩掛コード		S131130		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
材 料 費		基		
諸 雑 費		式	1	
計				

ページ

P20改P28

(前ページから移動)

(6) 刃口金物据付 1 基当り単価表

歩掛コード

S131140

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土木一般世話役		人		表9-1
溶 接 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーン クレーン運転	〔油圧伸縮ジブ型・排出 ガス対策型 (2014年規制 能力25 t 吊) 〕最大吊上	日		〃
諸 雑 費	(労務費+機械経費)×率	%		〃
計				

現 行

(前ページから移動)

(6) 刃口金物据付 1 基当り単価表

歩掛コード

S131140

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土木一般世話役		人		表 9-1
溶 接 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーン クレーン運転	__油圧伸縮ジブ型・排出 ガス対策型 (____ 第 2 次基準値) ____ 25 t 吊	日		〃
諸 雑 費	(労務費+機械経費)×率	%		〃
計				

ページ

P21改P29

(7) 機械掘削 10 m³当り単価表

①2 方施工の場合

歩掛コード

S131250

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
潜かん世話役		人	M×2×10／D _c	
潜 か ん 工		〃	〃	
特 殊 作 業 員		〃	〃	
普 通 作 業 員		〃	〃	
シ ョ ベ ル 電 力		kW h	Hw	
クローラクレーン 燃料 (1の組)	〔油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・排出ガス対策型（2014年規制）〕最大吊上能力70 t吊	ℓ	98×10／D _c	_____
クローラクレーン 運転 (2の組)	〔油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・排出ガス対策型（2014年規制）〕最大吊上能力70t吊	旦	10／D c	機械賃料
発 破 経 費		式	1	必要に応じて計上 S131210
諸 雑 費		式	1	
計				

(注)

1. M＝表 6-1 人員＋表 6-2 人員

2. Hw：シヨベル電力

Hw＝Ps×Qs×D×2×H×10/Dc

Ps：天井走行式シヨベル電力（kW）・・・6-6 機械損料編

Qs：天井走行式シヨベル燃料消費率（kWh/kW）・・・6-1-2 共通 別表-1 運転 1 時間当り燃料・電力消費率

D：天井走行式シヨベル台数（台）

H：1 組当り掘削実作業時間 ………表 12-1、表 12-2

Dc：機械掘削 1 日（2 組）当り掘削量

3. 函内作業気圧が OMPa（素掘）の場合は、特殊作業員は計上しない。

4. 軟岩（Ⅰ）、軟岩（Ⅱ）の場合は、レグドリル（空圧式）、ピックハンマ、空気圧縮機（排出ガス対策型（第 3 次基準値））、含水爆薬、導火管付き雷管を必要数計上する。

(新設)

②1 方施工の場合

歩掛コード

S131250

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
潜かん世話役		人	M×10／D c	
潜 か ん 工		〃	〃	
特 殊 作 業 員		〃	〃	
普 通 作 業 員		〃	〃	
シ ョ ベ ル 電 力		kW h	Hw	
クローラクレーン 燃料	〔油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・排出ガス対策型（2014年規制）〕最大吊上能力70t吊	ℓ	98×10／D _c	
発 破 経 費		式	1	必要に応じて計上 S131210
諸 雑 費		式	1	
計				

現 行

(7) 機械掘削 10 m³当り単価表

歩掛コード

S131250

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
潜かん世話役		人	M×2×10／D c	
潜 か ん 工		〃	〃	
特 殊 作 業 員		〃	〃	
普 通 作 業 員		〃	〃	
シ ョ ベ ル 電 力		kW h	Hw	
クローラクレーン 運 _____ 転 _____	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 排出ガス対策型（ _____ 第 1 次基準値） _____ 50t 吊	旦	_____10／D c	機械賃料
_____	_____	—	_____	_____
発 破 経 費		式	1	必要に応じて計上 S131210
諸 雑 費		式	1	
計				

(注)

1. M＝表 6-1 人員＋表 6-2 人員

2. Hw：シヨベル電力

Hw＝Ps×Qs×D×2×H×10/Dc

Ps：天井走行式シヨベル電力（kW）・・・6-6 機械損料編

Qs：天井走行式シヨベル燃料消費率（kWh/kW）・・・6-1-2 共通 別表-1 運転 1 時間当り燃料・電力消費率

D：天井走行式シヨベル台数（台）

H：1 組当り掘削実作業時間 ………表 12-1 _____

Dc：機械掘削 1 日（2 組）当り掘削量

3. 函内作業気圧が OMPa（素掘）の場合は、特殊作業員は計上しない。

4. 軟岩（Ⅰ）、軟岩（Ⅱ）の場合は、 _____ 削岩機、ピックハンマ、空気圧縮機（排出ガス対策型（第 1 次基準値）） _____ 火薬、 _____ 雷管を必要数計上する。

(新設)

ページ	改正	現行																																																												
P21 改P30	(新設) (注) 1. M＝表 6-1 人員＋表 6-2 人員 2. Hw：ショベル電力 Hw＝Ps×Qs×D×H×10/Dc Ps：天井走行式ショベル電力（kW）・・・6-6 機械損料編 Qs：天井走行式ショベル燃料消費率（kWh/kW）・・・6-1-2 共通 別表-1 運転 1 時間当り燃料・電力消費率 D：天井走行式ショベル台数（台） H：1 組当り掘削実作業時間 ………表 12-1、表 12-2 Dc：機械掘削 1 日（1 組）当り掘削量 3. 函内作業気圧が 0MPa（素掘）の場合は、特殊作業員は計上しない。 4. 軟岩（Ⅰ）、軟岩（Ⅱ）の場合は、レッグドリル（空圧式）、ピックハンマ、空気圧縮機（排出ガス対策型（第 3 次基準値））、含水爆薬、導火管付き雷管を必要数計上する。 (前ページから移動) (8) 発破掘削材料費 掘削 10 m³当り単価表 <table><tr><td colspan="2">歩掛コード</td><td colspan="3">S131210</td></tr><tr><td>名 称</td><td>規 格</td><td>単位</td><td>数量</td><td>摘 要</td></tr><tr><td>火 薬</td><td>含水爆薬 (坑内用) 100g</td><td>Kg</td><td>3.2</td><td></td></tr><tr><td>雷管</td><td>導火管付雷管</td><td>個</td><td>32</td><td></td></tr><tr><td>諸 雑 費</td><td></td><td>式</td><td>1</td><td></td></tr><tr><td>計</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	歩掛コード		S131210			名 称	規 格	単位	数量	摘 要	火 薬	含水爆薬 (坑内用) 100g	Kg	3.2		雷管	導火管付雷管	個	32		諸 雑 費		式	1		計					(新設) (前ページから移動) (8) 発破掘削材料費 掘削 10 m³当り単価表 <table><tr><td colspan="2">歩掛コード</td><td colspan="3">S131210</td></tr><tr><td>名 称</td><td>規 格</td><td>単位</td><td>数量</td><td>摘 要</td></tr><tr><td>火 薬</td><td>含水爆薬 φ 25mm×100g</td><td>Kg</td><td>2.1</td><td></td></tr><tr><td>瞬発電気雷管</td><td>脚線長 3.0m</td><td>個</td><td>13</td><td></td></tr><tr><td>諸 雑 費</td><td></td><td>式</td><td>1</td><td></td></tr><tr><td>計</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	歩掛コード		S131210			名 称	規 格	単位	数量	摘 要	火 薬	含水爆薬 φ 25mm×100g	Kg	2.1		瞬発電気雷管	脚線長 3.0m	個	13		諸 雑 費		式	1		計				
歩掛コード		S131210																																																												
名 称	規 格	単位	数量	摘 要																																																										
火 薬	含水爆薬 (坑内用) 100g	Kg	3.2																																																											
雷管	導火管付雷管	個	32																																																											
諸 雑 費		式	1																																																											
計																																																														
歩掛コード		S131210																																																												
名 称	規 格	単位	数量	摘 要																																																										
火 薬	含水爆薬 φ 25mm×100g	Kg	2.1																																																											
瞬発電気雷管	脚線長 3.0m	個	13																																																											
諸 雑 費		式	1																																																											
計																																																														

ページ

改正

P23改P32

(12)天端コンクリート支保工H形鋼1t当り単価表

歩掛コード

S132510

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土木一般世話役		人	0.04	表9- <u>9</u>
と び 工		〃	0.15	〃
普 通 作 業 員		〃	0.06	〃
ラフテレーン クレーン運転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第2次基準値） <u>最大吊上能力</u> 16t吊	日	0.06	〃
H 形 鋼	埋め殺し（実情による）	t	1	〃
諸 雑 費		式	1	
計				

(13)天端コンクリート型枠1㎡当り単価表

歩掛コード

S132520

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土木一般世話役		人	0.01	表9- <u>10</u>
型 枠 工			0.05	〃
と び 工		〃	0.03	〃
普 通 作 業 員		〃	0.03	〃
型 枠	合板(埋殺し用) 1.2x90x180	枚	0.31	〃
バ タ 角	松3.0x9.0x9.0	m3	0.014	〃
諸 雑 費		式	1	
計				

現行

(12)天端コンクリート支保工H形鋼1t当り単価表

歩掛コード

S132510

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土木一般世話役		人	0.04	表 9- <u>5</u>
と び 工		〃	0.15	〃
普 通 作 業 員		〃	0.06	〃
ラフテレーン クレーン運転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第2次基準値） <u>16t吊</u>	日	0.06	〃
H 形 鋼	埋め殺し（実情による）	t	1	〃
諸 雑 費		式	1	
計				

(13)天端コンクリート型枠1㎡当り単価表

歩掛コード

S132520

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土木一般世話役		人	0.01	表 9- <u>6</u>
型 枠 工			0.05	〃
と び 工		〃	0.03	〃
普 通 作 業 員		〃	0.03	〃
型 枠	合板(埋殺し用) 1.2x90x180	枚	0.31	〃
バ タ 角	松 3.0x9.0x9.0	m3	0.014	〃
諸 雑 費		式	1	
計				

ページ

改正

P24改P33

(14)中埋コンクリート打設 10m³ 当り単価表

歩掛コード

S132560

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
潜 か ん 世 話 役		人	0. 17	表9-11
潜 か ん 工		〃	0. 17	〃
コンクリートポンプ車 運 転	〔トラック架装・ブーム式〕 圧送能力90～110m ³ /h	日	0. 11	〃、機械損料
コ ン ク リ ー ト		m ³	10. 4	式9-2
諸 雑 費		式	1	
計				

(15)水荷重（ポンプによる注排水）作業 1 t 当り単価表

歩掛コード

S131310

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
特殊作業員		人	0. 02	表9-15
工 事 用 水 中 モータポンプ運転	〔普通型（潜水ポンプ）〕 口径 φ 100mm	日		必要日数計上、機械損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(16)ブローパイプバルブ調整ケーソン 1 基当り単価表

歩掛コード

S131400

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
潜 か ん 工		人	6. 9	表9-14
諸 雑 費	(労務費)×率	%	27	〃
計				

現行

(14)中埋コンクリート打設 10m³ 当り単価表

歩掛コード

S132560

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
潜 か ん 世 話 役		人	0. 15	表 9-7
潜 か ん 工		〃	0. 15	〃
コンクリートポンプ車 運 転	トラック架装・ブーム式 圧送能力 90～110 m ³ /h	日	0. 11	〃
コ ン ク リ ー ト		m ³	10. 4	式 9-2
諸 雑 費		式	1	
計				

(15)水荷重（ポンプによる注排水）作業 1 t 当り単価表

歩掛コード

S131310

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
特殊作業員		人	0. 02	表 9-11
工 事 用 水 中 モータポンプ運転	〔普通型（潜水ポンプ）〕 口径 φ 100mm	日		必要日数計上
諸 雑 費		式	1	
計				

(16)ブローパイプバルブ調整ケーソン 1 基当り単価表

歩掛コード

S131400

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
潜 か ん 工		人	6. 3	表 9-10
諸 雑 費	(労務費)×率	%	21	〃
計				

ページ

P25改P34

(17) 艀装設備組立・解体1 艀装1 リフト（ロット） 当り単価表

歩掛コード

S133130

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土木一般世話役		人	1. <u>1</u>	表10-3
潜 か ん 工		〃	3. <u>3</u>	〃
溶 接 工		〃	<u>6.1</u>	〃
クローラクレーン 燃料	〔油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・排出ガス対策型（ <u>2014年規制</u> ）〕 <u>最大吊上能力70</u> t吊	<u>0</u>	<u>98</u>	〃
諸 雑 費	(労務費+機械経費)×率	%	<u>24</u>	〃
計				

(新規)

(18-1) 共通設備ケーソン1 基当り単価表

歩掛コード

S133290

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
クローラクレーン 賃料 (1の組)	〔油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・排出ガス対策型(2014年規制)〕 <u>最大吊上能力70t吊</u>	台	<u>1</u>	表5.1、機械賃料 注1,2 単価表（18-2）
諸雑費		式	<u>1</u>	
計				

注） 1. クローラクレーンの賃料のみを対象とし、燃料は各作業の単価表にて計上する。
2. 1方施工の場合は1の組のみを使用する。
3. 掘削工と構築工の並行作業（昼間構築・夜間掘削など）を行う場合のクローラクレーンの賃料は別途計上する。

(新規)

(18-2) クレーン供用1 日当り単価表

歩掛コード

S133291

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
クローラクレーン	〔油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・排出ガス対策型(2014年規制)〕 <u>最大吊上能力70t吊</u>	日	<u>0.73</u>	機械賃料
諸雑費		式	<u>1</u>	
計				

注）燃料は、施工歩掛に含まれている。

現 行

(17) 艀装設備組立・解体1 艀装1 リフト（ロット） 当り単価表

歩掛コード

S133130

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土木一般世話役		人	1. <u>0</u>	表 10-3
潜 か ん 工		〃	3. <u>0</u>	〃
溶 接 工		〃	<u>5.5</u>	〃
クローラクレーン 運 転	<u>油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型</u> 排出ガス対策型（ <u>第 1 次基準値</u> ） <u>50t</u> 吊	<u>日</u>	<u>1.0</u>	〃
諸 雑 費	(労務費+機械経費)×率	%	<u>6</u>	〃
計				

(新規)

		=	=	
		=	=	
		=	=	
		=	=	

注）

(新規)

		=	=	
		=	=	
		=	=	
		=	=	

ページ	改 正	現 行
P25 改P35	(前ページから移動)	(前ページから移動)
	(19) 排土設備ケーソン 1 基当り単価表	(18) 排土設備ケーソン 1 基当り単価表

ページ	改 正					現 行				
P26 改P36	(20) 艀装設備ケーソン1 基当り単価表					(19) 艀装設備ケーソン1 基当り単価表				
					歩掛コード	S133220				
	名 称	規 格	単位	数量	摘 要	名 称	規 格	単位	数量	摘 要
	マテリアルロック	通過可能バケツ1.0m ³ 内径_____φ1.800~ 1.900mm 長さ5.5m 最大圧力0.4MPa	基	1	表5-1	マテリアルロック	通過可能バケツ1.0 m ³ __径×長さφ1.8__ 1.9____/5.5m級 __圧力 0.4MPa	基	1	表 5-1
	マテリアルロック用 騒音対策設備 (Ⅱ型)	〔Ⅱ型〕 騒音低減率35%相当	〃	1	〃	_____	_____	—	—	_____
	マンロック (空気減圧対応型)	〔立型〕収容人員 12人 __最大圧力0.4MPa	〃	1	〃	マンロック (空気減圧対応型)	__立型____10~12 人 用__圧力 0.4MPa	〃	1	〃
	マンロック (酸素減圧対応型)	〔立型〕収容人員8人 __最大圧力0.4MPa	〃	1	〃	マンロック (酸素減圧対応型)	__立型____8 人用 __圧力 0.4MPa	〃	1	〃
	ケーソン用エレベータ (内圧用)	〔3人用〕 __最大圧力0.4MPa	〃	1	〃 (必要に応じて別途計上)	ケーソン用エレベータ (内圧用)	__3 人用__ __圧力 0.4MPa	〃	1	〃 (必要に応じて別途計上)
	ケーソン用エレベータ シャフト (内圧用)	〔3人用〕 __最大圧力0.4MPa	式	1	〃 (〃)	ケーソン用エレベータ シャフト (内圧用)	__3 人用__ __圧力 0.4MPa	式	1	〃 (〃)
	マテリアルシャフト	内径_____φ1.200mm 長さ_____2.0m __最大圧力0.4MPa	〃	1	〃 (必要数量)	マテリアルシャフト	__径×長さφ1.2__ __m×2.0m級 __圧力 0.4MPa	〃	1	〃 (必要数量)
	マンシャフト	内径_____φ1.200mm 長さ_____2.0m __最大圧力0.4MPa	〃	1	〃 (〃)	マンシャフト	__径×長さφ1.2__ __m×2.0m級 __圧力 0.4MPa	〃	1	〃 (〃)
	スペシャルシャフト	内径_____φ1.400mm 長さ_____0.5m __最大圧力0.4MPa	個	2	〃	スペシャルシャフト	__径×長さφ1.4__ __m×0.5m級 __圧力 0.4MPa	個	2	〃
	ボットムドア	内径φ1.400mm __最大圧力0.4MPa	〃	2	〃	ボットムドア	__径__1.4__m級 __圧力 0.4MPa	〃	2	〃
	自動圧力調整装置	送気管径φ100mm __最大圧力0.4MPa	〃	1	〃	自動圧力調整装置	__径__100 mm級 __圧力 0.4MPa	〃	1	〃
	高 圧 ホ ー ス	__口径100mm__ 長さ10m __最大圧力1.0MPa	本	7	〃	高 圧 ホ ー ス	__径 100 mm級__ 長さ 10m __圧力 1.0MPa	本	7	〃
	送 気 管	__口径100mm__ 長さ5.5m __最大圧力1.0MPa	m		〃 (ゲージ設備から作業室 _____まで)	送 気 管	__径 100 mm級__ 長さ 5.5m __圧力 1.0MPa	m		〃 (ゲージ設備から_____ ケーソンまで)
	諸 雑 費		〃	1		諸 雑 費		〃	1	
	計					計				
	(21) 函内照明設備					(20) 函内照明設備				
					歩掛コード	S133221				
	名 称	規 格	単位	数量	摘 要	名 称	規 格	単位	数量	摘 要
	LED照明	40W相当	個		12-1 函内照明設備 (必要数量)	蛍 光 灯	40W	個		12-1 函内照明設備 (必要数量)
	諸 雑 費		式	1		諸 雑 費		式	1	
	計					計				

ページ

改正

P27改P37

(22)掘削設備ケーソン1基当り単価表

歩掛コード

S133230

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
天井走行式ショベル	バケット容量 __0.15m ³ __	台	1	表5-1 掘削面積40㎡以上100㎡未満
天井走行式ショベル	バケット容量 __0.15m ³ __	〃	2	〃 掘削面積100㎡以上300㎡未満
天井走行式ショベル (遠隔操作型)	バケット容量0.15m3	〃	1	〃 掘削面積40㎡以上100㎡未満
天井走行式ショベル (遠隔操作型)	バケット容量0.15m3	〃	2	〃 掘削面積100㎡以上300㎡未満
走行レール（天井走行式ショベル用）	長さ2m__×1本	式	1	〃（必要数量）
遠隔操作用設備	〔中大断面用〕 遠隔制御盤及び操作機器	台	1	〃 掘削面積40㎡以上100㎡未満
遠隔操作用設備	〔中大断面用〕 遠隔制御盤及び操作機器	〃	2	〃 掘削面積100㎡以上300㎡未満
諸 雑 費		式__	1	
計				

(23)送気設備1工事当り単価表

歩掛コード

S133240

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
空 気 圧 縮 機	吐出量 (50/60Hz) 29/36 m ³ ／min 最大圧力0.4MPa	台		表5-2（必要数量計上）
圧縮空気清浄機	処理量1,100m ³ ／h 最大圧力0.8MPa	__〃__		〃（ 〃 ）
クーリングタワー	冷却トン数40～60RT	〃		〃（ 〃 ）
循環水ポンプ	口径φ80mm 全揚程30m	〃		〃（ 〃 ）
レシーバタンク	容量2.5m ³ 最大圧力__0.9MPa	〃		〃（ 〃 ）
送 気 管	口径φ150mm 長さ5.5m 最大圧力1.0MPa	m		〃（ 〃 ）
諸 雑 費		式	1	
計				

現行

(21)掘削設備ケーソン1基当り単価表

歩掛コード

S133230

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
天井走行式ショベル	バケット容量 山積 0.15 m ³ (平積 0.13 m ³)	台	1	表 5-1 掘削面積 40 m ² 以上 100 m ² 未満
天井走行式ショベル	バケット容量 山積 0.15 m ³ (平積 0.13 m ³)	〃	2	〃 掘削面積 100 m ² 以上 300 m ² 未満
__	__	—	—	__
__	__	—	—	__
走行レール（天井走行式ショベル用）	長さ 2m綴×1 本	式	1	〃（必要数量）
__	__	—	—	__
__	__	—	—	__
諸 雑 費		__〃	1	
計				

(22)送気設備1工事当り単価表

歩掛コード

S133240

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
空 気 圧 縮 機	吐出量__29/36 m ³ ／min __圧力 0.4MPa	台		表 5-2（必要数量計上）
圧縮空気清浄機	処理量 1,100 m ³ ／h __圧力 0.8MPa	__台		〃（ 〃 ）
クーリングタワー	__40～60__ t／h	〃		〃（ 〃 ）
循環水ポンプ	口径__80mm 全揚程 30m	〃		〃（ 〃 ）
レシーバータンク	容量 2.5 m ³ __圧力 0.7～0.9MPa	〃		〃（ 〃 ）
送 気 管	__径__150 mm 長さ 5.5m __圧力 1.0MPa	m		〃（ 〃 ）
諸 雑 費		式	1	
計				

ページ

P27改P37

(前ページから移動)

(24)安全設備ケーソン 1 基当り単価表

歩掛コード

S133270

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
酸素集合装置	[マンロック、ホスピタル <u>ロック</u> 用]酸素容量 28m³	基	1	表5-1 _____
酸素呼吸装置	<u>酸素呼吸マスク一式</u>	台	10	<u>〃、マンロック用</u>
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) 酸素（医療用）費用（表 11-1）については、共通仮設費の安全費に計上する。

現 行

(前ページから移動)

(23)安全設備ケーソン 1 基当り単価表

歩掛コード

S133270

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
酸素集合装置	[マンロック、ホスピタル _____ 用]酸素容量 28 m³	基	1	表 5-1 <u>(必要に応じて別途計上)</u>
酸素呼吸装置	<u>_____マン</u> <u>ロック用</u>	台	10	<u>〃 _____ (〃)</u>
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) 酸素（医療用）費用（表 11-1）については、共通仮設費の安全費に計上する。

ページ

P28改P38

(25)

救急設備 1 工事当り単価表

歩掛コード

S133260

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
ホスピタルロック (空気再圧対応型)	〔中型〕内径_____φ 1,900mm 長さ_____4m_____ 最大圧力0.5MPa	台	1	表5-2
ホスピタルロック (酸素再圧対応型)	〔中型〕内径_____φ 1,900mm 長さ_____4m_____ 最大圧力0.5MPa	〃	1	〃
酸素集合装置	〔マンロック、 ホスピタルロック用〕 酸素容量28m³	基	1	〃（必要に応じて別途計上）
酸素呼吸装置	酸素呼吸マスクー式	台	4	ホスピタル _____ ロック用 〃 (_____ 〃)
圧縮空気清浄機	処理量650m³／h 最大圧力0.49MPa	〃	1	〃
高気圧下用空気呼吸器	〔半閉鎖循環式〕 最大圧力0.4MPa 使用時間30min ボンベ内容量3ℓ	個	4	〃
諸 雑 費		式	1	
計				

(26)

仮設備の組立・解体 1 台当り単価表

歩掛コード

S133110

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土木一般世話役		人		表10-1
潜 かん 世 話 役	—	〃	—	〃
と び 工		〃		〃
溶 接 工		〃		〃
潜 かん 工		〃		〃
電 工		〃		〃
特 殊 作 業 員	—	〃	—	〃
普通作業員		〃		〃
コンクリート		m3		〃
ラフテレーン クレーン運転	〔油圧伸縮ジブ型・排出 ガス対策型（2014年規 制_____）〕最大 吊上能力25 t 吊	日		〃 機械賃料
クローラクレーン 燃料	〔油圧駆動式ウインチ・ラ チスジブ型・ 排出ガス対策 型(2014年規制)〕最大吊上 能力70t吊	ℓ	—	〃
諸 雑 費	(労務費+材料費+機械経費) ×率	%		〃
配 管 材 材 料 費		式		〃
計				

現 行

(24)

救急設備 1 工事当り単価表

歩掛コード

S133260

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
ホスピタルロック (空気再圧対応型)	〔中型〕__径×長さφ 1.9_____×4m級_____ _____圧力 0.5MPa	台	1	表 5-2
ホスピタルロック (酸素再圧対応型)	〔中型〕__径×長さφ 1.9_____×4m級_____ _____圧力 0.5MPa	〃	1	〃
酸素集合装置	〔マンロック、ホスピ タルロック用〕 酸素容量 28 m³	基	1	〃（必要に応じて別途計上）
酸素呼吸装置 (ホスピタルロック用)		台	4	_____ マンロック用 〃 (_____ 〃)
圧縮空気清浄機	処理量 650 m³／h _____圧力 0.49MPa	〃	1	〃
高気圧下用空気呼吸器	〔半閉鎖循環式〕 _____圧力 0.4MPa 使用時間 30min _____3ℓ級_____	個	4	〃
諸 雑 費		式	1	
計				

(25)

仮設備の組立・解体 1 台当り単価表

歩掛コード

S133110

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土木一般世話役		人		表 10-1
—	—	—	—	—
と び 工		〃		〃
溶 接 工		〃		〃
潜 かん 工		〃		〃
電 工		〃		〃
_____	—	—	—	—
普通作業員		〃		〃
コンクリート		m3		〃
ラフテレーン クレーン運転	__油圧伸縮ジブ型・排 出ガス対策型（_____ 第 2 次基準値）_____ _____25 t 吊	日		〃 機械賃料
_____	_____	—	—	〃
諸 雑 費	(労務費+材料費+機械経 費)×率	%		〃
_____		—		—
計				

ページ

改 正

P29改P39

(27) 予備設備 1 工事当り単価表

歩掛コード

S133250

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
空 気 圧 縮 機	〔可搬式・エンジン駆動・スクリュ型(低騒音型)・排出ガス対策型(第3次基準値)〕	台		表 5-2 (必要台数計上) 機械賃料
発 動 発 電 機	〔ディーゼルエンジン駆動(超低騒音型)・排出ガス対策型(第3次基準値)〕定格容量(50/60Hz) 37/45 KVA	〃		〃 (〃)
諸 雑 費		式	1	
計				

(28) 送気用配管設備組立・解体 100m当り単価表

歩掛コード

S133120

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土木一般世話役		人		表10-2
普通作業員		〃		〃
配 管 工		〃		〃
配管材材料費		m	100	
諸 雑 費	(労務費)×率	%		表10-2
計				

(29) 救急設備組立・解体 (ホスピタルロック用) 1 基当り単価表

歩掛コード

S133140

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土木一般世話役		人		表10-1
と び 工		〃		〃
溶 接 工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン運転	〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(2014年規制)〕最大吊上能力25 t 吊	日		〃 機械賃料
諸 雑 費	(労務費+材料費+機械経費の)×率	%		〃
計				

現 行

(26) 予備設備 1 工事当り単価表

歩掛コード

S133250

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
エンジン式空 気 圧 縮 機	〔可搬式・エンジン駆動・スクリュ型〕・排出ガス対策型(第1次基準値)〕	台		表 5-2 (必要台数計上) 機械賃料
発 動 発 電 機	〔ディーゼルエンジン駆動〕・排出ガス対策型(第1次基準値)〕定格容量35KVA	〃		〃 (〃)
諸 雑 費		式	1	
計				

(27) 送気用配管設備組立・解体 100m当り単価表

歩掛コード

S133120

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土木一般世話役		人		表 10-2
普通作業員		〃		〃
配 管 工		〃		〃
諸 雑 費	(労務費)×率	%		〃
計				

(28) 救急設備組立・解体 (ホスピタルロック用) 1 基当り単価表

歩掛コード

S133140

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土木一般世話役		人		表 10-1
と び 工		〃		〃
溶 接 工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン運転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)〕25 t 吊	日		〃 機械賃料
諸 雑 費	(労務費+材料費+機械経費の)×率	%		〃
計				

ページ

P30改P40

(30)酸素集合装置設置・撤去（マンロック・ホスピタルロック用）1 基当り単価表

歩掛コード

S133150

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
特殊作業員		人		表11-2
普通作業員		〃		〃
諸 雑 費	(労務費)×率	%		〃
計				

(31)酸素減圧設備(消耗品費)

歩掛コード

S133280

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
酸素ガス	医療用	m3		表11-1
計				

(29)酸素集合装置設置・撤去（マンロック・ホスピタルロック用）1 基当り単価表

歩掛コード

S133150

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
特殊作業員		人		表 11-2
普通作業員		〃		〃
諸 雑 費	(労務費)×率	%		〃
計				

(30)酸素減圧設備(消耗品費)

歩掛コード

S133280

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
酸素ガス	医療用	m3		表 11-1
計				

ページ

改正

15 機械運転単価表

(1) 機械運転単価表 工事用水中モータポンプ[普通型（潜水ポンプ）]口径φ100mm

(1日当り)

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
電 力		kWh		(注)1
機 械 損 料		日	1	
計				

(注) 1. 発動発電機を電源とする場合は計上しない。
2. 運転歩掛は、施工歩掛に含まれている。

(2) 機械運転単価表 クローラクレーン (2の組)掘削用 (油圧駆動方式ウインチ・ラチスジブ型 排出ガス対策 (2014年規制) 最大吊上能力 70 t 吊)

(1日当り)

名 称	規 格	単位	数量	指 定 事 項
燃 料 費		l		燃料消費量→ <u>98</u>
機 械 賃 料		供用日		機械賃料数量→ <u>1</u>
計				

(注) 1. 9-3-1 機械掘削に適用する。
2. 運転歩掛は、施工歩掛に含まれている。

(削る)

(3) コンクリートポンプ車（トラック架装・ブーム式 圧送能力 90～110m3/h）

(1日当り)

名 称	規 格	単位	数量	指 定 事 項
運転手（特殊）		人		
燃 料 費		l		燃料消費量→79
機 械 損 料		供用日		機械損料数量→1. 00
計				

現行

15 機械運転単価表

(1) 機械運転単価表 工事用水中モータポンプ[普通型（潜水ポンプ）]口径φ100mm

(1日当り)

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
電 力		kWh		(注)1
機 械 損 料		日	1	
計				

(注) 1. 発動発電機を電源とする場合は計上しない。
2. 運転歩掛は、施工歩掛に含まれている。

(2) 機械運転単価表 クローラクレーン _____ (油圧駆動方式ウインチ・ラチスジブ型 排出ガス対策 (第 1 次基準値) 50 t)

(1日当り)

名 称	規 格	単位	数量	指 定 事 項
燃 料 費		l		燃料消費量→ <u>122</u>
機 械 賃 料		供用日		機械賃料数量→ <u>2.15</u>
計				

(注) 1. 9-2-1 機械掘削に適用する。
2. 運転歩掛は、施工歩掛に含まれている。

(3) 機械運転単価表 クローラクレーン（油圧駆動方式ウインチ・ラチスジブ型 排出ガス対策（第 1 次基準値）50 t）

(1日当り)

<u>名 称</u>	<u>規 格</u>	<u>単位</u>	<u>数量</u>	<u>指 定 事 項</u>
<u>燃 料 費</u>		<u>l</u>		<u>燃料消費量（艀装）→61</u> <u>（足場）→60</u>
<u>機 械 賃 料</u>		<u>供用日</u>		<u>機械賃料数量→1.00</u>
<u>計</u>				

(注) 1. 10-3 艀装設備組立・解体、9-4 構築工(3) 足場工に適用する。
2. 運転歩掛は、施工歩掛に含まれている。

(4) コンクリートポンプ車（トラック架装・ブーム式 圧送能力 90～110m3/h）

(1日当り)

名 称	規 格	単位	数量	指 定 事 項
運転手（特殊）		人		
燃 料 費		l		燃料消費量→79
機 械 損 料		供用日		機械損料数量→1. 00
計				

ページ	改正	現 行
P1	1. 適用範囲 本要領は、鋼鉄道橋を除く土木構造物における鋼構造物及び一般鉄骨の工場加工に適用する。 なお、以下の項目については特別調査等により別途積算すること。 (1) 防音壁支柱 (2) 現地調査及び現地合わせの採寸を要する横坑・斜路門扉、法面階段等の鋼構造物 (3) 設計条件、使用材料等により、特別調査等による積算が適切とされる一般鉄骨 2. 積算構成 積算の構成は、「土木関係等工事予定価格積算標準」第5工場製作の積算によるほか、以下による。 2-1 直接労務費 直接労務費とは、製作及び工場塗装の労務費であり、労務単価は直接工(A)とする。 2-2 間接労務費 間接労務費は、工場製作にかかる間接費で、間接作業賃金、事務技術職員給与<u>手当等（基準内給与、通勤手当、諸手当、賞与、法定福利費、退職金及び退職給与引当金繰入額等）</u>、間接外注費、製作外注費、横持運搬費からなり、製作費の中に計上された直接労務費に対して、間接労務費率 40.8% を乗じて求める。 2-3 工場管理費 工場管理費は、工場製作にかかる間接費で、福利厚生費、修繕維持費、事務用品費、通信・交通費、動力・用水・光熱費、交際費、地代家賃、減価償却費、租税公課、保険料、動産賃貸料、電算関係費、雑費からなり、直接工事費と間接労務費の和である純工事費から材料費（但し、工場塗装にかかる材料費を除く）、メッキ費、運搬費を除いた額に、工場管理費率 33.5% を乗じて求める。 〔解説〕 1. 工場内での運搬及び積卸し費は間接労務費に含まれる。 2. 特別な場合を除き、通常の荷造費は間接労務費に含まれる。 3. 工場加工の一般管理費等率は、「土木関係等予定価格積算標準」による。	1. 適用範囲 本要領は、鋼鉄道橋を除く土木構造物における鋼構造物及び一般鉄骨の工場加工に適用する。 なお、以下の項目については特別調査等により別途積算すること。 (1) 防音壁支柱 (2) 現地調査及び現地合わせの採寸を要する横坑・斜路門扉、法面階段等の鋼構造物 (3) 設計条件、使用材料等により、特別調査等による積算が適切とされる一般鉄骨 2. 積算構成 積算の構成は、「土木関係等工事予定価格積算標準」第5工場製作の積算によるほか、以下による。 2-1 直接労務費 直接労務費とは、製作及び工場塗装の労務費であり、労務単価は直接工(A)とする。 2-2 間接労務費 間接労務費は、工場製作にかかる間接費で、間接作業賃金、事務技術職員給与<u>_____</u>、間接外注費、製作外注費、横持運搬費からなり、製作費の中に計上された直接労務費に対して、間接労務費率 40.8% を乗じて求める。 2-3 工場管理費 工場管理費は、工場製作にかかる間接費で、福利厚生費、修繕維持費、事務用品費、通信・交通費、動力・用水・光熱費、交際費、地代家賃、減価償却費、租税公課、保険料、動産賃貸料、電算関係費、雑費からなり、直接工事費と間接労務費の和である純工事費から材料費（但し、工場塗装にかかる材料費を除く）、メッキ費、運搬費を除いた額に、工場管理費率 33.5% を乗じて求める。 〔解説〕 4. 工場内での運搬及び積卸し費は間接労務費に含まれる。 5. 特別な場合を除き、通常の荷造費は間接労務費に含まれる。 6. 工場加工の一般管理費等率は、「土木関係等予定価格積算標準」による。

ページ

改正

P3

4. 材 料

4-1 鋼材単価

鋼材の単価は、材料単価表または物価資料による。

4-2 鋼材の割増率

材料の所要数量は、設計質量または本数に次表の割増率を乗じたものとする。

表 4-1 鋼材の割増率

種 別	割 増 率 (%)	記 事
鋼 板	13	
形鋼、平鋼、棒鋼、一般鋼管、縞鋼板、コラム類	8	
ボ ル ト ・ ナ ッ ト	3	アンカーボルトを除く

(注) ボルト孔は差引かない。

〔解説〕

鋼材の割増率は設計質量に対する余材を見込んだものから、加工発生くず値を差し引いたものである。

4-3 溶接材料費

溶接材料費は、構造物の種類に拘わらず設計質量（購入部品を除く）当り 19,700円／t とする。

なお、溶接材料費には工場製作に係る消耗材料等の副資材費を含んでいる。

4-4 塗料

表 4-2 塗料使用量

種 別	使用量	記 事
塗 料	標準使用量	

5. 製作加工

5-1 直接労務費

直接労務費の算出は次による。

直接労務費＝ {直接工数（人／t）×加工質量（t）＋塗装工数（人／㎡）×塗装面積（㎡）} ×直接工（A）（円／人）

(注) 加工質量は、設計寸法より求めた純質量（設計数量）とする。ただし、ボルト穴は差引ないものとする。また、ボルト類及び沓等の購入部品は除くものとする。

5-2 直接工数

構造物による適用区分は次による。

表 5-1 適用区分

分 類	適 用 構 造 物
I	高架橋、橋台、橋脚、H鋼埋込桁（鋼板溶接造、H形鋼造）、工事桁
Ⅱ	ホーム桁、人道橋（乗換こ線橋、自由通路、立体横断施設及びこれらに附帯する階段、支柱等を含み上屋は除く）
Ⅲ	乗降場（桁式造）、橋側歩道、防音工、橋桁防護工、簡易工作物（形鋼等に軽微な加工を施した受桁、支保工、検査坑等）
Ⅳ	検査用足場、検査用設備、（パンタ点検台、作業台等を含む）、保守用階段、保守用斜路等

現 行

4. 材 料

4-1 鋼材単価

鋼材の単価は、材料単価表または物価資料による。

4-2 鋼材の割増率

材料の所要数量は、設計質量または本数に次表の割増率を乗じたものとする。

表 4-1 鋼材の割増率

種 別	割 増 率 (%)	記 事
鋼 板	13	
形鋼、平鋼、棒鋼、一般鋼管、縞鋼板、コラム類	8	
ボ ル ト ・ ナ ッ ト	3	アンカーボルトを除く

(注) ボルト孔は差引かない。

〔解説〕

鋼材の割増率は設計質量に対する余材を見込んだものから、加工発生くず値を差し引いたものである。

4-3 溶接材料費

溶接材料費は、構造物の種類に拘わらず設計質量（購入部品を除く）当り 18,200円／t とする。

なお、溶接材料費には工場製作に係る消耗材料等の副資材費を含んでいる。

4-4 塗料

表 4-2 塗料使用量

種 別	使用量	記 事
塗 料	標準使用量	

5. 製作加工

5-1 直接労務費

直接労務費の算出は次による。

直接労務費＝ {直接工数（人／t）×加工質量（t）＋塗装工数（人／㎡）×塗装面積（㎡）} ×直接工（A）（円／人）

(注) 加工質量は、設計寸法より求めた純質量（設計数量）とする。ただし、ボルト穴は差引ないものとする。また、ボルト類及び沓等の購入部品は除くものとする。

5-2 直接工数

構造物による適用区分は次による。

表 5-1 適用区分

分 類	適 用 構 造 物
I	高架橋、橋台、橋脚、H鋼埋込桁（鋼板溶接造、H形鋼造）、工事桁
Ⅱ	ホーム桁、人道橋（乗換こ線橋、自由通路、立体横断施設及びこれらに附帯する階段、支柱等を含み上屋は除く）
Ⅲ	乗降場（桁式造）、橋側歩道、防音工、橋桁防護工、簡易工作物（形鋼等に軽微な加工を施した受桁、支保工、検査坑等）
Ⅳ	検査用足場、検査用設備、（パンタ点検台、作業台等を含む）、保守用階段、保守用斜路等

ページ

改

正

P5

6. 建 方

建方とは、部材の取卸しから取付位置での組立までの作業である。
構造物による適用区分は次による。

表 6-1 適用区分

分 類	適 用 構 造 物
I	3 t を超える部材を含む鋼製高架橋、鋼製橋台、鋼製橋脚、こ線人道橋、ホーム桁等。ただし、これらの構造物であっても 3 t を超える部材を含まない場合は分類Ⅱとする。
Ⅱ	1 t を超える部材を含む乗降場（桁式造）、保守用階段、落石おおい、スノーシェルター、緩衝工、橋けた防護工等。ただし、これらの構造物であっても 1 t を超える部材を含まない場合は分類Ⅲとする。
Ⅲ	検査用足場（パンタ点検台、作業台等）、検査用設備、なだれ止さく、架台、防護工、その他簡易工作物等の 1 部材質量が軽量なもの。

(注) 本体構造物に付帯するものは、本体構造物に含めるものとする。

6-1 分 類 I

(1) 編成人員

表 6-2 編成人員

職 種	単 位	数 量	記 事
橋りょう世話役	人／日	1	
橋りょう特殊工	〃	5	
普 通 作 業 員	〃	1	

(2) 日当り施工量

表 6-3 日当り施工量

(t ／日)

種別	単位	1 部 材 質 量					
		1 t 未満	1 t 以上 2 t 未満	2 t 以上 3 t 未満	3 t 以上 5 t 未満	5 t 以上 10 t 未満	10 t 以上 20 t 未満
建 方	t ／日	5.1	6.3	7.4	9.1	13.1	21.7

(3) 機械器具

表 6-4 機械器具賃料、損料

名 称	区 分	単位	数量または金額	記 事
クレーン	トラッククレーン 又はラフテレーンクレーン	台／日	1	賃料による
工具類損料	供用日当り	円／日	11,300	

注) 1. 積算数量はボルト類を含む建方総質量とし、1 部材質量には該当する添接版及びボルト類を含めるものとする。
2. 建方に伴うボルトの仮締・本締・添接板の清掃・調整を含む。
3. クレーンの機種選定は、部材の最大質量及び現場の実情による。
4. 建起し等が必要な場合は、補助クレーンを配置することができる。
5. 1 部材質量が20 t 以上の場合は、別途積算する。

現 行

6. 建 方

建方とは、部材の取卸しから取付位置での組立までの作業である。
構造物による適用区分は次による。

表 6-1 適用区分

分 類	適 用 構 造 物
I	3 t を超える部材を含む鋼製高架橋、鋼製橋台、鋼製橋脚、こ線人道橋、ホーム桁等。ただし、これらの構造物であっても 3 t を超える部材を含まない場合は分類Ⅱとする。
Ⅱ	1 t を超える部材を含む乗降場（桁式造）、保守用階段、落石おおい、スノーシェルター、緩衝工、橋けた防護工等。ただし、これらの構造物であっても 1 t を超える部材を含まない場合は分類Ⅲとする。
Ⅲ	検査用足場（パンタ点検台、作業台等）、検査用設備、なだれ止さく、架台、防護工、その他簡易工作物等の 1 部材質量が軽量なもの。

(注) 本体構造物に付帯するものは、本体構造物に含めるものとする。

6-1 分 類 I

(1) 編成人員

表 6-2 編成人員

職 種	単 位	数 量	記 事
橋りょう世話役	人／日	1	
橋りょう特殊工	〃	5	
普 通 作 業 員	〃	1	

(2) 日当り施工量

表 6-3 日当り施工量

(t ／日)

種別	単位	1 部 材 質 量					
		1 t 未満	1 t 以上 2 t 未満	2 t 以上 3 t 未満	3 t 以上 5 t 未満	5 t 以上 10 t 未満	10 t 以上 20 t 未満
建 方	t ／日	5.1	6.3	7.4	9.1	13.1	21.7

(3) 機械器具

表 6-4 機械器具賃料、損料

名 称	区 分	単位	数量または金額	記 事
クレーン	トラッククレーン 又はラフテレーンクレーン	台／日	1	賃料による
工具類損料	供用日当り	円／日	10,300	

注) 1. 積算数量はボルト類を含む建方総質量とし、1 部材質量には該当する添接版及びボルト類を含めるものとする。
2. 建方に伴うボルトの仮締・本締・添接板の清掃・調整を含む。
3. クレーンの機種選定は、部材の最大質量及び現場の実情による。
4. 建起し等が必要な場合は、補助クレーンを配置することができる。
5. 1 部材質量が20 t 以上の場合は、別途積算する。

ページ

P6

6-2 分 類 Ⅱ

(1) 編成人員

表 6-5 編成人員

職 種	単 位	数 量	記 事
土木一般世話役	人／日	1	
と び 工	〃	4	
普 通 作 業 員	〃	1	

(2) 日当り施工量

表 6-6 日当り施工量 (t ／日)

種 別	単 位	1 部 材 質 量			記 事
		1 t 未満	1 t 以上 2 t 未満	2 t 以上 3 t 未満	
建 方	t ／日	4.4	5.9	7.3	

(3) 機械器具

表 6-7 機械器具賃料、損料

名 称	区 分	単位	数量または金額	記 事
クレーン	ラフテレーンクレーン	台／日	1	賃料による
工 具 類 損 料	供用日当り	円／日	11,300	

(注) 1. 積算数量はボルト類を含む建方総質量とし、1 部材質量には該当する添接版及びボルト類を含めるものとする。
2. 建方に伴うボルトの仮締・本締・添接板の清掃・調整を含む。
3. ラフテレーンクレーンの機種選定は、部材の最大質量及び現場の実情による。
4. 1部材質量が3 t 以上の場合は、別途積算する。

6-3 分 類 Ⅲ

(1) 編成人員

表 6-8 編成人員

職 種	単 位	建 方 工 法		記 事
		ラフテレーンクレーン	人力	
土木一般世話役	人／日	1	1	
特 殊 作 業 員	〃	4	4	
普 通 作 業 員	〃	1	1	

現 行

6-2 分 類 Ⅱ

(1) 編成人員

表 6-5 編成人員

職 種	単 位	数 量	記 事
土木一般世話役	人／日	1	
と び 工	〃	4	
普 通 作 業 員	〃	1	

(2) 日当り施工量

表 6-6 日当り施工量 (t ／日)

種 別	単 位	1 部 材 質 量			記 事
		1 t 未満	1 t 以上 2 t 未満	2 t 以上 3 t 未満	
建 方	t ／日	4.4	5.9	7.3	

(3) 機械器具

表 6-7 機械器具賃料、損料

名 称	区 分	単位	数量または金額	記 事
クレーン	ラフテレーンクレーン	台／日	1	賃料による
工 具 類 損 料	供用日当り	円／日	10,300	

(注) 1. 積算数量はボルト類を含む建方総質量とし、1 部材質量には該当する添接版及びボルト類を含めるものとする。
2. 建方に伴うボルトの仮締・本締・添接板の清掃・調整を含む。
3. ラフテレーンクレーンの機種選定は、部材の最大質量及び現場の実情による。
4. 1部材質量が3 t 以上の場合は、別途積算する。

6-3 分 類 Ⅲ

(1) 編成人員

表 6-8 編成人員

職 種	単 位	建 方 工 法		記 事
		ラフテレーンクレーン	人力	
土木一般世話役	人／日	1	1	
特 殊 作 業 員	〃	4	4	
普 通 作 業 員	〃	1	1	

ページ

改 正

現 行

P7

(2) 日当り施工量

表 6-9 日当り施工量 (t／日)

種 別	単 位	建 方 工 法			記 事
		ラフテレーンクレーン		人力	
		1 部材質量 0.5 t 未満	1 部材質量 0.5 t 以上 1.0 t 未満	1 部材質量 1.0 t 未満	
建 方	t／日	2.2	3.0	1.0	

(3) 機械器具

表 6-10 機械器具賃料、損料

名 称	区 分	単位	建方工法		記 事
			クレーン	人力	
クレーン	ラフテレーンクレーン	台	1	-	賃料による
モータウインチ	0.5 t	〃	-	1	
工 具 類 損 料	供用日当り	円／日	11,300		

注) 1. 積算数量はボルト類を含む建方総質量とし、1 部材質量には該当する添接版及びボルト類を含めるものとする。
2. 建方に伴うボルトの仮締・本締・添接板の清掃・調整を含む。
3. 人力による建方とは、部材の取卸し及び建方作業を人力にて行う場合である。
4. ラフテレーンクレーンの機種選定は、部材の最大質量及び現場の実情による。
5. 1 部材質量が 1 t 以上の場合は、別途積算する。

7. 地組・架設工

7-1 地組工

地組工は、鋼製高架橋、鋼製橋脚及びこ線人道橋における主桁等で架設に先立ち、部材をあらかじめ地上等で連結する作業である。

(1) 編成人員

表 7-1 編成人員

職 種	単位	数量	記 事
橋りょう世話役	人／日	1	
橋りょう特殊工	〃	5	
普 通 作 業 員	〃	1	

(2) 日当り施工量

表 7-2 日当り施工量 (t／日)

種 別	単 位	1 部材質量					
		1 t 未満	1 t 以上 2 t 未満	2 t 以上 3 t 未満	3 t 以上 5 t 未満	5 t 以上 10 t 未満	10 t 以上 20 t 未満
地 組	t／日	5.8	7.0	8.1	9.9	14.0	22.9

(2) 日当り施工量

表 6-9 日当り施工量 (t／日)

種 別	単 位	建 方 工 法			記 事
		ラフテレーンクレーン		人力	
		1 部材質量 0.5 t 未満	1 部材質量 0.5 t 以上 1.0 t 未満	1 部材質量 1.0 t 未満	
建 方	t／日	2.2	3.0	1.0	

(3) 機械器具

表 6-10 機械器具賃料、損料

名 称	区 分	単位	建方工法		記 事
			クレーン	人力	
クレーン	ラフテレーンクレーン	台	1	-	賃料による
モータウインチ	0.5 t	〃	-	1	
工 具 類 損 料	供用日当り	円／日	10,300		

注) 1. 積算数量はボルト類を含む建方総質量とし、1 部材質量には該当する添接版及びボルト類を含めるものとする。
2. 建方に伴うボルトの仮締・本締・添接板の清掃・調整を含む。
3. 人力による建方とは、部材の取卸し及び建方作業を人力にて行う場合である。
4. ラフテレーンクレーンの機種選定は、部材の最大質量及び現場の実情による。
5. 1 部材質量が 1 t 以上の場合は、別途積算する。

7. 地組・架設工

7-1 地組工

地組工は、鋼製高架橋、鋼製橋脚及びこ線人道橋における主桁等で架設に先立ち、部材をあらかじめ地上等で連結する作業である。

(1) 編成人員

表 7-1 編成人員

職 種	単位	数量	記 事
橋りょう世話役	人／日	1	
橋りょう特殊工	〃	5	
普 通 作 業 員	〃	1	

(2) 日当り施工量

表 7-2 日当り施工量 (t／日)

種 別	単 位	1 部材質量					
		1 t 未満	1 t 以上 2 t 未満	2 t 以上 3 t 未満	3 t 以上 5 t 未満	5 t 以上 10 t 未満	10 t 以上 20 t 未満
地 組	t／日	5.8	7.0	8.1	9.9	14.0	22.9

ページ

改 正

P8

(3) 機械器具

表 7-3 機械器具賃料、損料

名 称	区 分	単 位	数量または金額	記 事
クレーン	トラッククレーン 又はラフテレーンクレーン	台／日	1	賃料による
工具類損料	供用日当り	円／日	11,300	

(注) 1. 積算数量はボルト類を含む地組すべき総質量とし、1 部材質量には該当する添接板及びボルト類を含めるものとする。
2. 地組に伴うボルトの仮締・添接板の清掃・調整及びボルト締付足場の仮設撤去を含む。
3. クレーンの機種選定は、部材の最大質量及び現場の実情による。
4. 1 部材質量が 2 0 t 以上の場合は、別途積算する。

7-2 架設工

架設工は、鋼製高架橋、鋼製橋脚及びこ線人道橋等において、あらかじめ地組された部材の運搬、架設、据付及び調整の作業である。

(1) 編成人員

表 7-4 編成人員

職 種	単 位	数 量	記 事
橋 り ょ う 世 話 役	人／日	1	
橋 り ょ う 特 殊 工	〃	5	
普 通 作 業 員	〃	1	

(2) 日当り施工量

表 7-5 日当り施工量

種 別	単 位	数 量	記 事
架 設	部材／日	3.5	

(3) 機械器具

表 7-6 機械器具賃料、損料

名 称	区 分	単 位	数量または金額	記 事
クレーン	トラッククレーン 又はラフテレーンクレーン	台／日	1	賃料による
工 具 類 損 料	供用日当り	円／日	11,300	

(注) 1. トラッククレーン又はラフテレーンクレーン 2 台による相吊り架設の場合にも編成人員等の数値をそのまま使用して良い。
2. トラッククレーン又はラフテレーンクレーンの機種・台数の選定は、架設する部材質量及び現場の実情（作業スペース、空中の障害物等）による。
3. 仮受梁（サンドル材）を必要とする場合は、実情に応じて別途積算する。

現 行

(3) 機械器具

表 7-3 機械器具賃料、損料

名 称	区 分	単 位	数量または金額	記 事
クレーン	トラッククレーン 又はラフテレーンクレーン	台／日	1	賃料による
工具類損料	供用日当り	円／日	10,300	

(注) 1. 積算数量はボルト類を含む地組すべき総質量とし、1 部材質量には該当する添接板及びボルト類を含めるものとする。
2. 地組に伴うボルトの仮締・添接板の清掃・調整及びボルト締付足場の仮設撤去を含む。
3. クレーンの機種選定は、部材の最大質量及び現場の実情による。
4. 1 部材質量が 2 0 t 以上の場合は、別途積算する。

7-2 架設工

架設工は、鋼製高架橋、鋼製橋脚及びこ線人道橋等において、あらかじめ地組された部材の運搬、架設、据付及び調整の作業である。

(1) 編成人員

表 7-4 編成人員

職 種	単 位	数 量	記 事
橋 り ょ う 世 話 役	人／日	1	
橋 り ょ う 特 殊 工	〃	5	
普 通 作 業 員	〃	1	

(2) 日当り施工量

表 7-5 日当り施工量

種 別	単 位	数 量	記 事
架 設	部材／日	3.5	

(3) 機械器具

表 7-6 機械器具賃料、損料

名 称	区 分	単 位	数量または金額	記 事
クレーン	トラッククレーン 又はラフテレーンクレーン	台／日	1	賃料による
工 具 類 損 料	供用日当り	円／日	10,300	

(注) 1. トラッククレーン又はラフテレーンクレーン 2 台による相吊り架設の場合にも編成人員等の数値をそのまま使用して良い。
2. トラッククレーン又はラフテレーンクレーンの機種・台数の選定は、架設する部材質量及び現場の実情（作業スペース、空中の障害物等）による。
3. 仮受梁（サンドル材）を必要とする場合は、実情に応じて別途積算する。

ページ

8. 建方及び地組・架設工具損料

(1) 建方及び地組・架設工具とは、インパクトレンチ、ジャーナルジャッキ、レバーブロック、電気ドリル、グラインダー、玉掛ワイヤー、ガス切断機、切断機、アセチレンホース、酸素ホース、電気溶接機、 _____トル ク シア締付レンチ、トルクレンチ、キャリブレータ等である。

(2) 損料は供用日当り 10,300 円とする。

9. 仮置場整地

鉄骨部材の仮置場の整地が必要な場合は、実情により別途積算する。

10. 部材の吊上げ、吊下げ

スノーシェッド等において、施工基面内からのクレーン建込を行う場合、施工基面内に部材及びクレーンの吊上げ、吊下げが必要な場合は、実情により別途積算する。

11. 足場工

建込、地組・架設において、鋼構造物の種別および現地の実情に応じて、足場費等を計上する。

足場は「 _____ コンクリート工 積算要領」によるものとする。

なお、建込に先立って、後施工アンカーを設置する場合は、必要に応じて足場又は高所作業車を別途計上するものとする。

12. 落下防護工

建込、架設において、鋼構造物の構造および現地の実情に応じて、落下防護工を計上する。

落下防護工は「 _____ コンクリート工 積算要領」落下防護工によるものとする。

13. ベント設備

建込、地組・架設において、ベント設備を必要とする場合は「 _____ 鋼橋架設 積算要領」ベント設備によるものとする。

14. 現場加工

14-1 現場溶接

表 14-1 現場溶接 (すみ肉 6 mm換算 10m当り)

種 別	職 種 ほか	単位	数 量	記 事
労 務 費	溶 接 工	人	0.5	
材 料 費	溶 接 棒 5 mm	kg	5.0	
機 械 器 具 損 料	交 流 ア ー ク 溶 接 機 定 格 電 流 3 0 0 A	日/台	0.18	運転時間(日)当たり

ページ

改正

P10

14-2 ガス切断

鋼板、形鋼のガス切断に適用し、手動による場合となる。

表 14-2 ガス切断

(切断延長 10m 当り)

種 別	職 種	単 位	数 量	記 事
労 務 費	溶 接 工	人	0.33	

(注) 材料、使用器具の損料を含む。

切断延長は板厚により補正するものとし、補正値は次による。

表 14-3 板厚による補正値

区分 項目	板 厚 (mm)								
	6 以下	8 以下	10 以下	13 以下	19 以下	25 以下	32 以下	38 以下	50 以下
補正値	0.6	0.7	0.8	1.0	1.2	1.4	1.6	1.8	2.0

14-3 鋼板穿孔

電気ドリル、エアードリル使用の場合である。

表 14-4 鋼板穿孔

(穿孔 10 孔 当り)

種 別	職 種	単 位	数 量	記 事
労 務 費	鉄 骨 工	人	0.15	
	普 通 作 業 員	〃	0.07	

(注) 使用器具の損料を含む。

穿孔数は板厚により補正するものとし、補正値は次による。

表 14-5 板厚による補正値

区分 項目	板 厚 (mm)				記 事
	6 未 満	6～12 未 満	12～22 未 満	22 以上	
補 正 値	0.6	0.8	1.0	1.3	

15. 現場塗装工

現場塗装工の労務費、材料費、機械損料等は、土木工事標準単価の橋りょう塗装工によるものとする。

〔解 説〕

形鋼が主体の一般鉄骨は、溶融亜鉛メッキが一般的であり、現場塗装を要する鋼製高架橋、鋼製橋脚、こ線人道橋等の鋼構造物は、「6-2-9 鋼橋架設 」と同じく土木工事標準単価とする。

現 行

14-2 ガス切断

鋼板、形鋼のガス切断に適用し、手動による場合となる。

表 14-2 ガス切断

(切断延長 10m 当り)

種 別	職 種	単 位	数 量	記 事
労 務 費	溶 接 工	人	0.33	

(注) 材料、使用器具の損料を含む。

切断延長は板厚により補正するものとし、補正値は次による。

表 14-3 板厚による補正値

区分 項目	板 厚 (mm)								
	6 以下	8 以下	10 以下	13 以下	19 以下	25 以下	32 以下	38 以下	50 以下
補正値	0.6	0.7	0.8	1.0	1.2	1.4	1.6	1.8	2.0

14-3 鋼板穿孔

電気ドリル、エアードリル使用の場合である。

表 14-4 鋼板穿孔

(穿孔 10 孔 当り)

種 別	職 種	単 位	数 量	記 事
労 務 費	鉄 骨 工	人	0.15	
	普 通 作 業 員	〃	0.07	

(注) 使用器具の損料を含む。

穿孔数は板厚により補正するものとし、補正値は次による。

表 14-5 板厚による補正値

区分 項目	板 厚 (mm)				記 事
	6 未 満	6～12 未 満	12～22 未 満	22 以上	
補 正 値	0.6	0.8	1.0	1.3	

15. 現場塗装工

現場塗装工の労務費、材料費、機械損料等は、土木工事標準単価の橋りょう塗装工によるものとする。

〔解 説〕

形鋼が主体の一般鉄骨は、溶融亜鉛メッキが一般的であり、現場塗装を要する鋼製高架橋、鋼製橋脚、こ線人道橋等の鋼構造物は、「 鋼橋架設 要領」と同じく土木工事標準単価とする。

ページ

改正

現行

P9

5-7 主桁製作設備

5-7-1 主桁製作台基礎工

主桁製作台（木製、鋼製）の基礎工は、製作ヤードにおいてのコンクリートベースを標準とし、高架橋等の上で製作を行う場合の養生工（H形鋼、まくら木、敷鉄板等）や、本要領に明示されていない特殊な基礎工を必要とする場合は別途積算する。

(1) 形 状

基礎工は図-1 を標準とし、主桁本数・工期により決定されるが、主桁製作台数に応じて計上する。

平 面

側 面

図-1

(2) 施工費

表 5-15 主桁製作台基礎工歩掛 (製作台 1 台当り)

種 別	名 称	単	数 量	記 事
労務費	土木一般世話役	人	0.2 (0.205 L + 7.88)	根掘工、ぐり石工、コンクリート工 取りこわし等を含む。
	特 殊 作 業 員	人	0.4 (0.205 L + 7.88)	
	普 通 作 業 員	人	0.4 (0.205 L + 7.88)	

(注) 1. L：桁長 (m)
2. 3桁目を四捨五入、小数位 2 位止めとする。

表 5-16 生コンクリート数量 (製作台 1 台当り)

種 別	名 称	規 格	単位	数 量
材 料 費	生コンクリート	$\sigma_{ck}=13.5\text{N/mm}^2$	m ³	0.180 L − 0.07

(注) 1. L：桁長 (m)
2. 小数位 3 桁目を四捨五入、小数位 2 位止めとする。
3. 撤去に伴うコンクリート処分費は必要により別途計上する。

表 5-17 バックホウ運転日数 (製作台 1 台当り)

種 別	名 称	規 格	単位	運転日数
機械経費	バックホウ	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) <u>バケット容量 0.45 m³</u>	日	0.123 L − 1.83

(注) 1. L：桁長 (m)
2. 小数位 3 桁目を四捨五入、小数位 2 位止めとする。

5-7 主桁製作設備

5-7-1 主桁製作台基礎工

主桁製作台（木製、鋼製）の基礎工は、製作ヤードにおいてのコンクリートベースを標準とし、高架橋等の上で製作を行う場合の養生工（H形鋼、まくら木、敷鉄板等）や、本要領に明示されていない特殊な基礎工を必要とする場合は別途積算する。

(1) 形 状

基礎工は図-1 を標準とし、主桁本数・工期により決定されるが、主桁製作台数に応じて計上する。

平 面

側 面

図-1

(2) 施工費

表 5-15 主桁製作台基礎工歩掛 (製作台 1 台当り)

種 別	名 称	単	数 量	記 事
労務費	土木一般世話役	人	0.2 (0.205 L + 7.88)	根掘工、ぐり石工、コンクリート工 取りこわし等を含む。
	特 殊 作 業 員	人	0.4 (0.205 L + 7.88)	
	普 通 作 業 員	人	0.4 (0.205 L + 7.88)	

(注) 1. L：桁長 (m)
2. 3桁目を四捨五入、小数位 2 位止めとする。

表 5-16 生コンクリート数量 (製作台 1 台当り)

種 別	名 称	規 格	単位	数 量
材 料 費	生コンクリート	$\sigma_{ck}=13.5\text{N/mm}^2$	m ³	0.180 L − 0.07

(注) 1. L：桁長 (m)
2. 小数位 3 桁目を四捨五入、小数位 2 位止めとする。
3. 撤去に伴うコンクリート処分費は必要により別途計上する。

表 5-17 バックホウ運転日数 (製作台 1 台当り)

種 別	名 称	規 格	単位	運転日数
機械経費	バックホウ	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) <u>山積 0.45 m³ (0.35 m³)</u>	日	0.123 L − 1.83

(注) 1. L：桁長 (m)
2. 小数位 3 桁目を四捨五入、小数位 2 位止めとする。

ページ

改正

P12

5-9 機械器具損料

主桁製作工に使用する機械器具損料は、次表による。

表 5-24 主桁製作工に使用する機械器具損料

種 別	名 称	規 格	単 位	数量	供用 日数	記 事
仮 置 工	横取装置	(P C 橋用他)	式	1	A	
引 出 し 工	ウインチ (複胴直引他)		〃	1	A	
軌 道 工	――	1 軌道 30 kg/m	m	必要長	A	ペーシ、モール、スパイキ、枕木 (@75 mm) 付き
門 型 クレーン 工	門型クレーン	29. 4kN(3 t) 吊	基	1	A+3	電動ホイスト 3 t 用含む
	軌 道 設 備	1 軌条 30 kg/m	m	必要長 ×2	A+3	
	ラフテレーンクレーン <u>油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(2014 年規制)</u>	<u>最大吊上能力</u> 16 t 吊	台	1	3	門型クレーン組立・撤去
電 力 設 備	発動発電機 <u>ディーゼルエンジン駆動(超低騒音型)・排出ガス対策型(第 3 次基準値)</u>	<u>定格容量</u> (50/60Hz) <u>20/25kVA</u>	〃	1	A	運転時間 4.5 h / 供用日

(注) 1. 門型クレーンには、輸送及び設置撤去日数を加算している。
2. 引出し工、軌道工の損料は、縦移動に伴う仮置場仮置の場合に計上する。
3. 供用日数及び機械器具損料は下記を標準とするが、標準と異なる場合は別途算定できる。
供用日数 A = {N/S+ (S-1) /S} ×12
N：主桁製作本数…………… (本)
S：主桁製作台基数…………… (基)
機械器具損料＝供用日数×供用日当り換算値損料
なお、仮置工及び引出し工の供用日当り損料額は架設工による。
4. 高架橋上等で主桁を製作する場合は、資材（型枠、鉄筋、ケーブル）の吊上げ費としてラフテレーンクレーン（25 t 吊）を計上出来る。
5. ラフテレーンクレーン及び発動発電機は賃料とする。

現 行

5-9 機械器具損料

主桁製作工に使用する機械器具損料は、次表による。

表 5-24 主桁製作工に使用する機械器具損料

種 別	名 称	規 格	単 位	数量	供用 日数	記 事
仮 置 工	横取装置	(P C 橋用他)	式	1	A	
引 出 し 工	ウインチ (複胴直引他)		〃	1	A	
軌 道 工	――	1 軌道 30 kg/m	m	必要長	A	ペーシ、モール、スパイキ、枕木 (@75 mm) 付き
門 型 クレーン 工	門型クレーン	29. 4kN(3 t) 吊	基	1	A+3	電動ホイスト 3 t 用含む
	軌 道 設 備	1 軌条 30 kg/m	m	必要長 ×2	A+3	
	ラフテレーンクレーン <u>排出ガス対策型(第 1 次基準値)</u> <u>油圧伸縮ジブ型</u>	<u>16 t 吊</u>	台	1	3	門型クレーン組立・撤去
電 力 設 備	発動発電機 <u>排出ガス対策型(第 1 次基準値)</u>	<u>25kVA</u>	〃	1	A	運転時間 4.5 h / 供用日

(注) 1. 門型クレーンには、輸送及び設置撤去日数を加算している。
2. 引出し工、軌道工の損料は、縦移動に伴う仮置場仮置の場合に計上する。
3. 供用日数及び機械器具損料は下記を標準とするが、標準と異なる場合は別途算定できる。
供用日数 A = {N/S+ (S-1) /S} ×12
N：主桁製作本数…………… (本)
S：主桁製作台基数…………… (基)
機械器具損料＝供用日数×供用日当り換算値損料
なお、仮置工及び引出し工の供用日当り損料額は架設工による。
4. 高架橋上等で主桁を製作する場合は、資材（型枠、鉄筋、ケーブル）の吊上げ費としてラフテレーンクレーン（25 t 吊）を計上出来る。
5. ラフテレーンクレーン及び発動発電機は賃料とする。

ページ

改正

P13

5-10 単 価 表

(1) 主桁製作台 1式当り単価表

歩掛コード

S171010

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
主桁製作台基礎工		台		(2) 単価表
主桁製作台製作組立撤去		m ²		(3) 単価表
主桁製作台整正工		m ²		(4) 単価表
合 計				
1式当り		式	1	

(2) 主桁製作台基礎工 1.0 台当り単価表

歩掛コード

S171011

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 5-15
特 殊 作 業 員		人		〃
普 通 作 業 員		人		〃
生コンクリート		m ³		表 5-16
バ ッ ク ホ ウ 運 転 経 費	排出ガス対策型（第 2 次基準値） <u>バケツト容量</u> 0.45 m ³	日		表 5-17
合 計				
1 台当り		台	1.0	

(3) 主桁製作台製作組立撤去 1.0 m²当り単価表

歩掛コード

S171020

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 5-19、5-20
型 枠 工		人		〃
普 通 作 業 員		人		〃
諸 雑 費	(労務費)×率	%	20	表 5-19（木製主桁）
溶 接 工		人	1.5	表 5-20（鋼製主桁）
鋼 製 製 作 台 費		m ²	10	表 5-20（鋼製主桁）
合 計				
1 m ² 当り		m ²	10	

現行

5-10 単 価 表

(1) 主桁製作台 1式当り単価表

歩掛コード

S171010

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
主桁製作台基礎工		台		(2) 単価表
主桁製作台製作組立撤去		m ²		(3) 単価表
主桁製作台整正工		m ²		(4) 単価表
合 計				
1式当り		式	1	

(2) 主桁製作台基礎工 1.0 台当り単価表

歩掛コード

S171011

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 5-15
特 殊 作 業 員		人		〃
普 通 作 業 員		人		〃
生コンクリート		m ³		表 5-16
バ ッ ク ホ ウ 運 転 経 費	排出ガス対策型（第 1 次基準値） <u>山積</u> 0.45 m ³ <u>(0.35 m³)</u>	日		表 5-17
合 計				
1 台当り		台	1.0	

(3) 主桁製作台製作組立撤去 1.0 m²当り単価表

歩掛コード

S171020

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 5-19、5-20
型 枠 工		人		〃
普 通 作 業 員		人		〃
諸 雑 費	(労務費)×率	%	20	表 5-19（木製主桁）
溶 接 工		人	1.5	表 5-20（鋼製主桁）
鋼 製 製 作 台 費		m ²	10	表 5-20（鋼製主桁）
合 計				
1 m ² 当り		m ²	10	

ページ

改正

P18

(17) 製作機械器具損料 1 式当り単価表

歩掛コード

S171300

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
型 枠		本		
鉄 筋		本		
P C ケ ー ブ ル		本		
コ ン ク リ ー ト		本		
P C 緊 張		本		
門 型 ク レ ー ン	29.4kN(3 t) 吊	基		表 5-24
電 動 ホ イ ス ト	3 t 用	台		〃
組 立 撤 去 ク レ ー ン 賃 料	ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(2014 年規制) 最大吊上能力 16 t 吊	日		〃
3 0 K g / m 級 軌 条		100m		〃
発 動 発 電 機 賃 料	発動発電機 ディーゼルエンジン駆動(超低騒音型)・排出ガス対策型 (第 3 次基準値) 定格容量(50/60Hz) 20/25kVA	日		〃
軽 油		L		〃
合 計				
1 式当り		式	1	

現 行

(17) 製作機械器具損料 1 式当り単価表

歩掛コード

S171300

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
型 枠		本		
鉄 筋		本		
P C ケ ー ブ ル		本		
コ ン ク リ ー ト		本		
P C 緊 張		本		
門 型 ク レ ー ン	29.4kN(3 t) 吊	基		表 5-24
電 動 ホ イ ス ト	3 t 用	台		〃
組 立 撤 去 ク レ ー ン 賃 料	ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型(第 1 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 16 t 吊	日		〃
3 0 K g / m 級 軌 条		100m		〃
発 動 発 電 機 賃 料	発動発電機 排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 25kVA	日		〃
軽 油		L		〃
合 計				
1 式当り		式	1	

ページ

改正

P23

6. 架設工

6-1 トラッククレーンによる架設

桁運搬車又は仮置場から直接吊上げ、所定の位置に架設できる場合であり、橋りょう下からの架設作業である。

6-1-1 桁小運搬工

(1) 重量台車による小運搬

製作場又は、桁仮置場から架設地点まで、軌道により重量台車で小運搬する作業に適用する。

① 桁小運搬配置人員及び小運搬質量

表 6-1 重量台車による小運搬歩掛 (1日当り)

P C 桁 1 本当りの質量	1 日当り小運搬質量 (t/日)	編成人員 (人)				諸雑費率 (%)
		橋りょう世話役	橋りょう特殊工	特殊作業員	普通作業員	
35～60 t 未満	140	1	8	1 (注. 2)	3	2
60～100 t 未満	162					
100～160 t 未満	181					
160～200 t 未満	190					

(注) 1. 桁の運搬は200m程度とする。200mを超える場合又は方向転換を行う場合は、別途考慮する。
2. 発動発電機を使用する場合のみ特殊作業員1名を計上する。
3. 諸雑費は、電力に関する経費であり、労務費の合計に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

② 軌道工

軌道の設置・撤去に係る歩掛は 6-2-1 軌道設備工の歩掛によるものとする。

③ 電力量等消費量

1) 1 日当り 3 時間とする。

2) 横取引出し設備の規格

表 6-2 横取引出し設備規格

P C 桁 1 本当り質量 (t)	横取引出し設備規格
35～60 t 未満	60 t 以下 (ウインチ複胴開放式、3 t 22 kW、重量台車 30 t × 2)
60～100 t 未満	100 t 以下 (ウインチ複胴開放式、3 t 22 kW、重量台車 60 t × 2)
100～160 t 未満	160 t 以下 (ウインチ複胴開放式、4 t 30 kW、重量台車 80 t × 2)
160～200 t 未満	200 t 以下 (ウインチ複胴開放式、4 t 30 kW、重量台車 100 t × 2)

現行

6. 架設工

6-1 トラッククレーンによる架設

桁運搬車又は仮置場から直接吊上げ、所定の位置に架設できる場合であり、橋りょう下からの架設作業である。

6-1-1 桁小運搬工

(1) 重量台車による小運搬

製作場又は、桁仮置場から架設地点まで、軌道により重量台車で小運搬する作業に適用する。

① 桁小運搬配置人員及び小運搬質量

表 6-1 重量台車による小運搬歩掛 (1日当り)

P C 桁 1 本当りの質量	1 日当り小運搬質量 (t/日)	編成人員 (人)				諸雑費率 (%)
		橋りょう世話役	橋りょう特殊工	特殊作業員	普通作業員	
35～60 t 未満	209	1	8	1 (注. 2)	5	3
60～100 t 未満	242					3
100～160 t 未満	270					4
160～200 t 未満	284					4

(注) 1. 桁の運搬は200m程度と考えている。200mを超える場合又は方向転換を行う場合は、別途考慮する。
2. 発動発電機を使用する場合のみ特殊作業員1名を計上する。
3. 諸雑費は、電力に関する経費であり、労務費の合計に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

② 軌道工

軌道の敷設撤去に係る歩掛は 6-2-1 軌道設備工の歩掛によるものとする。

③ 電力量等消費量

1) 1 日当り 3 時間とする。

2) 横取引出し設備の規格

表 6-2 横取引出し設備規格

P C 桁 1 本当り質量 (t)	横取引出し設備規格
35～60 t 未満	60 t 以下 (ウインチ複胴開放式、3 t 22 kW、重量台車 30 t × 2)
60～100 t 未満	100 t 以下 (ウインチ複胴開放式、3 t 22 kW、重量台車 60 t × 2)
100～160 t 未満	160 t 以下 (ウインチ複胴開放式、4 t 30 kW、重量台車 80 t × 2)
160～200 t 未満	200 t 以下 (ウインチ複胴開放式、4 t 30 kW、重量台車 100 t × 2)

6. 架設工

6-1 トラッククレーンによる架設

桁運搬車又は仮置場から直接吊上げ、所定の位置に架設できる場合であり、橋りょう下からの架設作業である。

6-1-1 桁小運搬工

(1) 重量台車による小運搬

製作場又は、桁仮置場から架設地点まで、軌道により重量台車で小運搬する作業に適用する。

① 桁小運搬配置人員及び小運搬質量

表 6-1 重量台車による小運搬歩掛 (1日当り)

P C 桁 1 本当りの質量	1 日当り小運搬質量 (t/日)	編成人員 (人)				諸雑費率 (%)
		橋りょう世話役	橋りょう特殊工	特殊作業員	普通作業員	
35～60 t 未満	209	1	8	1 (注. 2)	5	3
60～100 t 未満	242					3
100～160 t 未満	270					4
160～200 t 未満	284					4

(注) 1. 桁の運搬は200m程度と 考えている。200mを超える場合又は方向転換を行う場合は、別途考慮する。
2. 発動発電機を使用する場合のみ特殊作業員1名を計上する。
3. 諸雑費は、電力に関する経費であり、労務費の合計に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

② 軌道工

軌道の 敷設 撤去に係る歩掛は 6-2-1 軌道設備工の歩掛によるものとする。

③ 電力量等消費量

1) 1 日当り 3 時間とする。

2) 横取引出し設備の規格

表 6-2 横取引出し設備規格

P C 桁 1 本当り質量 (t)	横取引出し設備規格
35～60 t 未満	60 t 以下 (ウインチ複胴開放式、3 t 22 kW、重量台車 30 t × 2)
60～100 t 未満	100 t 以下 (ウインチ複胴開放式、3 t 22 kW、重量台車 60 t × 2)
100～160 t 未満	160 t 以下 (ウインチ複胴開放式、4 t 30 kW、重量台車 80 t × 2)
160～200 t 未満	200 t 以下 (ウインチ複胴開放式、4 t 30 kW、重量台車 100 t × 2)

ページ

改正

P24

④ 機械器具損料

1) 横取引出し設備、軌道設備（重量 37 kg/m）、架設工具については、「建設機械等損料算定表（鋼橋・P C 橋架設用仮設備機器）」により供用日当り損料を計上する。

供用日数は次式により求める。

供用日数＝小運搬日数×供用日数率

(注)1. 供用日数率＝1.7

2. 架設工具は供用日当り 6,320 円計上する。

(2) 特殊トレーラによる小運搬

製作場又は、仮置場から架設地点まで、特殊トレーラにより、小運搬する作業に適用する。

① 桁小運搬編成人員及び小運搬質量

表 6-3 特殊トレーラによる小運搬

(1 日当り)

P C 桁 1 本の質量 (t)	トラッククレーン 規格・台数	1 日当り 小運搬質量 (t / 日)	編成人員 (人 / 日)		
			橋りょう 世話役	橋りょう 特殊工	普通作業員
35～ 60 未満	油圧伸縮ジブ型 120 t 吊×2 台	<u>150</u>	1	4	3
60～100 未満	油圧伸縮ジブ型 160 t 吊×2 台	<u>175</u>			
100～160 未満	油圧伸縮ジブ型 200 t 吊×2 台	<u>195</u>			
160～200 未満	油圧伸縮ジブ型 360 t 吊×2 台	<u>205</u>			

(注) 1. 歩掛は、作業半径 10m程度の場合であり、現場条件により積込用トラッククレーンの規格が上表により難しい場合は、別途積算できる。

2. トラッククレーンは賃料とする。

3. 桁小運搬日数は、架設日数に同じとする。

4. 特殊トレーラ

特殊トレーラは見積とする。

現 行

④ 機械器具損料

1) 横取引出し設備、軌道設備（30 kg/m）、架設工具については、「建設機械等損率算定表（鋼橋・P C 橋架設用仮設備機器）」により供用日当り損料を計上する。

供用日数は次式により求める。

供用日数＝小運搬日数×供用日数率

(注)1. 供用日数率＝1.7

2. 架設工具は供用日当り 5,720 円計上する。

(2) 特殊トレーラによる小運搬

製作場又は、仮置場から架設地点まで、特殊トレーラにより、小運搬する作業に適用する。

① 桁小運搬編成人員及び小運搬質量

表 6-3 特殊トレーラによる小運搬

(1 日当り)

P C 桁 1 本の質量 (t)	トラッククレーン 規格・台数	1 日当り 小運搬質量 (t / 日)	編成人員 (人 / 日)		
			橋りょう 世話役	橋りょう 特殊工	普通作業員
35～ 60 未満	油圧伸縮ジブ型 120 t 吊×2 台	<u>225</u>	1	4	3
60～100 未満	油圧伸縮ジブ型 160 t 吊×2 台	<u>260</u>			
100～160 未満	油圧伸縮ジブ型 200 t 吊×2 台	<u>290</u>			
160～200 未満	油圧伸縮ジブ型 360 t 吊×2 台	<u>305</u>			

(注) 1. 歩掛は、作業半径 10m程度の場合であり、現場条件により積込用トラッククレーンの規格が上表により難しい場合は、別途積算できる。

2. トラッククレーンは賃料とする。

3. 桁小運搬日数は、架設日数に同じとする。

4. 特殊トレーラ

特殊トレーラは見積とする。

ページ

改 正

現 行

P25

6-1-2 トラッククレーン架設工

トラッククレーンによる桁架設に適用する。

なお、トラッククレーンによる架設歩掛及びクレーン規格の選定は、表6-4、6-5を標準とするが、桁の質量、作業半径、クレーン据付条件等を考慮した「架設計画」等により、クレーンの選定を精査すること。

①架設歩掛

表 6-4

トラッククレーンによる P C桁架設歩掛

(架設 1 日当り)

桁 1 本の質量 (t)	1 日当り架設質量 (t / 日)	編成人員 (人 / 日)		
		橋りょう世話役	橋りょう特殊工	普通作業員
35～ 60 未満	150 t	1	8	3
60～100 未満	175 t			
100～160 未満	195 t			
160～200 未満	205 t			

(注) 1. トラッククレーンは賃料とする。
2. 架設日数は日単位とし、端数を切上げる。なお、P C桁が連続している場合（2 連以上）は、架設総質量を 1 日当り架設質量で除して、日単位として端数を切上げる。
3. 製作・架設工程により、運搬・分解・組立が複数回必要な場合は必要回数分計上する。

②トラッククレーン据付位置によるクレーン規格の選定

表 6-5

トラッククレーン据付位置によるクレーン規格選定

クレーン 据付位置	桁 1 本の質量 (t)	トラッククレーン 規格×台数	架設時の据付条件		
			架設高	作業半径	クレーン据付 必 要 幅
① 橋脚背面可能	35～ 60 未満	120 t 吊×2 台	10m程度	10m程度	11m程度
	60～100 未満	160 t 吊×2 台	〃	〃	12m程度
	100～160 未満	200 t 吊×2 台	〃	〃	〃
	160～200 未満	360 t 吊×2 台	〃	〃	〃
② 工事用道路側	35～ 60 未満	160 t 吊×2 台	10m程度	16m程度	12m程度
	60～100 未満	360 t 吊×2 台	〃	18m程度	〃
	100～160 未満	550 t 吊×2 台	〃	〃	16m程度
	160～200 未満	650 t 吊×2 台	〃	〃	〃

(注) 1. トラッククレーンの規格は、現場条件・クレーン据付位置及び桁小運搬時の吊り込み位置等により大きく変わるため、上表により選定したクレーン規格を、「架設計画」等により精査すること。
2. クレーン据付必要幅には、アウトリガー下の補強鉄板幅を含む。
3. 主桁に横座屈防止材の設置が必要な場合には必要な費用を別途計上する。また、補強材を設置する場合には主桁に補強部材重量を加えてクレーン規格を決定する。

6-1-2 トラッククレーン架設工

トラッククレーンによる桁架設に適用する。

なお、トラッククレーンによる架設歩掛及びクレーン規格の選定は、表6-4、6-5を標準とするが、桁の質量、作業半径、クレーン据付条件等を考慮した「架設計画」等により、クレーンの選定を精査すること。

①架設歩掛

表 6-4

トラッククレーンによる P C桁架設歩掛

(架設 1 日当り)

桁 1 本の質量 (t)	1 日当り架設質量 (t / 日)	編成人員 (人 / 日)		
		橋りょう世話役	橋りょう特殊工	普通作業員
35～ 60 未満	225 t	1	8	5
60～100 未満	260 t			
100～160 未満	290 t			
160～200 未満	305 t			

(注) 1. トラッククレーンは賃料とする。
2. 架設日数は日単位とし、端数を切上げる。なお、P C桁が連続している場合（2 連以上）は、架設総質量を 1 日当り架設質量で除して、日単位として端数を切上げる。
3. 製作・架設工程により、運搬・分解・組立が複数回必要な場合は必要回数分計上する。

②トラッククレーン据付位置によるクレーン規格の選定

表 6-5

トラッククレーン据付位置によるクレーン規格選定

クレーン 据付位置	桁 1 本の質量 (t)	トラッククレーン 規格×台数	架設時の据付条件		
			架設高	作業半径	クレーン据付 必 要 幅
① 橋脚背面可能	35～ 60 未満	120 t 吊×2 台	10m程度	10m程度	11m程度
	60～100 未満	160 t 吊×2 台	〃	〃	12m程度
	100～160 未満	200 t 吊×2 台	〃	〃	〃
	160～200 未満	360 t 吊×2 台	〃	〃	〃
② 工事用道路側	35～ 60 未満	160 t 吊×2 台	10m程度	16m程度	12m程度
	60～100 未満	360 t 吊×2 台	〃	18m程度	〃
	100～160 未満	550 t 吊×2 台	〃	〃	16m程度
	160～200 未満	650 t 吊×2 台	〃	〃	〃

(注) 1. トラッククレーンの規格は、現場条件・クレーン据付位置及び桁小運搬時の吊り込み位置等により大きく変わるため、上表により選定したクレーン規格を、「架設計画」等により精査すること。
2. クレーン据付必要幅には、アウトリガー下の補強鉄板幅を含む。
3. 主桁に横座屈防止材の設置が必要な場合には必要な費用を別途計上する。また、補強材を設置する場合には主桁に補強部材重量を加えてクレーン規格を決定する。

ページ

P27

6-2 架設桁による架設

架設桁は1組桁を標準とする。なお、現場の状況により2組桁を使用する場合は、別途積算する。

6-2-1 軌道設備工

主桁引出し用軌道の敷設、撤去作業である。

なお、高架橋上等で主桁製作及び引き出しを行う場合は、養生工（H形鋼・枕木・敷鉄板等）を別途計上すること。

表 6-6 軌道敷設・撤去歩掛（軌道延長 10m 当り）

種 別	橋りょう世話役 <u>(人)</u>	橋りょう特殊工 <u>(人)</u>	普通作業員 <u>(人)</u>	<u>ラフテレーンクレーン</u>
<u>重量 37</u> kg レール	<u>0.4</u>	<u>1.6</u>	<u>0.5</u>	<u>0.35</u>

(注) 1. ラフテレーンクレーンは、油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）最大吊上能力 25 t 吊を標準とするが、現場条件によりこれにより難い場合は、別途考慮する。
2. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。
3. 上表は、主桁引出し用軌道の設置・撤去である。
4. 軌道（重量 37 kg/m）の 100m 設置・撤去所要日数は 3.5 日である。

L = L 1 + L 2（端数は 10m 単位切上げ）
L 1 = $\varnothing + L 3 + 10\text{m}$
L 2 = $\varnothing \times S$
L 3 = [製作台直列数 $\times (\varnothing + 1)$] + [5m $\times$ （製作台直列数 - 1）]
 $\varnothing$ = 桁 長 S = 径間数

6-2 架設桁による架設

架設桁は1組桁を標準とする。なお、現場の状況により2組桁を使用する場合は、別途積算する。

6-2-1 軌道設備工

主桁引出し用軌道の敷設、撤去作業である。

なお、高架橋上等で主桁製作及び引き出しを行う場合は、養生工（H形鋼・枕木・敷鉄板等）を別途計上すること。

表 6-6 軌道敷設・撤去歩掛（軌道延長 10m 当り）

種 別	橋りょう世話役 <u> </u>	橋りょう特殊工 <u> </u>	普通作業員 <u> </u>	<u>記 事</u>
<u>30</u> kg レール	<u>0.6</u>	<u>2.0</u>	<u>0.7</u>	<u> </u>

(注) 1. 上表は、主桁引出し用軌道の設置・撤去である。
2. 軌道（30 kg/m）の 100m 設置・撤去所要日数は 3.5 日である。

L = L 1 + L 2（端数は 10m 単位切上げ）
L 1 = $\varnothing + L 3 + 10\text{m}$
L 2 = $\varnothing \times S$
L 3 = [製作台直列数 $\times (\varnothing + 1)$] + [5m $\times$ （製作台直列数 - 1）]
 $\varnothing$ = 桁 長 S = 径間数

ページ

改 正

P28

6-2-2 架設機械据付・解体
(1) 架設機械据付解体
架設桁の据付、解体、控えワイヤーの取付け、取外し、ウインチの据付解体及び第 1 径間への架設据付け作業である。

表 6-7 架設機械据付・解体歩掛

P C 桁支間長	20m以上 25m未満	25m以上 30m未満	30m以上 35m未満	35m以上 40m未満	40m以上 45mまで	編成人員（人／日）		
						橋りょう 世話役	橋りょう 特殊工	普 通 作業員
据付解体日数（日）	10.5	12	15	17	19.5			
ラフテレーンクレーン 実作業日数（日）	6	7.5	9	10.5	11	1	6	3

(注) 1. ラフテレーンクレーンは、油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（2014 年規制）最大吊上能力 50 t 吊を標準とするが、現場条件によりこれにより難しい場合は、別途考慮する。
2. ラフテレーンクレーンは賃料とする。

(2) 架設機械移動
架設桁を次の支間に移動する場合である。

表 6-8 架設機械移動歩掛（移動 1 回当たり）

支間（m）	20m以上～45m以下	編成人員（人／回）			記 事
移動日数(日)	3.5	橋りょう 世話役	橋りょう 特殊工	普通作業員	
		2	16	9	

(3) アンカー工
アンカー工は、架設設計により計上する。

アンカーを土中に設置する場合は、次表を標準とする

① 歩 掛

表 6-9 アンカー土中設置 1 箇所当り編成人員（1 箇所当り）

職 種	単位	数 量	記 事
橋りょう世話役	人	0.3	
橋りょう特殊工	〃	0.4	
普 通 作 業 員	〃	0.8	

② 材 料

表 6-10 アンカー使用材料（1 箇所当り）

名 称	単位	数 量	記 事
枕木 2.1×0.14×0.2m	本	3.0	全 損
4 号品ワイヤーφ16 mm A 種	m	15	〃

(新設)
アンカーを既設構造物に設置する場合は、次表を標準とする。

表6-11 アンカー既設構造物設置 1 箇所当り編成人員（1 箇所当り）

編成人員（人）			諸雑費率（％）
橋りょう 世話役	橋りょう 特殊工	普通作業員	
0.19	0.52	0.29	46

(注) 諸雑費は、アンカーボルト、固定金具、ワイヤー、復旧のための材料費、電動ハンマドリル及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

現 行

6-2-2 架設機械据付・解体
(1) 架設機械据付解体
架設桁の据付、解体、控えワイヤーの取付け、取外し、ウインチの据付解体及び第 1 径間への架設据付け作業である。

表 6-7 架設機械据付・解体歩掛

P C 桁支間長	20m以上 25m未満	25m以上 30m未満	30m以上 35m未満	35m以上 40m未満	40m以上 45mまで	労務（人／日）		
						橋りょう 世話役	橋りょう 特殊工	普 通 作業員
据付解体日数（日）	9.5	11	13.5	15.5	17.5			
ラフテレーンクレーン 実作業日数（日）	5.5	6.5	8	9.5	10	1	6	3

(注) ラフテレーンクレーンは、排出ガス対策型（第 2 次基準値）油圧伸縮ジブ型 50 t 吊を標準とし、賃料とする。

(2) 架設機械移動
架設桁を次の支間に移動する場合である。

表 6-8 架設機械移動歩掛（移動 1 回当たり）

支間（m）	20m以上～45m以下	編成人員（人／回）			記 事
移動日数(日)	3.5	橋りょう 世話役	橋りょう 特殊工	普通作業員	
		2	16	9	

(3) アンカー工
アンカー工は、架設設計により計上する。なお、アンカーに既設構造物が使用できる場合は、既設構造物に埋設するアンカーフレーム費用（材料費、製作費、復旧費）を別途計上する。
アンカーを土中に設置する場合は、次表を標準とする

① 歩 掛

表 6-9 アンカー設置・撤去歩掛（1 箇所当り）

職 種	単位	数 量	記 事
橋りょう世話役	人	0.3	
橋りょう特殊工	〃	0.4	
普 通 作 業 員	〃	0.8	

② 材 料

表 6-10 アンカー材料（1 箇所当り）

名 称	単位	数 量	記 事
枕木 2.1×0.14×0.2m	本	3.0	全 損
4 号品ワイヤーφ16 mm A 種	m	15	〃

(新設)

ページ	改正	現行																																								
P28 改P29	(前ページから移動) 径間数別アンカー数は下表を標準とする。 表 6-12 径間数別アンカー設置箇所数 <table><tr><th>径間数</th><th>架設機アンカー</th><th>引出し用アンカー</th><th>合 計</th></tr><tr><td>1</td><td>8</td><td>2</td><td>10</td></tr><tr><td>2</td><td>10</td><td>2</td><td>12</td></tr><tr><td>3</td><td>12</td><td>2</td><td>14</td></tr><tr><td>4</td><td>14</td><td>2</td><td>16</td></tr></table> (注) 1径間増す毎に2箇所加算する。	径間数	架設機アンカー	引出し用アンカー	合 計	1	8	2	10	2	10	2	12	3	12	2	14	4	14	2	16	(前ページから移動) ③ 設置箇所数 表 6-11 径間数別アンカー設置箇所数 <table><tr><th>径間数</th><th>架設機アンカー</th><th>引出し用アンカー</th><th>合 計</th></tr><tr><td>1</td><td>8</td><td>2</td><td>10</td></tr><tr><td>2</td><td>10</td><td>2</td><td>12</td></tr><tr><td>3</td><td>12</td><td>2</td><td>14</td></tr><tr><td>4</td><td>14</td><td>2</td><td>16</td></tr></table> (注) 1径間増す毎に2箇所加算する。	径間数	架設機アンカー	引出し用アンカー	合 計	1	8	2	10	2	10	2	12	3	12	2	14	4	14	2	16
径間数	架設機アンカー	引出し用アンカー	合 計																																							
1	8	2	10																																							
2	10	2	12																																							
3	12	2	14																																							
4	14	2	16																																							
径間数	架設機アンカー	引出し用アンカー	合 計																																							
1	8	2	10																																							
2	10	2	12																																							
3	12	2	14																																							
4	14	2	16																																							

ページ

改 正

P29
改P30

4) 架設機械設備
① 1 組桁架設桁設備

1) 架 設 桁

表 6-13 一組架設桁設備の複合損料 (供用日当り)

P C 桁質量(t)		55 以下	64 以下	72 以下	81 以下	90 以下	103 以下	127 以下	142 以下	155 以下
架設桁質量(t)		25	31	38	45	52	63	74	86	97
引出し ローラー	耐力(t)	20	20	20	30	30	40	40	50	50
	使用個数	6	6	6	6	6	6	6	6	6
複合損料(円)		34,300	41,800	50,600	60,900	69,700	87,000	100,800	120,000	133,700

(注) 1. 架設桁の質量には、手延機の質量が含まれている。
2. P C桁のスパン 45mを超える場合は別途架設桁の質量を算定する。
3. 複合損料には、架設桁、手延機、引出しローラー、諸雑費を含む。

2) 1 組桁吊り装置

表 6-14 一組桁用桁吊り装置設備の複合損料 (1 組・供用日当り)

名 称	P C 桁 質 量 (t)			
	30 t 以下	40 t 以下	60 t 以下	80 t 以下
桁吊り門構 kN(t) (電動 1 連式)	定格 147.1×2 基 (15)	定格 196.1×2 基 (20)	定格 294.2×2 基 (30)	定格 392.3×2 基 (40)
桁吊り金具	15 t 用×2 組	20 t 用×2 組	30 t 用×2 組	40 t 用×2 組
電動チェーンブロック	15 t ×2 台	20 t ×2 台	30 t ×2 台	40 t ×2 台
チルホール	1.6 t ×4 台	1.6 t ×4 台	3.0 t ×4 台	3.0 t ×4 台
レバーブロック	1.6 t ×4 台	1.6 t ×4 台	3.2 t ×4 台	3.2 t ×4 台
ターンバックル	耐力 10 t ×12 本	耐力 10 t ×12 本	耐力 15 t ×12 本	耐力 15 t ×12 本
台付ワイヤー	φ 18×6m×12 本	φ 18×6m×12 本	φ 18×6m×12 本	φ 18×6m×12 本
ワイヤーロープ	φ 12×480m	φ 12×580m	φ 16×680m	φ 16×780m
複合損料(円)	45,000	52,200	72,400	90,800

名 称	P C 桁 質 量 (t)			
	100 t 以下	120 t 以下	140 t 以下	160 t 以下
桁吊り門構 kN(t) (電動 1 連式)	定格 490.3×2 基 (50)	定格 588.4×2 基 (60)	定格 686.5×2 基 (70)	定格 784.5×2 基 (80)
桁吊り金具	50 t 用×2 組	60 t 用×2 組	70 t 用×2 組	80 t 用×2 組
電動チェーンブロック	50 t ×2 台	30 t ×4 台	40 t ×4 台	40 t ×4 台
チルホール	3.0 t ×4 台	3.0 t ×4 台	3.0 t ×4 台	3.0 t ×4 台
レバーブロック	6.3 t ×4 台	6.3 t ×4 台	6.3 t ×4 台	6.3 t ×4 台
ターンバックル	耐力 15 t ×12 本	耐力 20 t ×12 本	耐力 20 t ×12 本	耐力 20 t ×12 本
台付ワイヤー	φ 18×6m×12 本	φ 25×6m×12 本	φ 25×6m×12 本	φ 25×6m×12 本
ワイヤーロープ	φ 16×900m	φ 18×940m	φ 18×1,000m	φ 18×1,100m
複合損料(円)	121,400	135,200	166,200	177,400

(注) 1. 桁吊り装置設備は上路式を標準とし、両側 2 基を 1 組とする。(2 基 1 組の複合金額)
2. 架設桁 1 組桁用 (一連式) 設備に用いる桁吊り装置設備は電動式である。
3. 桁吊り装置設備には、電動チェーンブロック、横行台車、桁吊り門構、桁吊り金具、諸雑費を含む。
4. 橋体幅員 10mを超える場合は、横取設備を 1 組追加する。

現 行

4) 架設機械設備
① 1 組桁架設桁設備

1) 架 設 桁

表 6-12 一組架設桁設備の複合損料 (供用日当り)

P C 桁質量(t)		55 以下	64 以下	72 以下	81 以下	90 以下	103 以下	127 以下	142 以下	155 以下
架設桁質量(t)		25	31	38	45	52	63	74	86	97
引出し ローラー	耐力(t)	20	20	20	30	30	40	40	50	50
	使用個数	6	6	6	6	6	6	6	6	6
複合損料(円)		28,400	34,500	41,700	50,300	57,500	72,100	83,400	99,400	110,700

(注) 1. 架設桁の質量には、手延機の質量が含まれている。
2. P C桁のスパン 45mを超える場合は別途架設桁の質量を算定する。
3. 複合損料には、架設桁、手延機、引出しローラー、諸雑費を含む。

2) 1 組桁吊り装置

表 6-13 一組桁用桁吊り装置設備の複合損料 (1 組・供用日当り)

名 称	P C 桁 質 量 (t)			
	30 t 以下	40 t 以下	60 t 以下	80 t 以下
桁吊り門構 kN(t) (電動 1 連式)	定格 147.1×2 基 (15)	定格 196.1×2 基 (20)	定格 294.2×2 基 (30)	定格 392.3×2 基 (40)
桁吊り金具	15 t 用×2 組	20 t 用×2 組	30 t 用×2 組	40 t 用×2 組
電動チェーンブロック	15 t ×2 台	20 t ×2 台	30 t ×2 台	40 t ×2 台
チルホール	1.6 t ×4 台	1.6 t ×4 台	3.0 t ×4 台	3.0 t ×4 台
レバーブロック	1.5 t ×4 台	1.5 t ×4 台	3.0 t ×4 台	3.0 t ×4 台
ターンバックル	耐力 10 t ×12 本	耐力 10 t ×12 本	耐力 15 t ×12 本	耐力 15 t ×12 本
台付ワイヤー	φ 18×6m×12 本	φ 18×6m×12 本	φ 18×6m×12 本	φ 18×6m×12 本
ワイヤーロープ	φ 12×480m	φ 12×580m	φ 16×680m	φ 16×780m
複合損料(円)	35,800	41,600	57,200	71,400

名 称	P C 桁 質 量 (t)			
	100 t 以下	120 t 以下	140 t 以下	160 t 以下
桁吊り門構 kN(t) (電動 1 連式)	定格 490.3×2 基 (50)	定格 588.4×2 基 (60)	定格 686.5×2 基 (70)	定格 784.5×2 基 (80)
桁吊り金具	50 t 用×2 組	60 t 用×2 組	70 t 用×2 組	80 t 用×2 組
電動チェーンブロック	50 t ×2 台	30 t ×4 台	40 t ×4 台	40 t ×4 台
チルホール	3.0 t ×4 台	3.0 t ×4 台	3.0 t ×4 台	3.0 t ×4 台
レバーブロック	5.0 t ×4 台	5.0 t ×4 台	5.0 t ×4 台	5.0 t ×4 台
ターンバックル	耐力 15 t ×12 本	耐力 20 t ×12 本	耐力 20 t ×12 本	耐力 20 t ×12 本
台付ワイヤー	φ 18×6m×12 本	φ 25×6m×12 本	φ 25×6m×12 本	φ 25×6m×12 本
ワイヤーロープ	φ 16×900m	φ 18×940m	φ 18×1,000m	φ 18×1,100m
複合損料(円)	94,000	106,000	129,600	138,800

(注) 1. 桁吊り装置設備は上路式を標準とし、両側 2 基を 1 組とする。(2 基 1 組の複合金額)
2. 架設桁 1 組桁用 (一連式) 設備に用いる桁吊り装置設備は電動式である。
3. 桁吊り装置設備には、電動チェーンブロック、横行台車、桁吊り門構、桁吊り金具、諸雑費を含む。
4. 橋体幅員 10mを超える場合は、横取設備を 1 組追加する。

ページ

改正

P29改P31

② 横 取 設 備

横取設備は次の場合に計上する。

1) 製作台より直接横取仮置する場合。

2) 製作台より軌道上に配置した引出し用重量台車に横取し、縦移動を行った後横取して仮置する場合。

3) 架設するために、上記 1)、2) の仮置場から軌道上に配置した引出し用重量台車に横取する場合。

表 6-15 横取設備複合損料

(1 組・供用日当り)

名 称	P C 桁 質 量 (t)			
	30 t 以下	40 t 以下	60 t 以下	80 t 以下
横取装置 N(t) (P C 橋用)	定格 196.1×2 組 (20)	定格 196.1×2 組 (20)	定格 294.2×2 組 (30)	定格 392.3×2 組 (40)
油圧ジャッキ (複動式)	20 t ×4 台	30 t ×4 台	30 t ×4 台	50 t ×4 台
油圧ジャッキ送り台 (150)	〃	〃	〃	〃
電動油圧ポンプ (2 連動)	1.5 kW×2 台	2.2 kW×2 台	2.2 kW×2 台	2.2 kW×2 台
チルホール	1.6 t ×2 台	1.6 t ×2 台	1.6 t ×2 台	1.6 t ×2 台
レバールロック	1.6 t ×2 台	1.6 t ×2 台	3.2 t ×2 台	3.2 t ×2 台
複合損料 (円)	15,200	18,800	19,600	22,700

名 称	P C 桁 質 量 (t)			
	100 t 以下	120 t 以下	140 t 以下	160 t 以下
横取装置 kN(t) (P C 橋用)	定格 490.3×2 組 (50)	定格 588.4×2 組 (60)	定格 784.5×2 組 (80)	定格 784.5×2 組 (80)
油圧ジャッキ (複動式)	75 t ×4 台	75 t ×4 台	100 t ×4 台	100 t ×4 台
油圧ジャッキ送り台 (150)	〃	〃	〃	〃
電動油圧ポンプ (2 連動)	3.7 kW×2 台	3.7 kW×2 台	3.7 kW×2 台	3.7 kW×2 台
チルホール	3.0 t ×2 台	3.0 t ×2 台	3.0 t ×2 台	3.0 t ×2 台
レバールロック	3.2 t ×2 台	6.3 t ×2 台	6.3 t ×2 台	6.3 t ×2 台
複合損料 (円)	29,500	30,000	32,800	32,800

(注) 1. 横取設備の複合損料には、横取装置、油圧ジャッキ、電動油圧ポンプ、チルホール、レバールロック、小器材を含む。

2. 横取設備の複合損料は、P C 桁両端の 2 箇所で使用する設備を 1 組とする。

3. P C 桁質量が 160 t を超える場合は、別途積算する。

現 行

② 横 取 設 備

横取設備は次の場合に計上する。

1) 製作台より直接横取仮置する場合。

2) 製作台より軌道上に配置した引出し用重量台車に横取し、縦移動を行った後横取して仮置する場合。

3) 架設するために、上記 1)、2) の仮置場から軌道上に配置した引出し用重量台車に横取する場合。

表 6-14 横取設備複合損料

(1 組・供用日当り)

名 称	P C 桁 質 量 (t)			
	30 t 以下	40 t 以下	60 t 以下	80 t 以下
横取装置 N(t) (P C 橋用)	定格 196.1×2 組 (20)	定格 196.1×2 組 (20)	定格 294.2×2 組 (30)	定格 392.3×2 組 (40)
油圧ジャッキ (複動式)	20 t ×4 台	30 t ×4 台	30 t ×4 台	50 t ×4 台
油圧ジャッキ送り台 (150)	〃	〃	〃	〃
電動油圧ポンプ (2 連動)	1.5 kW×2 台	2.2 kW×2 台	2.2 kW×2 台	2.2 kW×2 台
チルホール	1.6 t ×2 台	1.6 t ×2 台	1.6 t ×2 台	1.6 t ×2 台
レバールロック	1.5 t ×2 台	1.5 t ×2 台	3.0 t ×2 台	3.0 t ×2 台
複合損料 (円)	14,200	17,300	18,100	21,000

名 称	P C 桁 質 量 (t)			
	100 t 以下	120 t 以下	140 t 以下	160 t 以下
横取装置 kN(t) (P C 橋用)	定格 490.3×2 組 (50)	定格 588.4×2 組 (60)	定格 784.5×2 組 (80)	定格 784.5×2 組 (80)
油圧ジャッキ (複動式)	75 t ×4 台	75 t ×4 台	100 t ×4 台	100 t ×4 台
油圧ジャッキ送り台 (150)	〃	〃	〃	〃
電動油圧ポンプ (2 連動)	3.7 kW×2 台	3.7 kW×2 台	3.7 kW×2 台	3.7 kW×2 台
チルホール	3.0 t ×2 台	3.0 t ×2 台	3.0 t ×2 台	3.0 t ×2 台
レバールロック	3.0 t ×2 台	5.0 t ×2 台	5.0 t ×2 台	5.0 t ×2 台
複合損料 (円)	27,200	27,700	30,400	30,400

(注) 1. 横取設備の複合損料には、横取装置、油圧ジャッキ、電動油圧ポンプ、チルホール、レバールロック、小器材を含む。

2. 横取設備_____は、P C 桁両端の 2 箇所で使用する設備を 1 組とする。

3. P C 桁質量が 160 t を超える場合は、別途積算する。

ページ

改正

P31
改P32

① 引出し設備

表 6-16 引出し設備複合損料

(1組・供用日当り)

名 称	P C 桁 質 量 (t)			
	30 t 以下	40 t 以下	60 t 以下	80 t 以下
ウインチ (複胴直引)	2 t ×1 台	2 t ×1 台	3 t ×1 台	3 t ×1 台
滑 車	φ 300×2	φ 300×2	φ 400×2	φ 400×2
ワ イ ヤ ー ロ ー プ	φ 16×800m	φ 16×800m	φ 18×800m	φ 18×800m
重量台車 (直線用) kN(t)	147.1×2 台 (15)	196.1×2 台 (20)	294.2×2 台 (30)	392.3×2 台 (40)
複合損料 (円)	21,300	21,700	30,000	30,700

名 称	P C 桁 質 量 (t)			
	100 t 以下	120 t 以下	140 t 以下	160 t 以下
ウインチ (複胴直引)	3 t ×1 台	3 t ×1 台	4 t ×1 台	4 t ×1 台
滑 車	φ 400×2	φ 400×2	φ 400×2	φ 400×2
ワ イ ヤ ー ロ ー プ	φ 18×800m	φ 18×800m	φ 20×800m	φ 20×800m
重量台車 (直線用) kN(t)	588.4×2 台 (60)	588.4×2 台 (60)	784.5×2 台 (80)	784.5×2 台 (80)
複合損料	32,000	32,000	40,800	40,800

(注) 1. 引出し設備の複合損料には、ウインチ、滑車、ワイヤーロープ、重量台車、諸雑費を含む。
2. 引出し距離は 200m以下の設備であり、これを超える場合は別途積算する。
3. P C 桁を運搬途中に方向転換する場合、又は曲線軌道上を引出す場合は回転台、重量台車（全回転型）が必要であり、別途積算する。
4. P C 桁質量が 160 t を超える場合は、別途積算する。
5. 自走式の重量台車を使用する場合は、別途積算する。

(5) 架設機械設備損料

① 架設桁、桁吊り装置、横取設備、引出し設備、軌道設備、架設工具の損料対象供用日数は次による。
供用日数＝（架設日数＋架設桁据付・解体日数＋架設桁移動日数）×1.8
供用日数が、架設時期、地域条件等により上記により難い場合は、別途考慮する。

② 諸雑費
諸雑費は、桁吊り門構移動装置損料、架設工具等の費用及び電力に関する経費等の費用であり、架設機械器具等の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 6-17 諸雑費率

(%)

ポストテンション桁	21
-----------	----

6-2-3 桁架設

表 6-18 1日当り架設質量及び歩掛

P C 桁支間(m)	20m以上 35m未満	35m以上 45m以下	編成人員 (人／日)		
			橋りょう世話役	橋りょう特殊工	普通作業員
1 日当り 架設質量	64 t	84 t	1	6	3

(注) 1. 上表は、桁製作場又は桁仮置場 から横取、台車積込 架設場 まで桁を引出し（約 200m まで）、架設、横取、据付までの一連作業の場合である。
2. 重量台車に積込む方法として横取り装置を標準とするが、地形等の関係で別に門型クレーン、ケーブル等を必要とする場合は、別途考慮する。
3. 桁の現場内小運搬に際し、直線距離 200m までとしているが、桁の方向変え等を行う場合は別途考慮する。

現 行

③ 引出し設備

表 6-15 引出し設備複合損料

(1組・供用日当り)

名 称	P C 桁 質 量 (t)			
	30 t 以下	40 t 以下	60 t 以下	80 t 以下
ウインチ (複胴直引)	2 t ×1 台	2 t ×1 台	3 t ×1 台	3 t ×1 台
滑 車	φ 300×2	φ 300×2	φ 400×2	φ 400×2
ワ イ ヤ ー ロ ー プ	φ 16×800m	φ 16×800m	φ 18×800m	φ 18×800m
重量台車 (直線用) kN(t)	147.1×2 台 (15)	196.1×2 台 (20)	294.2×2 台 (30)	392.3×2 台 (40)
複合損料 (円)	19,200	19,500	26,900	27,400

名 称	P C 桁 質 量 (t)			
	100 t 以下	120 t 以下	140 t 以下	160 t 以下
ウインチ (複胴直引)	3 t ×1 台	3 t ×1 台	4 t ×1 台	4 t ×1 台
滑 車	φ 400×2	φ 400×2	φ 400×2	φ 400×2
ワ イ ヤ ー ロ ー プ	φ 18×800m	φ 18×800m	φ 20×800m	φ 20×800m
重量台車 (直線用) kN(t)	588.4×2 台 (60)	588.4×2 台 (60)	784.5×2 台 (80)	784.5×2 台 (80)
複合損料	28,600	28,600	36,400	36,400

(注) 1. 引出し設備の複合損料には、ウインチ、滑車、ワイヤーロープ、重量台車、諸雑費を含む。
2. 引出し距離は 200m以下の設備であり、これを超える場合は別途積算する。
3. P C 桁を運搬途中に方向転換する場合、又は曲線軌道上を引出す場合は回転台、重量台車（全回転型）が必要であり、別途積算する。
4. P C 桁質量が 160 t を超える場合は、別途積算する。
5. 自走式の重量台車を使用する場合は、別途積算する。

(5) 架設機械設備損料

① 架設桁、桁吊り装置、横取設備、引出し設備、軌道設備、架設工具の損料対象供用日数は次による。
供用日数＝（架設日数＋架設桁据付・解体日数＋架設桁移動日数）×1.8
供用日数が、架設時期、地域条件等により上記により難い場合は、別途考慮する。

② 諸雑費
諸雑費は、架設工具等の費用及び電力に関する経費であり、架設機械器具等の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 6-16 諸雑費率

(%)

ポストテンション桁	11
-----------	----

6-2-3 桁架設

表 6-17 1日当り架設質量及び歩掛

P C 桁支間(m)	20m以上 35m未満	35m以上 45m以下	編成人員 (人／日)		
			橋りょう世話役	橋りょう特殊工	普通作業員
1 日当り 架設質量	64 t	84 t	1	6	3

(注) 桁仮置場等 から横取、台車積込 架設場 まで桁を引出し（約 200m まで）、架設、横取、据付までの一連作業の場合である。

ページ

改正

6-3 単 価 表

(1) トラッククレーンによるPC桁架設 1.0本当り単価表

歩掛コード		S173100		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表6-4
橋 り よ う 特 殊 工		人		〃
普 通 作 業 員		人		〃
トラッククレーン賃料	2台	日		表6-5
合 計				
1本当り		本	10	

(2) 桁小運搬工 1.0本当り単価表

歩掛コード		S173200		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表6-1、6-3
橋 り よ う 特 殊 工		人		〃
普 通 作 業 員		人		〃
特 殊 作 業 員		人		〃
軌 道 設 備 工		m		(4) 単価表
横 取 設 備 損 料		日		(13) 単価表
引 出 設 備 損 料		日		(14) 単価表
軌 道 設 備 損 料		日		(15) 単価表
架 設 工 具 損 料		供用日		
諸 雑 費 率		%		表6-1
トラッククレーン賃料	2台	日		
特 殊 ト レ ー ラ		日		
合 計				
1本当り		本	10	

(3) 架設桁架設工 1.0本当り単価表

歩掛コード		S174100		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表6- <u>18</u>
橋 り よ う 特 殊 工		人		〃
普 通 作 業 員		人		〃
合 計				
1本当り		本	A2	

(注) A2：桁架設本数(全数)

現 行

6-3 単 価 表

(1) _____桁架設 1.0本当り単価表

歩掛コード		S173100		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表6-4
橋 り よ う 特 殊 工		人		〃
普 通 作 業 員		人		〃
トラッククレーン賃料	2台	日		表6-5
合 計				
1本当り		本	10	

(2) 桁小運搬工 1.0本当り単価表

歩掛コード		S173200		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表6-1、6-3
橋 り よ う 特 殊 工		人		〃
普 通 作 業 員		人		〃
特 殊 作 業 員		人		〃
軌 道 設 備 工		m		(4) 単価表
横 取 設 備 損 料		日		(13) 単価表
引 出 設 備 損 料		日		(14) 単価表
軌 道 設 備 損 料		日		(15) 単価表
架 設 工 具 損 料		供用日		
諸 雑 費 率		%		表6-1
トラッククレーン賃料	2台	日		
特 殊 ト レ ー ラ		日		
合 計				
1本当り		本	10	

(3) 架設桁架設工 1.0本当り単価表

歩掛コード		S174100		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表6- <u>17</u>
橋 り よ う 特 殊 工		人		〃
普 通 作 業 員		人		〃
合 計				
1本当り		本	A2	

(注) A2：桁架設本数(全数)

ページ

改正

P33改P34

(4) 軌道設備 1.0m当り単価表

歩掛コード

S174400

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り ょ う 世 話 役		人	<u> </u>	表6-6
橋 り ょ う 特 殊 工		人	<u> </u>	〃
普 通 作 業 員		人	<u> </u>	〃
<u>ラフテレーンクレーン賃料</u>	<u>油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）最大吊上能力25 t 吊</u>	旦		<u> </u>
合 計				
1m当り		m	10	

(5) 架設機材 1.0組当り単価表

歩掛コード

S174600

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
架設機械 <u>据付・</u> 解体		回		(6) 単価表
架 設 機 械 移 動		回		(8) 単価表
ア ン カ ー 工		箇所		(9) 単価表
架設機械設備損料		日		(10) 単価表
合 計				
1組当り		組	1	

(6) 架設機械据付解体 1.0回当り単価表

歩掛コード

S174200

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
架設機械 <u>据付・</u> 解体 労 務 費		日		(7) 単価表
<u>ラフテレーンクレーン賃料</u>	<u>油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（2014年規制）最大吊上能力50 t 吊</u>	日		表6-7
合 計				
1回当り		回	1	

現行

(4) 軌道設備 1.0m当り単価表

歩掛コード

S174400

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り ょ う 世 話 役		人	<u>0.6</u>	表6-6
橋 り ょ う 特 殊 工		人	<u>2.0</u>	〃
普 通 作 業 員		人	<u>0.7</u>	〃
<u> </u>	<u> </u>	<u>—</u>		<u>—</u>
合 計				
1m当り		m	10	

(5) 架設機材 1.0組当り単価表

歩掛コード

S174600

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
架設機械 <u>組立</u> 解体		回		(6) 単価表
架 設 機 械 移 動		回		(8) 単価表
ア ン カ ー 工		箇所		(9) 単価表
架設機械設備損料		日		(10) 単価表
合 計				
1組当り		組	1	

(6) 架設機械据付解体 1.0回当り単価表

歩掛コード

S174200

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
架設機械 <u>組立</u> 解体 労 務 費		日		(7) 単価表
<u>ラフテレーンクレーン賃料</u>	<u> </u> 排出ガス対策型（ <u>第2次基準値</u> ） <u> </u> 50 t 吊	日		表6-7
合 計				
1回当り		回	1	

ページ

改正

(前ページから移動)

(7) 架設機械据付解体[労務費]

1.0日当り単価表

歩掛コード

S174210

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り ょ う 世 話 役		人	<u> </u>	表6-7
橋 り ょ う 特 殊 工		人	<u> </u>	〃
普 通 作 業 員		人	<u> </u>	〃
合 計				
1日当り		日	1	

(8) 架設機械移動

1.0回当り単価表

歩掛コード

S174300

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り ょ う 世 話 役		人	<u> </u>	表6-8
橋 り ょ う 特 殊 工		人	<u> </u>	〃
普 通 作 業 員		人	<u> </u>	〃
合 計				
1回当り		回	1	

(9) アンカー工(土中設置)

1.0箇所当り単価表

歩掛コード

S174500

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り ょ う 世 話 役		人	<u> </u>	表6-9
橋 り ょ う 特 殊 工		人	<u> </u>	〃
普 通 作 業 員		人	<u> </u>	〃
枕 木	2.1×0.14×0.2m	本	<u> </u>	表6-10
ワ イ ヤ ー	4号品ワイヤーφ16mmA種	m	<u> </u>	〃
合 計				
1箇所当り		箇所	1	

(新設)

(10) アンカー工（既設構造物設置）

1.0箇所当り単価表

歩掛コード

S174510

<u>名 称</u>	<u>規 格</u>	<u>単位</u>	<u>数量</u>	<u>摘 要</u>
<u>橋 り ょ う 世 話 役</u>		<u>人</u>		<u>表6-11</u>
<u>橋 り ょ う 特 殊 工</u>		<u>人</u>		<u>〃</u>
<u>普 通 作 業 員</u>		<u>人</u>		<u>〃</u>
<u>諸 雑 費 率</u>		<u>%</u>		<u>〃</u>
<u>合 計</u>				
<u>1箇所当り</u>		<u>箇所</u>	<u>1</u>	

現行

(前ページから移動)

(7) 架設機械据付解体[労務費]

1.0日当り単価表

歩掛コード

S174210

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り ょ う 世 話 役		人	<u>1.0</u>	表6-7
橋 り ょ う 特 殊 工		人	<u>6.0</u>	〃
普 通 作 業 員		人	<u>3.0</u>	〃
合 計				
1日当り		日	1	

(8) 架設桁移動

1.0回当り単価表

歩掛コード

S174300

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り ょ う 世 話 役		人	<u>2.0</u>	表6-8
橋 り ょ う 特 殊 工		人	<u>16.0</u>	〃
普 通 作 業 員		人	<u>9.0</u>	〃
合 計				
1回当り		回	1	

(9) アンカー工

1.0箇所当り単価表

歩掛コード

S174500

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り ょ う 世 話 役		人	<u>0.3</u>	表6-9
橋 り ょ う 特 殊 工		人	<u>0.4</u>	〃
普 通 作 業 員		人	<u>0.8</u>	〃
枕 木	2.1×0.14×0.2m	本	<u>3.0</u>	表6-10
ワ イ ヤ ー	4号品ワイヤーφ16mmA種	m	<u>15.0</u>	〃
合 計				
1箇所当り		箇所	1	

(新設)

ページ

P34-35改P36

(11) 架設機械設備損料 1.0日当り単価表

歩掛コード

S174700

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
架 設 桁 設 備 損 料		供用日	1.0	(12) 単価表
桁吊装置設備損料		供用日	1.0	(13) 単価表
横 取 設 備 損 料		供用日	1.0	(14) 単価表
引 出 設 備 損 料		供用日	1.0	(15) 単価表
軌 道 設 備 損 料		供用日	1.0	(16) 単価表
諸 雑 費	(架設機械器具)×率	%	—	表6-17
合 計				
1日当り		日	1	

(12) 架設桁設備損料 1.0供用日当り単価表

歩掛コード

S174710

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
複 合 損 料		供用日	1.0	
合 計				
1供用日当り		供用日	1	

(13) 桁吊装置設備損料 1.0供用日当り単価表

歩掛コード

S174720

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
複 合 損 料		供用日	1.0	
合 計				
1供用日当り		供用日	1	

(14) 横取設備損料 1.0供用日当り単価表

歩掛コード

S174730

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
複 合 損 料		供用日	1.0	
合 計				
1供用日当り		供用日	1	

現 行

(前ページから移動)

(10) 架設機械設備損料 1.0日当り単価表

歩掛コード

S174700

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
架 設 桁		供用日	1.0	(11) 単価表
桁吊装置		供用日	1.0	(12) 単価表
横 取 設 備		供用日	1.0	(13) 単価表
引 出 設 備		供用日	1.0	(14) 単価表
軌 道 設 備		供用日	1.0	(15) 単価表
諸 雑 費	(架設機械器具)×率	%	11	表6-16
合 計				
1日当り		日	1	

(11) 架設桁損料 1.0供用日当り単価表

歩掛コード

S174710

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
複 合 損 料		供用日	1.0	
合 計				
1供用日当り		供用日	1	

(12) 桁吊装置損料 1.0供用日当り単価表

歩掛コード

S174720

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
複 合 損 料		供用日	1.0	
合 計				
1供用日当り		供用日	1	

(13) 横取設備損料 1.0供用日当り単価表

歩掛コード

S174730

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
複 合 損 料		供用日	1.0	
合 計				
1供用日当り		供用日	1	

ページ	改正	現行
P35 改P37	(15) 引出設備損料 1.0供用日当り単価表	(14) 引出設備損料 1.0供用日当り単価表
	歩掛コード	歩掛コード
	S174740	S174740
(16) 軌道設備損料 1.0供用日当り単価表	(15) 軌道設備損料 1.0供用日当り単価表	
歩掛コード	歩掛コード	
S174750	S174750	

ページ

P41改P43

7. 現場打床版・横組工

主桁架設後の横桁、縦目地、張出部の作業である。
なお、地覆、ダクトは「6-1-4 コンクリート工_____」による。

7-1 床版・横組型枠

(1) 歩 掛

表 7-1 床版・横組型枠組立撤去歩掛

(型枠面積 10 m²当り)

職 種	単位	歩 掛	記 事
土 木 一 般 世 話 役	人	0.5	
型 わ く 工	〃	3.1	
普 通 作 業 員	〃	2.2	
諸 雑 費	%	24	

(注) 諸雑費は型枠材料及び組立材料、電気丸鋸、発動発電機等で労務費に上表の率を乗じた金額を計上する。

(2) 機械経費

表 7-2 機械経費

(型枠面積 10 m²当り)

品 名	規 格	単位	数 量	記 事
ラフテレーンクレーン <u>油圧伸縮ジブ型・</u> 排出ガス対策型 (第2次基準値)	<u>最大吊上能力</u> 25 t 吊	日	0.30	

(注) 1. 型枠材料の吊上げに使用する機械経費である。
2. ラフテレーンクレーンは賃料による。

7-2 鉄筋工

(1) 歩 掛

表 7-3 鉄筋加工・組立歩掛

(設計 1 t 当り)

職 種	単位	歩 掛	記 事
土 木 一 般 世 話 役	人	0.8	
鉄 筋 工	〃	3.8	
普 通 作 業 員	〃	1.7	
諸 雑 費	%	<u>3</u>	

(注) 1. 歩掛は、場内小運搬を含む
2. 諸雑費は、結束線、溶接棒及び電力に関する費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

(2) 材 料

表 7-4 鉄筋割増率

(設計 1 t 当り)

品 名	規格	単位	数量	記 事
鉄 筋		t	1.05	

現 行

7. 現場打床版・横組工

主桁架設後の横桁、縦目地、張出部の作業である。
なお、地覆、ダクトは「_____コンクリート工積算要領」による。

7-1 床版・横組型枠

(1) 歩 掛

表 7-1 床版・横組型枠組立撤去歩掛

(型枠面積 10 m²当り)

職 種	単位	歩 掛	記 事
土 木 一 般 世 話 役	人	0.5	
型 わ く 工	〃	3.1	
普 通 作 業 員	〃	2.2	
諸 雑 費	%	24	

(注) 諸雑費は型枠材料及び組立材料、電気丸鋸、発動発電機等で労務費に上表の率を乗じた金額を計上する。

(2) 機械経費

表 7-2 機械経費

(型枠面積 10 m²当り)

品 名	規 格	単位	数 量	記 事
ラフテレーンクレーン _____ <u>排出ガス対策型</u> (第2次基準値)	<u>25 t 吊</u>	日	0.30	

(注) 1. 型枠材料の吊上げに使用する機械経費である。
2. ラフテレーンクレーンは賃料による。

7-2 鉄筋工

(1) 歩 掛

表 7-3 鉄筋加工・組立歩掛

(設計 1 t 当り)

職 種	単位	歩 掛	記 事
土 木 一 般 世 話 役	人	0.8	
鉄 筋 工	〃	3.8	
普 通 作 業 員	〃	1.7	
諸 雑 費	%	<u>4</u>	

(注) 1. 歩掛は、場内小運搬を含む
2. 諸雑費は、結束線、溶接棒及び電力に関する費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

(2) 材 料

表 7-4 鉄筋割増率

(設計 1 t 当り)

品 名	規格	単位	数量	記 事
鉄 筋		t	1.05	

ページ	改正	現行																																																																														
P42 改P44	7-3 コンクリート工 コンクリート打設は、ポンプ車打設を標準とする。 なお、横桁と張出し部は別打設としそれぞれ1回当り計上する。 (1) 歩掛 <table><caption>表 7-5 コンクリート打設歩掛 (設計 10 m³当り)</caption><tr><th rowspan="2">職種</th><th rowspan="2">単位</th><th colspan="3">打設数量</th><th rowspan="2">記事</th></tr><tr><th>30 m³まで</th><th>40 m³まで</th><th>40 m³超</th></tr><tr><td>土木一般世話役</td><td>人</td><td>0.3</td><td>0.2</td><td>0.2</td><td></td></tr><tr><td>特殊作業員</td><td>〃</td><td>2.5</td><td>2.0</td><td>1.7</td><td></td></tr><tr><td>普通作業員</td><td>〃</td><td>1.9(1.7)</td><td>1.5(1.3)</td><td>1.3(1.1)</td><td></td></tr><tr><td>諸雑費</td><td>%</td><td colspan="3">2.5 (1.0)</td><td></td></tr></table> (注) 1. 上記歩掛は散水養生の場合であり、諸雑費は養生材料で労務費に上表の率を乗じた金額を計上する。 2. 保温養生の場合は() 内数値とし、コンクリート工積算要領により別途加算する。 (2) 材料 ① コンクリートは、レディーミクストコンクリートとする。 ② コンクリート数量は設計数量に割増をするものとし、割増率は4%を標準とする。 (3) 機械経費 ① コンクリートポンプ車の運転時間はコンクリート 10 m³当り 1.5 時間とする。 ② 棒状パイプレータ、発動発電機等 1 連当り 7,900 円とする。 (4)機械の運転経費 <table><caption>表 7-6 機械の運転経費 (運転時間当り)</caption><tr><th>機械名</th><th>規格</th><th>指定事項</th></tr><tr><td>コンクリートポンプ車</td><td><u>トラック架装・</u>ブーム式 <u>圧送能力</u> 55～60 m³/h</td><td>機械損料 1 → コンクリートポンプ車 運転労務数量→ 0.14</td></tr></table>	職種	単位	打設数量			記事	30 m³まで	40 m³まで	40 m³超	土木一般世話役	人	0.3	0.2	0.2		特殊作業員	〃	2.5	2.0	1.7		普通作業員	〃	1.9(1.7)	1.5(1.3)	1.3(1.1)		諸雑費	%	2.5 (1.0)				機械名	規格	指定事項	コンクリートポンプ車	<u>トラック架装・</u> ブーム式 <u>圧送能力</u> 55～60 m³/h	機械損料 1 → コンクリートポンプ車 運転労務数量→ 0.14	7-3 コンクリート工 コンクリート打設は、ポンプ車打設を標準とする。 なお、横桁と張出し部は別打設としそれぞれ1回当り計上する。 (1) 歩掛 <table><caption>表 7-5 コンクリート打設歩掛 (設計 10 m³当り)</caption><tr><th rowspan="2">職種</th><th rowspan="2">単位</th><th colspan="3">打設数量</th><th rowspan="2">記事</th></tr><tr><th>30 m³まで</th><th>40 m³まで</th><th>40 m³超</th></tr><tr><td>土木一般世話役</td><td>人</td><td>0.3</td><td>0.2</td><td>0.2</td><td></td></tr><tr><td>特殊作業員</td><td>〃</td><td>2.5</td><td>2.0</td><td>1.7</td><td></td></tr><tr><td>普通作業員</td><td>〃</td><td>1.9(1.7)</td><td>1.5(1.3)</td><td>1.3(1.1)</td><td></td></tr><tr><td>諸雑費</td><td>%</td><td colspan="3">2.5 (1.0)</td><td></td></tr></table> (注) 1. 上記歩掛は散水養生の場合であり、諸雑費は養生材料で労務費に上表の率を乗じた金額を計上する。 2. 保温養生の場合は() 内数値とし、コンクリート工積算要領により別途加算する。 (2) 材料 ① コンクリートは、レディーミクストコンクリートとする。 ② コンクリート数量は設計数量に割増をするものとし、割増率は4%を標準とする。 (3) 機械経費 ① コンクリートポンプ車の運転時間はコンクリート 10 m³当り 1.5 時間とする。 ② 棒状パイプレータ、発動発電機等 1 連当り 7,900 円とする。 (4)機械の運転経費 <table><caption>表 7-6 機械の運転経費 (運転時間当り)</caption><tr><th>機械名</th><th>規格</th><th>指定事項</th></tr><tr><td>コンクリートポンプ車</td><td><u> </u>ブーム式 <u> </u>55～60 m³/h</td><td>機械損料 1 → コンクリートポンプ車 運転労務数量→ 0.14</td></tr></table>	職種	単位	打設数量			記事	30 m³まで	40 m³まで	40 m³超	土木一般世話役	人	0.3	0.2	0.2		特殊作業員	〃	2.5	2.0	1.7		普通作業員	〃	1.9(1.7)	1.5(1.3)	1.3(1.1)		諸雑費	%	2.5 (1.0)				機械名	規格	指定事項	コンクリートポンプ車	<u> </u> ブーム式 <u> </u> 55～60 m³/h	機械損料 1 → コンクリートポンプ車 運転労務数量→ 0.14
職種	単位			打設数量				記事																																																																								
		30 m³まで	40 m³まで	40 m³超																																																																												
土木一般世話役	人	0.3	0.2	0.2																																																																												
特殊作業員	〃	2.5	2.0	1.7																																																																												
普通作業員	〃	1.9(1.7)	1.5(1.3)	1.3(1.1)																																																																												
諸雑費	%	2.5 (1.0)																																																																														
機械名	規格	指定事項																																																																														
コンクリートポンプ車	<u>トラック架装・</u> ブーム式 <u>圧送能力</u> 55～60 m³/h	機械損料 1 → コンクリートポンプ車 運転労務数量→ 0.14																																																																														
職種	単位	打設数量			記事																																																																											
		30 m³まで	40 m³まで	40 m³超																																																																												
土木一般世話役	人	0.3	0.2	0.2																																																																												
特殊作業員	〃	2.5	2.0	1.7																																																																												
普通作業員	〃	1.9(1.7)	1.5(1.3)	1.3(1.1)																																																																												
諸雑費	%	2.5 (1.0)																																																																														
機械名	規格	指定事項																																																																														
コンクリートポンプ車	<u> </u> ブーム式 <u> </u> 55～60 m³/h	機械損料 1 → コンクリートポンプ車 運転労務数量→ 0.14																																																																														

ページ

改正

7-4 横締めケーブル

横締め作業は、片締めを標準とする。

7-4-1 ケーブル組立工

ケーブルの切断、シースの組立、ケーブルの挿入、整正、グラウト注入歩掛は、次表とする。

(1) 歩 掛

表 7-7 横締めケーブル工歩掛

(ケーブル 100m 当り)

職 種	単位	570kN(60 t) 型(1S21. 8)	ケーブル質量(kg)	記 事
橋りょう世話役	人	0. 7	261	
橋りょう特殊工	〃	3. 3		
普通作業員	〃	1. 9		
諸雑費	%	10		

(注) 1. ケーブル延長は、定着装置内面間の実延長とする。
2. 諸雑費は、シース、グラウト材料電力に関する経費等であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
3. ケーブル質量はロス率 5%を含んだ値である。

7-5 横締め緊張工

定着装置の設置、緊張、モルタルあと埋め作業の歩掛は、次表とする。

(1) 歩 掛

表 7-8 横締め緊張工歩掛

(10 ケーブル 当り)

職 種	単位	570kN(60 t) 型(1S21. 8)	記 事
橋りょう世話役	人	0. 4	
橋りょう特殊工	〃	1. 2	
普通作業員	〃	0. 6	
諸雑费率	%	<u>1</u>	

(注) 1. 緊張は片締めを標準とする。
2. 諸雑費は電力に関する経費等であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

(2) 材 料

表 7-9 定着装置

(ケーブル 1 本 当り)

名 称	単位	570kN(60 t) 型(1S21. 8)	記 事
定着装置 (緊張側)	組	1	
定着装置 (固定側)	〃	1	

7-6 機械器具損料

(1) 横組工

表 7-10 横締め緊張ジャッキ損料

(1 工事 当り)

種 別	名 称	規 格	単位	数量	供用 日数	記 事
緊張工	緊張ジャッキ	570kN(60 t) 型(1S21. 8)	組	1	H	5,460 円／組・供用日

(注) $H = \frac{n}{N} \times K \times 1.7$
K : 1 工事の径間数
n : 1 径間片締め本数
N : 1 日当りの片締め本数
 1 日当りの片締め本数は、シングルストランドシステムの場合 27 本を標準とする。

現 行

7-4 横締めケーブル

横締め作業は、片締めを標準とする。

7-4-1 ケーブル組立工

ケーブルの切断、シースの組立、ケーブルの挿入、整正、グラウト注入歩掛は、次表とする。

(1) 歩 掛

表 7-7 横締めケーブル工歩掛

(ケーブル 100m 当り)

職 種	単位	570kN(60 t) 型(1S21. 8)	ケーブル質量(kg)	記 事
橋りょう世話役	人	0. 7	261	
橋りょう特殊工	〃	3. 3		
普通作業員	〃	1. 9		
諸 雑 費	%	10		

(注) 1. ケーブル延長は、定着装置内面間の実延長とする。
2. 諸雑費は、シース、グラウト材料電力に関する経費等であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
3. ケーブル質量はロス率 5%を含んだ値である。

7-5 横締め緊張工

定着装置の設置、緊張、モルタルあと埋め作業の歩掛は、次表とする。

(1) 歩 掛

表 7-8 横締め緊張工歩掛

(10 ケーブル 当り)

職 種	単位	570kN(60 t) 型(1S21. 8)	記 事
橋りょう世話役	人	0. 4	
橋りょう特殊工	〃	1. 2	
普通作業員	〃	0. 6	
諸 雑 費 率	%	<u>3</u>	

(注) 1. 緊張は片締めを標準とする。
2. 諸雑費は電力に関する経費等であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

(2) 材 料

表 7-9 定着装置

(ケーブル 1 本 当り)

名 称	単位	570kN(60 t) 型(1S21. 8)	記 事
定着装置 (緊張側)	組	1	
定着装置 (固定側)	〃	1	

7-6 機械器具損料

(1) 横組工

表 7-10 横締め緊張ジャッキ損料

(1 工事 当り)

種 別	名 称	規 格	単位	数量	供用 日数	記 事
緊張工	緊張ジャッキ	570kN(60 t) 型(1S21. 8)	組	1	H	5,460 円／組・供用日

(注) $H = \frac{n}{N} \times K \times 1.7$
K : 1 工事の径間数
n : 1 径間片締め本数
N : 1 日当りの片締め本数
N : 1 日当りの片締め本数は、シングルストランドシステムの場合 39 本を標準とする。

ページ	改正	現行																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
P44 改P46	7-7 単 価 表 (1) 鉄筋 1.0 t 当り単価表 <table><tr><td colspan="2">歩掛コード</td><td colspan="3">S175100</td></tr><tr><td>名 称</td><td>規 格</td><td>単位</td><td>数量</td><td>摘 要</td></tr><tr><td>土 木 一 般 世 話 役</td><td></td><td>人</td><td>0.8</td><td>表 7-3</td></tr><tr><td>鉄 筋 工</td><td></td><td>人</td><td>3.8</td><td>〃</td></tr><tr><td>普 通 作 業 員</td><td></td><td>人</td><td>1.7</td><td>〃</td></tr><tr><td>諸 雑 費</td><td>(労務費)×率</td><td>%</td><td>4.0</td><td>〃</td></tr><tr><td>異 形 棒 鋼</td><td></td><td>kg</td><td>1050</td><td>表 7-4</td></tr><tr><td>合 計</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1 t 当り</td><td></td><td>t</td><td>1</td><td></td></tr></table> (2) 床版・横組型枠 1.0 m²当り単価表 <table><tr><td colspan="2">歩掛コード</td><td colspan="3">S175200</td></tr><tr><td>名 称</td><td>規 格</td><td>単位</td><td>数量</td><td>摘 要</td></tr><tr><td>土 木 一 般 世 話 役</td><td></td><td>人</td><td>0.5</td><td>表 7-1</td></tr><tr><td>型 わ く 工</td><td></td><td>人</td><td>3.1</td><td>〃</td></tr><tr><td>普 通 作 業 員</td><td></td><td>人</td><td>2.2</td><td>〃</td></tr><tr><td>ラフテレーンクレーン</td><td>油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値) 最大吊上能力 25 t 吊</td><td>日</td><td>0.3</td><td>表 7-2</td></tr><tr><td>賃 料</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>諸 雑 費</td><td>(労務費)×率</td><td>%</td><td>24.0</td><td>表 7-1</td></tr><tr><td>合 計</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1 m²当り</td><td></td><td>m²</td><td>10</td><td></td></tr></table> (3) コンクリート 1.0 m³当り単価表 <table><tr><td colspan="2">歩掛コード</td><td colspan="3">S175300</td></tr><tr><td>名 称</td><td>規 格</td><td>単位</td><td>数量</td><td>摘 要</td></tr><tr><td>土 木 一 般 世 話 役</td><td></td><td>人</td><td></td><td>表 7-5</td></tr><tr><td>特 殊 作 業 員</td><td></td><td>人</td><td></td><td>〃</td></tr><tr><td>普 通 作 業 員</td><td></td><td>人</td><td></td><td>〃</td></tr><tr><td>生 コ ン ク リ ー ト</td><td></td><td>m³</td><td>10.4</td><td></td></tr><tr><td>コ ン ク リ ー ト ポ ン プ 車 運 転</td><td>トラック架装・ブーム式 圧送能力 55～60 m³/h</td><td>時間</td><td>1.5</td><td></td></tr><tr><td>バイブレーター 発 動 発 電 機</td><td></td><td>連</td><td></td><td></td></tr><tr><td>合 計</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1 m³当り</td><td></td><td>m³</td><td>10</td><td></td></tr></table> (注)1. 生コンクリートについては、設計数量に4%の割増する。 2. 養生を必要とする場合は、別途計上すること。	歩掛コード		S175100			名 称	規 格	単位	数量	摘 要	土 木 一 般 世 話 役		人	0.8	表 7-3	鉄 筋 工		人	3.8	〃	普 通 作 業 員		人	1.7	〃	諸 雑 費	(労務費)×率	%	4.0	〃	異 形 棒 鋼		kg	1050	表 7-4	合 計					1 t 当り		t	1		歩掛コード		S175200			名 称	規 格	単位	数量	摘 要	土 木 一 般 世 話 役		人	0.5	表 7-1	型 わ く 工		人	3.1	〃	普 通 作 業 員		人	2.2	〃	ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値) 最大吊上能力 25 t 吊	日	0.3	表 7-2	賃 料					諸 雑 費	(労務費)×率	%	24.0	表 7-1	合 計					1 m ² 当り		m ²	10		歩掛コード		S175300			名 称	規 格	単位	数量	摘 要	土 木 一 般 世 話 役		人		表 7-5	特 殊 作 業 員		人		〃	普 通 作 業 員		人		〃	生 コ ン ク リ ー ト		m ³	10.4		コ ン ク リ ー ト ポ ン プ 車 運 転	トラック架装・ブーム式 圧送能力 55～60 m ³ /h	時間	1.5		バイブレーター 発 動 発 電 機		連			合 計					1 m ³ 当り		m ³	10		7-7 単 価 表 (1) 鉄筋 1.0 t 当り単価表 <table><tr><td colspan="2">歩掛コード</td><td colspan="3">S175100</td></tr><tr><td>名 称</td><td>規 格</td><td>単位</td><td>数量</td><td>摘 要</td></tr><tr><td>土 木 一 般 世 話 役</td><td></td><td>人</td><td>0.8</td><td>表 7-3</td></tr><tr><td>鉄 筋 工</td><td></td><td>人</td><td>3.8</td><td>〃</td></tr><tr><td>普 通 作 業 員</td><td></td><td>人</td><td>1.7</td><td>〃</td></tr><tr><td>諸 雑 費</td><td>(労務費)×率</td><td>%</td><td>4.0</td><td>〃</td></tr><tr><td>異 形 棒 鋼</td><td></td><td>kg</td><td>1050</td><td>表 7-4</td></tr><tr><td>合 計</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1 t 当り</td><td></td><td>t</td><td>1</td><td></td></tr></table> (2) 床版・横組型枠 1.0 m²当り単価表 <table><tr><td colspan="2">歩掛コード</td><td colspan="3">S175200</td></tr><tr><td>名 称</td><td>規 格</td><td>単位</td><td>数量</td><td>摘 要</td></tr><tr><td>土 木 一 般 世 話 役</td><td></td><td>人</td><td>0.5</td><td>表 7-1</td></tr><tr><td>型 わ く 工</td><td></td><td>人</td><td>3.1</td><td>〃</td></tr><tr><td>普 通 作 業 員</td><td></td><td>人</td><td>2.2</td><td>〃</td></tr><tr><td>ラフテレーンクレーン</td><td>排出ガス対策型(第2次基準値) 25 t 吊</td><td>日</td><td>0.3</td><td>表 7-2</td></tr><tr><td>賃 料</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>諸 雑 費</td><td>(労務費)×率</td><td>%</td><td>24.0</td><td>表 7-1</td></tr><tr><td>合 計</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1 m²当り</td><td></td><td>m²</td><td>10</td><td></td></tr></table> (3) コンクリート 1.0 m³当り単価表 <table><tr><td colspan="2">歩掛コード</td><td colspan="3">S175300</td></tr><tr><td>名 称</td><td>規 格</td><td>単位</td><td>数量</td><td>摘 要</td></tr><tr><td>土 木 一 般 世 話 役</td><td></td><td>人</td><td></td><td>表 7-5</td></tr><tr><td>特 殊 作 業 員</td><td></td><td>人</td><td></td><td>〃</td></tr><tr><td>普 通 作 業 員</td><td></td><td>人</td><td></td><td>〃</td></tr><tr><td>生 コ ン ク リ ー ト</td><td></td><td>m³</td><td>10.4</td><td></td></tr><tr><td>コ ン ク リ ー ト ポ ン プ 車 運 転</td><td>ブーム式 55～60 m³/h</td><td>時間</td><td>1.5</td><td></td></tr><tr><td>バイブレーター 発 動 発 電 機</td><td></td><td>連</td><td></td><td></td></tr><tr><td>合 計</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1 m³当り</td><td></td><td>m³</td><td>10</td><td></td></tr></table> (注)1. 生コンクリートについては、設計数量に4%の割増する。 2. 養生を必要とする場合は、別途計上すること。	歩掛コード		S175100			名 称	規 格	単位	数量	摘 要	土 木 一 般 世 話 役		人	0.8	表 7-3	鉄 筋 工		人	3.8	〃	普 通 作 業 員		人	1.7	〃	諸 雑 費	(労務費)×率	%	4.0	〃	異 形 棒 鋼		kg	1050	表 7-4	合 計					1 t 当り		t	1		歩掛コード		S175200			名 称	規 格	単位	数量	摘 要	土 木 一 般 世 話 役		人	0.5	表 7-1	型 わ く 工		人	3.1	〃	普 通 作 業 員		人	2.2	〃	ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型(第2次基準値) 25 t 吊	日	0.3	表 7-2	賃 料					諸 雑 費	(労務費)×率	%	24.0	表 7-1	合 計					1 m ² 当り		m ²	10		歩掛コード		S175300			名 称	規 格	単位	数量	摘 要	土 木 一 般 世 話 役		人		表 7-5	特 殊 作 業 員		人		〃	普 通 作 業 員		人		〃	生 コ ン ク リ ー ト		m ³	10.4		コ ン ク リ ー ト ポ ン プ 車 運 転	ブーム式 55～60 m ³ /h	時間	1.5		バイブレーター 発 動 発 電 機		連			合 計					1 m ³ 当り		m ³	10	
歩掛コード		S175100																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要																																																																																																																																																																																																																																																																																																
土 木 一 般 世 話 役		人	0.8	表 7-3																																																																																																																																																																																																																																																																																																
鉄 筋 工		人	3.8	〃																																																																																																																																																																																																																																																																																																
普 通 作 業 員		人	1.7	〃																																																																																																																																																																																																																																																																																																
諸 雑 費	(労務費)×率	%	4.0	〃																																																																																																																																																																																																																																																																																																
異 形 棒 鋼		kg	1050	表 7-4																																																																																																																																																																																																																																																																																																
合 計																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
1 t 当り		t	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
歩掛コード		S175200																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要																																																																																																																																																																																																																																																																																																
土 木 一 般 世 話 役		人	0.5	表 7-1																																																																																																																																																																																																																																																																																																
型 わ く 工		人	3.1	〃																																																																																																																																																																																																																																																																																																
普 通 作 業 員		人	2.2	〃																																																																																																																																																																																																																																																																																																
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値) 最大吊上能力 25 t 吊	日	0.3	表 7-2																																																																																																																																																																																																																																																																																																
賃 料																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
諸 雑 費	(労務費)×率	%	24.0	表 7-1																																																																																																																																																																																																																																																																																																
合 計																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
1 m ² 当り		m ²	10																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
歩掛コード		S175300																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要																																																																																																																																																																																																																																																																																																
土 木 一 般 世 話 役		人		表 7-5																																																																																																																																																																																																																																																																																																
特 殊 作 業 員		人		〃																																																																																																																																																																																																																																																																																																
普 通 作 業 員		人		〃																																																																																																																																																																																																																																																																																																
生 コ ン ク リ ー ト		m ³	10.4																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
コ ン ク リ ー ト ポ ン プ 車 運 転	トラック架装・ブーム式 圧送能力 55～60 m ³ /h	時間	1.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
バイブレーター 発 動 発 電 機		連																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
合 計																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
1 m ³ 当り		m ³	10																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
歩掛コード		S175100																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要																																																																																																																																																																																																																																																																																																
土 木 一 般 世 話 役		人	0.8	表 7-3																																																																																																																																																																																																																																																																																																
鉄 筋 工		人	3.8	〃																																																																																																																																																																																																																																																																																																
普 通 作 業 員		人	1.7	〃																																																																																																																																																																																																																																																																																																
諸 雑 費	(労務費)×率	%	4.0	〃																																																																																																																																																																																																																																																																																																
異 形 棒 鋼		kg	1050	表 7-4																																																																																																																																																																																																																																																																																																
合 計																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
1 t 当り		t	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
歩掛コード		S175200																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要																																																																																																																																																																																																																																																																																																
土 木 一 般 世 話 役		人	0.5	表 7-1																																																																																																																																																																																																																																																																																																
型 わ く 工		人	3.1	〃																																																																																																																																																																																																																																																																																																
普 通 作 業 員		人	2.2	〃																																																																																																																																																																																																																																																																																																
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型(第2次基準値) 25 t 吊	日	0.3	表 7-2																																																																																																																																																																																																																																																																																																
賃 料																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
諸 雑 費	(労務費)×率	%	24.0	表 7-1																																																																																																																																																																																																																																																																																																
合 計																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
1 m ² 当り		m ²	10																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
歩掛コード		S175300																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要																																																																																																																																																																																																																																																																																																
土 木 一 般 世 話 役		人		表 7-5																																																																																																																																																																																																																																																																																																
特 殊 作 業 員		人		〃																																																																																																																																																																																																																																																																																																
普 通 作 業 員		人		〃																																																																																																																																																																																																																																																																																																
生 コ ン ク リ ー ト		m ³	10.4																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
コ ン ク リ ー ト ポ ン プ 車 運 転	ブーム式 55～60 m ³ /h	時間	1.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
バイブレーター 発 動 発 電 機		連																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
合 計																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
1 m ³ 当り		m ³	10																																																																																																																																																																																																																																																																																																	

ページ

改正

現行

P47
改P49

8. 支承工

8-1 ゴム支承工

(1) 据付歩掛

表 8-1 ゴム支承据付歩掛

職 種	1 日当り 編成(人)	単位	施工量 (1 日当り)			記 事
			ゴム沓	鋼角ストッパー		
				500 kg未満	500 kg以上	
橋りょう世話役	1	個	4.0	2.0	1.5	
橋りょう特殊工	2					
普 通 作 業 員	2					

(注) 1. ゴム沓据付労務歩掛には、台座モルタル（無収縮材）てん充、メッシュ筋の据付を含む。
2. 鋼角ストッパー据付労務歩掛には、無収縮モルタルのてん充を含む。

(2) 無収縮モルタル

表 8-2 無収縮モルタル数量 (1 m³当り)

名 称	規 格	単位	数 量	記 事
無 収 縮 材	セメント系プレミックスタイプ	kg	1,875	ロスを含む。

(3) 機械経費

表 8-3 ゴム沓クレーン経費 (ゴム沓 1 日当り)

名 称	規 格	単位	数量	記 事
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ <u>排出ガス対策型</u> （第 <u>3</u> 次基準値） <u>最大吊上能力 25t 吊</u>	個	4.0	賃料

表 8-4 鋼角ストッパークレーン経費 (鋼角ストッパー 1 日当り)

名 称	規 格	単位	重量	数量	記 事
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ <u>排出ガス対策型</u> （第 <u>3</u> 次基準値） <u>最大吊上能力 25t 吊</u>	個	500 kg未満	2.0	賃料
			500 kg以上	1.5	

(4) 鋼角ストッパー内コンクリート打設
鋼角ストッパー内コンクリート打設は、「6-1-4 コンクリート 工 4-2 コンクリート打設 小型構造物」を適用し計上する。

8. 支承工

8-1 ゴム支承工

(1) 据付歩掛

表 8-1 ゴム支承据付歩掛

職 種	1 日当り 編成(人)	単位	施工量 (1 日当り)			記 事
			ゴム沓	鋼角ストッパー		
				500 kg未満	500 kg以上	
橋りょう世話役	1	個	4.0	2.0	1.5	
橋りょう特殊工	2					
普 通 作 業 員	2					

(注) 1. ゴム沓据付労務歩掛には、台座モルタル（無収縮材）てん充、メッシュ筋の据付を含む。
2. 鋼角ストッパー据付労務歩掛には、無収縮モルタルのてん充を含む。

(2) 無収縮モルタル

表 8-2 無収縮モルタル数量 (1 m³当り)

名 称	規 格	単位	数 量	記 事
無 収 縮 材	セメント系プレミックスタイプ	kg	1,875	ロスを含む。

(3) 機械経費

表 8-3 ゴム沓クレーン経費 (ゴム沓 1 日当り)

名 称	規 格	単位	数量	記 事
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型 <u>25 t 吊排出ガス対策型</u> （第 <u>2</u> 次基準値）	個	4.0	賃料

表 8-4 鋼角ストッパークレーン経費 (鋼角ストッパー 1 日当り)

名 称	規 格	単位	重量	数量	記 事
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型 <u>25 t 吊</u> 排出ガス対策型（第 <u>2</u> 次基準値）	個	500 kg未満	2.0	賃料
			500 kg以上	1.5	

(4) 鋼角ストッパー内コンクリート打設
鋼角ストッパー内コンクリート打設は、「 コンクリート 要領 コンクリート打設 小型構造物」を適用し計上する。

ページ

改正

P48改P50

8-2 単 価 表

(1) 支承設置 1.0 個当り単価表

歩掛コード		S172100		
-------	--	---------	--	--

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人	—	表 8-1
橋 り よ う 特 殊 工		人	—	〃
普 通 作 業 員		人	—	〃
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第 3 次基準 値) <u>最大吊上能力 25t 吊</u>	日	—	表 8-3、8-4
賃 料				
合 計				
1 個当り		個	N	

(注) N：日当り施工量

(2) 支承材料費 1.0 個当り単価表

歩掛コード		S172200		
-------	--	---------	--	--

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
ゴ ム 支 承		m ²		
鋼 角 ス ト ッ パ ー		個	1.0	
無 収 縮 モ ル タ ル		m ³		単価表(3)
合 計				
1 個 当 り		個	1	

(3) 無収縮モルタル 1.0 m³当り単価表

歩掛コード		S230151		
-------	--	---------	--	--

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
無 収 縮 材	プレミックスタイプ	kg	1875	
合 計				
1 m ³ 当り		m ³	1	

(注) 無収縮材数量は、ロスを含む。

現 行

8-2 単 価 表

(1) 支承設置 1.0 個当り単価表

歩掛コード		S172100		
-------	--	---------	--	--

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人	<u>1.0</u>	表 8-1
橋 り よ う 特 殊 工		人	<u>2.0</u>	〃
普 通 作 業 員		人	<u>2.0</u>	〃
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型 <u>25 t 吊</u> 排出ガス対策型(第 <u>2</u> 次基準 値) <u></u>	日	<u>1.0</u>	表 8-3、8-4
賃 料				
合 計				
1 個当り		個	N	

(注) N：日当り施工量

(2) 支承材料費 1.0 個当り単価表

歩掛コード		S172200		
-------	--	---------	--	--

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
ゴ ム 支 承		m ²		
鋼 角 ス ト ッ パ ー		個	1.0	
無 収 縮 モ ル タ ル		m ³		単価表(3)
合 計				
1 個 当 り		個	1	

(3) 無収縮モルタル 1.0 m³当り単価表

歩掛コード		S230151		
-------	--	---------	--	--

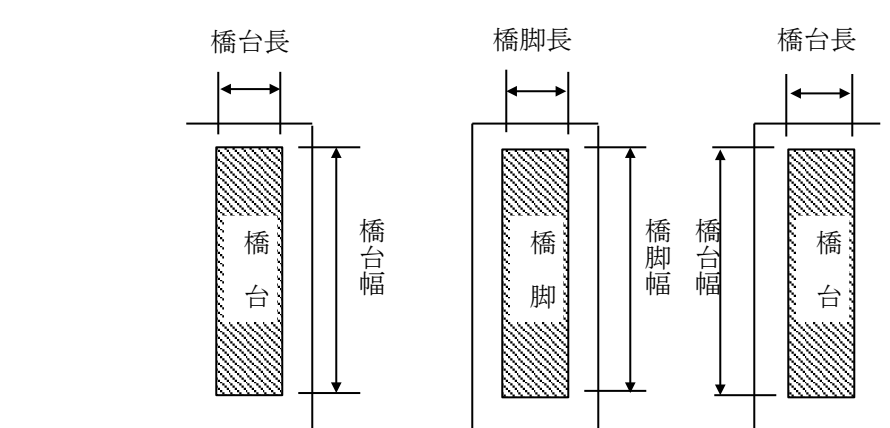
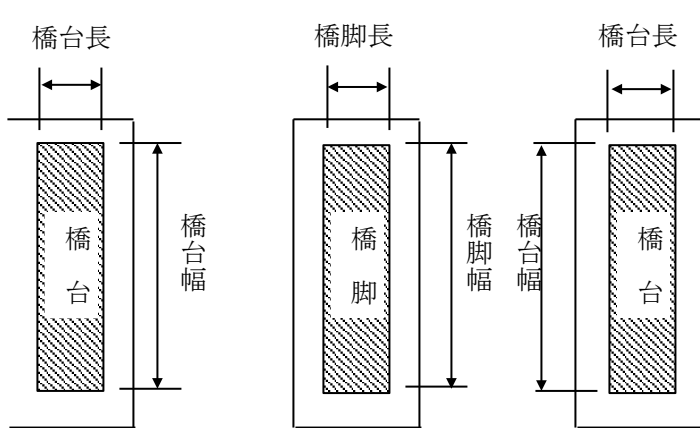
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
無 収 縮 材	プレミックスタイプ	kg	1875	
合 計				
1 m ³ 当り		m ³	1	

(注) 無収縮材数量は、ロスを含む。

ページ

<

ページ	改正	現行
P50 改P53	③ 橋台・橋脚足回り足場ブラケット工 橋台・橋脚足回り足場ブラケット工の足場工費は、次式による。 足場工費＝<u>$((12.68 \times \alpha) + (4.76 \times \beta) X + 0.41 y)$</u> × L (円) <u>$\alpha$：主要部材の基本料（合板足場板 0.24m×4m 1枚、足場パイプ φ48.6×1m 1本）</u> <u>β：主要部材の月当り賃料（合板足場板 0.24m×4m 1枚、足場パイプ φ48.6×1m 1本）</u> X：足場<u>ブラケットを供用している</u>月数（円） _____ y：橋りょう特殊工単価（円／人） L：足場総延長（m） 足場総延長は次式による。 1 橋脚当り足場総延長（m）＝（橋脚幅+橋脚長）×2 1 橋台当り足場総延長（m）＝<u>橋台幅+橋台長</u>×2 <u>（注）yの前数値は、橋りょう世話役及び橋りょう特殊工の換算値である。</u>	③ 橋台・橋脚足回り足場ブラケット工 橋台・橋脚足回り足場ブラケット工の足場工費は、次式による。 足場工費＝<u>$(1,600+900 X + 0.38 y)$</u> × L (円) _____ _____ X：足場<u>を架設している</u>月数（円） <u>足場ブラケットの設置月数は、2箇月を標準とする。</u> y：橋りょう特殊工単価（円／人） L：足場総延長（m） 足場総延長は次式による。 1 橋脚当り足場総延長（m）＝（橋脚幅+橋脚長）×2 1 橋台当り足場総延長（m）＝<u>（橋台幅+橋台長）</u>×2 _____

ページ	改 正	現 行
P51 改P53-54	橋台・橋脚回り足場ブラケットの算出  参 考 図 (2) 防護工 ① 板張防護工 桁下に鉄道、道路等があり、第 3 者に危害を及ぼす恐れのある場合に設置し、(1) ①桁下足場工費に加算する。 なお、工費には、側面防護（朝顔）の費用も含む。 防護工費（両側朝顔）＝$\frac{((0.36 \times \alpha) + (0.49 \times \beta) X + 0.06 y)}{A} \times A$ 防護工費（片側朝顔）＝$\frac{((0.28 \times \alpha) + (0.37 \times \beta) X + 0.05 y)}{A} \times A$ α：主要部材の基本料（合板足場板 0.24m×4m 1 枚、足場パイプ φ48.6×1m 1 本、足場チェーン φ6×4m 1 本） β：主要部材の月当り賃料合板足場板 0.24m×4m 1 枚、足場パイプ φ48.6×1m 1 本、足場チェーン φ6×4m 1 本） X：防護部を供用している月数（月） y：橋りょう特殊工単価（円／人） A：防護工必要面積（㎡） A(㎡)＝W×L W：全幅員で地覆外縁間距離、壁高欄の場合は壁高欄外縁間距離とする。（m） L：防護工必要長（m） (注) yの前数値は、橋りょう世話役及び橋りょう特殊工の換算値である。 9-2 登り栈橋工 登り栈橋工は、「6-2-9 鋼橋架設」による。	橋台・橋脚回り足場ブラケットの算出  参 考 図 (2) 防護工 ① 板張防護工 桁下に鉄道、道路等があり、第 3 者に危害を及ぼす恐れのある場合に設置し、(1) ①桁下足場工費に加算する。 なお、工費には、側面防護（朝顔）の費用も含む。 防護工費（両側朝顔）＝$\frac{(70+110X+0.05 y)}{A} \times A$ 防護工費（片側朝顔）＝$\frac{(65+100X+0.04 y)}{A} \times A$ X：防護工設置月数であり、足場架設月数と同じとする。（月） y：橋りょう特殊工単価（円／人） A：防護工必要面積（㎡） A＝W×L W：全幅員で地覆外縁間距離、壁高欄の場合は壁高欄外縁間距離とする。（m） L：防護工必要長（m） 9-2 登り栈橋工 登り栈橋工は、「鋼橋架設積算要領」による。

ページ

改

正

P4

5. 箱 桁

5-1 鉄筋工

主桁の鉄筋の加工・組立歩掛は次表を標準とする。なお、地覆、ダクトは「6-1-4 コンクリート工 〓 〓 〓」による。

(1) 歩掛

表 5-1 鉄筋加工・組立歩掛 (設計 1 t 当り)

種 別	名 称	単 位	数 量	記 事
加 工 組 立	土木一般世話役	人	0.5	
	鉄 筋 工	〃	4.5	
	と び 工	〃	0.1	
	普 通 作 業 員	〃	2.6	

(2) 材 料

鉄筋数量は、設計数量に割増をするものとし、切断ロス等を考慮して割増率は 5% を標準とする。

(3) 諸雑費

労務費、材料費の合計額に 7% を乗じた金額を上限として計上する。

(注) 結束線、スパーサ、溶接棒、切断機損料、加工機損料、電気溶接機損料、鉄筋吊込用クレーン運転費及び電力に関する経費等である。

5-2 コンクリート工

コンクリート 10m3 当りの型枠（R付含む）の製作・設置・撤去、コンクリート打設、表面仕上、養生、箱内部支保設置・撤去の歩掛は、次表を標準とする。

ただし、次表は早強セメントを使用した場合の施工歩掛である。

なお、次表には型枠等の資材吊込を含む。

(1) 歩 掛

表 5-2 コンクリート工歩掛 (コンクリート 10 m³当り)

種 別	名 称	単 位	歩 掛	記 事
型 枠 コンクリート打 設 養 生	土木一般世話役	人	1.6	
	型 わ く 工	〃	10.0	
	と び 工	〃	0.4	
	特 殊 作 業 員	〃	1.4	
	普 通 作 業 員	〃	8.6	

(2) 材 料

コンクリート数量は設計数量に割増をするものとし、2%とする。

(3) 諸雑費

労務費、材料費、機械損料及び運転経費の合計額に 12%（10%） を乗じた金額を上限として計上する。

(注) 型枠用資材、箱内部支保用仮設材損料、コンクリート養生材、鋸損料、ドリル損料、コンクリートパイププレート損料、散水機損料、資材吊込用クレーン運転費及び電力に関する経費等である。

なお、養生は、養生材の被覆、散水養生、被膜養生程度のものであり、給熱養生等の特別な養生を必要とする場合の諸雑費率は、 〓 （ ） 内の値として、養生費を別途計上する。

現 行

5. 箱 桁

5-1 鉄筋工

主桁の鉄筋の加工・組立歩掛は次表を標準とする。なお、地覆、ダクトは「 〓 〓 〓 コンクリート工積算要領」による。

(1) 歩掛

表 5-1 鉄筋加工・組立歩掛 (設計 1 t 当り)

種 別	名 称	単 位	数 量	記 事
加 工 組 立	土木一般世話役	人	0.5	
	鉄 筋 工	〃	4.5	
	と び 工	〃	0.1	
	普 通 作 業 員	〃	2.6	

(2) 材 料

鉄筋数量は、設計数量に割増をするものとし、切断ロス等を考慮して割増率は 5% を標準とする。

(3) 諸雑費

労務費、材料費の合計額に 7% を乗じた金額を上限として計上する。

(注) 結束線、スパーサ、溶接棒、切断機損料、加工機損料、電気溶接機損料、鉄筋吊込用クレーン運転費及び電力に関する経費等である。

5-2 コンクリート工

コンクリート 10m3 当りの型枠（R付含む）の製作・設置・撤去、コンクリート打設、表面仕上、養生、箱内部支保設置・撤去の歩掛は、次表を標準とする。ただし、次表は早強セメントを使用した場合の施工歩掛である。

なお、次表には型枠等の資材吊込を含む。

(1) 歩 掛

表 5-2 コンクリート工歩掛 (コンクリート 10 m³当り)

種 別	名 称	単 位	歩 掛	記 事
型 枠 コンクリート打 設 養 生	土木一般世話役	人	1.6	
	型 わ く 工	〃	10.0	
	と び 工	〃	0.4	
	特 殊 作 業 員	〃	1.4	
	普 通 作 業 員	〃	8.6	

(2) 材 料

コンクリート数量は設計数量に割増をするものとし、2%とする。

(3) 諸雑費

労務費、材料費、機械損料及び運転経費の合計額に 12%（10%） を乗じた金額を上限として計上する。

(注) 型枠用資材、箱内部支保用仮設材損料、コンクリート養生材、鋸損料、ドリル損料、コンクリートパイププレート損料、散水機損料、資材吊込用クレーン運転費及び電力に関する経費等である。

なお、養生は、養生材の被覆、散水養生、被膜養生程度のものであり、吸熱養生等の特別な養生を必要とする場合の諸雑費率は、 〓 （ ） 内の値として、養生費を別途計上する。

ページ

改正

P5

(4) 機械経費

ポンプ車機械経費は次による。

表 5-3 コンクリートポンプ車機械経費 (設計 10 m³当り)

名称	規格	単位	数量	適用
コンクリートポンプ車運転	トラック架装・ブーム式 圧送能力 90～110 m ³ きじゅんき／h	日	0.06	

(5) ダクト、地覆、壁高欄

「6-1-4 コンクリート工」による。

5-3 PCケーブル工

PCケーブル及びシースの切断・組立・シース内へのグラウト材注入作業の歩掛は、次表を標準とする。

5-3-1 縦締ケーブル工

表 5-4 縦締ケーブル工歩掛 (ケーブル 100m当り)

ケーブル規格		マルチストランドシステム			記事
		1,900kN (195 t) 型 12S12.4A	2,200kN (225 t) 型 12S12.7B	3,200kN (320 t) 型 12S15.2B	
シース規格		φ 65 mm			
名称	単位	数量			
橋りょう世話役	人	1.6	1.7	2.3	
橋りょう特殊工	〃	7.6	8.1	10.8	
普通作業員	〃	5.3	5.7	7.6	
とび工	〃	0.1	0.1	0.2	
PC鋼材	kg	910	966	1,374	(注)1
諸雑费率	%	13	12	11	(注)2

(注) 1. PCケーブルの切断ロス、つかみ代等のロス率は、+0.04 として上表に含めておりスクラップ控除はしない。

2. 諸雑費は、シース、シース組立筋、ビニルテープ、ビニルホース、グラウト材、電気溶接機損料、切断機器損料、挿入機器損料、グラウトミキサ損料、グラウトポンプ損料、資材吊込用クレーン運転費及び電力に関する経費等の費用であり、労務費、材料費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

現行

(4) 機械経費

ポンプ車機械経費は次による。

表 5-3 コンクリートポンプ車機械経費 (設計 10 m³当り)

名称	規格	単位	数量	適用
コンクリートポンプ車運転	ブーム式 90～110 m ³ ／h	日	0.06	

(5) ダクト、地覆、壁高欄

「コンクリート工積算要領」による。

5-3 PCケーブル工

PCケーブル及びシースの切断・組立・シース内へのグラウト材注入作業の歩掛は、次表を標準とする。

5-3-1 縦締ケーブル工

表 5-4 縦締ケーブル工歩掛 (ケーブル 100m当り)

ケーブル規格		マルチストランドシステム			記事
		1,900kN (195 t) 型 12S12.4A	2,200kN (225 t) 型 12S12.7B	3,200kN (320 t) 型 12S15.2B	
シース規格		φ 65 mm			
名称	単位	数量			
橋りょう世話役	人	1.6	1.7	2.3	
橋りょう特殊工	〃	7.6	8.1	10.8	
普通作業員	〃	5.3	5.7	7.6	
とび工	〃	0.1	0.1	0.2	
PC鋼材	kg	910	966	1,374	(注)1
諸雑费率	%	13	12	11	(注)2

(注) 1. PCケーブルの切断ロス、つかみ代等のロス率は、+0.04 として上表に含めてありスクラップ控除はしない。

2. 諸雑費は、シース、シース組立筋、ビニルテープ、ビニルホース、グラウト材、電気溶接機損料、切断機器損料、挿入機器損料、グラウトミキサ損料、グラウトポンプ損料、資材吊込み用クレーン運転費及び電力に関する経費等の費用であり、労務費、材料費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

ページ

改正

現行

P6

5-3-2 横締ケーブル工

表 5-5 横締ケーブル工歩掛 (ケーブル 100m 当り)

ケーブル規格		シングルストランドシステム		バーシステム		記事
		450kN (50 t) 型 1S19.3	570kN (60 t) 型 1S21.8	φ 26 1B26A 1B26B	φ 32 1B32A 1B32B	
シース規格		φ 28 mm	φ 35 mm	φ 32 mm	φ 38 mm	
名 称	単 位	数 量		数 量		
橋 り よ う 世 話 役	人	0.7		0.8	0.9	
橋 り よ う 特 殊 工	〃	3.4		3.9	4.6	
普 通 作 業 員	〃	2.4		2.8	3.2	
と び 工	〃	0.1		0.1	0.1	
P C 鋼 材	kg	201	258	434	656	(注)1
諸 雑 費	%	16		12	11	(注)2

(注) 1. PCケーブルの切断ロス、つかみ代等のロス率は、+0.04 として上表に含めて**お**りスクラップ控除はしない。

2. 諸雑費は、シース、シース組立筋、ビニルテープ、ビニルホース、グラウト材、電気溶接機損料、切断機器損料、挿入機器損料、グラウトミキサ損料、グラウトポンプ損料、資材吊 込 用クレーン運転費及び電力に関する経費等の費用であり、労務費、材料費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

5-3-3 プレグラウトPC鋼材横締工

ポストテンション場所打桁の横締PC鋼材にプレグラウトPC鋼材を用いる場合に適用する。

表 5-6 プレグラウトPC鋼材工歩掛 (プレグラウトPC鋼材 100m 当り)

ケーブル規格		シングルストランドシステム				記 事
		390kN (40 t) 型 1S17.8	450kN (50 t) 型 1S19.3	570kN (60 t) 型 1S21.8	950kN (100 t) 型 1S28.6	
名 称	単 位	数 量				
橋 り よ う 世 話 役	人	0.4				
橋 り よ う 特 殊 工	〃	1.4				
普 通 作 業 員	〃	1.0				
プレグラウトPC鋼材	kg	175	205	263	448	kN 型
PC鋼材切断加工費	〃	〃	〃	〃	〃	
諸 雑 費	%	16	18	25	41	

(注) 1. プレグラウトPC鋼材工はプレグラウトPC鋼材の組立作業である。

2. プレグラウトPC鋼材材料費はPC鋼材及びプレグラウト加工費を含む。

3. PC鋼材切断加工費は、プレグラウトPC鋼材の現場指定長切断及び切断部樹脂漏れ防止処理の費用である。

4. プレグラウトPC鋼材の切断ロス、つかみ代等の補正係数は、+0.06 として上表に含めてありスクラップ控除はしない。

5. 諸雑費は、ケーブル組立筋、ビニルテープ、電気溶接機損料、資材吊 込 用クレーン運転費及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

5-3-2 横締ケーブル工

表 5-5 横締ケーブル工歩掛 (ケーブル 100m 当り)

ケーブル規格		シングルストランドシステム		バーシステム		記事
		450kN (50 t) 型 1S19.3	570kN (60 t) 型 1S21.8	φ 26 1B26A 1B26B	φ 32 1B32A 1B32B	
シース規格		φ 28 mm	φ 35 mm	φ 32 mm	φ 38 mm	
名 称	単 位	数 量		数 量		
橋 り よ う 世 話 役	人	0.7		0.8	0.9	
橋 り よ う 特 殊 工	〃	3.4		3.9	4.6	
普 通 作 業 員	〃	2.4		2.8	3.2	
と び 工	〃	0.1		0.1	0.1	
P C 鋼 材	kg	201	258	434	656	(注)1
諸 雑 費	%	16		12	11	(注)2

(注) 1. PCケーブルの切断ロス、つかみ代等のロス率は、+0.04 として上表に含めて**あ**りスクラップ控除はしない。

2. 諸雑費は、シース、シース組立筋、ビニルテープ、ビニルホース、グラウト材、電気溶接機損料、切断機器損料、挿入機器損料、グラウトミキサ損料、グラウトポンプ損料、資材吊 り 込 み 用クレーン運転費及び電力に関する経費等の費用であり、労務費、材料費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

5-3-3 プレグラウトPC鋼材横締工

ポストテンション場所打桁の横締PC鋼材にプレグラウトPC鋼材を用いる場合に適用する。

表 5-6 プレグラウトPC鋼材工歩掛 (プレグラウトPC鋼材 100m 当り)

ケーブル規格		シングルストランドシステム				記 事
		390kN (40 t) 型 1S17.8	450kN (50 t) 型 1S19.3	570kN (60 t) 型 1S21.8	950kN (100 t) 型 1S28.6	
名 称	単 位	数 量				
橋 り よ う 世 話 役	人	0.4				
橋 り よ う 特 殊 工	〃	1.4				
普 通 作 業 員	〃	1.0				
プレグラウトPC鋼材	kg	175	205	263	448	kN 型
PC鋼材切断加工費	〃	〃	〃	〃	〃	
諸 雑 費	%	16	18	25	41	

(注) 1. プレグラウトPC鋼材工はプレグラウトPC鋼材の組立作業である。

2. プレグラウトPC鋼材材料費はPC鋼材及びプレグラウト加工費を含む。

3. PC鋼材切断加工費は、プレグラウトPC鋼材の現場指定長切断及び切断部樹脂漏れ防止処理の費用である。

4. プレグラウトPC鋼材の切断ロス、つかみ代等の補正係数は、+0.06 として上表に含めてありスクラップ控除はしない。

5. 諸雑費は、ケーブル組立筋、ビニルテープ、電気溶接機損料、資材吊 り 込用クレーン運転費及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

ページ

改正

P7

5-4 P C継手

P C 定着工法のケーブル接続歩掛は、次表を標準とする。
ただし、次表は、モノグリップ型を使用した場合の施工歩掛である。

5-4-1 編成人員・日当り施工量

PC継手の日当り編成人員・日当り施工量は次表とする。

表 5-7 P C継手日当り編成人員・日当り施工量編成人員（1 日当り）

名称	単位	数量	作業種別	単位	日当り施工量
橋りょう世話役	人	1	接続工	組	13
橋りょう特殊工	〃	2			
普通作業員	〃	2			

5-4-2 諸雑費率

諸雑費は、センタースパイラル、なまし鉄線、ビニルテープ、シール材、ボルト・ナット、グラウトホース、セットハンマ、レンチ、番線カッター及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 5-8 諸雑費率

諸雑費率(%)	9
---------	---

5-5 P C緊張工

P C 緊張は、定着部型枠の製作・設置・撤去、定着装置取付、ケーブル緊張、余長の切断の作業である。

5-5-1 縦締緊張工

表 5-9 縦締緊張工歩掛（両締め 10 ケーブル当り）

ケーブル規格		マルチストランドシステム		記 事
		1, 900kN(195 t)型 12S12. 4A		
		2, 200kN(225 t)型 12S12. 7B		
		3, 200kN(320 t)型 12S15. 2B		
名 称	単 位	数 量		
橋りょう世話役	人	1. 9		
橋りょう特殊工	〃	11. 7		
普通作業員	〃	7. 0		
型 わ く 工	〃	3. 5		
定 着 装 置	個	緊張側（緊張用）20		
諸 雑 費 率	%	16		(注)1

現 行

5-4 P C継手

P C 定着工法のケーブル接続歩掛は、次表とする。
ただし、次表は、モノグリップ型を使用した場合の施工歩掛である。

5-4-1 編成人員・日当り施工量

接続編成人員・日当り施工量は次表とする。

表 5-7 P C継手接続編成人員・日当り施工量編成人員（1 日当り）

名 称	単 位	数 量	日当り施工量	単 位	数 量
橋りょう世話役	人	1	接続工	組	13
橋りょう特殊工	〃	2			
普通作業員	〃	2			

5-4-2 諸雑費率

諸雑費は、センタースパイラル、なまし鉄線、ビニルテープ、シール材、ボルト・ナット、グラウトホース、セットハンマ、レンチ、番線カッター及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 5-8 諸雑費率

諸雑費率(%)	9
---------	---

5-5 P C緊張工

P C 緊張は、定着部型枠の製作・設置・撤去、定着装置取付、ケーブル緊張、余長の切断の作業である。

5-5-1 縦締緊張工

表 5-9 縦締緊張工歩掛（両締め 10 ケーブル当り）

ケーブル規格		マルチストランドシステム		記 事
		1, 900kN(195 t)型 12S12. 4A		
		2, 200kN(225 t)型 12S12. 7B		
		3, 200kN(320 t)型 12S15. 2B		
名 称	単 位	数 量		
橋りょう世話役	人	1. 9		
橋りょう特殊工	〃	11. 7		
普通作業員	〃	7. 0		
型 わ く 工	〃	3. 5		
定 着 装 置	個	緊張側（緊張用）20		
諸 雑 費 率	%	16		(注)1

ページ

改正

P8

表5-10 縦締緊張工歩掛 (片締め 10ケーブル当り)

ケーブル規格		マルチストランドシステム	記事
		1,900kN(195 t)型 12S12. 4A	
		2,200kN(225 t)型 12S12. 7B	
		3,200kN(320 t)型 12S15. 2B	
名称	単位	数 量	
橋りょう世話役	人	1.3	
橋りょう特殊工	〃	8.6	
普通作業員	〃	4.7	
型わく工	〃	3.4	
定着装置	個	緊張側（緊張用）10	
定着装置	個	固定側（緊張用又は固定用）10	(注)2
諸雑费率	%	16	(注)1

(注) 1. 諸雑費は、定着部型枠用資材、グリッド筋、緊張ジャッキ・ポンプ損料、及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
2. 接続したケーブルを緊張する場合、固定側定着装置は計上しない。

5-5-2 横締緊張工

表 5-11 横締緊張工歩掛 (両締め 10 ケーブル当り)

ケーブル規格		シングルストランドシステム	バーシステム	記事
		450kN(50 t)型 1S19. 3 570kN(60 t)型 1S21. 8	φ 26 1B26A・26B φ 32 1B32A・32B	
名称	単位	数 量	数 量	
橋りょう世話役	人	0.5	0.6	
橋りょう特殊工	〃	3.0	3.6	
普通作業員	〃	1.9	2.2	
型わく工	〃	0.9	1.0	
定着装置	個	緊張側（緊張用）20		
諸雑費	%	13	12	(注)

表 5-12 横締緊張工歩掛 (片締め 10 ケーブル当り)

ケーブル規格		シングルストランドシステム	バーシステム	記事
		450kN(50 t)型 1S19. 3 570kN(60 t)型 1S21. 8	φ 26 1B26A・26B φ 32 1B32A・32B	
名称	単位	数 量	数 量	
橋りょう世話役	人	0.3	0.4	
橋りょう特殊工	〃	1.7	2.4	
普通作業員	〃	0.9	1.3	
型わく工	〃	0.7	1.0	
定着装置	個	緊張側（緊張用）10 固定側（緊張用又は固定用）10		
諸雑費	%	17	14	(注)

(注)諸雑費は、定着部型枠用資材、グリッド筋、緊張ジャッキ・ポンプ損料、及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 5-10 縦締緊張工歩掛 (片締め 10 ケーブル当り)

ケーブル規格		マルチストランドシステム	記事
		1,900kN(195 t)型 12S12. 4A	
		2,200kN(225 t)型 12S12. 7B	
		3,200kN(320 t)型 12S15. 2B	
名称	単位	数 量	
橋りょう世話役	人	1.3	
橋りょう特殊工	〃	8.6	
普通作業員	〃	4.7	
型わく工	〃	3.4	
定着装置	個	緊張側（緊張用）10	
定着装置	個	固定側（緊張用又は固定用）10	(注)2
諸雑费率	%	16	(注)1

(注) 1. 諸雑費は、定着部型枠用資材、グリッド筋、緊張ジャッキ・ポンプ損料、及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
2. 接続したケーブルを緊張する場合、固定側定着装置は計上しない。

5-5-2 横締緊張工

表 5-11 横締緊張工歩掛 (両締め 10 ケーブル当り)

ケーブル規格		シングルストランドシステム	バーシステム	記事
		450kN(50 t)型 1S19. 3 570kN(60 t)型 1S21. 8	φ 26 1B26A・26B φ 32 1B32A・32B	
名称	単位	数 量	数 量	
橋りょう世話役	人	0.5	0.6	
橋りょう特殊工	〃	3.0	3.6	
普通作業員	〃	1.9	2.2	
型わく工	〃	0.9	1.0	
定着装置	個	緊張側（緊張用）20		
諸雑費	%	13	12	(注)

表 5-12 横締緊張工歩掛 (片締め 10 ケーブル当り)

ケーブル規格		シングルストランドシステム	バーシステム	記事
		450kN(50 t)型 1S19. 3 570kN(60 t)型 1S21. 8	φ 26 1B26A・26B φ 32 1B32A・32B	
名称	単位	数 量	数 量	
橋りょう世話役	人	0.3	0.4	
橋りょう特殊工	〃	1.7	2.4	
普通作業員	〃	0.9	1.3	
型わく工	〃	0.7	1.0	
定着装置	個	緊張側（緊張用）10 固定側（緊張用又は固定用）10		
諸雑費	%	17	14	(注)

(注)諸雑費は、定着部型枠用資材、グリッド筋、緊張ジャッキ・ポンプ損料、及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

ページ

改正

現行

P9

5-5-3 プレグラウトPC鋼材横締緊張工

表 5-13 プレグラウトPC鋼材緊張工歩掛 (片締め 10 ケーブル当り)

ケーブル規格		シングルストランドシステム				記 事
		390kN (40 t)型 1S17.8	450kN (50 t)型 1S19.3	570kN (60 t)型 1S21.8	950kN (100 t)型 1S28.6	
名 称	単位	数 量				
橋 り ょ う 世 話 役	人	0.3			0.4	
橋 り ょ う 特 殊 工	〃	1.9			2.4	
型 わ く 工	〃	0.7			0.9	
普 通 作 業 員	〃	1.0			1.3	
緊 張 側 定 着 装 置	個	10				プレグラウト PC鋼材 kN 型用
固 定 側 定 着 装 置	〃	10				
諸 雑 費	%	14			8	

(注) 1. プレグラウトPC鋼材の緊張作業である。
2. 諸雑費は、グリッド筋、定着部型枠用資材、緊張ジャッキ・ポンプ損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

(参考)
箱桁日当り標準施工量

- ケーブル組立、グラウト材注入、ケーブル緊張の 日当り施工量は次表を標準とする。

箱桁日当り標準施工量

区分	作業種別	ケーブル組立 (m／日)	グラウト材注入 (m／日)	緊張 (本／日)
縦締	マルチストランドシステム	150	410	両 10
				片 9
横締	シングルストランドシステム	330	720	両 20
				片 21
	バーシステム	270	590	両 17
				片 18

5-5-3 プレグラウトPC鋼材横締緊張工

表 5-13 プレグラウトPC鋼材緊張工歩掛 (片締め 10 ケーブル当り)

ケーブル規格		シングルストランドシステム				記 事
		390kN (40 t)型 1S17.8	450kN (50 t)型 1S19.3	570kN (60 t)型 1S21.8	950kN (100 t)型 1S28.6	
名 称	単位	数 量				
橋 り ょ う 世 話 役	人	0.3			0.4	
橋 り ょ う 特 殊 工	〃	1.9			2.4	
型 わ く 工	〃	0.7			0.9	
普 通 作 業 員	〃	1.0			1.3	
緊 張 側 定 着 装 置	個	10				プレグラウト PC鋼材 kN 型用
固 定 側 定 着 装 置	〃	10				
諸 雑 費	%	14			8	

(注) 1. プレグラウトPC鋼材の緊張作業である。
2. 諸雑費は、グリッド筋、定着部型枠用資材、緊張ジャッキ・ポンプ損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

(参考)
箱桁日当り標準施工量

- ケーブル組立、グラウト材注入、ケーブル緊張の 日当り施工量は次表を標準とする。

箱桁日当り標準施工量

区分	作業種別	ケーブル組立 (m／日)	グラウト材注入 (m／日)	緊張 (本／日)
縦締	マルチストランドシステム	150	410	両 10
				片 9
横締	シングルストランドシステム	330	720	両 20
				片 21
	バーシステム	270	590	両 17
				片 18

ページ	改 正	現 行								
P10	6. 架設支保工 支保工は、本要領ではくさび結合支保工を標準とするが、基礎地盤耐力、桁下条件等の現場条件を十分把握し、施工性、経済性を考慮して架設計画をたて、これに基づき支保工形式を選定する場合は実情によってよい。 なお、通常の場合は支保工の選定方法として P.20 に示すようなフローチャートより定まる支保形式を参考としてよい。 6-1 くさび結合支保工 桁下空間に支保工を設置するための障害物がなく、支保工を支持する地盤が平坦かつ良好である場合に適用する。 なお、支持地盤が軟弱で、敷砂利、基礎コンクリート、基礎杭を必要とする場合は別途考慮する。 場所打コンクリートによる箱桁、下路桁等で、1 セット当り 23,000 空㎡以下、支保耐力 19.6kN／㎡（2 t／㎡）以上 78.5kN／㎡（8 t／㎡）以下、支保高さ 0.6m以上 13.4m以下のくさび結合支保の設置及び撤去に適用する。 ただし、登り栈橋、基礎地盤の造成（基礎杭、捨てコン打設等）及び枕木等による井桁組等の基礎工には適用しない。 （注）1 セットとは、単純<u>桁</u>の場合は 1 径間、連続<u>桁を一括施工する場合は全径間、分割施工する場合は分割する当該径間を含む</u> 1 連続をいう。 6-2 機種の選定 機械・規格の選定は、次表を標準とする。 <table><caption>表 6-1 機種の選定</caption><tr><th>機 械 名</th><th>規 格</th></tr><tr><td>ラフテレーンクレーン</td><td>油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (2014 年規制) <u>最大吊上能力</u> 25 t 吊</td></tr></table> (注) 1. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。 2. 現場条件により、これにより難しい場合は、別途選定することが出来る。 6-3 施工歩掛 (1) 1 セット当り施工量（V） 1 セット当りの施工量は、次式による。 V＝（W＋2.4）×H×L（空㎡）……………式 6.1 W : 地覆外縁間距離……………（m） H : 平均桁下高さ……………（m） L : 1 セット当り施工延長……………（m） ※開口部が必要とする場合の 1 セット当り施工量（Vm） Vm＝式 6.1－式 6.4（空㎡）……………式 6.2 (2) 支保耐力（P） 支保耐力は、次式による。 P＝（2.81×d＋0.4）×W／W1×9.80665（kN／㎡）……………式 6.3 d : 平均コンクリート厚……………（m） W : 地覆外縁間距離……………（m）※下路桁はW／W1＝1 とする。 W1 : 中央床版幅……………（m）	機 械 名	規 格	ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (2014 年規制) <u>最大吊上能力</u> 25 t 吊	6. 架設支保工 支保工は、本要領ではくさび結合支保工を標準とするが、基礎地盤耐力、桁下条件等の現場条件を十分把握し、施工性、経済性を考慮して架設計画をたて、これに基づき支保工形式を選定する場合は実情によってよい。 なお、通常の場合は支保工の選定方法として P.20 に示すようなフローチャートより定まる支保形式を参考としてよい。 6-1 くさび結合支保工 桁下空間に支保工を設置するための障害物がなく、支保工を支持する地盤が平坦かつ良好である場合に適用する。 なお、支持地盤が軟弱で、敷砂利、基礎コンクリート、基礎杭を必要とする場合は別途考慮する。 場所打コンクリートによる箱桁、下路桁等で、1 セット当り 23,000 空㎡以下、支保耐力 19.6kN／㎡（2 t／㎡）以上 78.5kN／㎡（8 t／㎡）以下、支保高さ 0.6m以上 13.4m以下のくさび結合支保の設置及び撤去に適用する。 ただし、登り栈橋、基礎地盤の造成（基礎杭、捨てコン打設等）及び枕木等による井桁組等の基礎工には適用しない。 （注）1 セットとは、単純<u>支持梁</u>の場合は 1 径間、連続<u>梁の場合は</u>…………… 1 連続をいう。 6-2 機種の選定 機械・規格の選定は、次表を標準とする。 <table><caption>表 6-1 機種の選定</caption><tr><th>機 械 名</th><th>規 格</th></tr><tr><td>ラフテレーンクレーン</td><td>油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (2011 年規制) <u>……………</u> 25 t 吊</td></tr></table> (注) 1. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。 2. 現場条件により、これにより難しい場合は、別途選定することが出来る。 6-3 施工歩掛 (1) 1 セット当り施工量（V） 1 セット当りの施工量は、次式による。 V＝（W＋2.4）×H×L（空㎡）……………式 6.1 W : 地覆外縁間距離……………（m） H : 平均桁下高さ……………（m） L : 1 セット当り施工延長……………（m） ※開口部が必要とする場合の 1 セット当り施工量（Vm） Vm＝式 6.1－式 6.4（空㎡）……………式 6.2 (2) 支保耐力（P） 支保耐力は、次式による。 P＝（2.81×d＋0.4）×W／W1×9.80665（kN／㎡）……………式 6.3 d : 平均コンクリート厚……………（m） W : 地覆外縁間距離……………（m）※下路桁はW／W1＝1 とする。 W1 : 中央床版幅……………（m）	機 械 名	規 格	ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (2011 年規制) <u>……………</u> 25 t 吊
機 械 名	規 格									
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (2014 年規制) <u>最大吊上能力</u> 25 t 吊									
機 械 名	規 格									
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (2011 年規制) <u>……………</u> 25 t 吊									

ページ

改正

P11

(3)くさび結合支保設置・撤去~~工~~歩掛

くさび結合支保の設置・撤去~~工~~の歩掛は次表~~を標準~~とする。

表 6-2くさび結合支保~~工~~設置・撤去~~工~~歩掛

(100 空m³当り)

名 称	規 格	単位	支保耐力 kN/m ² (t / m ²)					
			19.6 (2.0)以上 29.4 (3.0)未満	29.4 (3.0)以 上 39.2 (4.0)未満	39.2 (4.0)以 上 49.0 (5.0)未満	49.0 (5.0)以 上 58.8 (6.0)未満	58.8 (6.0)以 上 68.6 (7.0)未満	68.6 (7.0)以 上 78.5 (8.0)以下
			橋りょう 世 話 役		人	0.89	0.99	1.08
橋りょう 特 殊 工		〃	3.68	4.05	4.42	4.79	5.17	5.54
普 通 員 作 業 員		〃	2.67	2.92	3.18	3.42	3.67	3.92
ラフテレーン クレーン 運 転	油圧伸縮ジブ 型・排出ガス対 策型 (~~2014 年規 制~~) <u>最大吊上能力</u> 25 t 吊	日	0.33	0.38	0.42	0.47	0.51	0.55

(注) 1. ~~工~~設置及び撤去の合計であり、構成は、設置 55%、撤去 45%である。

2. ~~工~~橋側足場、張出部支保、昇降設備施工労務を含む。

3. くさび結合支保仮設材賃料は、次式により算出する。

Y=B・x1+C・x2・10²

B, Cは係数

x1:支柱材、横継材、ブレース材の基本料 (1 本当り) の合計

x2:支柱材、横継材、ブレース材の 1 日当り~~工~~賃料 (1 本当り) の合計

Y:100 空m³当りの仮設材の賃料 (円)

(有効数字 3 桁とし、4 桁目を四捨五入する)

また、上述の式に代入する係数、部材の代表規格は次表とする。

現行

(3)くさび結合支保設置・撤去~~工~~歩掛

くさび結合支保の設置・撤去~~工~~歩掛は次表~~を標準~~とする。

表 6-2くさび結合支保~~工~~の設置・撤去~~工~~歩掛

(100 空m³当り)

名 称	規 格	単位	支保耐力 kN/m ² (t / m ²)					
			19.6 (2.0)以上 29.4 (3.0)未満	29.4 (3.0)以 上 39.2 (4.0)未満	39.2 (4.0)以 上 49.0 (5.0)未満	49.0 (5.0)以 上 58.8 (6.0)未満	58.8 (6.0)以 上 68.6 (7.0)未満	68.6 (7.0)以 上 78.5 (8.0)以下
			橋りょう 世 話 役		人	0.89	0.99	1.08
橋りょう 特 殊 工		〃	3.68	4.05	4.42	4.79	5.17	5.54
普 通 員 作 業 員		〃	2.67	2.92	3.18	3.42	3.67	3.92
ラフテレーン クレーン 運 転	油圧伸縮ジブ 型・排出ガス対 策型 (~~2011 年規 制~~) <u>25 t 吊</u>	日	0.33	0.38	0.42	0.47	0.51	0.55

(注) 1. ~~工~~労務及びラフテレーンクレーンの歩掛は、設置及び撤去の合計であり、構成は~~工~~設置 55%、撤去 45%である。

2. 上記歩掛には、橋側足場、張出部支保、昇降設備施工労務を含む。

3. くさび結合支保仮設材賃料は、次式により算出する。

Y=B・x1+C・x2・10²

B, Cは係数

x1:支柱材、横継材、ブレース材の基本料 (1 本当り) の合計

x2:支柱材、横継材、ブレース材の 1 日当り~~工~~賃料 (1 本当り) の合計

Y:100 空m³当りの仮設材の賃料 (円)

(有効数字 3 桁とし、4 桁目を四捨五入する)

また、上述の式に代入する係数、部材の代表規格は次表とする。

ページ

改 正

P12

表6-3 くさび結合支保工100空㎡当り仮設材質料算定のための係数、部材の代表規格表

供用日数(日)	支保耐力 kN／㎡ (t ／㎡)	支保高さ (m)					
		0.6 以上 1.2 以下	1.2 超え 3.6 以下	3.6 超え 6.0 以下	6.0 超え 8.4 以下	8.4 超え 11.0 以下	11.0 超え 13.4 以下
90	19.6(2.0) 以上 29.4(3.0) 未満	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650
		B : 293 C : 275	B : 180 C : 169	B : 150 C : 139	B : 144 C : 136	B : 125 C : 116	B : 127 C : 119
95	19.6(2.0) 以上 29.4(3.0) 未満	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650
		B : 293 C : 290	B : 180 C : 178	B : 150 C : 147	B : 144 C : 143	B : 125 C : 123	B : 127 C : 126
100	19.6(2.0) 以上 29.4(3.0) 未満	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650
		B : 293 C : 306	B : 180 C : 188	B : 150 C : 155	B : 144 C : 151	B : 125 C : 129	B : 127 C : 133
	29.4(3.0) 以上 39.2(4.0) 未満	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×1800 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650
		B : 327 C : 343	B : 223 C : 226	B : 168 C : 179	B : 156 C : 168	B : 143 C : 150	B : 141 C : 151
	29.4(3.0) 以上 39.2(4.0) 未満	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×1800 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650
		B : 327 C : 377	B : 223 C : 248	B : 168 C : 196	B : 156 C : 184	B : 143 C : 165	B : 141 C : 166
115	29.4(3.0) 以上 39.2(4.0) 未満	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×1800 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650
		B : 327 C : 395	B : 223 C : 260	B : 168 C : 205	B : 156 C : 193	B : 143 C : 172	B : 141 C : 174
	39.2(4.0) 以上 49.0(5.0) 未満	φ42.7×2400 φ42.7×857 1510～1650	φ42.7×1800 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500
		B : 342 C : 411	B : 260 C : 288	B : 193 C : 227	B : 178 C : 212	B : 155 C : 183	B : 156 C : 185
	39.2(4.0) 以上 49.0(5.0) 未満	φ42.7×2400 φ42.7×857 1510～1650	φ42.7×1800 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500
		B : 342 C : 429	B : 260 C : 301	B : 193 C : 237	B : 178 C : 221	B : 155 C : 190	B : 156 C : 193
120	49.0(5.0) 以上 58.8(6.0) 以下	φ42.7×2400 φ42.7×627 1510～1650	φ42.7×1800 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500
		B : 455 C : 578	B : 302 C : 350	B : 224 C : 276	B : 207 C : 258	B : 187 C : 232	B : 187 C : 232
	39.2(4.0) 以上 49.0(5.0) 未満	φ42.7×2400 φ42.7×857 1510～1650	φ42.7×1800 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500
		B : 342 C : 446	B : 260 C : 313	B : 193 C : 246	B : 178 C : 230	B : 155 C : 198	B : 156 C : 201

現 行

表6-3 くさび結合支保工100空㎡当り仮設材質料算定のための係数、部材の代表規格

供用日数(日)	支保耐力 kN／㎡ (t ／㎡)	支保高さ (m)					
		0.6 以上 1.2 以下	1.2 超え 3.6 以下	3.6 超え 6.0 以下	6.0 超え 8.4 以下	8.4 超え 11.0 以下	11.0 超え 13.4 以下
90	19.6(2.0) 以上 29.4(3.0) 未満	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650
		B : 293 C : 275	B : 180 C : 169	B : 150 C : 139	B : 144 C : 136	B : 125 C : 116	B : 127 C : 119
95	19.6(2.0) 以上 29.4(3.0) 未満	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650
		B : 293 C : 290	B : 180 C : 178	B : 150 C : 147	B : 144 C : 143	B : 125 C : 123	B : 127 C : 126
100	19.6(2.0) 以上 29.4(3.0) 未満	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650
		B : 293 C : 306	B : 180 C : 188	B : 150 C : 155	B : 144 C : 151	B : 125 C : 129	B : 127 C : 133
	29.4(3.0) 以上 39.2(4.0) 未満	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×1800 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650
		B : 327 C : 343	B : 223 C : 226	B : 168 C : 179	B : 156 C : 168	B : 143 C : 150	B : 141 C : 151
	29.4(3.0) 以上 39.2(4.0) 未満	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×1800 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650
		B : 327 C : 377	B : 223 C : 248	B : 168 C : 196	B : 156 C : 184	B : 143 C : 165	B : 141 C : 166
115	29.4(3.0) 以上 39.2(4.0) 未満	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×1800 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×1176 1510～1650
		B : 327 C : 395	B : 223 C : 260	B : 168 C : 205	B : 156 C : 193	B : 143 C : 172	B : 141 C : 174
	39.2(4.0) 以上 49.0(5.0) 未満	φ42.7×2400 φ42.7×857 1510～1650	φ42.7×1800 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500
		B : 342 C : 411	B : 260 C : 288	B : 193 C : 227	B : 178 C : 212	B : 155 C : 183	B : 156 C : 185
	39.2(4.0) 以上 49.0(5.0) 未満	φ42.7×2400 φ42.7×857 1510～1650	φ42.7×1800 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500
		B : 342 C : 429	B : 260 C : 301	B : 193 C : 237	B : 178 C : 221	B : 155 C : 190	B : 156 C : 193
120	49.0(5.0) 以上 58.8(6.0) 以下	φ42.7×2400 φ42.7×627 1510～1650	φ42.7×1800 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500
		B : 455 C : 578	B : 302 C : 350	B : 224 C : 276	B : 207 C : 258	B : 187 C : 232	B : 187 C : 232
	39.2(4.0) 以上 49.0(5.0) 未満	φ42.7×2400 φ42.7×857 1510～1650	φ42.7×1800 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500	φ42.7×2400 φ42.7×857 1360～1500
		B : 342 C : 446	B : 260 C : 313	B : 193 C : 246	B : 178 C : 230	B : 155 C : 198	B : 156 C : 201

ページ

改正

現行

P14

2. 上表の対象体積（空m³）は6-3 1セット施工量（V）による。なお、賃料には、張出部支保、橋側足場、養生ネット、作業床、安全通路、昇降設備等を含む。

(4) 基礎用鋼材設置・撤去工歩掛
地盤の不陸や不当沈下に対し必要に応じて、鋼材を敷並べることで防止する場合の歩掛は、次表を標準とする。

表 6-4 基礎用鋼材設置・撤去工歩掛 (10 m²当り)

名 称	規 格	単位	数量
土 木 一 般 世 話 役		人	0.08
特 殊 作 業 員		〃	0.40
普 通 作 業 員		〃	0.35
鋼 材 賃 料	鋼矢板Ⅱ型	t	0.61
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン 運 転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（ <u>2014 年規制</u> ） <u>最大吊上能力</u> 25 t 吊	日	0.09

(注)1. 設置及び撤去の合計であり、構成は、設置 63%、撤去 37%である。
2. 鋼材（鋼矢板Ⅱ型）の修理及び損耗費は、別途計上する。
3. 基礎用鋼材を敷並べる前に現場条件等や地盤の不陸により砂利等を必要とする場合は、敷均し・締固めを別途計上する。また、砂利等を撤去する場合も別途計上する。
4. 鋼材（鋼矢板Ⅱ型）が入手困難な場合は、鋼材（鋼矢板Ⅲ型）を計上できるものとする。鋼材（鋼矢板Ⅲ型）の数量は 0.76 t /10m2 とし、修理費及び損耗費は別途計上する。

6-4 支柱支保工

6-4-1 適用範囲

場所打コンクリートによる箱桁、下路桁等において、くさび結合支保が困難なうえ開口部を設置する必要がある場合で、1 セット当り 8,000 空m³以下、 支保耐力 19.6kN／m²（2 t／m²）以上 58.8kN／m²（6 t／m²）以下、支保高さ 4.0m以上 10m以下及び開口部延長 3m以上 13m以下の大型パイプ支柱支保の設置及び撤去に適用する。
ただし、登り栈橋、基礎地盤の造成（基礎杭、捨てコン打設等）及び枕木等による井桁組等の基礎工には適用しない。
なお、支柱支保工とくさび結合支保の併用の場合、くさび結合支保の支保高さを最低 0.60mとし、これ以下となる場合は別途査定する。

6-4-2 機種の選定

機種の選定は 6-2「機種の選定」による。

6-4-3 施工歩掛

(1) 支柱支保の施工数量（V）

V（空m³）＝（W＋2.4）×H×（ℓ＋4.0）（空m³） ……式 6.4

W : 地覆外縁間距離……………（m）
H : 支柱支保高さ H＝h＋A……………（m）
h : 開口部高さ……………（m）
A : 主桁高さ……………（m）
ℓ : 開口部延長……………（m）

(注) 1 開口部において、左右の支保高さが異なる場合は、平均支保高さを使用する。

(2) 支柱支保の支保耐力（P）

支保耐力は、くさび結合支保工による。

(4) 基礎用鋼材設置・撤去歩掛
必要に応じ、地盤の不陸や不等沈下を敷き並べることで防止する場合の歩掛は、次表を標準とする。

表 6-4 基礎用鋼材設置・撤去歩掛 (10 m²当り)

名 称	規 格	単位	数量
土 木 一 般 世 話 役		人	0.08
特 殊 作 業 員		〃	0.40
普 通 作 業 員		〃	0.35
鋼 材 賃 料	鋼矢板Ⅱ型	t	0.61
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン 運 転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（ <u>2011 年規制</u> ） <u>最大吊上能力</u> 25 t 吊	日	0.09

(注)1. 設置及び撤去の合計であり、構成は設置 63%、撤去 37%である。
2. 鋼材（鋼矢板Ⅱ型）の修理及び損耗費は、別途計上する。
3. 基礎用鋼材を敷き並べる前に現場条件等や地盤の不陸により砂利等を必要とする場合は、敷均し・締固めを別途計上する。また、砂利等を撤去する場合も別途計上する。
4. 鋼材（鋼矢板Ⅱ型）が入手困難な場合は、鋼材（鋼矢板Ⅲ型）を計上できるものとする。鋼材（鋼矢板Ⅲ型）の数量は 0.76 t /10m2 とし、修理費損耗費は別途計上する。

6-4 支柱支保工

6-4-1 適用範囲

適用に当っては、場所打コンクリートによる箱桁、下路桁等において、くさび結合支保が困難なうえ開口部を設置する必要がある場合で、1 セット当り 8,000 空m³以下、 支保耐力 19.6kN／m²（2 t／m²）以上 58.8kN／m²（6 t／m²）未滿、支保高さ 1.5m以上 10.8m以下（開口部高さ 1.1m以上 10.2m以下）及び開口部延長 3m以上 13m以下の四角支柱支保の設置及び撤去に適用する。
ただし、登り栈橋、基礎地盤の造成（基礎杭、捨てコン打設等）及び枕木等による井桁組等の基礎工には適用しない。
なお、支柱支保工とくさび結合支保の併用の場合、くさび結合支保の支保高さを最低 0.60mとし、これ以下となる場合は別途査定する。

6-4-2 機種の選定

機種の選定は 6-2「機種の選定」による。

6-4-3 施工歩掛

(1) 支柱支保の施工数量（V）

V（空m³）＝（W＋2.4）×H×（ℓ＋1.0）（空m³） ……式 6.4

W : 地覆外縁間距離……………（m）
H : 支柱支保高さ H＝h＋A……………（m）
h : 開口部高さ……………（m）
A : 主桁高さ……………（m）
ℓ : 開口部延長……………（m）

(注) 1 開口部において、左右の支保高さが異なる場合は、平均支保高さを使用する。

(2) 支柱支保の支保耐力（P）

支保耐力は、くさび結合支保工による。

ページ

改 正

P15

(3) 支柱支保設置・撤去工歩掛
支柱支保の設置・撤去工の歩掛は、次表を標準とする。

表 6-5 支柱支保設置・撤去工歩掛 (100 空m³当り)

開口 部長 (m)	平均支保高さ(m)	名 称	単位	支保耐力 kN／㎡ (t ／㎡)			
				19.6(2.0) 以上	29.4(3.0) 以上	39.2(4.0) 以上	49.0(5.0) 以上
				29.4(3.0) 未満	39.2(4.0) 未満	49.0(5.0) 未満	58.8(6.0) 以下
7 以下	4.0 以上 7.0 未満	橋りょう世話役	人	0.82	0.82	0.82	0.83
		橋りょう特殊工	〃	3.25	3.25	3.25	3.29
		普 通 作 業 員	〃	1.02	1.02	1.02	1.04
		ラフテレ－ン ク レ ー ン 運 転	日	0.58	0.58	0.58	0.59
	7.0 以上 10.0 以下	橋りょう世話役	人	0.83	0.83	0.83	0.83
		橋りょう特殊工	〃	3.31	3.31	3.31	3.32
		普 通 作 業 員	〃	1.04	1.04	1.04	1.04
		ラフテレ－ン ク レ ー ン 運 転	日	0.59	0.59	0.59	0.59
10 以下	4.0 以上 7.0 未満	橋りょう世話役	人	0.75	0.76	0.77	0.78
		橋りょう特殊工	〃	3.01	3.05	3.08	3.11
		普 通 作 業 員	〃	0.96	0.98	0.99	1.00
		ラフテレ－ン ク レ ー ン 運 転	日	0.54	0.55	0.56	0.56
	7.0 以上 10.0 以下	橋りょう世話役	人	0.67	0.67	0.68	0.68
		橋りょう特殊工	〃	2.67	2.68	2.69	2.70
		普 通 作 業 員	〃	0.84	0.84	0.85	0.86
		ラフテレ－ン ク レ ー ン 運 転	日	0.48	0.48	0.48	0.48
13 以下	4.0 以上 7.0 未満	橋りょう世話役	人	0.78	0.78	0.79	0.80
		橋りょう特殊工	〃	3.08	3.11	3.14	3.17
		普 通 作 業 員	〃	0.99	1.00	1.00	1.01
		ラフテレ－ン ク レ ー ン 運 転	日	0.55	0.55	0.56	0.57
	7.0 以上 10.0 以下	橋りょう世話役	人	0.69	0.70	0.71	0.71
		橋りょう特殊工	〃	2.77	2.79	2.80	2.81
		普 通 作 業 員	〃	0.87	0.88	0.89	0.89
		ラフテレ－ン ク レ ー ン 運 転	日	0.49	0.49	0.50	0.50

(注) 1. 設置及び撤去の合計であり、構成は、設置 60％、撤去 40％である。
2. 支柱支保仮設材賃料は、別途計上する。

現 行

(3) 支柱支保設置・撤去歩歩掛
支柱支保の設置・撤去工の歩掛は、次表を標準とする。

表 6-5 支柱支保工設置・撤去歩掛 (100 空m³当り)

開口 部長 (m)	平均支保高さ(m)	名 称	単位	支保耐力 kN／㎡ (t ／㎡)			
				19.6 以上 29.4 未満 (2.0 以上 3.0 未満)	29.4 以上 39.2 未満 (3.0 以上 4.0 未満)	39.2 以上 49.0 未満 (4.0 以上 5.0 未満)	49.0 以上 58.8 以下 (5.0 以上 6.0 以下)
7 以下 10 以下 13 以下	1.5 以上～4.6 未満 1.6 以上～4.8 未満 1.8 以上～4.8 未満	橋りょう世話役	人	1.27	1.47	1.71	1.91
		橋りょう特殊工	〃	6.36	7.30	8.47	9.40
		普 通 作 業 員	〃	5.09	5.85	6.78	7.51
		ラフテレ－ン ク レ ー ン 運 転	日	1.25	1.44	1.63	1.77
7 以下 10 以下 13 以下	4.6 以上～7.6 未満 4.8 以上～7.8 未満 4.8 以上～7.8 未満	橋りょう世話役	人	0.65	0.74	0.87	0.97
		橋りょう特殊工	〃	3.24	3.72	4.30	4.79
		普 通 作 業 員	〃	2.60	2.97	3.43	3.83
		ラフテレ－ン ク レ ー ン 運 転	日	0.63	0.74	0.83	0.91
7 以下 10 以下 13 以下	7.6 以上～10.6 以下 7.8 以上～10.8 以下 7.8 以上～10.8 以下	橋りょう世話役	人	0.44	0.50	0.58	0.65
		橋りょう特殊工	〃	2.19	2.50	2.91	3.22
		普 通 作 業 員	〃	1.75	2.01	2.33	2.58
		ラフテレ－ン ク レ ー ン 運 転	日	0.43	0.50	0.57	0.61
――	――	――	――	――	――	――	――
		――	――	――	――	――	――
		――	――	――	――	――	――
		――	――	――	――	――	――
――	――	――	――	――	――	――	――
		――	――	――	――	――	――
		――	――	――	――	――	――
		――	――	――	――	――	――
	――	――	――	――	――	――	――
		――	――	――	――	――	――
		――	――	――	――	――	――
		――	――	――	――	――	――

(注) 1. 設置及び撤去の合計であり、構成は設置 54％、撤去 46％である。
2. 支柱支保仮設材の損料は、次表とする。

ページ	改正	現行																																																																																																																																																																
P16	(4) 支柱支保工仮設材賃料 (削る)	(4) 支柱支保工仮設材損料、修理費及び損耗率費 支柱支保工の仮設材損料、修理費及び損耗率費は、次表とする。 表 6-6 支柱支保工 100 空㎡当り仮設材損料表 (円) <table><tr><th colspan="2">開口部延長 (m)</th><th colspan="3">7 以下</th><th colspan="3">10 以下</th><th colspan="3">13 以下</th></tr><tr><th rowspan="2">供用日数(日)</th><th rowspan="2">支保耐力 kN/㎡ (t/㎡)</th><th colspan="3">支保高さ (m)</th><th colspan="3">支保高さ (m)</th><th colspan="3">支保高さ (m)</th></tr><tr><th>1.5 以上 4.6 未満</th><th>4.6 以上 7.6 未満</th><th>7.6 以上 10.6 以下</th><th>1.6 以上 4.8 未満</th><th>4.8 以上 7.8 未満</th><th>7.8 以上 10.8 以下</th><th>1.8 以上 4.8 未満</th><th>4.8 以上 7.8 未満</th><th>7.8 以上 10.8 以下</th></tr><tr><td>90</td><td>19.6 以上 29.4 未満 (2.0 以上 3.0 未満)</td><td>210,000 (0.3)</td><td>137,000 (0.3)</td><td>112,000 (0.3)</td><td>174,000 (0.4)</td><td>111,000 (0.4)</td><td>92,100 (0.4)</td><td>196,000 (0.594)</td><td>129,000 (0.594)</td><td>106,000 (0.594)</td></tr><tr><td>95</td><td>19.6 以上 29.4 未満 (2.0 以上 3.0 未満)</td><td>215,000 (0.3)</td><td>141,000 (0.3)</td><td>116,000 (0.3)</td><td>179,000 (0.4)</td><td>115,000 (0.4)</td><td>95,500 (0.4)</td><td>202,000 (0.594)</td><td>134,000 (0.594)</td><td>110,000 (0.594)</td></tr><tr><td rowspan="2">100</td><td>19.6 以上 29.4 未満 (2.0 以上 3.0 未満)</td><td>222,000 (0.3)</td><td>146,000 (0.3)</td><td>120,000 (0.3)</td><td>185,000 (0.4)</td><td>119,000 (0.4)</td><td>98,900 (0.4)</td><td>209,000 (0.594)</td><td>139,000 (0.594)</td><td>114,000 (0.594)</td></tr><tr><td>29.4 以上 39.2 未満 (3.0 以上 4.0 未満)</td><td>246,000 (0.4)</td><td>158,000 (0.4)</td><td>128,000 (0.4)</td><td>257,000 (0.594)</td><td>167,000 (0.594)</td><td>138,000 (0.594)</td><td>209,000 (0.594)</td><td>139,000 (0.594)</td><td>114,000 (0.594)</td></tr><tr><td>110</td><td>29.4 以上 39.2 未満 (3.0 以上 4.0 未満)</td><td>260,000 (0.4)</td><td>168,000 (0.4)</td><td>137,000 (0.4)</td><td>272,000 (0.594)</td><td>178,000 (0.594)</td><td>148,000 (0.594)</td><td>221,000 (0.594)</td><td>148,000 (0.594)</td><td>122,000 (0.594)</td></tr><tr><td rowspan="2">115</td><td>29.4 以上 39.2 未満 (3.0 以上 4.0 未満)</td><td>267,000 (0.4)</td><td>173,000 (0.4)</td><td>141,000 (0.4)</td><td>279,000 (0.594)</td><td>183,000 (0.594)</td><td>152,000 (0.594)</td><td>228,000 (0.594)</td><td>152,000 (0.594)</td><td>126,000 (0.594)</td></tr><tr><td>39.2 以上 49.0 未満 (4.0 以上 5.0 未満)</td><td>366,000 (0.4)</td><td>240,000 (0.4)</td><td>202,000 (0.4)</td><td>279,000 (0.594)</td><td>183,000 (0.594)</td><td>152,000 (0.594)</td><td>280,000 (0.594)</td><td>189,000 (0.594)</td><td>160,000 (0.594)</td></tr><tr><td rowspan="2">120</td><td>39.2 以上 49.0 未満 (4.0 以上 5.0 未満)</td><td>374,000 (0.4)</td><td>248,000 (0.4)</td><td>209,000 (0.4)</td><td>286,000 (0.594)</td><td>189,000 (0.594)</td><td>157,000 (0.594)</td><td>287,000 (0.594)</td><td>195,000 (0.594)</td><td>165,000 (0.594)</td></tr><tr><td>49.0 以上 58.8 以下 (5.0 以上 6.0 以下)</td><td>374,000 (0.4)</td><td>248,000 (0.4)</td><td>209,000 (0.4)</td><td>357,000 (0.594)</td><td>241,000 (0.594)</td><td>202,000 (0.594)</td><td>339,000 (0.594)</td><td>237,000 (0.594)</td><td>197,000 (0.594)</td></tr><tr><td>125</td><td>39.2 以上 49.0 未満 (4.0 以上 5.0 未満)</td><td>384,000 (0.4)</td><td>255,000 (0.4)</td><td>215,000 (0.4)</td><td>294,000 (0.594)</td><td>194,000 (0.594)</td><td>162,000 (0.594)</td><td>295,000 (0.594)</td><td>200,000 (0.594)</td><td>171,000 (0.594)</td></tr><tr><td>130</td><td>49.0 以上 58.8 以下 (5.0 以上 6.0 以下)</td><td>392,000 (0.4)</td><td>262,000 (0.4)</td><td>221,000 (0.4)</td><td>375,000 (0.594)</td><td>254,000 (0.594)</td><td>214,000 (0.594)</td><td>356,000 (0.594)</td><td>250,000 (0.594)</td><td>208,000 (0.594)</td></tr><tr><td>140</td><td>49.0 以上 58.8 以下 (5.0 以上 6.0 以下)</td><td>411,000 (0.4)</td><td>276,000 (0.4)</td><td>237,000 (0.4)</td><td>393,000 (0.594)</td><td>268,000 (0.594)</td><td>226,000 (0.594)</td><td>373,000 (0.594)</td><td>263,000 (0.594)</td><td>221,000 (0.594)</td></tr></table> (注) 1. () 書きは、主桁高さ A (m)を表す。 2. 北海道・沖縄地区については別途考慮する。	開口部延長 (m)		7 以下			10 以下			13 以下			供用日数(日)	支保耐力 kN/㎡ (t/㎡)	支保高さ (m)			支保高さ (m)			支保高さ (m)			1.5 以上 4.6 未満	4.6 以上 7.6 未満	7.6 以上 10.6 以下	1.6 以上 4.8 未満	4.8 以上 7.8 未満	7.8 以上 10.8 以下	1.8 以上 4.8 未満	4.8 以上 7.8 未満	7.8 以上 10.8 以下	90	19.6 以上 29.4 未満 (2.0 以上 3.0 未満)	210,000 (0.3)	137,000 (0.3)	112,000 (0.3)	174,000 (0.4)	111,000 (0.4)	92,100 (0.4)	196,000 (0.594)	129,000 (0.594)	106,000 (0.594)	95	19.6 以上 29.4 未満 (2.0 以上 3.0 未満)	215,000 (0.3)	141,000 (0.3)	116,000 (0.3)	179,000 (0.4)	115,000 (0.4)	95,500 (0.4)	202,000 (0.594)	134,000 (0.594)	110,000 (0.594)	100	19.6 以上 29.4 未満 (2.0 以上 3.0 未満)	222,000 (0.3)	146,000 (0.3)	120,000 (0.3)	185,000 (0.4)	119,000 (0.4)	98,900 (0.4)	209,000 (0.594)	139,000 (0.594)	114,000 (0.594)	29.4 以上 39.2 未満 (3.0 以上 4.0 未満)	246,000 (0.4)	158,000 (0.4)	128,000 (0.4)	257,000 (0.594)	167,000 (0.594)	138,000 (0.594)	209,000 (0.594)	139,000 (0.594)	114,000 (0.594)	110	29.4 以上 39.2 未満 (3.0 以上 4.0 未満)	260,000 (0.4)	168,000 (0.4)	137,000 (0.4)	272,000 (0.594)	178,000 (0.594)	148,000 (0.594)	221,000 (0.594)	148,000 (0.594)	122,000 (0.594)	115	29.4 以上 39.2 未満 (3.0 以上 4.0 未満)	267,000 (0.4)	173,000 (0.4)	141,000 (0.4)	279,000 (0.594)	183,000 (0.594)	152,000 (0.594)	228,000 (0.594)	152,000 (0.594)	126,000 (0.594)	39.2 以上 49.0 未満 (4.0 以上 5.0 未満)	366,000 (0.4)	240,000 (0.4)	202,000 (0.4)	279,000 (0.594)	183,000 (0.594)	152,000 (0.594)	280,000 (0.594)	189,000 (0.594)	160,000 (0.594)	120	39.2 以上 49.0 未満 (4.0 以上 5.0 未満)	374,000 (0.4)	248,000 (0.4)	209,000 (0.4)	286,000 (0.594)	189,000 (0.594)	157,000 (0.594)	287,000 (0.594)	195,000 (0.594)	165,000 (0.594)	49.0 以上 58.8 以下 (5.0 以上 6.0 以下)	374,000 (0.4)	248,000 (0.4)	209,000 (0.4)	357,000 (0.594)	241,000 (0.594)	202,000 (0.594)	339,000 (0.594)	237,000 (0.594)	197,000 (0.594)	125	39.2 以上 49.0 未満 (4.0 以上 5.0 未満)	384,000 (0.4)	255,000 (0.4)	215,000 (0.4)	294,000 (0.594)	194,000 (0.594)	162,000 (0.594)	295,000 (0.594)	200,000 (0.594)	171,000 (0.594)	130	49.0 以上 58.8 以下 (5.0 以上 6.0 以下)	392,000 (0.4)	262,000 (0.4)	221,000 (0.4)	375,000 (0.594)	254,000 (0.594)	214,000 (0.594)	356,000 (0.594)	250,000 (0.594)	208,000 (0.594)	140	49.0 以上 58.8 以下 (5.0 以上 6.0 以下)	411,000 (0.4)	276,000 (0.4)	237,000 (0.4)	393,000 (0.594)	268,000 (0.594)	226,000 (0.594)	373,000 (0.594)	263,000 (0.594)	221,000 (0.594)
開口部延長 (m)		7 以下			10 以下			13 以下																																																																																																																																																										
供用日数(日)	支保耐力 kN/㎡ (t/㎡)	支保高さ (m)			支保高さ (m)			支保高さ (m)																																																																																																																																																										
		1.5 以上 4.6 未満	4.6 以上 7.6 未満	7.6 以上 10.6 以下	1.6 以上 4.8 未満	4.8 以上 7.8 未満	7.8 以上 10.8 以下	1.8 以上 4.8 未満	4.8 以上 7.8 未満	7.8 以上 10.8 以下																																																																																																																																																								
90	19.6 以上 29.4 未満 (2.0 以上 3.0 未満)	210,000 (0.3)	137,000 (0.3)	112,000 (0.3)	174,000 (0.4)	111,000 (0.4)	92,100 (0.4)	196,000 (0.594)	129,000 (0.594)	106,000 (0.594)																																																																																																																																																								
95	19.6 以上 29.4 未満 (2.0 以上 3.0 未満)	215,000 (0.3)	141,000 (0.3)	116,000 (0.3)	179,000 (0.4)	115,000 (0.4)	95,500 (0.4)	202,000 (0.594)	134,000 (0.594)	110,000 (0.594)																																																																																																																																																								
100	19.6 以上 29.4 未満 (2.0 以上 3.0 未満)	222,000 (0.3)	146,000 (0.3)	120,000 (0.3)	185,000 (0.4)	119,000 (0.4)	98,900 (0.4)	209,000 (0.594)	139,000 (0.594)	114,000 (0.594)																																																																																																																																																								
	29.4 以上 39.2 未満 (3.0 以上 4.0 未満)	246,000 (0.4)	158,000 (0.4)	128,000 (0.4)	257,000 (0.594)	167,000 (0.594)	138,000 (0.594)	209,000 (0.594)	139,000 (0.594)	114,000 (0.594)																																																																																																																																																								
110	29.4 以上 39.2 未満 (3.0 以上 4.0 未満)	260,000 (0.4)	168,000 (0.4)	137,000 (0.4)	272,000 (0.594)	178,000 (0.594)	148,000 (0.594)	221,000 (0.594)	148,000 (0.594)	122,000 (0.594)																																																																																																																																																								
115	29.4 以上 39.2 未満 (3.0 以上 4.0 未満)	267,000 (0.4)	173,000 (0.4)	141,000 (0.4)	279,000 (0.594)	183,000 (0.594)	152,000 (0.594)	228,000 (0.594)	152,000 (0.594)	126,000 (0.594)																																																																																																																																																								
	39.2 以上 49.0 未満 (4.0 以上 5.0 未満)	366,000 (0.4)	240,000 (0.4)	202,000 (0.4)	279,000 (0.594)	183,000 (0.594)	152,000 (0.594)	280,000 (0.594)	189,000 (0.594)	160,000 (0.594)																																																																																																																																																								
120	39.2 以上 49.0 未満 (4.0 以上 5.0 未満)	374,000 (0.4)	248,000 (0.4)	209,000 (0.4)	286,000 (0.594)	189,000 (0.594)	157,000 (0.594)	287,000 (0.594)	195,000 (0.594)	165,000 (0.594)																																																																																																																																																								
	49.0 以上 58.8 以下 (5.0 以上 6.0 以下)	374,000 (0.4)	248,000 (0.4)	209,000 (0.4)	357,000 (0.594)	241,000 (0.594)	202,000 (0.594)	339,000 (0.594)	237,000 (0.594)	197,000 (0.594)																																																																																																																																																								
125	39.2 以上 49.0 未満 (4.0 以上 5.0 未満)	384,000 (0.4)	255,000 (0.4)	215,000 (0.4)	294,000 (0.594)	194,000 (0.594)	162,000 (0.594)	295,000 (0.594)	200,000 (0.594)	171,000 (0.594)																																																																																																																																																								
130	49.0 以上 58.8 以下 (5.0 以上 6.0 以下)	392,000 (0.4)	262,000 (0.4)	221,000 (0.4)	375,000 (0.594)	254,000 (0.594)	214,000 (0.594)	356,000 (0.594)	250,000 (0.594)	208,000 (0.594)																																																																																																																																																								
140	49.0 以上 58.8 以下 (5.0 以上 6.0 以下)	411,000 (0.4)	276,000 (0.4)	237,000 (0.4)	393,000 (0.594)	268,000 (0.594)	226,000 (0.594)	373,000 (0.594)	263,000 (0.594)	221,000 (0.594)																																																																																																																																																								

ページ

</

ページ	改正	現行																																																																																																																
改P16-17	仮設材質料は、次式により算出する。 $Y=B \cdot x_1+C \cdot x_2 \cdot 10^2$ B, Cは係数 x_1 : 支柱材、横継材、ブレース材の基本料（1本当り）の合計 x_2 : 支柱材、横継材、ブレース材の1日当り賃料（1本当り）の合計 Y : 100 空 m3 当りの仮設材の賃料（円） （有効数字3桁とし、4桁目を四捨五入する） また、上述の式に代入する係数、部材の代表規格は次表とする。 表 6-6 支柱支保工 100 空 m3 当り仮設材質料算定のための係数、部材の代表規格表 <table><tr><th colspan="2">開口部延長(m)</th><th colspan="2">7 以下</th><th colspan="2">10 以下</th><th colspan="2">13 以下</th></tr><tr><th rowspan="2">供用日数(日)</th><th rowspan="2">支保耐力 kN/m² (t/m²)</th><th colspan="6">支保高さ (m)</th></tr><tr><th>4.0 以上 7.0 未満</th><th>7.0 以上 10.0 以下</th><th>4.0 以上 7.0 未満</th><th>7.0 以上 10.0 以下</th><th>4.0 以上 7.0 未満</th><th>7.0 以上 10.0 以下</th></tr><tr><td rowspan="2">90</td><td>$\frac{19.6(2.0)}{\text{以上}}$</td><td>$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$</td><td>$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$</td><td>$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$</td><td>$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$</td><td>$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$</td><td>$\frac{2.0m}{2.0 \sim 3.0}$</td></tr><tr><td>$\frac{29.4(3.0)}{\text{未満}}$</td><td>$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$</td><td>$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$</td><td>$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$</td><td>$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$</td><td>$\frac{1.5 \times 1.5}{1.5 \times 2.0}$</td><td>$\frac{1.5 \times 2.0}{1.5 \times 2.0}$</td></tr><tr><td rowspan="2">95</td><td>$\frac{19.6(2.0)}{\text{以上}}$</td><td>$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$</td><td>$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$</td><td>$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$</td><td>$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$</td><td>$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$</td><td>$\frac{2.0m}{2.0 \sim 3.0}$</td></tr><tr><td>$\frac{29.4(3.0)}{\text{未満}}$</td><td>$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$</td><td>$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$</td><td>$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$</td><td>$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$</td><td>$\frac{1.5 \times 1.5}{1.5 \times 2.0}$</td><td>$\frac{1.5 \times 2.0}{1.5 \times 2.0}$</td></tr><tr><td rowspan="2">100</td><td>$\frac{19.6(2.0)}{\text{以上}}$</td><td>$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$</td><td>$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$</td><td>$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$</td><td>$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$</td><td>$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$</td><td>$\frac{2.0m}{2.0 \sim 3.0}$</td></tr><tr><td>$\frac{29.4(3.0)}{\text{未満}}$</td><td>$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$</td><td>$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$</td><td>$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$</td><td>$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$</td><td>$\frac{1.5 \times 1.5}{1.5 \times 2.0}$</td><td>$\frac{1.5 \times 2.0}{1.5 \times 2.0}$</td></tr><tr><td rowspan="2">110</td><td>$\frac{29.4(3.0)}{\text{以上}}$</td><td>$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$</td><td>$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$</td><td>$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$</td><td>$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$</td><td>$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$</td><td>$\frac{2.0m}{2.0 \sim 3.0}$</td></tr><tr><td>$\frac{39.2(4.0)}{\text{未満}}$</td><td>$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$</td><td>$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$</td><td>$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$</td><td>$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$</td><td>$\frac{1.5 \times 1.5}{1.5 \times 2.0}$</td><td>$\frac{1.5 \times 2.0}{1.5 \times 2.0}$</td></tr><tr><td rowspan="2">115</td><td>$\frac{29.4(3.0)}{\text{以上}}$</td><td>$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$</td><td>$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$</td><td>$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$</td><td>$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$</td><td>$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$</td><td>$\frac{2.0m}{2.0 \sim 3.0}$</td></tr><tr><td>$\frac{39.2(4.0)}{\text{未満}}$</td><td>$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$</td><td>$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$</td><td>$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$</td><td>$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$</td><td>$\frac{1.5 \times 1.5}{1.5 \times 2.0}$</td><td>$\frac{1.5 \times 2.0}{1.5 \times 2.0}$</td></tr><tr><td rowspan="2">115</td><td>$\frac{39.2(4.0)}{\text{以上}}$</td><td>$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$</td><td>$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$</td><td>$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$</td><td>$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$</td><td>$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$</td><td>$\frac{2.0m}{2.0 \sim 3.0}$</td></tr><tr><td>$\frac{49.0(5.0)}{\text{未満}}$</td><td>$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$</td><td>$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$</td><td>$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$</td><td>$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$</td><td>$\frac{1.5 \times 1.5}{1.5 \times 2.0}$</td><td>$\frac{1.5 \times 2.0}{1.5 \times 2.0}$</td></tr></table>	開口部延長(m)		7 以下		10 以下		13 以下		供用日数(日)	支保耐力 kN/m ² (t/m ²)	支保高さ (m)						4.0 以上 7.0 未満	7.0 以上 10.0 以下	4.0 以上 7.0 未満	7.0 以上 10.0 以下	4.0 以上 7.0 未満	7.0 以上 10.0 以下	90	$\frac{19.6(2.0)}{\text{以上}}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{2.0m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{29.4(3.0)}{\text{未満}}$	$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{1.5 \times 1.5}{1.5 \times 2.0}$	$\frac{1.5 \times 2.0}{1.5 \times 2.0}$	95	$\frac{19.6(2.0)}{\text{以上}}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{2.0m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{29.4(3.0)}{\text{未満}}$	$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{1.5 \times 1.5}{1.5 \times 2.0}$	$\frac{1.5 \times 2.0}{1.5 \times 2.0}$	100	$\frac{19.6(2.0)}{\text{以上}}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{2.0m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{29.4(3.0)}{\text{未満}}$	$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{1.5 \times 1.5}{1.5 \times 2.0}$	$\frac{1.5 \times 2.0}{1.5 \times 2.0}$	110	$\frac{29.4(3.0)}{\text{以上}}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{2.0m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{39.2(4.0)}{\text{未満}}$	$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{1.5 \times 1.5}{1.5 \times 2.0}$	$\frac{1.5 \times 2.0}{1.5 \times 2.0}$	115	$\frac{29.4(3.0)}{\text{以上}}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{2.0m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{39.2(4.0)}{\text{未満}}$	$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{1.5 \times 1.5}{1.5 \times 2.0}$	$\frac{1.5 \times 2.0}{1.5 \times 2.0}$	115	$\frac{39.2(4.0)}{\text{以上}}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{2.0m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{49.0(5.0)}{\text{未満}}$	$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{1.5 \times 1.5}{1.5 \times 2.0}$	$\frac{1.5 \times 2.0}{1.5 \times 2.0}$	(新設) _____ _____ _____ _____ _____ _____ (新設)
開口部延長(m)		7 以下		10 以下		13 以下																																																																																																												
供用日数(日)	支保耐力 kN/m ² (t/m ²)	支保高さ (m)																																																																																																																
		4.0 以上 7.0 未満	7.0 以上 10.0 以下	4.0 以上 7.0 未満	7.0 以上 10.0 以下	4.0 以上 7.0 未満	7.0 以上 10.0 以下																																																																																																											
90	$\frac{19.6(2.0)}{\text{以上}}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{2.0m}{2.0 \sim 3.0}$																																																																																																											
	$\frac{29.4(3.0)}{\text{未満}}$	$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{1.5 \times 1.5}{1.5 \times 2.0}$	$\frac{1.5 \times 2.0}{1.5 \times 2.0}$																																																																																																											
95	$\frac{19.6(2.0)}{\text{以上}}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{2.0m}{2.0 \sim 3.0}$																																																																																																											
	$\frac{29.4(3.0)}{\text{未満}}$	$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{1.5 \times 1.5}{1.5 \times 2.0}$	$\frac{1.5 \times 2.0}{1.5 \times 2.0}$																																																																																																											
100	$\frac{19.6(2.0)}{\text{以上}}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{2.0m}{2.0 \sim 3.0}$																																																																																																											
	$\frac{29.4(3.0)}{\text{未満}}$	$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{1.5 \times 1.5}{1.5 \times 2.0}$	$\frac{1.5 \times 2.0}{1.5 \times 2.0}$																																																																																																											
110	$\frac{29.4(3.0)}{\text{以上}}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{2.0m}{2.0 \sim 3.0}$																																																																																																											
	$\frac{39.2(4.0)}{\text{未満}}$	$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{1.5 \times 1.5}{1.5 \times 2.0}$	$\frac{1.5 \times 2.0}{1.5 \times 2.0}$																																																																																																											
115	$\frac{29.4(3.0)}{\text{以上}}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{2.0m}{2.0 \sim 3.0}$																																																																																																											
	$\frac{39.2(4.0)}{\text{未満}}$	$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{1.5 \times 1.5}{1.5 \times 2.0}$	$\frac{1.5 \times 2.0}{1.5 \times 2.0}$																																																																																																											
115	$\frac{39.2(4.0)}{\text{以上}}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{3.0m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{1.5m}{2.0 \sim 3.0}$	$\frac{2.0m}{2.0 \sim 3.0}$																																																																																																											
	$\frac{49.0(5.0)}{\text{未満}}$	$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 1.5}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{3.0 \times 3.0}{3.0 \times 3.0}$	$\frac{1.5 \times 1.5}{1.5 \times 2.0}$	$\frac{1.5 \times 2.0}{1.5 \times 2.0}$																																																																																																											

ページ

改P17

改

正

開口部延長(m)		7 以下		10 以下		13 以下	
供用日数(日)	支保耐力	支保高さ (m)					
	kN/m ² (t/m ²)	4.0 以上 7.0 未満	7.0 以上 10.0 以下	4.0 以上 7.0 未満	7.0 以上 10.0 以下	4.0 以上 7.0 未満	7.0 以上 10.0 以下
120	39.2(4.0) 以上 49.0(5.0) 未満	<u>1.5m</u> <u>2.0～3.0</u> <u>3.0×1.5</u> B:71 C:42	<u>3.0m</u> <u>2.0～3.0</u> <u>3.0×3.0</u> B:39 C:21	<u>1.5m</u> <u>2.0～3.0</u> <u>3.0×1.5</u> B:56 C:35	<u>3.0m</u> <u>2.0～3.0</u> <u>3.0×3.0</u> B:30 C:17	<u>1.5m</u> <u>2.0～3.0</u> <u>1.5×1.5</u> B:60 C:37	<u>2.0m</u> <u>2.0～3.0</u> <u>1.5×2.0</u> B:38 C:22
	49.0(5.0) 以上 58.8(6.0) 未満	<u>1.5m</u> <u>2.0～3.0</u> <u>3.0×1.5</u> B:71 C:42	<u>3.0m</u> <u>2.0～3.0</u> <u>3.0×3.0</u> B:39 C:21	<u>1.5m</u> <u>2.0～3.0</u> <u>3.0×1.5</u> B:58 C:36	<u>3.0m</u> <u>2.0～3.0</u> <u>3.0×3.0</u> B:31 C:17	<u>1.5m</u> <u>2.0～3.0</u> <u>1.5×1.5</u> B:60 C:37	<u>2.0m</u> <u>2.0～3.0</u> <u>1.5×2.0</u> B:36 C:20
125	39.2(4.0) 以上 49.0(5.0) 未満	<u>1.5m</u> <u>2.0～3.0</u> <u>3.0×1.5</u> B:71 C:44	<u>3.0m</u> <u>2.0～3.0</u> <u>3.0×3.0</u> B:39 C:22	<u>1.5m</u> <u>2.0～3.0</u> <u>3.0×1.5</u> B:56 C:37	<u>3.0m</u> <u>2.0～3.0</u> <u>3.0×3.0</u> B:30 C:17	<u>1.5m</u> <u>2.0～3.0</u> <u>1.5×1.5</u> B:60 C:39	<u>2.0m</u> <u>2.0～3.0</u> <u>1.5×2.0</u> B:38 C:23
130	49.0(5.0) 以上 58.8(6.0) 未満	<u>1.5m</u> <u>2.0～3.0</u> <u>3.0×1.5</u> B:71 C:46	<u>3.0m</u> <u>2.0～3.0</u> <u>3.0×3.0</u> B:39 C:23	<u>1.5m</u> <u>2.0～3.0</u> <u>3.0×1.5</u> B:58 C:39	<u>3.0m</u> <u>2.0～3.0</u> <u>3.0×3.0</u> B:31 C:18	<u>1.5m</u> <u>2.0～3.0</u> <u>1.5×1.5</u> B:61 C:40	<u>2.0m</u> <u>2.0～3.0</u> <u>1.5×2.0</u> B:36 C:21
140	49.0(5.0) 以上 58.8(6.0) 未満	<u>1.5m</u> <u>2.0～3.0</u> <u>3.0×1.5</u> B:71 C:49	<u>3.0m</u> <u>2.0～3.0</u> <u>3.0×3.0</u> B:39 C:24	<u>1.5m</u> <u>2.0～3.0</u> <u>3.0×1.5</u> B:59 C:42	<u>3.0m</u> <u>2.0～3.0</u> <u>3.0×3.0</u> B:31 C:20	<u>1.5m</u> <u>2.0～3.0</u> <u>1.5×1.5</u> B:61 C:43	<u>2.0m</u> <u>2.0～3.0</u> <u>1.5×2.0</u> B:36 C:23

(注) 1. 1 段目：支柱材の規格、2 段目：横継材の規格、3 段目：ブレース材の規格、
4 段目及び5 段目：係数とする。

2. 上表の対象体積（空 m3）は、6-4-3 (1) 支柱支保の施工数量（V）による。
なお、賃料には、吊りクランプ、インパクト、ハンマ、主桁横取り装置、緊結金具、補強材、中段足場、合板足場板、安全ネットを含む。
支柱受台（H 形鋼）は支柱受台設置撤去にて計上するため含まない。

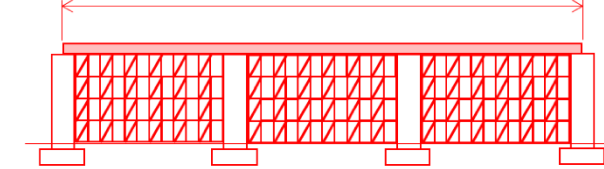
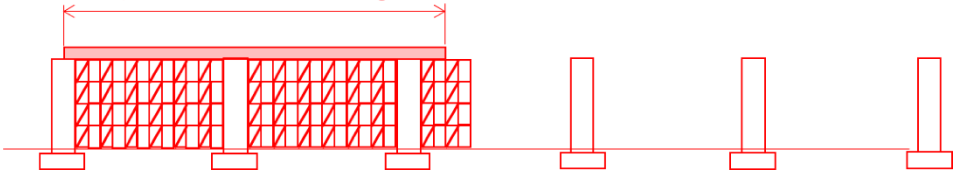
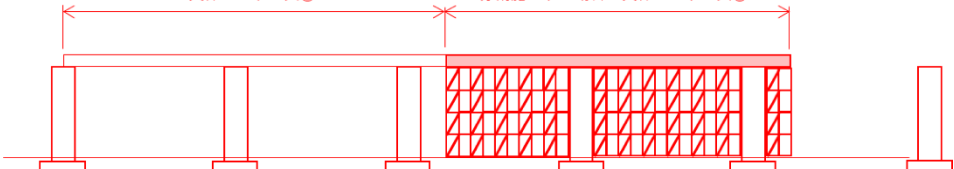
現

行

(新設)

ページ

<

ページ	改 正	現 行
P18 改P19	支保工セット長 一括施工の場合 多径間を一括施工する場合の支保工セット長  支保工セット長 分割施工の場合 分割施工する場合の支保工セット長①  支保工セット長① 分割施工する場合の支保工セット長②  <u>参考図 (支保工セット長概念図)</u>	(新設)

ページ

P19改P20

7. 支承工

(1) 据付編成

表 7-1 据付編成

名 称	1 日当り 編成 (人)	単位	施工量 (1 日当り)			記 事
			ゴム沓	鋼角ストッパー		
				500 kg未満	500 kg以上	
橋りょう世話役	1	個	4.0	2.0	1.5	
橋りょう特殊工	2					
普通作業員	2					

(注) 1. ゴム沓据付労務歩掛には、台座モルタル（無収縮材）充てん、メッシュ筋の据付を含む。
2. 鋼角ストッパー据付労務歩掛には、無収縮モルタルのてん充を含む。

(2) 無収縮モルタル

表 7-2 無収縮モルタル数量 (1 m³当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	記 事
無収縮モルタル	セメント系プレミックスタイプ	kg	1,875	ロスを含む

(3) 機械経費

表 7-3 機械経費 (施工日当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	記 事
ラフテレーンクレーン油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (2011 年規制)	最大吊上能力 25 t 吊	日	1.0	

表 7-4 機械経費 (施工日当り)

名 称	規 格	単位	重量	数 量	記 事
ラフテレーンクレーン油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (2011 年規制)	最大吊上能力 25 t 吊	日	500 kg未満	1.0	
			500 kg以上		

(注) ラフテレーンクレーンは賃料による。

(4) 鋼角ストッパー内コンクリート打設

鋼角ストッパー内コンクリート打設は、「6-1-4 コンクリート工 4-2 コンクリート打設 小型構造物」を適用し計上する。

8. 登り栈橋工

くさび結合支保部分については、昇降設備が含まれていることから登り栈橋工は計上しない。
開口部が連続する場合等の支柱式支保部分については、昇降設備として登り栈橋工の設備を設置する。
この場合、登り栈橋の高さについては支柱支保高さ（H）となる。
登り栈橋工は、「6-2-9 鋼橋架設 _____」による。

現 行

7. 支承工

(1) 据付編成

表 7-1 据付編成

名 称	1 日当り 編成 (人)	単位	施工量 (1 日当り)			記 事
			ゴム沓	鋼角ストッパー		
				500 kg未満	500 kg以上	
橋りょう世話役	1	個	4.0	2.0	1.5	
橋りょう特殊工	2					
普通作業員	2					

(注) 1. ゴム沓据付労務歩掛には、台座モルタル（無収縮材）充てん、メッシュ筋の据付を含む。
2. 鋼角ストッパー据付労務歩掛には、無収縮モルタルのてん充を含む。

(2) 無収縮モルタル

表 7-2 無収縮モルタル数量 (1 m³当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	記 事
無収縮モルタル	セメント系プレミックスタイプ	kg	1,875	ロスを含む

(3) 機械経費

表 7-3 機械経費 (施工日当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	記 事
ラフテレーンクレーン油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (2011 年規制)	_____ 25 t 吊	日	1.0	

表 7-4 機械経費 (施工日当り)

名 称	規 格	単位	重量	数 量	記 事
ラフテレーンクレーン油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (2011 年規制)	_____ 25 t 吊	日	500 kg未満	1.0	
			500 kg以上		

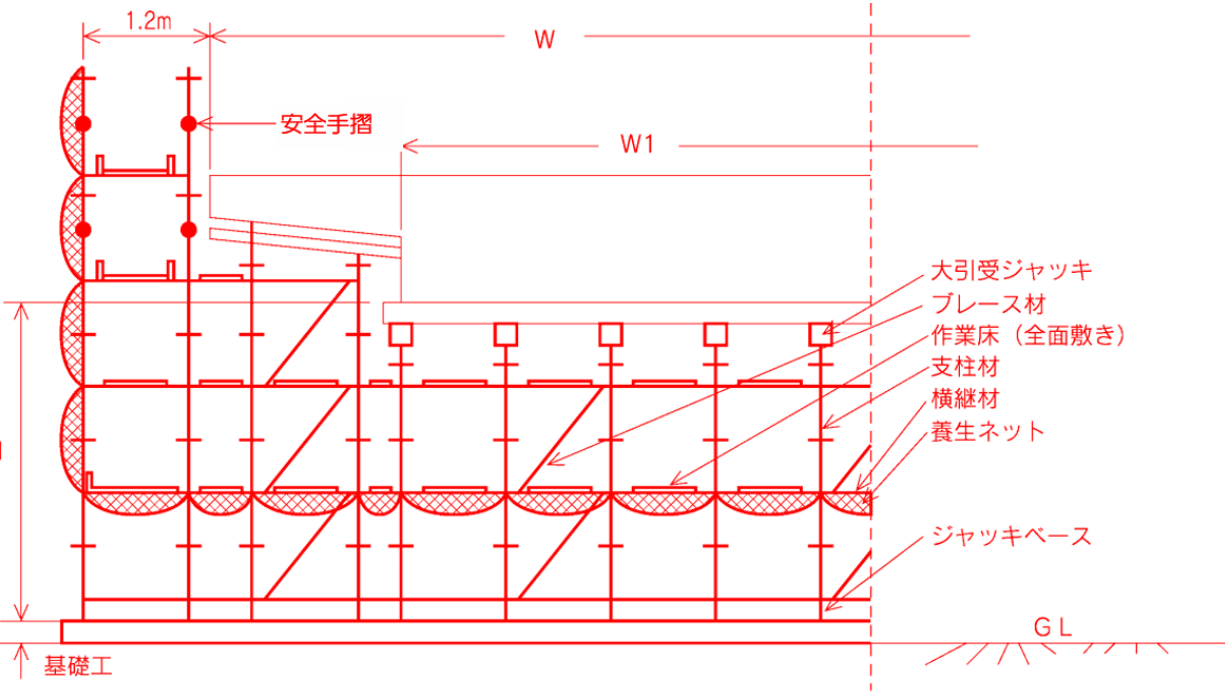
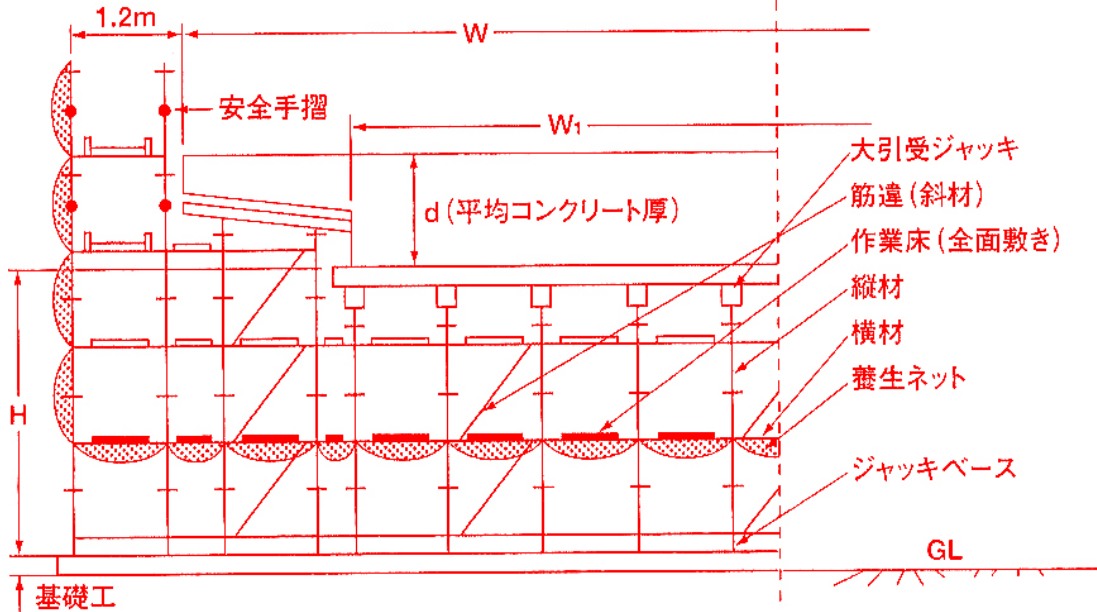
(注) ラフテレーンクレーンは賃料による。

(4) 鋼角ストッパー内コンクリート打設

鋼角ストッパー内コンクリート打設は、「_____ コンクリート要領コンクリート打設 小型構造物」を適用し計上する。

8. 登り栈橋工

くさび結合支保部分については、昇降設備が含まれていることから登り栈橋工は計上しない。
開口部が連続する場合等の支柱式支保部分については、昇降設備として登り栈橋工の設備を設置する。
この場合、登り栈橋の高さについては支柱支保高さ（H）となる。
登り栈橋工は、「_____ 鋼橋架設積算要領」による。

ページ	改 正	現 行
P21 改P22	(2) 架設支保工の概念図  参考図 (くさび結合支保工概念図) (注) d は、Wに対する平均コンクリート厚であり、中空部、地覆部及び変断面等を考慮し算出する。 なお、d の算定式は、$d(m) = \text{コンクリート体積}(m^3) \div [W(m) \times \text{桁長}(m)]$ とする。	(2) 架設支保工の概念図 枠組支保工(くさび結合支保)の概念図  (注) d は、Wに対する平均コンクリート厚であり、中空部、地覆部及び変断面等を考慮し算出する。 なお、d の算式は $d(m) = \text{コンクリート体積}(m^3) \div [W(m) \times \text{桁長}(m)]$ とする。

ページ	改 正	現 行
P21 改P22	支保仮設幅 1.2m 地覆外縁間距離(W) 中央床版幅(W₁) 主桁(H形鋼) 受桁(H形鋼) 桁受(山留材) 主桁高さ(A) 開口部高さ(h) 上部ジャッキ 支柱 下部ジャッキ 支柱受台 横継材 ブレース 1.5m 開口部延長(L) 支柱支保延長 参考図(支柱支保工概念図(併用式)) (注) 1. 主桁と受桁、受桁と桁受、桁受・支柱受台とジャッキの交点には緊結金具 (2 個/箇所) を設置する。 2. 桁受と上部ジャッキ、下部ジャッキと支柱受台の交点には補強材 (2 個/箇所) を設置する。 3. 支柱間には中段足場を設置する。 4. 主桁上面には合板足場板を設置する。 5. 交差道路側の支柱材の周面には安全ネットを設置する。	支柱支保工概念図(併用式) 支保架設幅 1.2m 地覆外縁間距離(W) 中央床版幅(W₁) 頭部ジャッキ 主桁(H形鋼) 横桁(H形鋼) d(平均コンクリート厚) 主桁高さ(A) 開口部高さ(h) 支柱支保高さ(H) 単管パイプ 四角支柱 支柱受台(H形鋼) — _____ _____ _____ _____

ページ

改 正

現 行

P24
改P25

9. 下路桁

9-1 鉄筋工

桁の鉄筋の加工・組立歩掛は次表を標準とする。なお、地覆、ダクトは「6-1-4 コンクリート工_____」による。

(1) 歩 掛

表 9-1 鉄筋加工組立歩掛

(設計 1 t 当り)

種 別	名 称	単 位	数 量	記 事
加工組立	土木一般世話役	人	0.5	
	鉄 筋 工	〃	4.1	
	と び 工	〃	0.1	
	普 通 作 業 員	〃	2.4	

(2) 材 料

鉄筋数量は、設計数量に割増をするものとし、切断ロス等を考慮して割増率は 4%を標準とする。

(3) 諸雑費

労務費、材料費の合計額に 7%を乗じた金額を上限として計上する。

(注) 結束線、スペーサ、溶接棒、切断機損料、加工機損料、電気溶接機損料、鉄筋吊込用クレーン運転費及び電力に関する経費等である。

9-2 コンクリート工

9-2-1 打 設

(1) 歩 掛

表 9-2 コンクリート打設歩掛

(設計 10 m³当り)

名 称	単 位	ポンプ打設	記 事
土木一般世話役	人	0.1	
特 殊 作 業 員	〃	0.8	
普 通 作 業 員	〃	0.6	

(注) 1. 歩掛には、天端仕上げを含む。

2. 地覆、ダクトは「6-1-4 コンクリート工_____」による。

(2) 材 料

① コンクリートは、レディーミクストコンクリートとし、早強セメントを標準とする。

② コンクリート数量は設計数量に割増をするものとし、2.5%とする。

(3) 機械経費

① ポンプ車機械経費は次による。

表 9-3 ポンプ車機械経費

(設計 10 m³当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	適 用
コンクリートポンプ車運転	トラック架装・ブーム式 圧送能力 90～110 m³／h	日	0.06	

9. 下路桁

9-1 鉄筋工

桁の鉄筋の加工・組立歩掛は次表を標準とする。なお、地覆、ダクトは「_____コンクリート工積算要領」による。

(1) 歩 掛

表 9-1 鉄筋加工組立歩掛

(設計 1 t 当り)

種 別	名 称	単 位	数 量	記 事
加工組立	土木一般世話役	人	0.5	
	鉄 筋 工	〃	4.1	
	と び 工	〃	0.1	
	普 通 作 業 員	〃	2.4	

(2) 材 料

鉄筋数量は、設計数量に割増をするものとし、切断ロス等を考慮して割増率は 4%を標準とする。

(3) 諸雑費

労務費、材料費の合計額に 7%を乗じた金額を上限として計上する。

(注) 結束線、スペーサ、溶接棒、切断機損料、加工機損料、電気溶接機損料、鉄筋吊込用クレーン運転費及び電力に関する経費等である。

9-2 コンクリート工

9-2-1 打 設

(1) 歩 掛

表 9-2 コンクリート打設歩掛

(設計 10 m³当り)

名 称	単 位	ポンプ打設	記 事
土木一般世話役	人	0.1	
特 殊 作 業 員	〃	0.8	
普 通 作 業 員	〃	0.6	

(注) 1. 歩掛には、天端仕上げを含む。

2. 地覆、ダクトは「_____コンクリート工積算要領」による。

(2) 材 料

① コンクリートは、レディーミクストコンクリートとし、早強セメントを標準とする。

② コンクリート数量は設計数量に割増をするものとし、2.5%とする。

(3) 機械経費

① ポンプ車機械経費は次による。

表 9-3 ポンプ車機械経費

(設計 10 m³当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	適 用
コンクリートポンプ車運転	_____ブーム式 _____ 90～110 m³／h	日	0.06	

ページ

<

ページ

改

正

P27
改P28

9-4 P Cケーブル工

P C ケーブル及びシースの切断・組立・挿入、シース内へのグラウト材注入作業の歩掛は、次表を標準とする。

9-4-1 縦締ケーブル工

表 9-12 縦締ケーブル工歩掛 (ケーブル 100m 当り)

ケーブル規格		マルチストランドシステム		記 事
		2, 200kN (225 t)型 12S12. 7B	3, 200kN (320 t)型 12S15. 2B	
シ ー ス 規 格		φ 65 mm	φ 75 mm	
名 称	単位	数 量		
橋 り ょ う 世 話 役	人	1. 4		
橋 り ょ う 特 殊 工	〃	7. 1		
と び 工	〃	0. 1		
普 通 作 業 員	〃	5. 9		
P C 鋼 材	kg	966	1, 374	(注)1
諸 雑 費	%	27		(注)2

(注) 1. P C ケーブルの切断ロス、つかみ代等の数量は上表に含めており、スクラップ控除はしない。
2. 諸雑費は、シース、シース組立筋、ビニルテープ、ビニルホース、グラウト材、電気溶接機損料、切断機器損料、挿入機器損料、グラウトミキサ損料、グラウトポンプ損料、資材吊込用クレーン運転費及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

9-4-2 横締ケーブル工

表 9-13 横締ケーブル歩掛 (ケーブル 100m 当り)

ケーブル規格		マルチストランドシステム		記事
		2, 200kN (225 t)型 12S12. 7B	3, 200kN (320 t)型 12S15. 2B	
シース規格		φ 65 mm	φ 75 mm	
名 称	単位	数 量	数 量	
橋 り ょ う 世 話 役	人	1. 3	1. 5	
橋 り ょ う 特 殊 工	〃	6. 1	6. 6	
普 通 作 業 員	〃	4. 8	5. 3	
P C 鋼 材	kg	966	1, 374	(注)1
諸 雑 費	%	14		(注)2

(注) 1. P C ケーブルの切断ロス、つかみ代等のロス率は、+0. 04 として上表に含めており、スクラップ控除はしない。
2. 諸雑費は、シース、シース組立筋、ビニルテープ、ビニルホース、グラウト材、電気溶接機損料、切断機器損料、挿入機器損料、グラウトミキサ損料、グラウトポンプ損料、資材吊込用クレーン運転費及び電力に関する経費等の費用であり、労務費、材料費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

現 行

9-4 P Cケーブル工

P C ケーブル及びシースの切断、組立・シース内へのグラウト材注入作業は、次表を標準とする。

9-4-1 縦締ケーブル工

表 9-12 縦締ケーブル工歩掛 (ケーブル 100m 当り)

ケーブル規格		マルチストランドシステム		記 事
		2, 200kN (225 t)型 12S12. 7B	3, 200kN (320 t)型 12S15. 2B	
シ ー ス 規 格		φ 65 mm	φ 75 mm	
名 称	単位	数 量		
橋 り ょ う 世 話 役	人	1. 4		
橋 り ょ う 特 殊 工	〃	7. 1		
と び 工	〃	0. 1		
普 通 作 業 員	〃	5. 9		
P C 鋼 材	kg	966	1, 374	(注)1
諸 雑 費	%	27		(注)2

(注) 1. P C ケーブルの切断ロス、つかみ代等の数量は上表に含めてあり、スクラップ控除はしない。
2. 諸雑費は、シース、シース組立筋、ビニルテープ、ビニルホース、グラウト材、電気溶接機損料、切断機器損料、挿入機器損料、グラウトミキサ損料、グラウトポンプ損料、資材吊り込み用クレーン運転費及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

9-4-2 横締ケーブル工

表 9-13 横締ケーブル歩掛 (ケーブル 100m 当り)

ケーブル規格		マルチストランドシステム		記事
		2, 200kN (225 t)型 12S12. 7B	3, 200kN (320 t)型 12S15. 2B	
シース規格		φ 65 mm	φ 75 mm	
名 称	単位	数 量	数 量	
橋 り ょ う 世 話 役	人	1. 3	1. 5	
橋 り ょ う 特 殊 工	〃	6. 1	6. 6	
普 通 作 業 員	〃	4. 8	5. 3	
P C 鋼 材	kg	966	1, 374	(注)1
諸 雑 費	%	14		(注)2

(注) 1. P C ケーブルの切断ロス、つかみ代等のロス率は、+0. 04 として上表に含めてありスクラップ控除はしない。
2. 諸雑費は、シース、シース組立筋、ビニルテープ、ビニルホース、グラウト材、電気溶接機損料、切断機器損料、挿入機器損料、グラウトミキサ損料、グラウトポンプ損料、資材吊り込用クレーン運転費及び電力に関する経費等の費用であり、労務費、材料費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

ページ

改正

P28改P29

9-5 PC緊張工

P C 緊張は、定着部型枠の製作・設置・撤去、定着装置取付、ケーブル緊張、余長の切断の作業である。

9-5-1 縦締緊張工

表 9-14 縦締緊張工歩掛 (両締め 10 ケーブル当り)

ケーブル規格		マルチストランドシステム		記事
		2, 200kN (225 t)型 12S12. 7B	3, 200kN (320 t)型 12S15. 2B	
名 称	単位	数 量		
橋 り ょ う 世 話 役	人	2. 3		
橋 り ょ う 特 殊 工	〃	10. 0		
普 通 作 業 員	〃	6. 4		
型 わ く 工	〃	3. 3		
定 着 装 置	個	緊張側（緊張用）20		
諸 雑 費	%	15		(注)1

表 9-15 縦締緊張工歩掛 (片締め 10 ケーブル当り)

ケーブル規格		マルチストランドシステム		記事
		2, 200kN (225 t)型 12S12. 7B	3, 200kN (320 t)型 12S15. 2B	
名 称	単位	数 量		
橋 り ょ う 世 話 役	人	1. 9		
橋 り ょ う 特 殊 工	〃	8. 3		
普 通 作 業 員	〃	5. 2		
型 わ く 工	〃	3. 4		
定 着 装 置	個	緊張側（緊張用）10		
定 着 装 置	個	固定側（緊張用又は固定用）10		(注)2
諸 雑 費	%	15		(注)1

(注) 1. 諸雑費は、定着部型枠用資材、グリッド筋、緊張ジャッキ・ポンプ損料、及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

2. 接続したケーブルを緊張する場合、固定側定着装置は計上しない。

現行

9-5 PC緊張工

P C 緊張は、定着装置取付、ケーブル緊張、余長の切断の作業である。

9-5-1 縦締緊張工

表 9-14 縦締緊張工歩掛 (両締め 10 ケーブル当り)

ケーブル規格		マルチストランドシステム		記事
		2, 200kN (225 t)型 12S12. 7B	3, 200kN (320 t)型 12S15. 2B	
名 称	単位	数 量		
橋 り ょ う 世 話 役	人	2. 3		
橋 り ょ う 特 殊 工	〃	10. 0		
普 通 作 業 員	〃	6. 4		
型 わ く 工	〃	3. 3		
定 着 装 置	個	緊張側（緊張用）20		
諸 雑 費	%	15		(注)1

表 9-15 縦締緊張工歩掛 (片締め 10 ケーブル当り)

ケーブル規格		マルチストランドシステム		記事
		2, 200kN (225 t)型 12S12. 7B	3, 200kN (320 t)型 12S15. 2B	
名 称	単位	数 量		
橋 り ょ う 世 話 役	人	1. 9		
橋 り ょ う 特 殊 工	〃	8. 3		
普 通 作 業 員	〃	5. 2		
型 わ く 工	〃	3. 4		
定 着 装 置	個	緊張側（緊張用）10		
定 着 装 置	個	固定側（緊張用又は固定用）10		(注)2
諸 雑 費	%	15		(注)1

(注) 1. 諸雑費は、定着部型枠用資材、グリッド筋、緊張ジャッキ・ポンプ損料、及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

2. 接続したケーブルを緊張する場合、固定側定着装置は計上しない。

ページ

P30改P31

10. 単 価 表

(1) 鉄筋工（箱桁）1 t 当り単価表

歩掛コード		S191332		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	――	表 5-1
鉄 筋 工		〃	――	〃
と び 工		〃	――	〃
普 通 作 業 員		〃	――	〃
異 形 棒 鋼	(設計数量) × (1+割増率)	kg		1000 kg×1.05
諸 雑 費	(労務費+材料費)×率	%	7.0	
合 計				
1 t 当り		t	1.0	

(注) 鉄筋数量は、設計数量に割増をするものとし、切断ロス等を考慮して割増率は5%を標準とする。

(2) コンクリート工（箱桁） 設計 1.0 m³当り単価表

歩掛コード		S191362		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	――	表 5-2
型 わ く 工		〃	――	〃
と び 工		〃	――	〃
特 殊 作 業 員		〃	――	〃
普 通 作 業 員		〃	――	〃
生 コ ン ク リ ー ト	(設計数量) × (1+割増率)	m³		10.0×1.02
コ ン ク リ ー ト ポ ン プ 車 運 転	ブーム式 90～110 m³/h	日	――	表 5-3
諸 雑 費	(労務費+材料費+機械経費)×率	%	12 (10)	() は特別養生の場合
合 計				
1 m³当り		m³	10	

(注) コンクリート数量は設計数量に割増をするものとし、2%とする。

現 行

10. 単 価 表

(1) 鉄筋工（箱桁）1 t 当り単価表

歩掛コード		S191332		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	<u>0.5</u>	表 5-1
鉄 筋 工		〃	<u>4.5</u>	〃
と び 工		〃	<u>0.1</u>	〃
普 通 作 業 員		〃	<u>2.6</u>	〃
異 形 棒 鋼	(設計数量) × (1+割増率)	kg		1000 kg×1.05
諸 雑 費	(労務費+材料費)×率	%	7.0	
合 計				
1 t 当り		t	1.0	

(注) 鉄筋数量は、設計数量に割増をするものとし、切断ロス等を考慮して割増率は5%を標準とする。

(2) コンクリート工（箱桁） 設計 1.0 m³当り単価表

歩掛コード		S191362		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	<u>1.6</u>	表 5-2
型 わ く 工		〃	<u>10.0</u>	〃
と び 工		〃	<u>0.4</u>	〃
特 殊 作 業 員		〃	<u>1.4</u>	〃
普 通 作 業 員		〃	<u>8.6</u>	〃
生 コ ン ク リ ー ト	(設計数量) × (1+割増率)	m³		10.0×1.02
コ ン ク リ ー ト ポ ン プ 車 運 転	ブーム式 90～110 m³/h	日	<u>0.06</u>	表 5-3
諸 雑 費	(労務費+材料費+機械経費)×率	%	12 (10)	() は特別養生の場合
合 計				
1 m³当り		m³	10	

(注) コンクリート数量は設計数量に割増をするものとし、2%とする。

ページ

改正

P31改P32

(3) P Cケーブル工(箱桁縦締めケーブル)1.0m当り単価表

歩掛コード

S191341

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 5-4
橋 り よ う 特 殊 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
と び 工		〃		〃
P C 鋼 材		kg		〃
諸 雑 費	(労務費+材料費)×率	%		〃
合 計				
1m当り		m	100	

(4) P C緊張工(箱桁縦締めケーブル)1.0箇所当り単価表

歩掛コード

S191381

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 5-9, 表 5-10
橋 り よ う 特 殊 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
型 わ く 工		〃		〃
定着装置(緊張用)		個		〃
定着装置(固定用)		個		〃
諸 雑 費	(労務費)×率	%	――	〃
合 計				
1箇所当り		箇所	10	

(注) 1箇所=1 ケーブル

(5) P C継手1組当り単価表

歩掛コード

S191331

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人	――	表 5-7
橋 り よ う 特 殊 工		〃	――	〃
普 通 作 業 員		〃	――	〃
諸 雑 費	(労務費)×率	%	――	表 5-8
合 計				
1組当り		組	13.0	

現 行

(3) P Cケーブル工(箱桁縦締めケーブル)1.0m当り単価表

歩掛コード

S191341

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 5-4
橋 り よ う 特 殊 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
と び 工		〃		〃
P C 鋼 材		kg		〃
諸 雑 費	(労務費+材料費)×率	%		〃
合 計				
1m当り		m	100	

(4) P C緊張工(箱桁縦締めケーブル)1.0箇所当り単価表

歩掛コード

S191381

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 5-9, 表 5-10
橋 り よ う 特 殊 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
型 わ く 工		〃		〃
定着装置(緊張用)		個		〃
定着装置(固定用)		個		〃
諸 雑 費	(労務費)×率	%	<u>16.0</u>	〃
合 計				
1箇所当り		箇所	10	

(注) 1箇所=1 ケーブル

(5) P C継手1組当り単価表

歩掛コード

S191331

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人	<u>1.0</u>	表 5-7
橋 り よ う 特 殊 工		〃	<u>2.0</u>	〃
普 通 作 業 員		〃	<u>2.0</u>	〃
諸 雑 費	(労務費)×率	%	<u>9.0</u>	表 5-8
合 計				
1組当り		組	13.0	

ページ

改正

P32改P33

(6) プレグラウトP C鋼材工1.0m当り単価表

歩掛コード

S191352

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人	—	表 5-6
橋 り よ う 特 殊 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
プレグラウトP C鋼材		Kg		〃
P C鋼材切断加工費		〃		〃
諸 雑 費	(労務費)×率	%		〃
合 計				
1m当り		m	100	

(7) プレグラウトP C鋼材緊張工1.0箇所当り単価表

歩掛コード

S191392

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 5-13
橋 り よ う 特 殊 工		〃		〃
型 わ く 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
定着装置(緊張用)	プレグラウトP C鋼材 kN 型用	個	10	
定着装置(固定用)	プレグラウトP C鋼材 kN 型用	〃	10	
諸 雑 費	(労務費)×率	%		表 5-13
合 計				
1箇所当り		箇所	10	

(注) 1箇所=1 ケーブル

(8) P Cケーブル工 (箱桁横締めケーブル) 1.0m当り単価表

歩掛コード

S191351

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 5-5
橋 り よ う 特 殊 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
と び 工		〃		〃
P C 鋼 材		kg		〃
諸 雑 費	(労務費+材料費)×率	%		〃
合 計				
1m当り		m	100	

現 行

(6) プレグラウトP C鋼材工1.0m当り単価表

歩掛コード

S191352

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人	0.4	表 5-6
橋 り よ う 特 殊 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
プレグラウトP C鋼材		Kg		〃
P C鋼材切断加工費		〃		〃
諸 雑 費	(労務費)×率	%		〃
合 計				
1m当り		m	100	

(7) プレグラウトP C鋼材緊張工1.0箇所当り単価表

歩掛コード

S191392

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 5-13
橋 り よ う 特 殊 工		〃		〃
型 わ く 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
定着装置(緊張用)	プレグラウトP C鋼材 kN 型用	個	10	
定着装置(固定用)	プレグラウトP C鋼材 kN 型用	〃	10	
諸 雑 費	(労務費)×率	%		表 5-13
合 計				
1箇所当り		箇所	10	

(注) 1箇所=1 ケーブル

(8) P Cケーブル工 (箱桁横締めケーブル) 1.0m当り単価表

歩掛コード

S191351

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 5-5
橋 り よ う 特 殊 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
と び 工		〃		〃
P C 鋼 材		kg		〃
諸 雑 費	(労務費+材料費)×率	%		〃
合 計				
1m当り		m	100	

ページ

改正

P33改P34

(9) P C 緊張工（箱桁横締めケーブル） 1.0箇所当り単価表

歩掛コード

S191391

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 5-11, 5-12
橋 り よ う 特 殊 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
型 わ く 工		〃		〃
定着装置（緊張用）		個		〃
定着装置（固定用）		〃		〃
諸 雑 費	(労務費)×率	%		〃
合 計				
1 箇所当り		箇所	10	

(注) 1 箇所=1 ケーブル

(10) くさび結合支保工 1.0 空m³当り単価表

歩掛コード

S191120

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 6-2
橋 り よ う 特 殊 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン 賃 料	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（ <u>2014 年規制</u> ） <u>最大吊上能力</u> 25 t 吊	日		〃
<u>くさび結合支保 仮 設 材 賃 料</u>		式	1.0	〃
合 計				
1 空m³当り		空m³	100	

(11) 基礎用鋼材設置・撤去 1.0 m²当り単価表

歩掛コード

S191110

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 6-4
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
鋼 矢 板 賃 料	鋼矢板Ⅱ型	t		〃（別途計上）
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン 賃 料	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（ <u>2014 年規制</u> ） <u>最大吊上能力</u> 25 t 吊	日		〃
合 計				
1 m²当り		m²	10	

現 行

(9) P C 緊張工（箱桁横締めケーブル） 1.0 箇所当り単価表

歩掛コード

S191391

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 5-11, 5-12
橋 り よ う 特 殊 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
型 わ く 工		〃		〃
定着装置（緊張用）		個		〃
定着装置（固定用）		〃		〃
諸 雑 費	(労務費)×率	%		〃
合 計				
1 箇所当り		箇所	10	

(注) 1 箇所=1 ケーブル

(10) くさび結合支保工 1.0 空m³当り単価表

歩掛コード

S191120

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 6-2
橋 り よ う 特 殊 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン 賃 料	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（ <u>2011 年規制</u> ） <u>25 t 吊</u>	日		〃
<u>仮 設 材 損 料</u>		式	1.0	〃
合 計				
1 空m³当り		空m³	100	

(11) 基礎用鋼材設置・撤去 1.0 m²当り単価表

歩掛コード

S191110

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 6-4
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
鋼 矢 板 賃 料	鋼矢板Ⅱ型	t		〃（別途計上）
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン 賃 料	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（ <u>2011 年規制</u> ） <u>25 t 吊</u>	日		〃
合 計				
1 m²当り		m²	10	

ページ

改正

P34改P35

(12) 支柱支保工1.0空m³当り単価表

歩掛コード

S191140

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 6-5
橋 り よ う 特 殊 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン 賃 料	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（2014 年規制） <u>最大吊上能力</u> 25 t 吊	日		〃
<u>支 柱 支 保</u> <u>仮 設 材 賃 料</u>		式	1.0	表 6-6 _____
合 計				
1 空m ³ 当り		空m ³	100	

(13) 支柱受台設置・撤去 1.0m当り単価表

歩掛コード

S191130

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 6- <u>7</u>
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
鋼 材 賃 料	H形鋼 <u>350</u> 型	t		〃（別途計上）
H形鋼修理費・損耗費		〃		〃（別途計上）
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン 賃 料	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（2014 年規制） <u>最大吊上能力</u> 25 t 吊	日		〃
合 計				
1m当り		m	10	

(14) 支承設置 1.0 個当り単価表

歩掛コード

S191211

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人	_____	表 7-1
橋 り よ う 特 殊 工		人	_____	〃
普 通 作 業 員		人	_____	〃
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（2011 年規制） <u>最大吊上能力</u> 25 t 吊	日	_____	表 7-3
合 計				
1 個当り		個	N	

(注) N：日当り施工数量

現行

(12) 支柱支保工 1.0 空m³当り単価表

歩掛コード

S191140

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 6-5
橋 り よ う 特 殊 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン 賃 料	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（2011 年規制）_____ 25 t 吊	日		〃
<u>仮 設 材 損 料</u>		式	1.0	表 6-6, <u>6-7</u>
合 計				
1 空m ³ 当り		空m ³	100	

(13) 支柱受台設置・撤去 1.0m当り単価表

歩掛コード

S191130

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 6- <u>8</u>
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
鋼 材 賃 料	H形鋼 <u>300</u> 型	t		〃（別途計上）
H形鋼修理費・損耗費		〃		〃（別途計上）
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン 賃 料	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（2011 年規制）_____ 25 t 吊	日		〃
合 計				
1m当り		m	10	

(14) 支承設置 1.0 個当り単価表

歩掛コード

S191211

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人	<u>1.0</u>	表 7-1
橋 り よ う 特 殊 工		人	<u>2.0</u>	〃
普 通 作 業 員		人	<u>2.0</u>	〃
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（2011 年規制）_____ 25 t 吊	日	<u>1.0</u>	表 7-3
合 計				
1 個当り		個	N	

(注) N：日当り施工数量

ページ

改正

P35改P36

(15) 支承材料1.0個当り単価表

歩掛コード		S191212		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
ゴ ム 支 承		m ²		
鋼 角 ス ト ッ パ ー		個	1.0	
無 収 縮 モ ル タ ル		m ³		(16) 単価表
合 計				
1 個当り		個	1.0	

(16) 無収縮モルタル 1.0 m³当り単価表

歩掛コード		S230151		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
無 収 縮 モ ル タ ル	プレミックスタイプ	kg	――	表 7-2
合 計				
1 m ³ 当り		m ³	1.0	

(17) 登り栈橋 1.0 箇所当り単価表

歩掛コード		S230183		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 特 殊 工		人		
登 り 栈 橋 損 料		月		
合 計				
1 箇所当り		箇所	1.0	

(注) 登り栈橋工は、「6-2-9 鋼橋架設――」による。

現行

(15) 支承材料 1.0 個当り単価表

歩掛コード		S191212		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
ゴ ム 支 承		m ²		
鋼 角 ス ト ッ パ ー		個	1.0	
無 収 縮 モ ル タ ル		m ³		(16) 単価表
合 計				
1 個当り		個	1.0	

(16) 無収縮モルタル 1.0 m³当り単価表

歩掛コード		S230151		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
無 収 縮 モ ル タ ル	プレミックスタイプ	kg	1.875	表 7-2
合 計				
1 m ³ 当り		m ³	1.0	

(17) 登り栈橋 1.0 箇所当り単価表

歩掛コード		S230183		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 特 殊 工		人		
登 り 栈 橋 損 料		月		
合 計				
1 箇所当り		箇所	1.0	

(注) 登り栈橋工は、「――鋼橋架設積算要領」による。

ページ

改正

P36改P37

(18) 鉄筋工(下路桁)1 t 当り単価表

歩掛コード		S191330		
名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	――	表 9-1
鉄筋工		〃	――	〃
とび工		〃	――	〃
普通作業員		〃	――	〃
異形棒鋼	(設計数量) × (1+割増率)	kg		1000 kg×1.04
諸雑費	(労務費+材料費)×率	%	7.0	
合計				
1 t 当り		t	1.0	

(注) 鉄筋数量は、設計数量に割増をするものとし、切断ロス等を考慮して割増率は4%を標準とする。

(19) コンクリート工(下路桁) 設計 1.0 m³当り単価表

歩掛コード		S191360		
名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	――	表 9-2
特殊作業員		〃	――	〃
普通作業員		〃	――	〃
生コンクリート	(設計数量) × (1+割増率)	m³	――	10.0×1.025
コンクリートポンプ車運転	<u>トラック架装・ブーム式</u> <u>圧送能力</u> 90～110 m³/h	日	――	表 9-3
合計				
1 m³当り		m³	10	

(注) コンクリート数量は設計数量に割増をするものとし、2.5%とする。

(20) 養生工(下路桁)1.0 m²当り単価表

歩掛コード		S191370		
名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	――	表 9-4
養生マット	1.0m×30m×10 mm	m²	――	表 9-5
合計				
1 m²当り		m²	100	

現行

(18) 鉄筋工(下路桁)1 t 当り単価表

歩掛コード		S191330		
名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	<u>0.5</u>	表 9-1
鉄筋工		〃	<u>4.1</u>	〃
とび工		〃	<u>0.1</u>	〃
普通作業員		〃	<u>2.4</u>	〃
異形棒鋼	(設計数量) × (1+割増率)	kg		1000 kg×1.04
諸雑費	(労務費+材料費)×率	%	7.0	
合計				
1 t 当り		t	1.0	

(注) 鉄筋数量は、設計数量に割増をするものとし、切断ロス等を考慮して割増率は4%を標準とする。

(19) コンクリート工(下路桁) 設計 1.0 m³当り単価表

歩掛コード		S191360		
名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	<u>0.1</u>	表 9-2
特殊作業員		〃	<u>0.8</u>	〃
普通作業員		〃	<u>0.6</u>	〃
生コンクリート	(設計数量) × (1+割増率)	m³		10.0×1.025
コンクリートポンプ車運転	<u>ブーム式</u> <u>90～110 m³/h</u>	日	<u>0.06</u>	表 9-3
合計				
1 m³当り		m³	10	

(注) コンクリート数量は設計数量に割増をするものとし、2.5%とする。

(20) 養生工(下路桁)1.0 m²当り単価表

歩掛コード		S191370		
名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人	<u>1.4</u>	表 9-4
養生マット	1.0m×30m×10 mm	m²	<u>27.5</u>	表 9-5
合計				
1 m²当り		m²	100	

ページ

改

正

P37
改P38

(21) 機械器具損料(下路桁) 1.0連当り単価表

歩掛コード

S191375

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
バ イ ブ レ ー タ	高周波バイブレータ 50 mm	台・日		表 9-6
発 電 機 賃 料	高周波(エンジン式) 3.0kVA	〃		〃
高周波発電機燃料	ガソリン	L		〃
合 計				
1 連当り		連	1.0	

(注)一連当りバイブレータ供用日数 15 日

(22) 型枠(下路桁) 1.0 m²当り単価表

歩掛コード

S191420

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
底 型 枠		m ²		(23) 単価表
側 型 枠		〃		〃
合 計				
1 m ² 当り		m ²	A	

(注) A：型枠合計数量

(23) 型枠工 1.0 m²当り単価表

歩掛コード

S191421

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 9-8(製作)
型 わ く 工		〃		〃 (製作)
普 通 作 業 員		〃		〃 (製作)
塗 装 合 板	0.9m×1.8m×12 mm	枚		表 9-9 (製作型枠材料)
平 割 材	特杉 1 等 3m×3 cm×9 cm	m ³		〃 (製作型枠材料)
土 木 一 般 世 話 役		人		表 9-8(組立撤去)
型 わ く 工		〃		〃 (組立撤去)
普 通 作 業 員		〃		〃 (組立撤去)
組 立 材 料 費	(組立撤去の労務費)×率	%		表 9-10
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン 賃 料	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (2011 年規制) 最大吊上能力 25 t 吊	日	――	表 9-11
合 計				
1 m ² 当り		m ²	10	

現 行

(21) 機械器具損料(下路桁) 1.0 連当り単価表

歩掛コード

S191375

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
バ イ ブ レ ー タ	高周波バイブレータ 50 mm	台・日		表 9-6
発 電 機 賃 料	高周波(エンジン式) 3.0kVA	〃		〃
高周波発電機燃料	ガソリン	L		〃
合 計				
1 連当り		連	1.0	

(注)一連当りバイブレータ供用日数 15 日

(22) 型枠(下路桁) 1.0 m²当り単価表

歩掛コード

S191420

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
底 型 枠		m ²		(23) 単価表
側 型 枠		〃		〃
合 計				
1 m ² 当り		m ²	A	

(注) A：型枠合計数量

(23) 型枠工 1.0 m²当り単価表

歩掛コード

S191421

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 9-8(製作)
型 わ く 工		〃		〃 (製作)
普 通 作 業 員		〃		〃 (製作)
塗 装 合 板	0.9m×1.8m×12 mm	枚		表 9-9 (製作型枠材料)
平 割 材	特杉 1 等 3m×3 cm×9 cm	m ³		〃 (製作型枠材料)
土 木 一 般 世 話 役		人		表 9-8(組立撤去)
型 わ く 工		〃		〃 (組立撤去)
普 通 作 業 員		〃		〃 (組立撤去)
組 立 材 料 費	(組立撤去の労務費)×率	%		表 9-10
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン 賃 料	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (2011 年規制) <u>――</u> 25 t 吊	日	<u>0.20</u>	表 9-11
合 計				
1 m ² 当り		m ²	10	

ページ

改

正

P38改P39

(24) P Cケーブル工(下路桁縦締ケーブル)1.0m当り単価表

歩掛コード

S191441

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人	――	表 9-12
橋 り よ う 特 殊 工		〃	――	〃
と び 工		〃	――	〃
普 通 作 業 員		〃	――	〃
P C 鋼 材		kg	――	〃
諸 雑 費	(労務費)×率	%	――	〃
合 計				
1m当り		m	100	

(25) P C緊張工(下路桁縦締めケーブル)1.0箇所当り単価表

歩掛コード

S191481

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 9-14, 表 9-15
橋 り よ う 特 殊 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
型 わ く 工		〃		〃
定着装置(緊張用)		個		〃
定着装置(固定用)		〃		〃
諸 雑 費	(労務費)×率	%	――	〃
合 計				
1箇所当り		箇所	10	

(注) 1箇所=1 ケーブル

(26) P Cケーブル工(下路桁横締めケーブル)1.0m当り単価表

歩掛コード

S191451

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 9-13
橋 り よ う 特 殊 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
P C 鋼 材		kg		〃
諸 雑 費	(労務費+材料費)×率	%	――	〃
合 計				
1m当り		m	100	

(24) P Cケーブル工(下路桁縦締ケーブル)1.0m当り単価表

歩掛コード

S191441

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人	<u>1.4</u>	表 9-12
橋 り よ う 特 殊 工		〃	<u>7.1</u>	〃
と び 工		〃	<u>0.1</u>	〃
普 通 作 業 員		〃	<u>5.9</u>	〃
P C 鋼 材		kg		〃
諸 雑 費	(労務費)×率	%	<u>27.0</u>	〃
合 計				
1m当り		m	100	

(25) P C緊張工(下路桁縦締めケーブル)1.0箇所当り単価表

歩掛コード

S191481

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 9-14, 表 9-15
橋 り よ う 特 殊 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
型 わ く 工		〃		〃
定着装置(緊張用)		個		〃
定着装置(固定用)		〃		〃
諸 雑 費	(労務費)×率	%	<u>15.0</u>	〃
合 計				
1箇所当り		箇所	10	

(注) 1箇所=1 ケーブル

(26) P Cケーブル工(下路桁横締めケーブル)1.0m当り単価表

歩掛コード

S191451

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 9-13
橋 り よ う 特 殊 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
P C 鋼 材		kg		〃
諸 雑 費	(労務費+材料費)×率	%	<u>14.0</u>	〃
合 計				
1m当り		m	100	

ページ

改正

P39改P40

(27) P C 緊張工（下路桁横締めケーブル）1.0箇所当り単価表

歩掛コード

S191491

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 9-14, 9-15
橋 り よ う 特 殊 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
型 わ く 工		〃		〃
定着装置（緊張用）		個		〃
定着装置（固定用）		〃		〃
諸 雑 費	(労務費)×率	%		〃
合 計				
1 箇所当り		箇所	10	

(注) 1 箇所=1 ケーブル

(28) 機械運転単価表

(運転 1 日当り)

機 械 名	規 格	指 定 事 項
コンクリートポンプ車	トラック架装・ブーム式 圧送能力 90～110 m³/h	運転労務数量→ 1.00 燃料消費量 → 79 機械損料数量→ 1.02

現行

(27) P C 緊張工（下路桁横締めケーブル）1.0 箇所当り単価表

歩掛コード

S191491

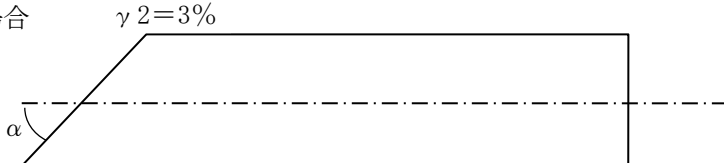
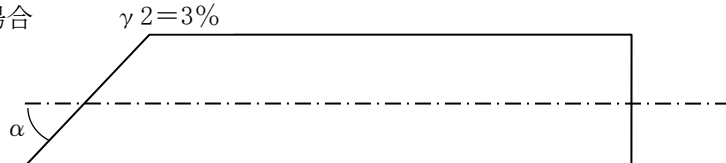
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 9-14, 9-15
橋 り よ う 特 殊 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
型 わ く 工		〃		〃
定着装置（緊張用）		個		〃
定着装置（固定用）		〃		〃
諸 雑 費	(労務費)×率	%	15.0	〃
合 計				
1 箇所当り		箇所	10	

(注) 1 箇所=1 ケーブル

(28) 機械運転単価表

(運転 1 日当り)

機 械 名	規 格	指 定 事 項
コンクリートポンプ車	ブーム式 90～110 m³/h	運転労務数量→ 1.00 燃料消費量 → 79 機械損料数量→ 1.02

ページ	0000	現 行																																				
P3	3-3 製作標準工数の補正 重連、斜橋又は曲線橋による工数の補正率はそれぞれ小数点以下を四捨五入して整数とする。(単位%) 3-3-1 重連による補正率 同一橋梁形式において、支間長、主桁本数、主桁間隔、斜角、曲率が同一の橋梁が重連する場合は、連数により下記に示す表で工数を補正する。 表 3-2 重連による補正率 <table><tr><td>連 数</td><td>2</td><td>3・4</td><td>5・6</td><td>7 以上</td><td>記 事</td></tr><tr><td>補正率 (γ 1)</td><td>-3%</td><td>-4%</td><td>-6%</td><td>-7%</td><td></td></tr></table> (注) 連続桁の場合は、1 連続桁を 1 連とする。 3-3-2 斜橋による工数の補正 橋端部が斜めである橋梁では斜角 (α) により表 3-3 に示す率で工数を補正する。 表 3-3 斜角による補正率 <table><tr><td>斜角</td><td>補正率 (γ 2)</td><td>記事</td></tr><tr><td>α < 90°</td><td>3%</td><td></td></tr></table> (注) 1. 次のような場合の斜角補正は、以下による。 2. 桁自体を湾曲させている曲線橋は、斜橋による工数割増の対象としない。 (1) 単純桁 片側斜角の場合 	連 数	2	3・4	5・6	7 以上	記 事	補正率 (γ 1)	-3%	-4%	-6%	-7%		斜角	補正率 (γ 2)	記事	α < 90°	3%		3-3 製作標準工数の補正 重連、斜角及び曲線橋の補正は、次による。 3-3-1 重連補正 同一形式、同一支間の場合は、次による。 表 3-2 重連補正 <table><tr><td>連 数</td><td>2</td><td>3・4</td><td>5・6</td><td>7 以上</td><td>記 事</td></tr><tr><td>補正率 (γ 1)</td><td>-3%</td><td>-4%</td><td>-6%</td><td>-7%</td><td></td></tr></table> (注) 連続桁は、1 連続桁を 1 連とする。 3-3-2 斜角補正 橋端部が斜めである場合は次による。 表 3-3 斜角補正 <table><tr><td>斜角</td><td>補正率 (γ 2)</td><td>記事</td></tr><tr><td>α < 90°</td><td>3%</td><td></td></tr></table> (注) 1. 次のような場合の斜角補正は、以下による。 2. 桁自体を湾曲させている曲線橋は、斜橋による工数割増の対象としない。 (1) 単純桁 片側斜角の場合 	連 数	2	3・4	5・6	7 以上	記 事	補正率 (γ 1)	-3%	-4%	-6%	-7%		斜角	補正率 (γ 2)	記事	α < 90°	3%	
連 数	2	3・4	5・6	7 以上	記 事																																	
補正率 (γ 1)	-3%	-4%	-6%	-7%																																		
斜角	補正率 (γ 2)	記事																																				
α < 90°	3%																																					
連 数	2	3・4	5・6	7 以上	記 事																																	
補正率 (γ 1)	-3%	-4%	-6%	-7%																																		
斜角	補正率 (γ 2)	記事																																				
α < 90°	3%																																					

ページ

P5

改正

3-3-3 曲線橋の補正

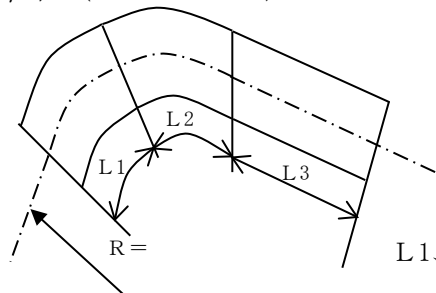
桁自体を湾曲させて曲線橋としている橋梁では、中心線における曲線半径（R）により表 3-4 に示す率で工数を補正する。

表 3-4 曲線橋による補正率

曲線半径 <u>(R)</u>	補正率（γ3）		記 事
	箱 桁	箱桁以外	
R ≤600m	19%	9%	

(注) 曲線、直線が混在する場合の補正率は、次により行うものとする。

$$\gamma 3 = (L1 + L2) \times \gamma 3 / (L1 + L2 + L3)$$



L1、L2、L3は中心線の支間長

4. 鋼材他

4-1 鋼材等割増

鋼材等の設計質量の割増は、次表による。

表 4-1 鋼材等割増

種 別	割増率	記 事
鋼 板	13%	
形 鋼	8%	平鋼、鋼管、コラム類、縞鋼板、棒鋼を含む
ボルト・ナット	3%	HTB、スタッドジベルを含む

[解 説]
割増率は、スクラップ値相当量を差し引いた値である。

4-2 溶接棒

溶接棒は、次による。

表 4-2 溶接棒 (すみ肉 6 mm換算 1m当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	記 事
溶 接 棒	高張力鋼用 φ 5.0 mm	kg	0.43	JISZ3212(D5016)

[解 説]
溶接延長の算出は、6-2-5 鋼構造物建方 2.溶接延長換算率による。

現 行

3-3-3 曲線橋の補正

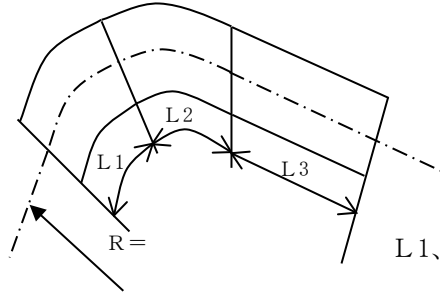
桁自体を湾曲させて曲線橋としている場合は、次による。

表 3-4 曲線橋の補正

曲線半径 <u> </u>	補正率（γ3）		記 事
	箱 桁	箱桁以外	
R ≤600m	19%	9%	

(注) 曲線、直線が混在する場合の補正率は、次により行うものとする。

$$\gamma 3 = (L1 + L2) \times \gamma 3 / (L1 + L2 + L3)$$



L1、L2、L3は中心線の支間長

4. 鋼材他

4-1 鋼材等割増

鋼材等の設計質量の割増は、次表による。

表 4-1 鋼材等割増

種 別	割増率	記 事
鋼 板	13%	
形 鋼	8%	平鋼、鋼管、コラム類、縞鋼板、棒鋼を含む
ボルト・ナット	3%	HTB、スタッドジベルを含む

[解 説]
割増率は、スクラップ値相当量を差し引いた値である。

4-2 溶接棒

溶接棒は、次による。

表 4-2 溶接棒 (すみ肉 6 mm換算 1m当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	記 事
溶 接 棒	高張力鋼用 φ 5.0 mm	kg	0.43	JISZ3212(D5016)

[解 説]
溶接延長の算出は、「 鋼構造物建方 3.溶接延長換算率」による。

6-2-8 鉄けた製作 - 2 -

ページ

改正

P6

5. 鋳造費

鋳造費とは、金属支承及びゴム支承を言う。

6. 工場塗装

6-1 塗装工数

表 6-1 工場塗装

(一層 100 m²当り)

職種	塗装部位		箱桁内面
	一般外面及び添接部		
	B S U	B S U以外	
直接工（A）	1. 1	1. 5	2. 5

(注) 塗装工数の算出は、6-3 の塗装系の塗料を対象とする。

[解 説]

塗装系 B S U の第一層の塗布は素地調整に含まれている。

6-2 素地調整

表 6-2 素地調整

(素地調整面積 1 m²当り)

(円/m²)

名称・規格	一般外面及び添接部		箱桁内面	無塗装桁
	B S U	B S U以外		
北海道	1, 160	3, 030	1, 790	2, 000
関東・甲信 ・北陸	1, 140	2, 990	1, 770	1, 970
中部・関西	1, 100	2, 840	1, 690	1, 860
中国・四国 ・九州	1, 070	2, 770	1, 650	1, 800

(1) 無塗装桁において、さび安定化処理を行う場合は実情により積算すること。
(2) 東北地方にて製作する場合は別途打合せされたい。
(3) 福井県は関西に含む。

[解 説]

1. 素地調整については、「鋼構造物塗装設計施工指針(R 7. 8 鉄道総研)」による。
2. 塗装系 B S U の原板ブラスト処理後のエッチングプライマーの塗布量は、130 g / m²である。

現行

5. 鋳造費

鋳造費とは、金属支承及びゴム支承を言う。

6. 工場塗装

6-1 塗装工数

表 6-1 工場塗装

(一層 100 m²当り)

職種	塗装部位		箱桁内面
	一般外面及び添接部		
	B S U	B S U以外	
直接工（A）	1. 1	1. 5	2. 5

(注) 塗装工数の算出は、6-3 の塗装系の塗料を対象とする。

[解 説]

塗装系 B S U の第一層の塗布は素地調整に含まれている。

6-2 素地調整

表 6-2 素地調整

(素地調整面積 1 m²当り)

(円/m²)

名称・規格	一般外面及び添接部		箱桁内面	無塗装桁
	B S U	B S U以外		
北海道	1, 100	2, 850	1, 690	1, 860
関東・甲信 ・北陸	1, 120	2, 910	1, 730	1, 910
中部・関西	1, 090	2, 810	1, 670	1, 830
中国・四国 ・九州	1, 030	2, 610	1, 560	1, 680

(1) 無塗装桁において、さび安定化処理を行う場合は実情により積算すること。
(2) 東北地方にて製作する場合は別途打合せされたい。
(3) 福井県は関西に含む。

[解 説]

1. 素地調整については、「鋼構造物塗装設計施工指針(H25. 12 鉄道総研)」及び「無塗装鋼鉄道橋設計施工の手引き(H17. 9)」による。
2. 塗装系 B S U の原板ブラスト処理後のエッチングプライマーの塗布量は、130 g / m²である。

ページ

改正

P7

6-3 塗料標準使用量

塗装種類別の塗料標準使用量〔鋼構造物塗装設計施工指針(R 7. 8 鉄道総研)〕は、次による。

表 6-3 塗料標準使用量 (g／㎡)

塗料名	塗装部位		一 般 面 外					添接板表面	箱桁内面の添接板表面
	B S U-1	B S U-2	BMU1-2	J-2	L-2	L N-2	BMU1-3 L-3 J-3	WW-3	
鉛・クロームフリーさび止めペイント	170×2 =340	170×2 =340							
長油性フタル酸樹脂塗料中塗		140							
長油性フタル酸樹脂塗料上塗		130							
無機ジンクリッチプライマー			200		200				
厚膜型変性エポキシ樹脂系塗料			350		350×2 =700	350×2 =700			
厚膜型変性エポキシ樹脂系塗料上塗						350			
ポリウレタン樹脂塗料中塗				160					
ポリウレタン樹脂塗料上塗			140	140					
厚膜型ポリウレタン樹脂塗料上塗					180				
厚膜型エポキシ樹脂ジンクリッチペイント				700					
厚膜型エポキシ樹脂系塗料下塗				300×2 =600					
厚膜型無機ジンクリッチペイント							700	700	

(注) 1 塗装は、鉄桁用とする。
2 塗装系B S Uの第一層のエッチングプライマーは、素地調整に含む。
3 希釈剤には、機器等の洗浄用を含む。

現 行

6-3 塗料標準使用量

塗装種類別の塗料標準使用量〔鋼構造物塗装設計施工指針(H25.12 鉄道総研)〕は、次による。

表 6-3 塗料標準使用量 (g／㎡)

塗料名	塗装部位		一 般 面 外					添接板表面	箱桁内面の添接板表面
	B S U-1	B S U-2	BMU1-2	J-2	L-2	L N-2	BMU1-3 L-3 J-3	WW-3	
鉛・クロームフリーさび止めペイント	170×2 =340	170×2 =340							
長油性フタル酸樹脂塗料中塗		140							
長油性フタル酸樹脂塗料上塗		130							
無機ジンクリッチプライマー			200		200				
厚膜型変性エポキシ樹脂系塗料			350		350×2 =700	350×2 =700			
厚膜型変性エポキシ樹脂系塗料上塗						350			
ポリウレタン樹脂塗料中塗				160					
ポリウレタン樹脂塗料上塗			140	140					
厚膜型ポリウレタン樹脂塗料上塗					180				
厚膜型エポキシ樹脂ジンクリッチペイント				700					
厚膜型エポキシ樹脂系塗料下塗				300×2 =600					
厚膜型無機ジンクリッチペイント							700	700	

(注) 1 塗装は、鉄桁用とする。
2 塗装系B S Uの第一層のエッチングプライマーは、素地調整に含む。
3 希釈剤には、機器等の洗浄用を含む。

ページ

ページ

改正

現行

P5

7. 地組工

プレートガーダー等で主桁を地上等で予め縦列に連結し仮締をする作業である。

(1) 地組歩掛

表 7-1 地組歩掛

編成人員（人／日）		地組日数（日）	記 事
橋りょう世話役	1	0.028 X + 0.78	X・・・地組対象質量（t）
橋りょう特殊工	5		
普通作業員	1		

(2) 地組クレーン

表 7-2 地組クレーン

名 称	規 格	単位	数 量	記 事
自走クレーン	主桁架設クレーン	台	1	運転日数

(注) トラッククレーン工法で 80 t 吊以上の架設用クレーンを使用する場合は、運転日数に 1.2 を乗じる。

(3) 機械器具

表 7-3 機械器具

名 称	規 格	単位	数量	運転時間	記 事
発動発電機	ディーゼルエンジン駆動(超低騒音型)・排出ガス対策型(第3次基準値) 定格容量 (50/60Hz) 37/45kVA	台	1	7H／日	賃料による
架 設 工 具	—	組	1	—	供用月数日損料

(注) 地組に伴う仮締作業を含む。

8. 架設工（クレーン架設）

8-1 ベント設備

ベント据付・解体

(1) 編成人員

表 8-1 編成人員

職 種	単位	数 量	記 事
橋りょう世話役	人／日	1	
橋りょう特殊工	人／日	5	
普通作業員	人／日	1	

(2) 施工日数（y）

y = 0.375 × X^{0.80}

X : ベント総質量……………（t）

(3) 据付・解体クレーン

ラフテレーンクレーン「油圧伸縮ジブ型」・排出ガス対策型（2014 年規制）最大吊上能力 25 t 吊を標準とする。

(注) ただし、現地の状況等により上記機種により難い場合は別途選定できる。

7. 地組工

プレートガーダー等で主桁を地上等で予め縦列に連結し仮締をする作業である。

(1) 地組歩掛

表 7-1 地組歩掛

編成人員（人／日）		地組日数（日）	記 事
橋りょう世話役	1	0.028 X + 0.78	X・・・地組対象質量（t）
橋りょう特殊工	5		
普通作業員	1		

(2) 地組クレーン

表 7-2 地組クレーン

名 称	規 格	単位	数 量	記 事
自走クレーン	主桁架設クレーン	台	1	運転日数

(注) トラッククレーン工法で 80 t 吊以上の架設用クレーンを使用する場合は、運転日数に 1.2 を乗じる。

(3) 機械器具

表 7-3 機械器具

名 称	規 格	単位	数量	運転時間	記 事
発動発電機	45kVA 排出ガス対策型(第1次基準値)	台	1	7H／日	賃料による
架 設 工 具	—	組	1	—	供用月数日損料

(注) 地組に伴う仮締作業を含む。

8. 架設工（クレーン架設）

8-1 ベント設備

ベント据付・解体

(1) 編成人員

表 8-1 編成人員

職 種	単位	数 量	記 事
橋りょう世話役	人／日	1	
橋りょう特殊工	人／日	5	
普通作業員	人／日	1	

(2) 施工日数（y）

y = 0.375 × X^{0.80}

X : ベント総質量……………（t）

(3) 据付・解体クレーン

ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型（第1次基準値） 20 t を標準とする。

(注) ただし、現地の状況等により上記機種により難い場合は別途選定できる。

ページ

改 正

P6

(4) 機械器具

表 8-2 機械器具

名 称	規格	単位	数 量	運転時間	記 事
ベ ン ト	—	t	—	—	供用日損料
発 動 発 電 機	ディーゼルエンジン駆動 (超低騒音型)・排出 ガス対策型 (第 3 次 基準値) 定格容量 (50/60Hz) 37/45kVA	台	1	7H／日	賃料による
架 設 工 具	—	組	1	—	供用日損料

(注) 1. ベントの損料対象は、ベントによる架設部分、地組、ボルト締付及びベント据付・解体の供用日数を対象とする。
2. 発動発電機の賃料対象は、ベント据付・解体の施工日数を対象とする。
3. 架設工具の損料対象は、ベント据付・解体の供用日数を対象とする。

8-2 ベント基礎
ベント基礎据付、撤去

(1) 編成人員

表 8-3 編成人員

職 種	単位	数 量	記 事
橋りょう世話役	人／日	1	
橋りょう特殊工	人／日	1	
普通作業員	人／日	1	

(2) 据付・撤去日数
据付・撤去作業日数＝0.2×A^{0.566}
A＝ベント基礎施工面積（㎡）
(注) 1. 鋼板規格は鋼板厚さ 22 mmを標準とする。
2. 整地、コンクリート基礎及び基礎杭が必要な場合は、現場状況に応じて別途計上する。
3. 鋼板は損耗費とする。（ベント設備供用 1 日当り損料に乘じる率で算出する。）
4. 日当り施工量は整数止めとし、小数第 1 位を四捨五入し整数止めとする。
5. ベント基礎の延面積（A）は次式による。
A＝Σ A_i
A_i＝（B＋2）×3
A_i：ベント 1 基当りの基礎の面積
B：外桁～外桁間隔（箱桁は外W e b～外W e b間隔）（m）
h：ベント高さ（基礎天端から主桁下端まで）（m）
なお、A_i、B、hとも小数第 1 位止（2 位四捨五入）とし、整数止めとする。
6. 鋼板供用 1 日当り損耗費については、ベント設備供用 1 日当り損料に次表の率を乗じるものとする。なお、鋼板供用日数は、ベント設備供用日数と同等とする。

ベント基礎に鋼板を使う場合のベント設備供用 1 日当り損料に乘じる率

表 8-4 ベント基礎損料率

ベント設備損料に乘じる率（％）
2

(3) 据付・撤去クレーン
ラフテレーンクレーン 〔油圧伸縮ジブ型〕・排出ガス対策型（2014 年規制） 最大吊上能力 25 t 吊を標準とする。

現 行

(4) 機械器具

表 8-2 機械器具

名 称	規格	単位	数 量	運転時間	記 事
ベ ン ト	—	t	—	—	供用日損料
発 動 発 電 機	<u>45kVA</u> 排出ガス 対策型 (第 1 次 基準値)	台	1	7H／日	賃料による
架 設 工 具	—	組	1	—	供用日損料

(注) 1. ベントの損料対象は、ベントによる架設部分、地組、ボルト締付及びベント据付・解体の供用日数を対象とする。
2. 発動発電機の賃料対象は、ベント据付・解体の施工日数を対象とする。
3. 架設工具の損料対象は、ベント据付・解体の供用日数を対象とする。

8-2 ベント基礎
ベント基礎据付、撤去

(1) 編成人員

表 8-3 編成人員

職 種	単位	数 量	記 事
橋りょう世話役	人／日	1	
橋りょう特殊工	人／日	1	
普通作業員	人／日	1	

(2) 据付・撤去日数
据付・撤去作業日数＝0.2×A^{0.566}
A＝ベント基礎施工面積（㎡）
(注) 1. 鋼板規格は鋼板厚さ 22 mmを標準とする。
2. 整地、コンクリート基礎及び基礎杭が必要な場合は、現場状況に応じて別途計上する。
3. 鋼板は損耗費とする。（ベント設備供用 1 日当り損料に乘じる率で算出する。）
4. 日当り施工量は整数止めとし、小数第 1 位を四捨五入し整数止めとする。
5. ベント基礎の延面積（A）は次式による。
A＝Σ A_i
A_i＝（B＋2）×3
A_i：ベント 1 基当りの基礎の面積
B：外桁～外桁間隔（箱桁は外W e b～外W e b間隔）（m）
h：ベント高さ（基礎天端から主桁下端まで）（m）
なお、A_i、B、hとも小数第 1 位止（2 位四捨五入）とし、整数止めとする。
6. 鋼板供用 1 日当り損耗費については、ベント設備供用 1 日当り損料に次表の率を乗じるものとする。なお、鋼板供用日数は、ベント設備供用日数と同等とする。

ベント基礎に鋼板を使う場合のベント設備供用 1 日当り損料に乘じる率

表 8-4 ベント基礎損料率

ベント設備損料に乘じる率（％）
2

(3) 据付・撤去クレーン
ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型（第 1 次基準値） 20 tを標準とする。

ページ

8-3 桁架設
(1) 編成人員

表 8-5 編成人員

職 種	単 位	数 量	記 事
橋りょう世話役	人／日	1	
橋りょう特殊工	人／日	5	
普 通 作 業 員	人／日	1	

(2) 日架設質量

表 8-6 日架設質量 (t ／ 日)

架設工法	橋体総質量	100 t 未満	100 t 以上～1,000 t 未満	1,000 t 以上	記 事
クレーン 又 は クレーンベント		14.6	$1.76 \times X^{0.46}$	42.2	X・橋体総質量

(注) 橋体総質量は架設すべき主桁、副部材、検査路等の総質量であり、沓、高欄、ボルト類質量は除く。

(3) 架設クレーン

表 8-7 架設クレーン

名 称	規 格	単位	数量	記 事
自 走 クレーン	架設部材の最大質量 で選定	台	1	運転日数

(注) トラッククレーン工法で 80 t 吊以上の架設用クレーンを使用する場合は、運転日数に 1.2 を乗じる。

(4) 機械器具

表 8-8 機械器具

名 称	規 格	単位	数量	運転時間	記 事
発 動 発 電 機	ディーゼルエンジン駆動(超低騒音型)・排出ガス対策型 (第3次基準値) 定格容量(50/60Hz)37/45kVA	台	1	7H／日	賃料による
架 設 工 具	—	組	1	—	供用日損料

(注) 架設に伴う仮締作業を含む。

(5) 架設工具

表 8-9 機械器具

名 称	単位	数量	供用損料 (円/供用日)	記 事
架 設 工 具	組	1	11,300	

(注) 1. 架設工具1組は、労務編成が1日当り橋りょう特殊工6人～9人程度の場合の標準である。
2. 架設工具とは、インパクトレンチ、ジャーナルジャッキ、レバーブロック、電気ドリル、グラインダ二、玉掛ワイヤ一、ガス調整器、切断器、アセチレンホース、酸素ホース、電気溶接機、電線、トルシア締付用レンチ、トルクレンチ、キャリブレーター等が含まれる。
3. 締付トルクを自動的に記録する場合は、高力ボルト締付自動記録計損料を加算する。
(機械損料表による)

現 行

8-3 桁架設
(1) 編成人員

表 8-5 編成人員

職 種	単 位	数 量	記 事
橋りょう世話役	人／日	1	
橋りょう特殊工	人／日	5	
普 通 作 業 員	人／日	1	

(2) 日架設質量

表 8-6 日架設質量 (t ／ 日)

架設工法	橋体総質量	100 t 未満	100 t 以上～1,000 t 未満	1,000 t 以上	記 事
クレーン 又 は クレーンベント		14.6	$1.76 \times X^{0.46}$	42.2	X・橋体総質量

(注) 橋体総質量は架設すべき主桁、副部材、検査路等の総質量であり、沓、高欄、ボルト類質量は除く。

(3) 架設クレーン

表 8-7 架設クレーン

名 称	規 格	単位	数量	記 事
自 走 クレーン	架設部材の最大質量 で選定	台	1	運転日数

(注) トラッククレーン工法で 80 t 吊以上の架設用クレーンを使用する場合は、運転日数に 1.2 を乗じる。

(4) 機械器具

表 8-8 機械器具

名 称	規 格	単位	数量	運転時間	記 事
発 動 発 電 機	45kVA 排出ガス対策型 (第1次基準値)	台	1	7H／日	賃料による
架 設 工 具	—	組	1	—	供用日損料

(注) 架設に伴う仮締作業を含む。

(5) 架設工具

表 8-9 機械器具

名 称	単位	数量	供用損料 (円/供用日)	記 事
架 設 工 具	組	1	10,300	

(注) 1. 架設工具1組は、労務編成が1日当り橋りょう特殊工6人～9人程度の場合の標準である。
2. 架設工具とは、インパクトレンチ、ジャーナルジャッキ、レバーブロック、電気ドリル、グラインダ一、玉掛ワイヤ二、ガス調整器、切断器、アセチレンホース、酸素ホース、電気溶接機、トルシア締付用レンチ、トルクレンチ、キャリブレーター等が含まれる。
3. 締付トルクを自動的に記録する場合は、高力ボルト締付自動記録計損料を加算する。
(機械損料表による)

ページ	改正	現行																																																																																																																																																				
P8	9. 架設工（トラベラクレーン架設） 9-1 トラベラクレーン設備 トラベラクレーン組立解体 (1) 編成人員 表 9-1 編成人員 <table><tr><th>職 種</th><th>単 位</th><th>数 量</th><th>記 事</th></tr><tr><td>橋りょう世話役</td><td>人／日</td><td>1</td><td rowspan="3"></td></tr><tr><td>橋りょう特殊工</td><td>人／日</td><td>7</td></tr><tr><td>普 通 作 業 員</td><td>人／日</td><td>1</td></tr></table> (2) 組立解体日数 表 9-2 組立解体日数 <table><tr><th>種 別</th><th>単 位</th><th>数 量</th><th>記 事</th></tr><tr><td>組 立 解 体</td><td>日</td><td>10</td><td></td></tr></table> [経調微修正] (3) 組立解体クレーン 表 9-3 組立解体クレーン <table><tr><th>名 称</th><th>規 格</th><th>単 位</th><th>数 量</th><th>記 事</th></tr><tr><td>ラフテレーンクレーン</td><td>各 種</td><td>日</td><td>10</td><td>賃料による</td></tr></table> (注) ラフテレーンクレーン <u>〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（2014 年規制）〕</u> <u>最大吊上能力</u> 35 t <u>吊</u>を使用し、これによりがたい場合は別途査定すること。 (4) 機械設備 表 9-4 機械設備 <table><tr><th>名 称</th><th>規 格</th><th>単位</th><th>数量</th><th>記 事</th></tr><tr><td>クレーン本体</td><td>全旋回型</td><td>台</td><td>1</td><td>供用日損料</td></tr><tr><td>発動発電機</td><td><u>ディーゼルエンジン駆動(超低騒音型)・排出ガス対策型（第 3 次基準値）</u> <u>定格容量(50/60Hz) 80/100kVA</u></td><td>台</td><td>1</td><td>トラベラクレーン存置期間計上賃料による。</td></tr><tr><td>架 設 工 具</td><td>－</td><td>組</td><td>1</td><td>供用日損料</td></tr></table> 9-2 軌条設備 軌条設備敷設撤去 (1) 編成人員 表 9-5 編成人員 <table><tr><th>職 種</th><th>単 位</th><th>数 量</th><th>記 事</th></tr><tr><td>橋りょう世話役</td><td>人／日</td><td>1</td><td rowspan="3"></td></tr><tr><td>橋りょう特殊工</td><td>人／日</td><td>3</td></tr><tr><td>普 通 作 業 員</td><td>人／日</td><td>1</td></tr></table> (2) 1 日施工数 表 9-6 1 日施工数 (片側レール当り) <table><tr><th>名 称</th><th>単 位</th><th>数 量</th><th>記 事</th></tr><tr><td>敷 設 撤 去</td><td>m／日</td><td>30</td><td></td></tr></table> (3) 敷設撤去クレーン 架設用のトラベラクレーンによる。	職 種	単 位	数 量	記 事	橋りょう世話役	人／日	1		橋りょう特殊工	人／日	7	普 通 作 業 員	人／日	1	種 別	単 位	数 量	記 事	組 立 解 体	日	10		名 称	規 格	単 位	数 量	記 事	ラフテレーンクレーン	各 種	日	10	賃料による	名 称	規 格	単位	数量	記 事	クレーン本体	全旋回型	台	1	供用日損料	発動発電機	<u>ディーゼルエンジン駆動(超低騒音型)・排出ガス対策型（第 3 次基準値）</u> <u>定格容量(50/60Hz) 80/100kVA</u>	台	1	トラベラクレーン存置期間計上賃料による。	架 設 工 具	－	組	1	供用日損料	職 種	単 位	数 量	記 事	橋りょう世話役	人／日	1		橋りょう特殊工	人／日	3	普 通 作 業 員	人／日	1	名 称	単 位	数 量	記 事	敷 設 撤 去	m／日	30		9. 架設工（トラベラクレーン架設） 9-1 トラベラクレーン設備 トラベラクレーン組立解体 (1) 編成人員 表 9-1 編成人員 <table><tr><th>職 種</th><th>単 位</th><th>数 量</th><th>記 事</th></tr><tr><td>橋りょう世話役</td><td>人／日</td><td>1</td><td rowspan="3"></td></tr><tr><td>橋りょう特殊工</td><td>人／日</td><td>7</td></tr><tr><td>普 通 作 業 員</td><td>人／日</td><td>1</td></tr></table> (2) 組立解体日数 表 9-2 組立解体日数 <table><tr><th>種 別</th><th>単 位</th><th>数 量</th><th>記 事</th></tr><tr><td>組 立 解 体</td><td>日</td><td>10</td><td></td></tr></table> (3) 組立解体クレーン 表 9-3 組立解体クレーン <table><tr><th>名 称</th><th>規 格</th><th>単 位</th><th>数 量</th><th>記 事</th></tr><tr><td>ラフテレーンクレーン</td><td>各 種</td><td>日</td><td>10</td><td>賃料による</td></tr></table> (注) ラフテレーンクレーン _____ 排出ガス対策型（<u>第 1 次基準値</u>） _____ 35 t <u> </u>を使用し、これによりがたい場合は別途査定すること。 (4) 機械設備 表 9-4 機械設備 <table><tr><th>名 称</th><th>規 格</th><th>単位</th><th>数量</th><th>記 事</th></tr><tr><td>クレーン本体</td><td>全旋回型</td><td>台</td><td>1</td><td>供用日損料</td></tr><tr><td>発動発電機</td><td><u>100kVA</u> <u>排出ガス対策型（第 1 次基準値）</u></td><td>台</td><td>1</td><td>トラベラクレーン存置期間計上賃料による。</td></tr><tr><td>架 設 工 具</td><td>－</td><td>組</td><td>1</td><td>供用日損料</td></tr></table> 9-2 軌条設備 軌条設備敷設撤去 (1) 編成人員 表 9-5 編成人員 <table><tr><th>職 種</th><th>単 位</th><th>数 量</th><th>記 事</th></tr><tr><td>橋りょう世話役</td><td>人／日</td><td>1</td><td rowspan="3"></td></tr><tr><td>橋りょう特殊工</td><td>人／日</td><td>3</td></tr><tr><td>普 通 作 業 員</td><td>人／日</td><td>1</td></tr></table> (2) 1 日施工数 表 9-6 1 日施工数 (片側レール当り) <table><tr><th>名 称</th><th>単 位</th><th>数 量</th><th>記 事</th></tr><tr><td>敷 設 撤 去</td><td>m／日</td><td>30</td><td></td></tr></table> (3) 敷設撤去クレーン 架設用のトラベラクレーンによる。	職 種	単 位	数 量	記 事	橋りょう世話役	人／日	1		橋りょう特殊工	人／日	7	普 通 作 業 員	人／日	1	種 別	単 位	数 量	記 事	組 立 解 体	日	10		名 称	規 格	単 位	数 量	記 事	ラフテレーンクレーン	各 種	日	10	賃料による	名 称	規 格	単位	数量	記 事	クレーン本体	全旋回型	台	1	供用日損料	発動発電機	<u>100kVA</u> <u>排出ガス対策型（第 1 次基準値）</u>	台	1	トラベラクレーン存置期間計上賃料による。	架 設 工 具	－	組	1	供用日損料	職 種	単 位	数 量	記 事	橋りょう世話役	人／日	1		橋りょう特殊工	人／日	3	普 通 作 業 員	人／日	1	名 称	単 位	数 量	記 事	敷 設 撤 去	m／日	30	
職 種	単 位	数 量	記 事																																																																																																																																																			
橋りょう世話役	人／日	1																																																																																																																																																				
橋りょう特殊工	人／日	7																																																																																																																																																				
普 通 作 業 員	人／日	1																																																																																																																																																				
種 別	単 位	数 量	記 事																																																																																																																																																			
組 立 解 体	日	10																																																																																																																																																				
名 称	規 格	単 位	数 量	記 事																																																																																																																																																		
ラフテレーンクレーン	各 種	日	10	賃料による																																																																																																																																																		
名 称	規 格	単位	数量	記 事																																																																																																																																																		
クレーン本体	全旋回型	台	1	供用日損料																																																																																																																																																		
発動発電機	<u>ディーゼルエンジン駆動(超低騒音型)・排出ガス対策型（第 3 次基準値）</u> <u>定格容量(50/60Hz) 80/100kVA</u>	台	1	トラベラクレーン存置期間計上賃料による。																																																																																																																																																		
架 設 工 具	－	組	1	供用日損料																																																																																																																																																		
職 種	単 位	数 量	記 事																																																																																																																																																			
橋りょう世話役	人／日	1																																																																																																																																																				
橋りょう特殊工	人／日	3																																																																																																																																																				
普 通 作 業 員	人／日	1																																																																																																																																																				
名 称	単 位	数 量	記 事																																																																																																																																																			
敷 設 撤 去	m／日	30																																																																																																																																																				
職 種	単 位	数 量	記 事																																																																																																																																																			
橋りょう世話役	人／日	1																																																																																																																																																				
橋りょう特殊工	人／日	7																																																																																																																																																				
普 通 作 業 員	人／日	1																																																																																																																																																				
種 別	単 位	数 量	記 事																																																																																																																																																			
組 立 解 体	日	10																																																																																																																																																				
名 称	規 格	単 位	数 量	記 事																																																																																																																																																		
ラフテレーンクレーン	各 種	日	10	賃料による																																																																																																																																																		
名 称	規 格	単位	数量	記 事																																																																																																																																																		
クレーン本体	全旋回型	台	1	供用日損料																																																																																																																																																		
発動発電機	<u>100kVA</u> <u>排出ガス対策型（第 1 次基準値）</u>	台	1	トラベラクレーン存置期間計上賃料による。																																																																																																																																																		
架 設 工 具	－	組	1	供用日損料																																																																																																																																																		
職 種	単 位	数 量	記 事																																																																																																																																																			
橋りょう世話役	人／日	1																																																																																																																																																				
橋りょう特殊工	人／日	3																																																																																																																																																				
普 通 作 業 員	人／日	1																																																																																																																																																				
名 称	単 位	数 量	記 事																																																																																																																																																			
敷 設 撤 去	m／日	30																																																																																																																																																				

ページ

改

正

P9

(4) 機械器具

表 9-7 機械器具

名 称	規 格	単位	数量	運転時間	記 事
軌 道 材 料	37 kg／m	m	必要数量	－	供用日損料
発 動 発 電 機	<u>ディーゼルエンジン駆動(超低騒音型)・排出ガス対策型 (第3次基準値)</u> <u>定格容量(50/60Hz) 80/100kVA</u>	台	1	7H／日	賃料による
自 走 台 車	392. 3kN (40 t)	〃	1	－	供用日損料
重 量 台 車	196. 1kN (20 t)	〃	1	－	〃
発 動 発 電 機	<u>ディーゼルエンジン駆動(超低騒音型)・排出ガス対策型 (第3次基準値)</u> <u>定格容量(50/60Hz) 13/15kVA</u>	〃	1	7H／日	賃料による

(注) 1. 発動発電機については、軌条設備敷設撤去に伴うトラベラクレーンの存置期間計上する。
2. 軌道材料設置期間＝運搬台車据付撤去＋支承据付＋ボルト締付＋主桁架設＋軌道材料敷設撤去。

9-3 台車設備

(1) 編成人員

表 9-8 編成人員

職 種	単 位	数 量	記 事
橋りょう世話役	人／日	1	自走台車、重量台車共据付・撤去各々0.5日／台
橋りょう特殊工	人／日	6	
普 通 作 業 員	人／日	1	

(2) 設備機械

・通常はラフテレーンクレーン 〔油圧伸縮ジブ型〕排出ガス対策型 (2014 年規制) 最大吊上能力 16 t 吊 を使用し、これによりがたい場合は別途査定すること。

(3) 運搬台車設備

表 9-9 運搬台車設備

名 称	規 格	単位	数量	記 事
自 走 台 車	耐力 392. 3kN (40 t)	台	1	供用日損料
重 量 台 車	耐力 196. 1kN (20 t)	台	1	供用日損料
発 動 発 電 機	<u>ディーゼルエンジン駆動(超低騒音型)・排出ガス対策型 (第3次基準値)</u> <u>定格容量(50/60Hz) 13/15kVA</u>	台	1	設備期間計上し、賃料による

(4) 設備期間

・運搬台車据付・撤去＋支承据付＋ボルト締付＋主桁架設

9-4 ベント設備

8 架設工（クレーン架設）8-1 ベント設備による。

9-5 ベント基礎

8 架設工（クレーン架設）8-2 ベント基礎による。

現 行

(4) 機械器具

表 9-7 機械器具

名 称	規 格	単位	数量	運転時間	記 事
軌 道 材 料	37 kg／m	m	必要数量	－	供用日損料
発 動 発 電 機	<u>100kVA</u> <u>排出ガス対策型 (第1次基準値)</u>	台	1	7H／日	賃料による
自 走 台 車	392. 3kN (40 t)	〃	1	－	供用日損料
重 量 台 車	196. 1kN (20 t)	〃	1	－	〃
発 動 発 電 機	<u>15kVA</u> <u>排出ガス対策型 (第1次基準値)</u>	〃	1	7H／日	賃料による

(注) 1. 発動発電機については、軌条設備敷設撤去に伴うトラベラクレーンの存置期間計上する。
2. 軌道材料設置期間＝運搬台車据付撤去＋支承据付＋ボルト締付＋主桁架設＋軌道材料敷設撤去。

9-3 台車設備

(1) 編成人員

表 9-8 編成人員

職 種	単 位	数 量	記 事
橋りょう世話役	人／日	1	自走台車、重量台車共据付・撤去各々0.5日／台
橋りょう特殊工	人／日	6	
普 通 作 業 員	人／日	1	

(2) 設備機械

・通常はラフテレーンクレーン _____ 排出ガス対策型 (第1次基準値) _____ 16 t を 使用し、これによりがたい場合は別途査定すること。

(3) 運搬台車設備

表 9-9 運搬台車設備

名 称	規 格	単位	数量	記 事
自 走 台 車	耐力 392. 3kN (40 t)	台	1	供用日損料
重 量 台 車	耐力 196. 1kN (20 t)	台	1	供用日損料
発 動 発 電 機	<u>15kVA</u> 排出 ガス対策型 (<u>第1次基準値</u>) _____	台	1	設備期間計上し、賃料による

(4) 設備期間

・運搬台車据付・撤去＋支承据付＋ボルト締付＋主桁架設

9-4 ベント設備

8 架設工（クレーン架設）8-1 ベント設備による。

9-5 ベント基礎

8 架設工（クレーン架設）8-2 ベント基礎による。

ページ

改正

P10

9-6 桁架設

対象はトラス橋とし、トラベラクレーン及び1連目各格点の自走クレーンによる架設である。

(1) 編成人員

表 9-10 編成人員

職 種	単 位	自走クレーン	トラベラクレーン	記 事
橋りょう世話役	人／日	1	1	
橋りょう特殊工	人／日	6	8	
普 通 作 業 員	人／日	1	1	

(2) 日架設質量

表 9-11 日架設質量

(t ／ 日)

橋体総質量 架設工法	500 t 未満	500 t 以上～2,000 t まで	記 事
自 走 ク レ ーン	5.110×X ^{0.161}	2.839×X ^{0.256}	X＝橋体総質量 (t)
トラベラクレーン			

(注) 1. 橋体総質量は架設すべき主桁、副部材、検査路等の総質量であり、沓、高らん、ボルト類の質量は除く。
2. 架設工法（自走クレーン、トラベラクレーン）毎に架設質量（X）を算出する。

(3) 架設クレーン

表 9-12 架設クレーン

名 称	規 格	単位	架 設 工 法		記 事
			自走クレーン	トラベラクレーン	
自 走 ク レ ーン	架設部材の最大 質量で選定	台	1	1	運転日数
トラベラクレーン		〃	—	1	供用日損料

(注) 1. トラベラクレーン工法の場合の自走クレーンは部材取卸し、積込用である。
2. トラベラクレーンは全旋回型を標準とする。

(4) 機械器具

表 9-13 機械器具

名 称	規 格	単位	架設工法		運転時間	記 事
			自走クレーン	トラベラクレーン		
発 動 発 電 機	<u>ディーゼルエンジン駆動</u> <u>(超低騒音型)・排出</u> <u>ガス対策型 (第3次</u> <u>基準値)</u> <u>定格容量</u> <u>(50/60Hz)80/100kVA</u>	台	—	1	7H／日	トラベラクレーン存置期 間 計上賃料による
〃	<u>ディーゼルエンジン駆動</u> <u>(超低騒音型)・排出</u> <u>ガス対策型 (第3次</u> <u>基準値)</u> <u>定格容量</u> <u>(50/60Hz)37/45kVA</u>	〃	1	—	7H／日	賃料による
架 設 工 具	—	組	1	1	—	供用日損料

(注) 架設に伴う仮締作業を含む。

現 行

9-6 桁架設

対象はトラス橋とし、トラベラクレーン及び1連目各格点の自走クレーンによる架設である。

(1) 編成人員

表 9-10 編成人員

職 種	単 位	自走クレーン	トラベラクレーン	記 事
橋りょう世話役	人／日	1	1	
橋りょう特殊工	人／日	6	8	
普 通 作 業 員	人／日	1	1	

(2) 日架設質量

表 9-11 日架設質量

(t ／ 日)

橋体総質量 架設工法	500 t 未満	500 t 以上～2,000 t まで	記 事
自 走 ク レ ーン	5.110×X ^{0.161}	2.839×X ^{0.256}	X＝橋体総質量 (t)
トラベラクレーン			

(注) 1. 橋体総質量は架設すべき主桁、副部材、検査路等の総質量であり、沓、高らん、ボルト類の質量は除く。
2. 架設工法（自走クレーン、トラベラクレーン）毎に架設質量（X）を算出する。

(3) 架設クレーン

表 9-12 架設クレーン

名 称	規 格	単位	架 設 工 法		記 事
			自走クレーン	トラベラクレーン	
自 走 ク レ ーン	架設部材の最大 質量で選定	台	1	1	運転日数
トラベラクレーン		〃	—	1	供用日損料

(注) 1. トラベラクレーン工法の場合の自走クレーンは部材取卸し、積込用である。
2. トラベラクレーンは全旋回型を標準とする。

(4) 機械器具

表 9-13 機械器具

名 称	規 格	単位	架設工法		運転時間	記 事
			自走クレーン	トラベラクレーン		
発 動 発 電 機	<u>100kVA</u> 排出 <u>ガス対策型 (第1</u> <u>次基準値)</u>	台	—	1	7H／日	トラベラクレーン存置期 間 計上賃料による
〃	<u>37／45kVA</u> 排出 <u>ガス対策型 (第1</u> <u>次基準値)</u>	〃	1	—	7H／日	賃料による
架 設 工 具	—	組	1	1	—	供用日損料

(注) 架設に伴う仮締作業を含む。

ページ

</

ページ

改正

現行

P13

11-1-4 足場工費

(1) 足場等賃料及び設置又は撤去もしくは設置撤去の労務費は次式による。なお、供用月数は小数第 2 位を四捨五入し、第 1 位 ____ とする。

主体足場工費 = (L₁+L₂T₁+ (N₁+N₂) × y) × A (円)

中段足場工費 = (L₁+L₂T₂+ (N₁+N₂) × y) × A (〃)

安全通路工費 = (L₁+L₂T₃+ (N₁+N₂) × y) × A (〃)

部分作業床工費 = (L₁+L₂T₄+ (N₁+N₂) × y) × A (〃)

朝顔工費 = (L₁+L₂T₅+ (N₁+N₂) × y) × A (〃)

ただし、片側朝顔の場合は、朝顔工費／2 とする。

床版追加足場工費 = (L₁+L₂T₆) × A (〃)

L₁、L₂：賃料係数（表 11-1～6）

T₁：主体足場を供用している月数…………… (月)

T₂：中段足場を供用している月数…………… (〃)

T₃：安全通路を供用している月数…………… (〃)

T₄：部分作業床を供用している月数…………… (〃)

T₅：朝顔を供用している月数…………… (〃)

T₆：床版追加足場を供用している月数…………… (〃)

N₁：設置歩掛係数…………… (表 11-1～6)

N₂：撤去歩掛係数…………… (表 11-1～6)

y：橋りょう特殊工単価…………… (円／人)

A：橋面積…………… (㎡)

A=W×L

W：全幅員（地覆外縁間距離）…………… (m)

L：橋長…………… (m)

(注) 1. 架設及び塗装足場において桁下に防護工を併設する場合は、朝顔を防護工必要面積（全幅員×必要長）分計上する。更に各工程で兼用使用する場合は、各々必要な賃料及び労務を別途考慮する。

2. N₁N₂は、橋りょう世話役及び橋りょう特殊工の換算値である。

表 11-1 主体足場各係数

種 類	パイプ吊足場				ワイヤーブリッジ転用足場			
	L ₁	L ₂	N ₁	N ₂	L ₁	L ₂	N ₁	N ₂
プレートガーダー ボックスガーダー	201	108	0.033	0.023	269	87	0.051	0.032
トラス、アーチ	403	263	0.063	0.038	944	599	0.081	0.047

(注) 1. ワイヤーブリッジ転用足場を使用する場合は、架設のみしか適用できない。

2. ワイヤーブリッジ転用足場でトラス、アーチについて、上側足場はパイプ足場としての複合単価である。

表 11-2 中段足場各係数

種 類	L ₁	L ₂	N ₁	N ₂
プレートガーダー ボックスガーダー	126	77	0.015	0.008
ト ラ ス	179	140	0.015	0.008

(注) 中段足場は桁高（腹板高）が1.5m以上の場合に計上する。なお、トラスの場合は上弦材又は下弦材が1.5m以上の場合、その各々に中段足場を計上する。

11-1-4 足場工費

(1) 足場等賃料及び設置又は解体もしくは設置解体の労務費は次式による。なお、供用月数は小数第 2 位を四捨五入し、__1 位止めとする。

主体足場工費 = (L₁+L₂T₁+ (N₁+N₂) × y) × A (円)

中段足場工費 = (L₁+L₂T₂+ (N₁+N₂) × y) × A (〃)

安全通路工費 = (L₁+L₂T₃+ (N₁+N₂) × y) × A (〃)

部分作業床工費 = (L₁+L₂T₄+ (N₁+N₂) × y) × A (〃)

朝顔工費 = (L₁+L₂T₅+ (N₁+N₂) × y) × A (〃)

ただし、片側朝顔の場合は、朝顔工費／2 とする。

床版追加足場工費 = (L₁+L₂T₆) × A (〃)

L₁、L₂：賃料係数（表 11-1～6）

T₁：主体足場を供用している月数…………… (月)

T₂：中段足場を供用している月数…………… (〃)

T₃：安全通路を供用している月数…………… (〃)

T₄：部分作業床を供用している月数…………… (〃)

T₅：朝顔を供用している月数…………… (〃)

T₆：床版追加足場を供用している月数…………… (〃)

N₁：設置歩掛係数…………… (表 11-1～6)

N₂：撤去歩掛係数…………… (表 11-1～6)

y：橋りょう特殊工単価…………… (円／人)

A：橋面積…………… (㎡)

A=W×L

W：全幅員（地覆外縁間距離）…………… (m)

L：橋長…………… (m)

(注) 1. 架設及び塗装足場において桁下に防護工を併設する場合は、朝顔を防護工必要面積（全幅員×必要長）分計上する。更に各工程で兼用使用する場合は、各々必要な賃料及び労務を別途考慮する。

2. N₁N₂は、橋りょう世話役及び橋りょう特殊工の換算値である。

表 11-1 主体足場各係数

種 類	パイプ吊足場				ワイヤーブリッジ転用足場			
	L ₁	L ₂	N ₁	N ₂	L ₁	L ₂	N ₁	N ₂
プレートガーダー ボックスガーダー	201	108	0.033	0.023	269	87	0.051	0.032
トラス、アーチ	403	263	0.063	0.038	944	599	0.081	0.047

(注) 1. ワイヤーブリッジ転用足場を使用する場合は、架設のみしか適用できない。

2. ワイヤーブリッジ転用足場でトラス、アーチについて、上側足場はパイプ足場としての複合単価である。

表 11-2 中段足場各係数

種 類	L ₁	L ₂	N ₁	N ₂
プレートガーダー ボックスガーダー	126	77	0.015	0.008
ト ラ ス	179	140	0.015	0.008

(注) 中段足場は桁高（腹板高）が1.5m以上の場合に計上する。なお、トラスの場合は上弦材又は下弦材が1.5m以上の場合、その各々に中段足場を計上する。

ページ	改正	現行
P16	x_1 : 架設用足場を供用している月数 x_2 : 床版用足場を供用している月数 x_3 : 現場塗装用足場を供用している月数 X_1 : 主体足場を供用している月数 X_2 : 主体足場を供用している月数の架設、床版期間から架設期間を引いた月数 X_3 : 主体足場を供用している月数の架設、床版、塗装期間又は床版、塗装期間から架設、床版の期間を引いた月数 (注) 1. 積上げ項目の賃料は、各足場部品の賃料係数 L_1、L_2 を、設置・撤去はそれぞれ設置労務 N_1・撤去労務 N_2 を表す 2. 賃料欄に記載されている月数が該当足場部品の架設月数を表す。 3. 設置・撤去欄に「○」が記載されている該当足場部品について各々設置・撤去の労務費を計上する。 4. 上表は足場工のみを設置する場合を想定しており、防護工を併設する場合は、<u>朝顔を別途考慮する</u>。 (参考) x、Xの月数の算定説明図 架 設 床 版 塗 装 主体足場供用月数 全体工期	x_1 : 架設用足場を供用している月数 x_2 : 床版用足場を供用している月数 x_3 : 現場塗装用足場を供用している月数 X_1 : 主体足場を供用している月数 X_2 : 主体足場を供用している月数の架設、床版期間から架設期間を引いた月数 X_3 : 主体足場を供用している月数の架設、床版、塗装期間又は床版、塗装期間から架設、床版の期間を引いた月数 (注) 1. 積上げ項目の賃料は、各足場部品の賃料係数 L_1、L_2 を、設置・撤去はそれぞれ設置労務 N_1・撤去労務 N_2 を表す 2. 賃料欄に記載されている月数が該当足場部品の架設月数を表す。 3. 設置・撤去欄に「○」が記載されている該当足場部品について各々設置・撤去の労務費を計上する。 4. 上表は足場工のみを設置する場合を想定しており、防護工を併設する場合は <u>別途考慮する必要がある。</u> (参考) x、Xの月数の算定説明図 架 設 床 版 塗 装 主体足場供用月数 全体工期

ページ	改正	現 行
P17	(積算上の考え方) - CaseⅠの場合 架設に、床版、塗装に要するもの全てを含めて計上する。 - CaseⅡの場合 (イ) 架設には主体足場（パイプ足場）の設置、安全通路、部分作業床の設置、撤去及び主体足場（パイプ足場）、安全通路、部分作業床の供用期間の賃料 (ロ) 床版には朝顔の設置、撤去及び朝顔、床版追加足場、主体足場（パイプ足場）の 期間の賃料 (ハ) 塗装には主体足場（パイプ足場）の撤去及び主体足場（パイプ足場）の供用期間の賃料 - CaseⅢの場合 架設に主体足場（パイプ足場）、安全通路、部分作業床、朝顔の設置、撤去及び主体足場（パイプ足場）安全通路、部分作業床、床版追加足場、朝顔の供用期間の賃料 - CaseⅣの場合 (イ) 架設には主体足場（パイプ足場）の設置、安全通路、部分作業床の設置、撤去及び主体足場（パイプ足場）、安全通路、部分作業床部の供用期間の賃料 (ロ) 床版には朝顔の設置、撤去、主体足場（パイプ足場）の撤去及び朝顔、床版追加足場、主体足場（パイプ足場）の供用期間の賃料 - CaseⅤの場合 床版に主体足場（パイプ足場）、朝顔の設置、撤去及び主体足場（パイプ足場）、朝顔、床版追加足場の供用期間の賃料 - CaseⅥの場合 (イ) 床版には主体足場（パイプ足場）の設置、朝顔の設置、撤去及び主体足場（パイプ足場）、朝顔、床版追加足場の供用期間の賃料 (ロ) 塗装には、主体足場（パイプ足場）の撤去と供用期間の賃料 - 上記 CaseⅠ～Ⅵにおいて、ワイヤーブリッジ足場を使用する場合は、パイプ足場を「ワイヤーブリッジ足場及びパイプ足場（トラスの場合）」と読替える - 供用月数は小数第2位を四捨五入し、第1位 とする 11-1-5 側面塗装足場 トラス等の斜材、吊材を有する構造では、次式による現場塗装用側面足場工費を前記塗装用足場工費に加算する。 塗装用側面足場工費＝（38＋33 T₇＋0.018 y）× A （円） T₇ ：塗装用足場を供用している総月数……………（月） y ：橋りょう特殊工単価……………（円／人） A ：トラス等の側面面積（左右両弦の計）……………（㎡） A＝側面投影面積（㎡）×2	(積算上の考え方) - CaseⅠの場合 架設に、床版、塗装に要するもの全てを含めて計上する。 - CaseⅡの場合 (イ) 架設には主体足場（パイプ足場）の設置、安全通路、部分作業床の設置、撤去及び主体足場（パイプ足場）、安全通路、部分作業床の供用期間の賃料 (ロ) 床版には朝顔の設置、撤去及び朝顔、床版追加足場、主体足場（パイプ足場）の 供用 期間の賃料 (ハ) 塗装には主体足場（パイプ足場）の撤去及び主体足場（パイプ足場）の供用期間の賃料 - CaseⅢの場合 架設に主体足場（パイプ足場）、安全通路、部分作業床、朝顔の設置、撤去及び主体足場（パイプ足場）安全通路、部分作業床、床版追加足場、朝顔の供用期間の賃料 - CaseⅣの場合 (イ) 架設には主体足場（パイプ足場）の設置、安全通路、部分作業床の設置、撤去及び主体足場（パイプ足場）、安全通路、部分作業床部の供用期間の賃料 (ロ) 床版には朝顔の設置、撤去、主体足場（パイプ足場）の撤去及び朝顔、床版追加足場、主体足場（パイプ足場）の供用期間の賃料 - CaseⅤの場合 床版に主体足場（パイプ足場）、朝顔の設置、撤去及び主体足場（パイプ足場）、朝顔、床版追加足場の供用期間の賃料 - CaseⅥの場合 (イ) 床版には主体足場（パイプ足場）の設置、朝顔の設置、撤去及び主体足場（パイプ足場）、朝顔、床版追加足場の供用期間の賃料 (ロ) 塗装には、主体足場（パイプ足場）の撤去と供用期間の賃料 - 上記 CaseⅠ～Ⅵにおいて、ワイヤーブリッジ足場を使用する場合は、パイプ足場を「ワイヤーブリッジ足場及びパイプ足場（トラスの場合）」と読替える - 供用月数は小数第2位を四捨五入し、 1位 止め とする 11-1-5 側面塗装足場 トラス等の斜材、吊材を有する構造では、次式による現場塗装用側面足場工費を前記塗装用足場工費に加算する。 塗装用側面足場工費＝（38＋33 T₇＋0.018 y）× A （円） T₇ ：塗装用足場を供用している総月数……………（月） y ：橋りょう特殊工単価……………（円／人） A ：トラス等の側面面積（左右両弦の計）……………（㎡） A＝側面投影面積（㎡）×2

ページ

改 正

現 行

P18

11-2 防護工

防護工は、使用目的・種類等により、次に基づいて計上する。
なお、板張防護、シート張防護を桁下に設置する場合は、別途足場工にて主体足場及び朝顔を計上する。

11-2-1 板張防護工

桁下に鉄道又は道路等があり、第三者に危害を及ぼす恐れのある場合に計上するものとし「(1) 足場工」で算定した足場工費に加算する。

板張防護工費＝（L₁＋L₂T₈＋（N₁＋N₂） y）×A （円）

L₁、L₂：賃料係数（表 11-10）
T₈：防護部を供用している月数……………（月）
N₁：設置歩掛係数……………（表 11-10）
N₂：撤去歩掛係数……………（表 11-10）
y：橋りょう特殊工単価……………（円／人）
A：防護工必要橋面積……………（㎡）
A＝全幅員（地覆外縁間距離）×必要長
（注）N₁N₂は、橋りょう世話役及び橋りょう特殊工の換算値である。

表 11-10 板張防護工各係数

種 類	L ₁	L ₂	N ₁	N ₂
プレートガーダー ボックスガーダー	217 (149)	141 (129)	0.030 (0.028)	0.013 (0.012)
ト ラ ス				

（注）1.（ ）内は片側朝顔の場合使用する。
2.各係数には、側面（朝顔）部分に要する防護費を含む。

11-2-2 シート張防護工

鋼橋塗装において塗装飛散を防止する必要がある場合に計上するものとし、「(1) 足場工」で算定した足場工費に加算する。ただし、桁下に鉄道又は道路等があり、第三者に危害を及ぼす恐れがある場合は、板張防護工とする。

シート張防護工費＝ { L₁＋L₂T₈＋N₁y（設置）＋N₂y（撤去）} ×A （円）

L₁、L₂：賃料係数……………（表 11-11）
T₈：防護部を供用している月数……………（月）
N₁：設置歩掛係数……………（表 11-11）
N₂：撤去歩掛係数……………（表 11-11）
y：橋りょう特殊工単価……………（円／人）
A：防護工必要橋面積……………（㎡）
A＝全幅員（地覆外縁間距離）×必要長
（注）N₁N₂は、橋りょう世話役及び橋りょう特殊工の換算値である。

表 11-11 シート張防護工各係数

種 類	L ₁	L ₂	N ₁	N ₂
プレートガーダー ボックスガーダー	97 (73)	60 (45)	0.007 (0.006)	0.004 (0.004)
ト ラ ス				

11-2 防護工

防護工は、使用目的・種類等により、次に基づいて計上する。
なお、板張防護、シート張防護を桁下に設置する場合は別途足場工にて主体足場及び朝顔を計上する。

11-2-1 板張防護工

桁下に鉄道、道路等があり第三者に危害を及ぼす恐れのある場合に計上するものとし「(1) 足場工」で算定した足場工費に加算する。

板張防護工費＝（L₁＋L₂T₈＋（N₁＋N₂） y）×A （円）

L₁、L₂：賃料係数（表 11-10）
T₈：防護部を供用している月数……………（月）
N₁：組立歩掛係数……………（表 11-10）
N₂：解体歩掛係数……………（表 11-10）
y：橋りょう特殊工単価……………（円／人）
A：防護工必要橋面積……………（㎡）
A＝全幅員（地覆外縁間距離）×必要長
（注）N₁N₂は、橋りょう世話役及び橋りょう特殊工の換算値である。

表 11-10 板張防護工各係数

種 類	L ₁	L ₂	N ₁	N ₂
プレートガーダー ボックスガーダー	217 (149)	141 (129)	0.030 (0.028)	0.013 (0.012)
ト ラ ス				

（注）1.（ ）内は片側朝顔の場合使用する。
2.単価には、側面（朝顔）部分に要する防護費を含む。

11-2-2 シート張防護工

鋼橋塗装において塗装飛散を防止する必要がある場合に計上するものとし、「(1) 足場工」で算定した足場工費に加算する。ただし、桁下に鉄道、道路等があり第三者に危害を及ぼす恐れがある場合は、板張防護工とする。

シート張防護工費＝ { L₁＋L₂T₈＋N₁y（組立）＋N₂y（解体）} ×A （円）

L₁、L₂：賃料係数……………（表 11-11）
T₈：防護部を供用している月数……………（月）
N₁：組立歩掛係数……………（表 11-11）
N₂：解体歩掛係数……………（表 11-11）
y：橋りょう特殊工単価……………（円／人）
A：防護工必要橋面積……………（㎡）
A＝全幅員（地覆外縁間距離）×必要長
（注）N₁N₂は、橋りょう世話役及び橋りょう特殊工の換算値である。

表 11-11 シート張防護工各係数

種 類	L ₁	L ₂	N ₁	N ₂
プレートガーダー ボックスガーダー	97 (73)	60 (45)	0.007 (0.006)	0.004 (0.004)
ト ラ ス				

ページ	改 正	現 行
P19	(注) 1. () 内は片側朝顔の場合使用する。 2. <u>各係数</u>には、側面（朝顔）部分に要する防護費を含む。 3. 「シート＋板」張防護を行う場合は、別途積算する。 また、トラス等側面を塗装する場合 _____、飛散防止のためのシート<u>張</u>防護工を設置する場合は次式による。 シート張防護工費＝ {39＋26T₉＋0.003y（設置）＋0.001y（撤去）} × A T₉ ：防護工供用月数……………（月） y ：橋りょう特殊工単価……………（円／人） A ：トラス等の側面面積（左右両弦の計）……………（㎡） A＝側面投影面積×2 11-2-3 ワイヤブリッジ防護工 転落防護、落下防止及び対岸又は相隣接する橋台、橋脚間の往来が困難な場所での通路足場設置の目的でワイヤブリッジを設置する場合は、次式による。 (ワイヤブリッジ転用足場としない場合) ワイヤブリッジ防護工費＝ {229＋59T₁₀＋0.050y（設置）＋0.021y（撤去）} × A T₁₀ ：防護工（ワイヤブリッジ）供用月数……………（月） y ：橋りょう特殊工単価……………（円／人） A ：橋面積……………（㎡） A＝全幅員（地覆外縁間距離）×橋長 11-2-4 ネット防護工 転落防護、落下防止及び桁下の第三者への災害防止の目的で安全ネットを設置する場合とし、次式による。 (架設に先立ち、パイプ吊足場とは別途に設置する場合) ネット防護工費＝ {128＋44T₁₁＋0.019y（設置）＋0.015y（撤去）} × A T₁₁ ：防護工（ネット）供用月数……………（月） y ：橋りょう特殊工単価……………（円／人） A ：防護工必要橋面積……………（㎡） A＝全幅員（地覆外縁間距離）×必要長（支間長）	(注) 1. () 内は片側朝顔の場合使用する。 2. <u>単価</u>には、側面（朝顔）部分に要する防護費を含む。 3. 「シート＋板」張防護を行う場合は、別途積算する。 また、トラス等側面を塗装する場合 <u>において</u>、飛散防止のためのシート__防護工を設置する場合は次式による。 シート張防護工費＝ {39＋26T₉＋0.003y（設置）＋0.001y（撤去）} × A T₉ ：防護工供用月数……………（月） y ：橋りょう特殊工単価……………（円／人） A ：トラス等の側面面積（左右両弦の計）……………（㎡） A＝側面投影面積×2 11-2-3 ワイヤブリッジ防護工 転落防護、落下防止及び対岸又は相隣接する橋台、橋脚間の往来が困難な場所での通路足場設置の目的でワイヤブリッジを設置する場合は、次式による。 (ワイヤブリッジ転用足場としない場合) ワイヤブリッジ防護工費＝ {229＋59T₁₀＋0.050y（設置）＋0.021y（撤去）} × A T₁₀ ：防護工（ワイヤブリッジ）供用月数……………（月） y ：橋りょう特殊工単価……………（円／人） A ：橋面積……………（㎡） A＝全幅員（地覆外縁間距離）×橋長 11-2-4 ネット防護工 転落防護、落下防止及び桁下の第三者への災害防止の目的で安全ネットを設置する場合とし、次式による。 (架設に先立ち、パイプ吊足場とは別途に設置する場合) ネット防護工費＝ {128＋44T₁₁＋0.019y（設置）＋0.015y（撤去）} × A T₁₁ ：防護工（ネット）供用月数……………（月） y ：橋りょう特殊工単価……………（円／人） A ：防護工必要橋面積……………（㎡） A＝全幅員（地覆外縁間距離）×必要長（支間長）

ページ

改正

P22

12. 登り栈橋工

(1) 設置条件及び設置箇所数
橋脚における登り栈橋については、次により計上する。
① 橋脚、橋台の高さが 2.0m以上となる場合。
② 設置箇所数は、河川内等で設置が困難な場合あるいは設置する必要がない場合を除き、現場状況を勘案し、橋脚、橋台に各 1 箇所とする。
(2) 登り栈橋工費（手摺先行工法）
登り栈橋の施工において「手摺先行工法に関するガイドライン（厚生労働省）」を適用する場合の設置・撤去にかかる歩掛は、下記とする。
登り栈橋工費（手摺先行工法）＝ {5, 116+2, 917 T₁₁+0. 474 y （設置） +0. 341 y （撤去）} × H（円）
T₁₁ ：登り栈橋を供用している月数（月）
y ：橋りょう特殊工単価（円／人）
H ：登り栈橋の高さ（m）
（注）手摺先行型枠組足場は二段手摺及び幅木の機能を有している。

13. 現場塗装工

鉄桁を架設時に現場塗装する場合に適用する。
塗装工費は土木工事標準単価による。
（注）塗装は「鋼構造物塗装設計施工指針」による。

14. 支承設置工

(1) 金属沓据付歩掛
表 14-1 金属沓据付歩掛 (1 基当たり)

編成人員（人／日）		据付日数（日）	記 事	
橋りょう世話役	1	0. 405× X ^{0. 144}	X・・・沓 1 基当たりの平均質量（kg）	
橋りょう特殊工	4			
普通作業員	1			

(2) 据付クレーン
表 14-2 据付クレーン

名 称	規 格	単位	数量	記 事
自 走 ク レ ー ン	沓の最大質量で選定	台	1	運転日数
トラベラクレーン	主桁架設クレーン			供用日損料

(3) 機械器具
表 14-3 機械器具

名 称	規 格	単位	数 量	運転時間	記 事
発 動 発 電 機	ディーゼルエンジン駆動(超低騒音型)・排出ガス対策型（第 3 次基準値） 定格容量(50/60Hz) 20/25kVA	台	1	6. 5H／日	賃料による
架 設 工 具	－	組	1	－	供用日損料

12. 登り栈橋工

(1) 設置条件及び設置箇所数
橋脚における登り栈橋については、次により計上する。
① 橋脚、橋台の高さが 2.0m以上となる場合。
② 設置箇所数は、河川内等で設置が困難な場合あるいは設置する必要がない場合を除き、現場状況を勘案し、橋脚、橋台に各 1 箇所とする。
(2) 登り栈橋工費（手摺先行工法）
登り栈橋の施工において「手摺先行工法に関するガイドライン（厚生労働省）」を適用する場合の設置・撤去にかかる歩掛は、下記とする。
登り栈橋工費（手摺先行工法）＝ {5, 116+2, 917 T₁₁+0. 474 y （設置） +0. 341 y （撤去）} × H（円）
T₁₁ ：登り栈橋を供用している月数（月）
y ：橋りょう特殊工単価（円／人）
H ：登り栈橋の高さ（m）
（注）手摺先行型枠組足場は二段手摺及び幅木の機能を有している。

13. 現場塗装工

鉄桁を架設時に現場塗装する場合に適用する。
塗装工費は土木工事標準単価による。
（注）塗装は「鋼構造物塗装設計施工指針」による。

14. 支承設置工

(1) 金属沓据付歩掛
表 14-1 金属沓据付歩掛 (1 基当たり)

編成人員（人／日）		据付日数（日）	記 事	
橋りょう世話役	1	0. 405× X ^{0. 144}	X・・・沓 1 基当たりの平均質量（kg）	
橋りょう特殊工	4			
普通作業員	1			

(2) 据付クレーン
表 14-2 据付クレーン

名 称	規 格	単位	数量	記 事
自 走 ク レ ー ン	沓の最大質量で選定	台	1	運転日数
トラベラクレーン	主桁架設クレーン			供用日損料

(3) 機械器具
表 14-3 機械器具

名 称	規 格	単位	数 量	運転時間	記 事
発 動 発 電 機	25kVA 排出ガス対策型（第 1 次基準値）	台	1	6. 5H／日	賃料による
架 設 工 具	－	組	1	－	供用日損料

ページ	改正	現行																				
P23	(4) 材 料 表 14-4 材料 (1 m³当り) <table><tr><th>名 称</th><th>規 格</th><th>単位</th><th>数量</th><th>記 事</th></tr><tr><td>無収縮モルタル</td><td>セメント系プレミックスタイ プ</td><td>kg</td><td>1, 875</td><td>ロスを含む</td></tr></table> (注) 1. 沓の質量にはアンカーボルトを含む。 2. ゴム沓及びストッパーについては、<u>「6-2-6 P Cけた製作架設（ポストテンション）」</u>によること。 3. 沓座及びアンカーボルト孔等の修正が必要な場合は別途計上できる。 15. コンクリート工 合成桁の床版コンクリート及び制振コンクリート等の作業であり、<u>「6-1-4 コンクリート工」</u>による。	名 称	規 格	単位	数量	記 事	無収縮モルタル	セメント系プレミックスタイ プ	kg	1, 875	ロスを含む	(4) 材 料 表 14-4 材料 (1 m³当り) <table><tr><th>名 称</th><th>規 格</th><th>単位</th><th>数量</th><th>記 事</th></tr><tr><td>無収縮モルタル</td><td>セメント系プレミックスタイ プ</td><td>kg</td><td>1, 875</td><td>ロスを含む</td></tr></table> (注) 1. 沓の質量にはアンカーボルトを含む。 2. ゴム沓及びストッパーについては、<u>「6-2-6 P Cけた製作架設（ポストテンション）」</u>によること。 3. 沓座及びアンカーボルト孔等の修正が必要な場合は別途計上できる。 15. コンクリート工 合成桁の床版コンクリート及び制振コンクリート等の作業であり、<u>コンクリート工</u><u>積算要領</u>による。	名 称	規 格	単位	数量	記 事	無収縮モルタル	セメント系プレミックスタイ プ	kg	1, 875	ロスを含む
名 称	規 格	単位	数量	記 事																		
無収縮モルタル	セメント系プレミックスタイ プ	kg	1, 875	ロスを含む																		
名 称	規 格	単位	数量	記 事																		
無収縮モルタル	セメント系プレミックスタイ プ	kg	1, 875	ロスを含む																		

ページ

改正

P42

表-3 吊上げ余裕代（A）

(m)

部材幅（m） 吊上げ高さ(m)	2.0 以下	2.0 超え ～2.5 以下	2.5 超え ～3.0 以下	3.0 超え ～4.5 以下
5	10	10	10	10
10	10	12	12	12
15	12	12	12	12
20	12	12	12	15
25	15	15	15	15
30	15	15	15	15
35	15	15	15	15
40	15	15	15	15

(注) A・・・ブーム先端から部材上端までの距離（図-2 参照）

表-4 フックブロック質量表

吊上げ荷重（t）	フックブロック質量（kg）
10.0	140
15.0	220
20.0	290
25.0	360
30.0	440
35.0	510
40.0	590
45.0	670
50.0	750
55.0	830
60.0	910
65.0	990
70.0	1,070
80.0	1,230
90.0	1,400
100.0	1,570
120.0	1,930
150.0	2,480
200.0	3,470
250.0	4,530
300.0	5,680
350.0	6,910
450.0	9,600
500.0	11,100
650.0	15,900

※この表に示す吊上げ荷重（t）は、クレーンの能力を示すものではなく、使用クレーンでの吊上げ荷重とフックブロック質量との関係を示すものである。（例えば、最大吊能力が 100t のクレーンには、常に 1,570 kg のフックブロックをつけて作業するという意味ではなく、常に 1,570 kg のフックブロックをつけて作業する、55t の吊り荷作業を行う場合は、フックブロック質量を 830 kg として、選定すればよいことを示す表である。

現行

表-3 吊上げ余裕代（A）

(m)

部材幅（m） 吊上げ高さ(m)	2.0 以下	2.0 超え ～2.5 以下	2.5 超え ～3.0 以下	3.0 超え ～4.5 以下
5	10	10	10	10
10	10	12	12	12
15	12	12	12	12
20	12	12	12	15
25	15	15	15	15
30	15	15	15	15
35	15	15	15	15
40	15	15	15	15

(注) A・・・ブーム先端から部材上端までの距離（図-2 参照）

表-4 フックブロック質量表

吊上げ荷重（t）	フックブロック質量（kg）
10.0	140
15.0	220
20.0	290
25.0	360
30.0	440
35.0	510
40.0	590
45.0	670
50.0	750
55.0	830
60.0	910
65.0	990
70.0	1,070
80.0	1,230
90.0	1,400
100.0	1,570
120.0	1,930
150.0	2,480
200.0	3,470
250.0	4,530
300.0	5,680
350.0	6,910
450.0	9,600
500.0	11,100
650.0	15,900

※この表に示す吊上げ荷重（t）は、クレーンの能力を示すものではなく、使用クレーンでの吊上げ荷重とフックブロック質量との関係を示すものである。（例えば、最大吊能力が 100t のクレーンには、いつでも 1,570 kg のフックブロックをつけて作業するという意味ではない。例えば、作業半径と吊上げ高さの関係から、55t の吊り荷作業を定常業務として使用する場合は、フックブロック質量を 830 kg として、選定すればよいことを示す表である。）

ページ

改正

P43

16. 単 価 表

(1) ベント基礎 1.0 式当り単価表

歩掛コード		S230110		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 8-3
橋 り よ う 特 殊 工		人		〃
普 通 作 業 員		人		〃
ラフテレーンクレーン賃料	油圧伸縮ｼﾌﾞ型・排出ｶﾞｽ対策型(2014 年規制) 最大吊上能力 25 t 吊	日		
ベント基礎鋼板損料		日		表 8-4
合 計				

(2) ベント設備（複合） 1.0 式当り単価表

歩掛コード		S230120		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
ベ ン ト 据 付 ・ 解 体		式	1	単価表(4)
ベ ン ト 損 料		日		単価表(3)
合 計				

(3) ベント損料 1.0 日当り単価表

歩掛コード		S230121		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
ベ ン ト 設 備		t		
合 計				
供用 1 日当り		日	1.0	

(4) ベント設備 1.0 式当り単価表

歩掛コード		S230122		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 8-1
橋 り よ う 特 殊 工		人		〃
普 通 作 業 員		人		〃
ラフテレーンクレーン賃料	油圧伸縮ｼﾌﾞ型・排出ｶﾞｽ対策型(2014 年規制) 最大吊上能力 25 t 吊	日		
架 設 工 具 損 料		供用日		表 8-2
合 計				

現 行

16. 単 価 表

(1) ベント基礎 1.0 式当り単価表

歩掛コード		S230110		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 8-3
橋 り よ う 特 殊 工		人		〃
普 通 作 業 員		人		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第 1 次基準値) 20 t	日		
ベント基礎鋼板損料		日		表 8-4
合 計				

(2) ベント設備（複合） 1.0 式当り単価表

歩掛コード		S230120		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
ベ ン ト 据 付 ・ 解 体		式	1	単価表(4)
ベ ン ト 損 料		日		単価表(3)
合 計				

(3) ベント損料 1.0 日当り単価表

歩掛コード		S230121		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
ベ ン ト 設 備		t		
合 計				
供用 1 日当り		日	1.0	

(4) ベント設備 1.0 式当り単価表

歩掛コード		S230122		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 8-1
橋 り よ う 特 殊 工		人		〃
普 通 作 業 員		人		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第 1 次基準値) 20 t	日		
架 設 工 具 損 料		供用日		表 8-2
合 計				

ページ

改正

P44

(5) 地組工 1.0 t 当り単価表

歩掛コード

S230130

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 7-1
橋 り よ う 特 殊 工		人		〃
普 通 作 業 員		人		〃
クローラクレーン運転		日		表 7-2
クレーン車賃料		日		〃
発 動 発 電 機 運 転	ディーゼルエンジン駆動(超低騒音型)・排出ガス対策型(第 3 次基準値) 定格容量(50/60Hz) 37/45kVA	日		表 7-3
架 設 工 具 損 料		供用日		〃
合 計		日		
1 t 当り		t		

(6) 桁架設 1.0 t 当り単価表

歩掛コード

S230140

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 8-5, 表 9-10
橋 り よ う 特 殊 工		人		〃
普 通 作 業 員		人		〃
クローラクレーン運転		日		表 8-6, 表 8-7 表 9-11, 表 9-12
クレーン車賃料		日		〃
発 動 発 電 機 運 転		日		表 8-8, 表 9-13 自走クレーン運転工法時
架 設 工 具 損 料		供用日		表 8-9, 表 9-13
合 計		日		
1 t 当り		t		

現行

(5) 地組工 1.0 t 当り単価表

歩掛コード

S230130

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 7-1
橋 り よ う 特 殊 工		人		〃
普 通 作 業 員		人		〃
クローラクレーン運転		日		表 7-2
クレーン車賃料		日		〃
発 動 発 電 機 運 転	45kVA 排出ガス対策型(第 1 次基準値)	日		表 7-3
架 設 工 具 損 料		供用日		〃
合 計		日		
1 t 当り		t		

(6) 桁架設 1.0 t 当り単価表

歩掛コード

S230140

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 8-5, 表 9-10
橋 り よ う 特 殊 工		人		〃
普 通 作 業 員		人		〃
クローラクレーン運転		日		表 8-6, 表 8-7 表 9-11, 表 9-12
クレーン車賃料		日		〃
発 動 発 電 機 運 転		日		表 8-8, 表 9-13 自走クレーン運転工法時
架 設 工 具 損 料		供用日		表 8-9, 表 9-13
合 計		日		
1 t 当り		t		

ページ

改正

P45

(7) 沓据付 1.0式当り単価表

歩掛コード

S230150

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 14-1
橋 り よ う 特 殊 工		人		〃
普 通 作 業 員		人		〃
クローラクレーン運転		日		表 14-2
クレーン車賃料		日		〃
トラベラクレーン損料		日		〃
発 動 発 電 機 運 転	<u>ディーゼルエンジン駆動(超低騒音型)・排出ガス対策型(第 3 次基準値)</u> <u>定格容量(50/60Hz) 20/25kVA</u>	日		表 14-3
架 設 工 具 損 料		日		〃
無 収 縮 モ ル タ ル		m³		単価表(8)
合 計				

(8) 無収縮モルタル 1.0 m³当り単価表

歩掛コード

S230151

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
無 収 縮 剤	プレミックスタイプ	kg	1875	表 14-4
合 計				
1 m³当り		m³	1.0	

(9) 本締めボルト 1.0 本当り単価表

歩掛コード

S230160

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 10-1
橋 り よ う 特 殊 工		人		〃
普 通 作 業 員		人		〃
発 動 発 電 機 運 転	<u>ディーゼルエンジン駆動(超低騒音型)・排出ガス対策型(第 3 次基準値)</u> <u>定格容量(50/60Hz) 37/45kVA</u>	日		表 10-2
架 設 工 具 損 料		供用日		〃
仮締ボルト・ドリフトピン 損 料		日		単価表(10)
合 計				
1 本当り		本		

現行

(7) 沓据付 1.0 式当り単価表

歩掛コード

S230150

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 14-1
橋 り よ う 特 殊 工		人		〃
普 通 作 業 員		人		〃
クローラクレーン運転		日		表 14-2
クレーン車賃料		日		〃
トラベラクレーン損料		日		〃
発 動 発 電 機 運 転	<u>25kVA</u> <u>排出ガス対策型(第 1 次基準値)</u>	日		表 14-3
架 設 工 具 損 料		日		〃
無 収 縮 モ ル タ ル		m³		単価表(8)
合 計				

(8) 無収縮モルタル 1.0 m³当り単価表

歩掛コード

S230151

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
無 収 縮 剤	プレミックスタイプ	kg	1875	表 14-4
合 計				
1 m³当り		m³	1.0	

(9) 本締めボルト 1.0 本当り単価表

歩掛コード

S230160

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 10-1
橋 り よ う 特 殊 工		人		〃
普 通 作 業 員		人		〃
発 動 発 電 機 運 転	<u>37/45kVA</u> <u>排出ガス対策型(第 1 次基準値)</u>	日		表 10-2
架 設 工 具 損 料		供用日		〃
仮締ボルト・ドリフトピン 損 料		日		単価表(10)
合 計				
1 本当り		本		

ページ

改正

P46

(10) 仮締ボルト・ドリフトピン損料 1.0日当り単価表

歩掛コード

S230142

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
仮 締 ボ ル ト 損 料		本		表 10-3
ド リ フ ト ピ ン 損 料		本		〃
合 計				
1 日 当 り		日	1.0	

(11) 軌条設備 1.0 式当り単価表

歩掛コード

S230210

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 9-5
橋 り よ う 特 殊 工		人		〃
普 通 作 業 員		人		〃
軌 条 設 備 損 料		日		単価表(12)
合 計		式		

(12) 軌条設備損料 1.0 日当り単価表

歩掛コード

S230211

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
軌 道 設 備		100m		表 9-7
合 計				
1 日 当 り		日	1.0	

(13) トラベラクレーン設備 1.0 式当り単価表

歩掛コード

S230220

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
ト ラ ベ ラ ク レ ー ン 組 立 解 体		式	1	単価表(14)
トラベラクレーン損料		日		表 9-4
発 動 発 電 機 運 転	ディーゼルエンジン駆動(超低騒音型)・排出ガス対策型(第3次基準値) 定格容量(50/60Hz)80/100kVA	日		〃
合 計				

現 行

(10) 仮締ボルト・ドリフトピン損料 1.0 日当り単価表

歩掛コード

S230142

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
仮 締 ボ ル ト 損 料		本		表 10-3
ド リ フ ト ピ ン 損 料		本		〃
合 計				
1 日 当 り		日	1.0	

(11) 軌条設備 1.0 式当り単価表

歩掛コード

S230210

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人		表 9-5
橋 り よ う 特 殊 工		人		〃
普 通 作 業 員		人		〃
軌 条 設 備 損 料		日		単価表(12)
合 計		式		

(12) 軌条設備損料 1.0 日当り単価表

歩掛コード

S230211

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
軌 道 設 備		100m		表 9-7
合 計				
1 日 当 り		日	1.0	

(13) トラベラクレーン設備 1.0 式当り単価表

歩掛コード

S230220

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
ト ラ ベ ラ ク レ ー ン 組 立 解 体		式	1	単価表(14)
トラベラクレーン損料		日		表 9-4
発 動 発 電 機 運 転	100KVA	日		〃
合 計				

ページ

改正

P47

(14) トラベラクレーン組立解体 1.0式当り単価表

歩掛コード

S230221

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り ょ う 世 話 役		人		表 9-1, 表 9-2
橋 り ょ う 特 殊 工		人		〃
普 通 作 業 員		人		〃
ク レ ー ン 車 賃 料	ラフテレーンクレーン <u>〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(2014年規制)〕</u> <u>最大吊上能力 35t 吊</u>	日	10	表 9-3
架 設 工 具 損 料		供用日		表 9-4, 表 8-9
合 計				

(15) 運搬台車設備 1.0 式当り単価表

歩掛コード

S230230

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
運 搬 台 車 設 備 撤 去		式	1	単価表(16)
自 走 台 車 損 料	耐力 392. 3kN(40t)	供用日		表 9-9
重 量 台 車 損 料	耐力 196. 1kN(20t)	供用日		〃
発 動 発 電 機 運 転	<u>ディーゼルエンジン駆動(超低騒音型)・排出ガス対策型(第 3 次基準値)</u> <u>定格容量(50/60Hz)13/15kVA</u>	日		〃
合 計				

(16) 運搬台車設備撤去 1.0 式当り単価表

歩掛コード

S230231

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り ょ う 世 話 役		人		表 9-8
橋 り ょ う 特 殊 工		人		〃
普 通 作 業 員		人		〃
ク レ ー ン 車 賃 料		日		
合 計				

(17) 足場工 1.0 m²当り単価表

歩掛コード

S230180

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り ょ う 特 殊 工		人		
足 場 損 料		m ²	1	
合 計				
1 m ² 当り		m ²	1.0	

現行

(14) トラベラクレーン組立解体 1.0 式当り単価表

歩掛コード

S230221

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り ょ う 世 話 役		人		表 9-1, 表 9-2
橋 り ょ う 特 殊 工		人		〃
普 通 作 業 員		人		〃
ク レ ー ン 車 賃 料	ラフテレーンクレーン _____ _____排出ガス対策型 (<u>第 1 次基準値</u>) _____35t _____	日	10	表 9-3
架 設 工 具 損 料		供用日		表 9-4, 表 8-9
合 計				

(15) 運搬台車設備 1.0 式当り単価表

歩掛コード

S230230

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
運 搬 台 車 設 備 撤 去		式	1	単価表(16)
自 走 台 車 損 料	耐力 392. 3kN(40t)	供用日		表 9-9
重 量 台 車 損 料	耐力 196. 1kN(20t)	供用日		〃
発 動 発 電 機 運 転	<u>15kVA</u> _____排出ガス対策型(第 <u>1</u> 次基準値)	日		〃
合 計				

(16) 運搬台車設備撤去 1.0 式当り単価表

歩掛コード

S230231

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り ょ う 世 話 役		人		表 9-8
橋 り ょ う 特 殊 工		人		〃
普 通 作 業 員		人		〃
ク レ ー ン 車 賃 料		日		
合 計				

(17) 足場工 1.0 m²当り単価表

歩掛コード

S230180

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り ょ う 特 殊 工		人		
足 場 損 料		m ²	1	
合 計				
1 m ² 当り		m ²	1.0	

ページ	改正	現行																																																																								
P2	6. 防音壁工 6-1 支柱建込 6-1-1 材 料 支柱、防音板、取付け部品類等材料については、特別調査等によること。 6-1-2 施工歩掛 (1) 直型支柱建込 (A・B工法共通) 表 6-1 (支柱 100 箇所当り) <table><tr><th>項 目</th><th>単位</th><th>RL+3. 0m未満</th><th>RL+3. 0m以上</th><th>記 事</th></tr><tr><td>施工日数</td><td>日</td><td>7. 7</td><td>8. 5</td><td></td></tr><tr><td>と び 工</td><td>人</td><td>35. 6</td><td>39. 2</td><td>換</td></tr></table> (2) 半雪覆型支柱建込 (A・B工法共通) 表 6-2 (支柱 100 箇所当り) <table><tr><th>項 目</th><th>単位</th><th>RL+3. 0m未満</th><th>RL+3. 0m以上</th><th>記 事</th></tr><tr><td>施工日数</td><td>日</td><td>9. 2</td><td>10. 2</td><td></td></tr><tr><td>と び 工</td><td>人</td><td>42. 7</td><td>47. 0</td><td>換</td></tr></table> 6-1-3 機械経費 表 6-3 <table><tr><td>A 工 法</td><td>トラック（クレーン装置付）<u>通称4～4. 5 t 積級吊能力2. 9t</u></td><td>共通要領による</td></tr><tr><td>B 工 法</td><td>ラフテレーンクレーン <u>〔油圧伸縮ジブ型・排ガス2014年規制〕最大吊上能力25 t 吊</u></td><td>賃 料 に よ る</td></tr></table> (注) 1. トラック（クレーン装置付）の運転手は、歩掛に含んでいる。 2. クレーンについては、現地の状況により上記機種により難い場合は別途選定できる。	項 目	単位	RL+3. 0m未満	RL+3. 0m以上	記 事	施工日数	日	7. 7	8. 5		と び 工	人	35. 6	39. 2	換	項 目	単位	RL+3. 0m未満	RL+3. 0m以上	記 事	施工日数	日	9. 2	10. 2		と び 工	人	42. 7	47. 0	換	A 工 法	トラック（クレーン装置付） <u>通称4～4. 5 t 積級吊能力2. 9t</u>	共通要領による	B 工 法	ラフテレーンクレーン <u>〔油圧伸縮ジブ型・排ガス2014年規制〕最大吊上能力25 t 吊</u>	賃 料 に よ る	6. 防音壁工 6-1 支柱建込 6-1-1 材 料 支柱、防音板、取付け部品類等材料については、特別調査等によること。 6-1-2 施工歩掛 (1) 直型支柱建込 (A・B工法共通) 表 6-1 (支柱 100 箇所当り) <table><tr><th>項 目</th><th>単位</th><th>RL+3. 0m未満</th><th>RL+3. 0m以上</th><th>記 事</th></tr><tr><td>施工日数</td><td>日</td><td>7. 7</td><td>8. 5</td><td></td></tr><tr><td>と び 工</td><td>人</td><td>35. 6</td><td>39. 2</td><td>換</td></tr></table> (2) 半雪覆型支柱建込 (A・B工法共通) 表 6-2 (支柱 100 箇所当り) <table><tr><th>項 目</th><th>単位</th><th>RL+3. 0m未満</th><th>RL+3. 0m以上</th><th>記 事</th></tr><tr><td>施工日数</td><td>日</td><td>9. 2</td><td>10. 2</td><td></td></tr><tr><td>と び 工</td><td>人</td><td>42. 7</td><td>47. 0</td><td>換</td></tr></table> 6-1-3 機械経費 表 6-3 <table><tr><td>A 工 法</td><td>トラック（クレーン装置付）<u>4 t 積 2. 9 吊り排出ガス対策型（第1次基準値）</u></td><td>共通要領による</td></tr><tr><td>B 工 法</td><td>ラフテレーンクレーン <u>25 t 吊り排出ガス対策型（第1次基準値）</u></td><td>賃 料 に よ る</td></tr></table> (注) 1. トラック（クレーン装置付）の運転手は、歩掛に含んでいる。 2. クレーンについては、現地の状況により上記機種により難い場合は別途選定できる。	項 目	単位	RL+3. 0m未満	RL+3. 0m以上	記 事	施工日数	日	7. 7	8. 5		と び 工	人	35. 6	39. 2	換	項 目	単位	RL+3. 0m未満	RL+3. 0m以上	記 事	施工日数	日	9. 2	10. 2		と び 工	人	42. 7	47. 0	換	A 工 法	トラック（クレーン装置付） <u>4 t 積 2. 9 吊り排出ガス対策型（第1次基準値）</u>	共通要領による	B 工 法	ラフテレーンクレーン <u>25 t 吊り排出ガス対策型（第1次基準値）</u>	賃 料 に よ る
項 目	単位	RL+3. 0m未満	RL+3. 0m以上	記 事																																																																						
施工日数	日	7. 7	8. 5																																																																							
と び 工	人	35. 6	39. 2	換																																																																						
項 目	単位	RL+3. 0m未満	RL+3. 0m以上	記 事																																																																						
施工日数	日	9. 2	10. 2																																																																							
と び 工	人	42. 7	47. 0	換																																																																						
A 工 法	トラック（クレーン装置付） <u>通称4～4. 5 t 積級吊能力2. 9t</u>	共通要領による																																																																								
B 工 法	ラフテレーンクレーン <u>〔油圧伸縮ジブ型・排ガス2014年規制〕最大吊上能力25 t 吊</u>	賃 料 に よ る																																																																								
項 目	単位	RL+3. 0m未満	RL+3. 0m以上	記 事																																																																						
施工日数	日	7. 7	8. 5																																																																							
と び 工	人	35. 6	39. 2	換																																																																						
項 目	単位	RL+3. 0m未満	RL+3. 0m以上	記 事																																																																						
施工日数	日	9. 2	10. 2																																																																							
と び 工	人	42. 7	47. 0	換																																																																						
A 工 法	トラック（クレーン装置付） <u>4 t 積 2. 9 吊り排出ガス対策型（第1次基準値）</u>	共通要領による																																																																								
B 工 法	ラフテレーンクレーン <u>25 t 吊り排出ガス対策型（第1次基準値）</u>	賃 料 に よ る																																																																								

ページ

改正

P4

6-3 防音板取付

6-3-1 施工歩掛 (A・B工法共通)

表 6-5 (防音板 100 枚当り)

項 目	単 位	数 量	記 事
施工日数	日	3.4	
と び 工	人	18.6	⑤換
諸雑費率	%	1	

(注) 1. 防音板の歩掛は、長さ、巾、厚みに関わらず施工枚数当りとする。
2. 歩掛には緩衝材の取付、固定クサビの取付・締付け等を含んでいる。
3. 諸雑費は、ローリングタワーによる内足場（組立・解体・損料等）の費用であり、労務費（とび工）の金額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

6-3-2 機械経費

表 6-6

A 工法	トラック（クレーン装置付） <u>通称4～4.5 t 積級吊能力2.9t</u>	共通要領による
B 工法	ラフテレーンクレーン <u>〔油圧伸縮ジブ型・排ガス2014年規制〕 最大吊上能力25 t 吊</u>	賃 料 に よ る

(注) 1. トラック（クレーン装置付）の運転手は、歩掛に含んでいる。
2. クレーンについては、現地の状況により上記機種により難い場合は別途選定できる。

6-4 材料吊上げ

6-4-1 施工歩掛 (A・B工法共通)

表 6-7 (防音壁延長 100m当り)

分 類	区 分	施工日数 (日)	とび工 (人)	記 事
直 型	RL+3.0m未満	1.5	4.9	
	RL+3.0m以上	1.7	5.4	
半雪覆型	RL+3.0m未満	1.8	5.9	
	RL+3.0m以上	2.0	6.5	

(注) 吊上げ対象は、支柱、防音板、鋼製すべり板、その他材料である。

6-4-2 機械経費

表 6-8

機 種	ラフテレーンクレーン <u>〔油圧伸縮ジブ型・排ガス2014年規制〕 最大吊上能力25 t 吊</u>	賃 料 に よ る
-----	---	-----------

(注) クレーンについては、現地の状況により上記機種により難い場合は別途選定できる。

現 行

6-3 防音板取付

6-3-1 施工歩掛 (A・B工法共通)

表 6-5 (防音板 100 枚当り)

項 目	単 位	数 量	記 事
施工日数	日	3.4	
と び 工	人	18.6	⑤換
諸雑費率	%	1	

(注) 1. 防音板の歩掛は、長さ、巾、厚みに関わらず施工枚数当りとする。
2. 歩掛には緩衝材の取付、固定クサビの取付・締付け等を含んでいる。
3. 諸雑費は、ローリングタワーによる内足場（組立・解体・損料等）の費用であり、労務費（とび工）の金額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

6-3-2 機械経費

表 6-6

A 工法	トラック（クレーン装置付） <u>4 t 積 2.9 吊り排出ガス対策型（第1次基準値）</u>	共通要領による
B 工法	ラフテレーンクレーン <u>25 t 吊り排出ガス対策型（第1次基準値）</u>	賃 料 に よ る

(注) 1. トラック（クレーン装置付）の運転手は、歩掛に含んでいる。
2. クレーンについては、現地の状況により上記機種により難い場合は別途選定できる。

6-4 材料吊上げ

6-4-1 施工歩掛 (A・B工法共通)

表 6-7 (防音壁延長 100m当り)

分 類	区 分	施工日数 (日)	とび工 (人)	記 事
直 型	RL+3.0m未満	1.5	4.9	
	RL+3.0m以上	1.7	5.4	
半雪覆型	RL+3.0m未満	1.8	5.9	
	RL+3.0m以上	2.0	6.5	

(注) 吊上げ対象は、支柱、防音板、鋼製すべり板、その他材料である。

6-4-2 機械経費

表 6-8

機 種	ラフテレーンクレーン <u>25 t 吊排出ガス対策型（第1次基準値）</u>	賃 料 に よ る
-----	---	-----------

(注) クレーンについては、現地の状況により上記機種により難い場合は別途選定できる。

ページ	改 正	現 行
P5	6-5 トラック（クレーン装置付）吊上げ、または吊下げ 6-5-1 施工歩掛 （A工法のみ） 表 6-9	

ページ

改正

P7

7. 単 価 表

(1) 支柱式防音壁 1.0m当り単価表

歩掛コード		S16500		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
支 柱 建 込		箇所		(2)単価表
シーリング設置工		m		(3)単価表
防 音 板 取 付		枚		(4)単価表
材 料 吊 上 げ		m		(5)単価表 必要に応じて計上
トラック吊上げ吊下げ		回		(6)単価表 必要に応じて計上
合 計				
1 m 当 り		m	1.0	

(注)支柱・PC板・緩衝材等の材料は別途計上してください。

(2) 支柱建込 1.0箇所当り単価表

歩掛コード		S16510		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
と び 工		人		表 6-1、6-2
ト ラ ッ ク	〔クレーン装置付〕4～4.5 t 積級 吊能力 2.9 t	日		表 6-3 A工法
ラフテレーンクレーン賃料	〔油圧伸縮ジブ型・排ガス 2014年規制〕最大吊上能力 25 t 吊	日		〃 B工法
合 計				
1 箇 所 当 り		箇所	100.0	

(3) シーリング設置工 1.0m当り単価表

歩掛コード		S16515		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
防 水 工		人	0.5	表 6-4
コーキング材	割増含	L	0.55	
諸 雑 費	(労務費)×率	%	10.0	〃
合 計				
1 m 当 り		m	10.0	

現 行

7. 単 価 表

(1) 支柱式防音壁 1.0m当り単価表

歩掛コード		S16500		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
支 柱 建 込		箇所		(2)単価表
シーリング設置工		m		(3)単価表
防 音 板 取 付		枚		(4)単価表
材 料 吊 上 げ		m		(5)単価表 必要に応じて計上
トラック吊上げ吊下げ		回		(6)単価表 必要に応じて計上
合 計				
1 m 当 り		m	1.0	

(注)支柱・PC板・緩衝材等の材料は別途計上してください。

(2) 支柱建込 1.0箇所当り単価表

歩掛コード		S16510		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
と び 工		人		表 6-1、6-2
ト ラ ッ ク	__クレーン装置付__ 4__ t 積__ 2.9 t 吊	日		表 6-3 A工法
ラフテレーンクレーン賃料	_____ 25t 吊 ・油圧伸縮ジブ型・排出ガス 対策型（第1次基準値）	日		〃 B工法
合 計				
1 箇 所 当 り		箇所	100.0	

(3) シーリング設置工 1.0m当り単価表

歩掛コード		S16515		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
防 水 工		人	0.5	表 6-4
コーキング材	割増含	L	0.55	
諸 雑 費	(労務費)×率	%	10.0	〃
合 計				
1 m 当 り		m	10.0	

ページ

改正

P8

(4) 防音板取付 1.0枚当り単価表

歩掛コード

S16520

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
と び 工		人		表 6-5
トラック運転経費	〔クレーン装置付〕 <u>4～4.5 t 積級 吊能力 2.9 t</u>	日		表 6-6 A工法
ラフテレーンクレーン賃料	<u>〔油圧伸縮ジブ型・排ガス 2014 年規制〕最大吊上能力 25 t 吊</u>	日		〃 B工法
諸 雑 費	(労務費)×率	%	1.0	表 6-5
合 計				
1 枚 当 り		枚	100.0	

(5) 材料吊上げ 1.0m当り単価表

歩掛コード

S16540

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
と び 工		人		表 6-7
ラフテレーンクレーン賃料	<u>〔油圧伸縮ジブ型・排ガス 2014 年規制〕最大吊上能力 25 t 吊</u>	日		〃 、表 6-8
合 計				
防 音 壁 施 工 延 長 1 m 当 り		m	100.0	

(6) トラック吊上げ吊下げ 1.0 回当り単価表

歩掛コード

S16550

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
と び 工		人	0.41	表 6-9
ラフテレーンクレーン賃料	<u>〔油圧伸縮ジブ型・排ガス 2014 年規制〕最大吊上能力 25 t 吊</u>	日	0.5	〃 、表 6-10
合 計				
1 回 当 り		回	1.0	

現行

P8

(4) 防音板取付 1.0 枚当り単価表

歩掛コード

S16520

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
と び 工		人		表 6-5
トラック運転経費	<u>__クレーン装置付__4__ t 積__2.9t 吊</u>	日		表 6-6 A工法
ラフテレーンクレーン賃料	<u>____25t 吊</u> <u>・油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第 1 次基準値）</u>	日		〃 B工法
諸 雑 費	(労務費)×率	%	1.0	表 6-5
合 計				
1 枚 当 り		枚	100.0	

(5) 材料吊上げ 1.0m当り単価表

歩掛コード

S16540

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
と び 工		人		表 6-7
ラフテレーンクレーン賃料	<u>____25t 吊</u> <u>・油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第 1 次基準値）</u>	日		〃 、表 6-8
合 計				
防 音 壁 施 工 延 長 1 m 当 り		m	100.0	

(6) トラック吊上げ吊下げ 1.0 回当り単価表

歩掛コード

S16550

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
と び 工		人	0.41	表 6-9
ラフテレーンクレーン賃料	<u>____25t 吊</u> <u>・油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第 1 次基準値）</u>	日	0.5	〃 、表 6-10
合 計				
1 回 当 り		回	1.0	

ページ

改正

P3

5-3 金網取付け

金網取付けは次表を標準とする。
なお、金網 h＝1800mmに忍び返し付き（有刺鉄線）、または金網 h ≒2250mmに剣ガード付にも適用できる。

表 5-4 (延長 100m 当り)

種 別	職 種	単位	数 量		記 事
			平坦地	傾斜地	
労 務 費	土木一般世話役	人	1.7	1.9	
	普通作業員	〃	13.4	16.8	

(注) 施工箇所（運搬路含む）が、傾斜角 10 度以上の場合は傾斜地を適用する。

5-4 材 料

鋼管基礎又は基礎ブロックの材料は次表を標準とする。

表 5-5 (延長 100m 当り)

名 称	規 格	単位	数量	記 事
線路立入防止柵	標準図による	m	100	
鋼 管 基 礎	〃	本	51	
基礎ブロック	〃	個	51	

(注) 数量は直線部の標準間隔数量であり、コーナー部及び折れ曲がり部等を、実情により別途計上すること。

6. 線路立入防護柵門扉

6-1 門 扉

(1) 門扉設置

門扉設置は次表を標準とする。

表 6-1 (門扉 1 箇所 当り)

種 別	職 種	単位	数 量		記 事
			門扉幅 3.6m	門扉幅 1.0m	
労 務 費	土木一般世話役	人	0.4	0.25	
	普通作業員	〃	0.8	1.00	
	運転手（特殊）	〃	0.4	—	
機械経費	トラック（クレーン装置付） <u>通称</u> 4 ～ <u>4.5</u> t 積 <u>級</u> 吊能力 2.9 t	日	0.4	—	賃料
諸雑费率	労務費合計額の	%	4	2	

(注) 1. 歩掛には、門柱の建込みを含む。
2. 諸雑費は、充填モルタルの材料等であり、労務費に上表の率を乗じた金額を計上する。

現行

5-3 金網取付け

金網取付けは次表を標準とする。
なお、金網 h＝1800mmに忍び返し付き（有刺鉄線）、または金網 h ≒2250mmに剣ガード付にも適用できる。

表 5-4 (延長 100m 当り)

種 別	職 種	単位	数 量		記 事
			平坦地	傾斜地	
労 務 費	土木一般世話役	人	1.7	1.9	
	普通作業員	〃	13.4	16.8	

(注) 施工箇所（運搬路含む）が、傾斜角 10 度以上の場合は傾斜地を適用する。

5-4 材 料

鋼管基礎又は基礎ブロックの材料は次表を標準とする。

表 5-5 (延長 100m 当り)

名 称	規 格	単位	数量	記 事
線路立入防止柵	標準図による	m	100	
鋼 管 基 礎	〃	本	51	
基礎ブロック	〃	個	51	

(注) 数量は直線部の標準間隔数量であり、コーナー部及び折れ曲がり部等を、実情により別途計上すること。

6. 線路立入防護柵門扉

6-1 門 扉

(1) 門扉設置

門扉設置は次表を標準とする。

表 6-1 (門扉 1 箇所 当り)

種 別	職 種	単位	数 量		記 事
			門扉幅 3.6m	門扉幅 1.0m	
労 務 費	土木一般世話役	人	0.4	0.25	
	普通作業員	〃	0.8	1.00	
	運転手（特殊）	〃	0.4	—	
機械経費	トラック（クレーン装置付） <u> </u> 4 t <u> </u> 積 <u> </u> 吊能力 2.9 t	日	0.4	—	賃料
諸雑费率	労務費合計額の	%	4	2	

(注) 1. 歩掛には、門柱の建込みを含む。
2. 諸雑費は、充填モルタルの材料等であり、労務費に上表の率を乗じた金額を計上する。

ページ

改正

P6

8. 用地侵害防除柵門扉

8-1 門 扉

(1) 門扉設置

門扉設置は次表を標準とする。

表 8-1 (門扉 1 箇所当り)

種 別	職 種	単位	数 量		記 事
			門扉幅 3.6m	門扉幅 1.0m	
労 務 費	土木一般世話役	人	0.33	0.25	
	普通作業員	〃	0.66	0.75	
	運転手 (特殊)	〃	0.3	—	
機械経費	トラック (クレーン装置付) 通称 4～4.5 t 積級 吊能力 2.9 t	日	0.3	—	賃料
諸雑費率	労務費合計額の	%	4	2	

(注) 1. 歩掛には、門柱の建込みを含む。
2. 諸雑費は、充填モルタルの材料等であり、労務費に上表の率を乗じた金額を計上する。

(2) 基礎ブロック設置

コンクリートブロック基礎を設置する場合は次表を標準とする。

表 8-2 (門扉 1 箇所当り)

種 別	職 種	単位	数 量		記 事
			門扉幅 3.6m	門扉幅 1.0m	
労 務 費	土木一般世話役	人	0.09	0.04	
	特殊作業員	〃	0.02	0.02	
	普通作業員	〃	0.26	0.10	
	運転手 (特殊)	〃	0.29	0.18	
諸雑費率	労務費合計額の	%	19	22	

(注) 諸雑費率は、床掘り及び設置に係る機械経費等である。

8-2 材 料

門扉の材料は次表を標準とする。

表 8-3 (門扉 1 箇所当り)

名 称	規 格	単位	数量	記 事
用地侵害防除柵門扉	w=3,600mm	式	1	
	w=1,000mm	〃	1	
基礎ブロック (門柱)		個	2	w=3,600mm用
基礎ブロック (施錠)		〃	1	〃
基礎ブロック		〃	2	w=1,000mm 用

現行

8. 用地侵害防除柵門扉

8-1 門 扉

(1) 門扉設置

門扉設置は次表を標準とする。

表 8-1 (門扉 1 箇所当り)

種 別	職 種	単位	数 量		記 事
			門扉幅 3.6m	門扉幅 1.0m	
労 務 費	土木一般世話役	人	0.33	0.25	
	普通作業員	〃	0.66	0.75	
	運転手 (特殊)	〃	0.3	—	
機械経費	トラック (クレーン装置付) 4 t 積 吊能力 2.9 t	日	0.3	—	賃料
諸雑費率	労務費合計額の	%	4	2	

(注) 1. 歩掛には、門柱の建込みを含む。
2. 諸雑費は、充填モルタルの材料等であり、労務費に上表の率を乗じた金額を計上する。

(2) 基礎ブロック設置

コンクリートブロック基礎を設置する場合は次表を標準とする。

表 8-2 (門扉 1 箇所当り)

種 別	職 種	単位	数 量		記 事
			門扉幅 3.6m	門扉幅 1.0m	
労 務 費	土木一般世話役	人	0.09	0.04	
	特殊作業員	〃	0.02	0.02	
	普通作業員	〃	0.26	0.10	
	運転手 (特殊)	〃	0.29	0.18	
諸雑費率	労務費合計額の	%	19	22	

(注) 諸雑費率は、床掘り及び設置に係る機械経費等である。

8-2 材 料

門扉の材料は次表を標準とする。

表 8-3 (門扉 1 箇所当り)

名 称	規 格	単位	数量	記 事
用地侵害防除柵門扉	w=3,600mm	式	1	
	w=1,000mm	〃	1	
基礎ブロック (門柱)		個	2	w=3,600mm用
基礎ブロック (施錠)		〃	1	〃
基礎ブロック		〃	2	w=1,000mm 用

ページ

改正

P14

(15) 門扉工 1.0箇所当り単価表

歩掛コード

S261500

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 6-1、表 6-2 表 8-1、表 8-2
特 殊 作 業 員		人		表 6-2、表 8-2
普 通 作 業 員		人		表 6-1、表 6-2 表 8-1、表 8-2
型 枠 工		人	0.5	表 10-1
運 転 手 （ 特 殊 ）		人		表 6-1、表 6-2 表 8-1、表 8-2
線路立入防護柵門扉		式	1.0	表 6-3
用地侵害防除柵門扉		式	1.0	表 8-3
基 礎 ブ ロ ッ ク	(門柱部)	個	2.0	表 6-3、表 8-3 門扉幅 3.6mの場合
基 礎 ブ ロ ッ ク	(施錠部)	個	1.0	表 6-3、表 8-3 門扉幅 3.6mの場合
基 礎 ブ ロ ッ ク		個	2.0	表 6-3、表 8-3 門扉幅 1.0mの場合
トラック（クレーン装置付）	通称 4～4.5 t 積級 吊能力 2.9 t	日		表 6-1、表 8-1
諸 雑 費	(労務費)×率	%		表 6-1、表 6-2、 表 8-1、表 8-2、 表 10-1
合 計				
1 箇 所 当 り		箇所	1.0	

現行

(15) 門扉工 1.0 箇所当り単価表

歩掛コード

S261500

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 6-1、表 6-2 表 8-1、表 8-2
特 殊 作 業 員		人		表 6-2、表 8-2
普 通 作 業 員		人		表 6-1、表 6-2 表 8-1、表 8-2
型 枠 工		人	0.5	表 10-1
運 転 手 （ 特 殊 ）		人		表 6-1、表 6-2 表 8-1、表 8-2
線路立入防護柵門扉		式	1.0	表 6-3
用地侵害防除柵門扉		式	1.0	表 8-3
基 礎 ブ ロ ッ ク	(門柱部)	個	2.0	表 6-3、表 8-3 門扉幅 3.6mの場合
基 礎 ブ ロ ッ ク	(施錠部)	個	1.0	表 6-3、表 8-3 門扉幅 3.6mの場合
基 礎 ブ ロ ッ ク		個	2.0	表 6-3、表 8-3 門扉幅 1.0mの場合
トラック（クレーン装置付）	4 t 積 吊能力 2.9 t	日		表 6-1、表 8-1
諸 雑 費	(労務費)×率	%		表 6-1、表 6-2、 表 8-1、表 8-2、 表 10-1
合 計				
1 箇 所 当 り		箇所	1.0	